

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第 60 集

なごやじょうさん まる
名古屋城三の丸遺跡(V)

—旧名古屋営林支局地点の調査—

1 9 9 5

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター



名古屋城全景(南より)

序

名古屋市は愛知県西部のはば中央に位置し、伊勢湾に面しています。日本全国の各地域において核となっている都市をみていると、城下町から発展したものがほとんどですが名古屋市もこの例にもれません。近世における名古屋城とその城下町は、日本でも有数の大都市として発展した現在の市の母胎ともいえるものでしょう。この名古屋城が位置する名古屋台地北西端は、原始の時代より日本の各地域からのさまざまな影響を受けた生活が営まれて参りました。

このたび愛知県総務部によって、名古屋営林支局跡地に「三の丸共同施設」が建設されることとなりました。この名古屋城三の丸地区の外堀は国の特別史跡に指定されており、その内側の官庁街では近年、耐用年数を越えた建物の建て替えなどに伴い、発掘調査が行われて参りました。財団法人愛知県埋蔵文化財センターでは、愛知県教育委員会を通じて愛知県総務部からの委託を受け、建設工事に先立ち事前調査を行いました。その結果、近世をはじめとして古墳・戦国時代などの遺構、遺物を検出することができ、この地域の歴史に新たな資料を提供できることとなりました。

調査にあたりましては、愛知県総務部、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会をはじめとする関係諸機関、周辺住民の皆様から多大のご協力をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。次第であります。

最後に本書が地域史の理解、埋蔵文化財研究の一助となれば幸いと存じます。

平成7年3月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

理事長 安部 功

例 言

1. 本書は愛知県名古屋市中区三の丸に所在する、名古屋城三の丸遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、愛知県総務部による「三の丸共同施設」建設工事に伴う事前調査として、財団法人愛知県埋蔵文化財センターが愛知県教育委員会を通じて愛知県総務部から委託を受けて実施した。調査対象面積は3,404㎡である。
3. 発掘調査は平成5年5月から平成6年2月にかけて実施した。さらに平成6年度には調査報告書作成のため、整理作業を実施した。
4. 現地における発掘調査は、多くの作業員の方々の参加を得て、本センター調査課主査杉浦 茂、調査研究員松田 訓、伊藤秀紀が担当した。
5. 調査にあたっては、愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県総務部財政課・同建築部営繕課・名古屋市教育委員会をはじめとして、多くの関係諸機関のご協力を得た。
6. 本書の編集は松田 訓が担当し、執筆分担は以下のとおりである。
Ⅲ-2 織田眞弓（本センター調査研究補助員）、Ⅲ-4-3-1（1）八木佳実（同調査研究補助員）、Ⅲ-4-3-1（2）古橋佳子（同調査研究補助員）、Ⅳ堀木真美子・服部俊之（同調査研究員）、Ⅴ-1杉浦 茂、Ⅴ-2伊藤秀紀
上記以外を松田 訓が執筆した。
なお、遺構、遺物の写真撮影は松田 訓が行った。
7. 遺物整理作業については松田 訓が担当し、次の方々の協力を得た。
洗浄・注記・接合 中井さやか CAROLINE PATHY-BARKER
実測・トレース 古橋佳子 織田眞弓 八木佳実
小椋山洋子 田中和子 中馬妙子 早川久美 本所千恵子
8. 本書に示す座標数値は、建設省告示に定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠する。また、本編に示す海拔表記は、東京湾標準（T.P.）の数値である。
9. 遺物の整理番号と登録番号の対照は、表として本文中に示した。
10. 調査記録は本センターにて保管する。
11. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターにて保管する。
12. 本書の執筆にあたり藤澤良祐氏、大橋康二氏、仲野泰裕氏、檜崎彰一氏には、出土遺物の時期的解釈において多くの指導を得た。さらに本遺跡の調査・報告にあたって、つぎの諸氏、諸機関にご指導・ご助言をいただいた。記して感謝したい。（五十音順、敬称略）
安芸穂子 伊藤嘉章 市田京子 内野 正 梅村清春 遠藤才文 小川 望 尾野善裕
金子健一 木村優作 久保和土 下村信博 積山 洋 立松 宏 武田さわ子 豊田幸子
永松 実 橋口定志 服部哲也 速水信也 平野 功 藤田忠彦 藤本史子 松尾信裕
水野裕之 森 勇一 両角まり 山崎純男
佐賀県立九州陶磁文化館 東京都港区立港郷土資料館 名古屋市博物館

目 次

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査に至る経緯	(松田) 2
第 2 節 調査の経過	(松田) 2
第 3 節 遺跡の位置	(松田) 4
第 4 節 歴史的環境	
1 名古屋台地の黎明	(松田) 6
2 城と町の誕生	(松田) 7
3 調査地点と三の丸地区	(松田) 7
第 5 節 調査の概要	
1 調査区	(松田) 11
2 調査の方法	(松田) 11

第 II 章 遺構

第 1 節 基本層序	(松田) 12
第 2 節 遺構	(松田) 14
1 概要	(松田) 14
2 古墳時代の遺構	(松田) 14
3 戦国時代の遺構	(松田) 16
4 江戸時代の遺構	
(1) 江戸時代 I 期	(松田) 23
(2) 江戸時代 II 期	(松田) 29

第 III 章 遺物

第 1 節 概要	(松田) 37
第 2 節 古墳時代の遺物	(織田) 38
第 3 節 戦国時代の遺物	(松田) 39
第 4 節 江戸時代の遺物	
1 江戸時代 I 期	(松田) 44
2 江戸時代 II 期	(松田) 48
3 その他の遺物	
(1) 人形・玩具類	(八木) 112
(2) 金属製品	(古橋) 120

第V章 補論

第1節 名古屋台地における古代 (杉浦) 126

第2節 三の丸に居住した人々 (伊藤) 132

第3節 調査地点の空間的・時間的位置付け (松田) 152

図版目次

図版 1	①表土剥ぎ風景	④A区土師皿出土状態 (南より)
	②A区調査前風景	図版 7
	③B区調査前風景	①B区 上層全景 (東より)
	④A区上層北東隅	②B区上層東側 (北より)
	⑤A区上層全景	③B区上層中央土坑群 (北より)
図版 2	①A区SK165セクション (南西より)	図版 8
	図版 9	①B区下層全景 (東より)
	②A区SK201遺物出土状況 (東より)	②B区下層東側 (北より)
	③A区SD10周辺 (南より)	③B区SK702周辺 (北より)
	④A区SD04セクション (南より)	④B区SK703・704周辺 (北より)
	⑤A区SX11 (南より)	図版 9
図版 3	①A区下層全景 (南西より)	①B区SD401セクション (西より)
	②A区SK312周辺 (東より)	②B区SD601セクション (東より)
	③A区SK313セクション (南より)	③B区SD603周辺 (北より)
	④A区SK315・316周辺 (南より)	④B区SD607 (北東より)
	⑤A区SK316周辺 (北より)	⑤B区SD607 (北西より)
図版 4	①A区SK313 (南より)	図版10
	②A区SK315セクション (北より)	①B区SD605コーナー (北より)
	③A区SK316セクション (北より)	②B区SD605セクション (東より)
	④A区SK458・459 (南西より)	③B区SD605セクション (南より)
図版 5	①A区SD602セクション (南より)	④B区屋敷境 (北より)
	②A区SD602 (南より)	図版11
	③A区SD603セクション (東より)	遺物写真 1
	④A区SD604セクション (北より)	図版12
図版 6	①A区SD308・309・610・611 (南より)	遺物写真 2
	②A区SD606セクション (南より)	図版13
	③A区SD804セクション (南より)	遺物写真 3
		図版14
		遺物写真 4
		図版15
		遺物写真 5
		図版16
		遺物写真 6
		図版17
		遺物写真 7
		図版18
		遺物写真 8
		図版19
		遺物写真 9

挿図目次

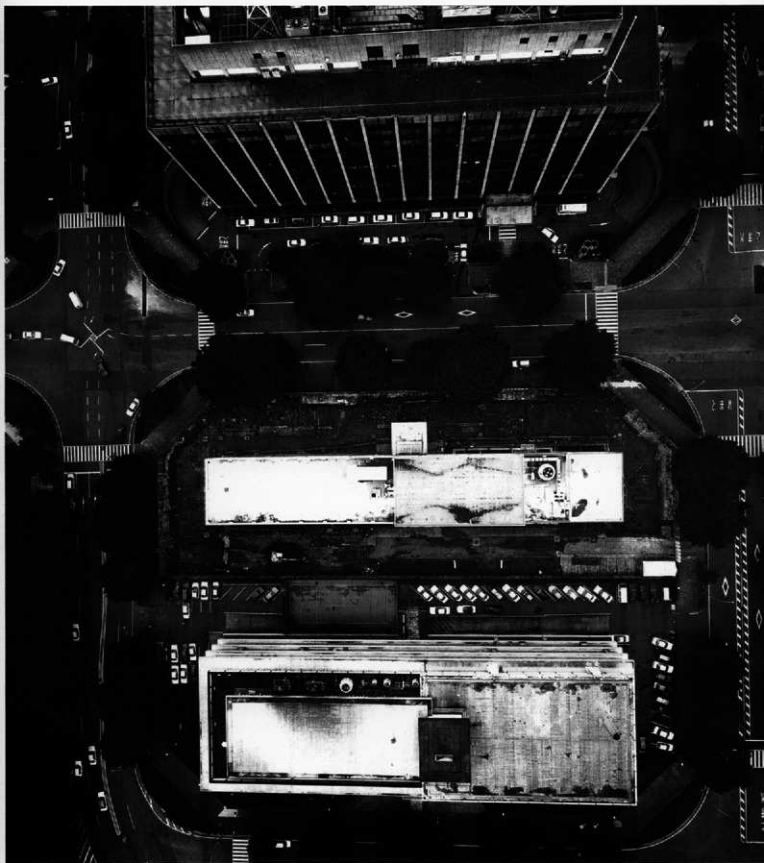
第1図	遺跡位置図	4	第31図	S D 608・S K 513・S D 601・602 出土遺物実測図	42
第2図	遺跡周辺地形図	5	第32図	S D 604出土遺物実測図	43
第3図	周辺遺跡分布図	6	第33図	S D 307出土遺物実測図①	54
第4図	名古屋城江戸末期の図	8	第34図	S D 307出土遺物実測図②	55
第5図	調査地点該当ブロック拡大図	8	第35図	S D 308出土遺物実測図①	56
第6図	調査位置図	9	第36図	S D 308出土遺物実測図②	57
第7図	名古屋城三の丸内調査地点位置図	10	第37図	S D 309出土遺物実測図	58
第8図	調査区位置図	11	第38図	S D 401出土遺物実測図	58
第9図	A区北壁土層断面図	13	第39図	S K 313出土遺物実測図①	59
第10図	古墳時代の遺構 (S D 802・803・804) 位置図及び平・断面図	15	第40図	S K 313出土遺物実測図②	60
第11図	戦国時代遺構位置図	16	第41図	S K 313出土遺物実測図③	61
第12図	S D 610平・断面図	18	第42図	S K 313出土遺物実測図④	62
第13図	S D 605・607平面図	19	第43図	S K 338出土遺物実測図	64
第14図	戦国時代II期土坑群平面図	19	第44図	S K 701出土遺物実測図①	64
第15図	S D 602・608平・断面図	20	第45図	S K 701出土遺物実測図②	65
第16図	S D 601・603平面図	21	第46図	S K 701出土遺物実測図③	66
第17図	S D 604平・断面図	21	第47図	S K 701出土遺物実測図④	67
第18図	戦国時代溝断面図	22	第48図	S K 702出土遺物実測図①	68
第19図	江戸時代主要遺構位置図	23	第49図	S K 702出土遺物実測図②	69
第20図	S D 308平・断面図	25	第50図	S K 703出土遺物実測図①	70
第21図	S D 403・404断面図	25	第51図	S K 703出土遺物実測図②	71
第22図	B区西側土坑群平・断面図	27	第52図	S K 703出土遺物実測図③	72
第23図	A区西側土坑群平面図	28	第53図	S K 704出土遺物実測図①	73
第24図	S K 313平・断面図	29	第54図	S K 704出土遺物実測図②	74
第25図	S D 01平・側・断面図	31	第55図	S K 704出土遺物実測図③	75
第26図	S B 01・S X 04平面図	33	第56図	S K 704出土遺物実測図④	76
第27図	S K 315・316・319平・断面図	34	第57図	S D 101出土遺物実測図	77
第28図	S K 62平面図及びS X 11平・側面図 ……………	35	第58図	S K 316出土遺物実測図①	77
第29図	古墳時代出土遺物実測図	38	第59図	S K 316出土遺物実測図②	78
第30図	S D 610・603・605・607出土遺物 実測図	41	第60図	S K 320出土遺物実測図	79
			第61図	S K 62・114・116・172出土遺物 実測図	80

第62図	S K 201出土遺物実測図①	81	第98図	試料採取位置図・模式柱状図	124
第63図	S K 201出土遺物実測図②	82	第99図	名古屋市の地質概略図	131
第64図	S K 206出土遺物実測図①	83	第100図	藤原隆隆をめぐる系譜	131
第65図	S K 206出土遺物実測図②	84	第101図	建春門院法花堂領	131
第66図	S K 309出土遺物実測図①	84		尾張国那古野庄領家職相伝系図	
第67図	S K 309出土遺物実測図②	85	第102図	名古屋城三の丸屋敷割図	135
第68図	S K 309出土遺物実測図③	86	第103図	戦国時代遺構変遷図	153
第69図	S K 309出土遺物実測図④	87	第104図	築城当時の名古屋古図(「名古屋城史」より)	154
第70図	S K 309出土遺物実測図⑤	88	第105図	調査区周辺戦国時代遺構図	155
第71図	S K 309出土遺物実測図⑥	89	第106図	江戸時代遺構変遷図	159
第72図	S K 310出土遺物実測図	91	第107図	調査区廃棄地点位置図	160
第73図	S K 312出土遺物実測図①	92	第108図	戦国時代瀬戸美濃窯産陶器器種分類	162
第74図	S K 312出土遺物実測図②	93			
第75図	S K 312出土遺物実測図③	94	第109図	戦国時代天目茶碗・播鉢器形分類	162
第76図	S K 312出土遺物実測図④	95			
第77図	S K 312出土遺物実測図⑤	96	第110図	戦国時代土師器器種分類	162
第78図	S K 312出土遺物実測図⑥	97	第111図	遺物組成グラフ	165
第79図	S K 312出土遺物実測図⑦	98	第112図	江戸時代主要遺物分類概念図①	171
第80図	S K 312出土遺物実測図⑧	99	第113図	江戸時代主要遺物分類概念図②	172
第81図	S K 318出土遺物実測図①	101	第114図	江戸時代主要遺物分類概念図③	173
第82図	S K 318出土遺物実測図②	102	第115図	産地・材質組成グラフ	182
第83図	S K 318出土遺物実測図③	103	第116図	器種組成グラフ	183
第84図	S K 318出土遺物実測図④	104	第117図	主要産地・材質別器種組成グラフ184	184
第85図	S K 318出土遺物実測図⑤	105	第118図	主要器種別産地・材質組成グラフ184	184
第86図	S K 318出土遺物実測図⑥	106			
第87図	S K 319出土遺物実測図①	108			
第88図	S K 319出土遺物実測図②	109			
第89図	S X 11出土遺物実測図①	110			
第90図	S X 11出土遺物実測図②	111			
第91図	人形・ミニチュア出土分布	116			
第92図	人形・玩具類実測図①	117			
第93図	人形・玩具類実測図②	118			
第94図	人形・玩具類実測図③	119			
第95図	金属製品実測図①	120			
第96図	金属製品実測図②	121			
第97図	銭貨拓影図	122			

表 目 次

第1表	調査行程	3	第32表	S K318出土遺物観察表①	107
第2表	居住者の変遷	9	第33表	S K318出土遺物観察表②	108
第3表	主要遺構一覧表	36	第34表	S K319出土遺物観察表	110
第4表	古墳時代出土遺物観察表	38	第35表	S X11出土遺物観察表	111
第5表	S D610・603・605・607出土遺物 観察表	41	第36表	人形・玩具類 種別・材質別出土数	114
第6表	S D608・S K513・S D601・602 出土遺物観察表	42	第37表	人形・玩具類 屋敷地別出土数	115
第7表	S D604出土遺物観察表	43	第38表	人形・玩具類 調査地点別出土数 の比較	115
第8表	S D307出土遺物観察表	56	第39表	人形・玩具類観察表①	115
第9表	S D308出土遺物観察表	57	第40表	人形・玩具類観察表②	116
第10表	S D309出土遺物観察表	58	第41表	金属製品観察表	123
第11表	S D401出土遺物観察表	58	第42表	銭貨観察表	123
第12表	S K313出土遺物観察表	63	第43表	花粉数一覧表	125
第13表	S K338出土遺物観察表	64	第44表	居住者屋敷地別一覧表①	136
第14表	S K701出土遺物観察表①	67	第45表	居住者屋敷地別一覧表②	137
第15表	S K701出土遺物観察表②	68	第46表	居住者屋敷地別一覧表③	138
第16表	S K702出土遺物観察表	69	第47表	居住者屋敷地別一覧表④	139
第17表	S K703出土遺物観察表①	72	第48表	居住者屋敷地別一覧表⑤	140
第18表	S K703出土遺物観察表②	73	第49表	居住者屋敷地別一覧表⑥	141
第19表	S K704出土遺物観察表	76	第50表	居住者屋敷地別一覧表⑦	142
第20表	S D101出土遺物観察表	77	第51表	居住者屋敷地別一覧表⑧	143
第21表	S K316出土遺物観察表	79	第52表	居住者屋敷地別一覧表⑨	144
第22表	S K320出土遺物観察表	80	第53表	居住者屋敷地別一覧表⑩	145
第23表	S K62・114・116・172出土遺物 観察表	81	第54表	居住者屋敷地別一覧表⑪	146
第24表	S K201出土遺物観察表	82	第55表	居住者索引①	147
第25表	S K206出土遺物観察表	84	第56表	居住者索引②	148
第26表	S K309出土遺物観察表①	90	第57表	居住者索引③	149
第27表	S K309出土遺物観察表②	91	第58表	居住者索引④	150
第28表	S K310出土遺物観察表	91	第59表	居住者索引⑤	151
第29表	S K312出土遺物観察表①	99	第60表	戦国時代出土遺物残存率集計表	165
第30表	S K312出土遺物観察表②	100	第61表	江戸時代I期屋敷地別集計表	176
第31表	S K312出土遺物観察表③	101	第62表	江戸時代II期屋敷地別集計表①	177
			第63表	江戸時代II期屋敷地別集計表②	178
			第64表	器種別残存率集計表	180

調查報告



調查地点全景

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

名古屋城三の丸遺跡は、愛知県名古屋市中区三の丸地内に所在する。1986年発行の愛知県遺跡分布地図には、名古屋城跡は本丸跡、二の丸庭園、天守閣貝塚、那古野城跡が記載されている。このほかに国指定特別史跡として外堀と三の丸土塁が含まれるが、現在官公庁舎などが建ち並ぶ三の丸の土塁内は、遺跡としては範囲指定されていなかった。1987年、名古屋市教育委員会は市公館建設計画に伴い、三の丸内に所在する建設予定地の試掘調査を行い、近世を中心とした遺跡の存在を確認した。このため名古屋市教育委員会では、この地点の本調査を実施するとともに、1988年同市遺跡分布地図に、旧三の丸城を名古屋城三の丸遺跡として追加指定した。以後、名古屋市教育委員会・本センターによって、数地点の発掘調査が行われている。

名古屋城三の丸遺跡とは、上記に述べた経緯による遺跡である。この範囲内にある名古屋宮林支局跡地に、愛知県総務部によって三の丸共同施設の建設が行われることとなり、事前に発掘調査が必要となった。

愛知県埋蔵文化財センターでは、愛知県教育委員会を通じて愛知県総務部からの委託を受け、平成5年4月から発掘調査を実施した。

第2節 調査の経過

調査を始めるにあたり、排土処理などを考慮して調査区を南北で2分割したため（A・B区）、平成5年4月より北側にあたるA区の表土剥ぎを実施、資材搬入を行い、発掘作業を開始したのは5月6日であった。

調査年度は例年に比して降水量が多く、調査地の土質は水を含むと粘性が極端に強くなり、さらに両調査区は建物の影響で終日日照がとどかず、土は排出する際にコンベヤーのベルトから離れず巻き付いてしまった。これは度重なる故障の原因となり、調査は困難を極めた。

A区は、8月5日に上層、10月27日に下層の航空測量をヘリコプターにより実施し、写真撮影、測図、補足調査を含めて11月17日に調査を終了した。

B区は、11月1日から表土剥ぎを実施し、12月17日に上層、平成6年2月18日に下層の航空測量を実施し、埋め戻し作業も含めて3月23日に作業工程を終了した。

この間10月9日には、発掘調査現場の普及・公開を目的として現地説明会を開催し、多

くの見学者の参加を得た。

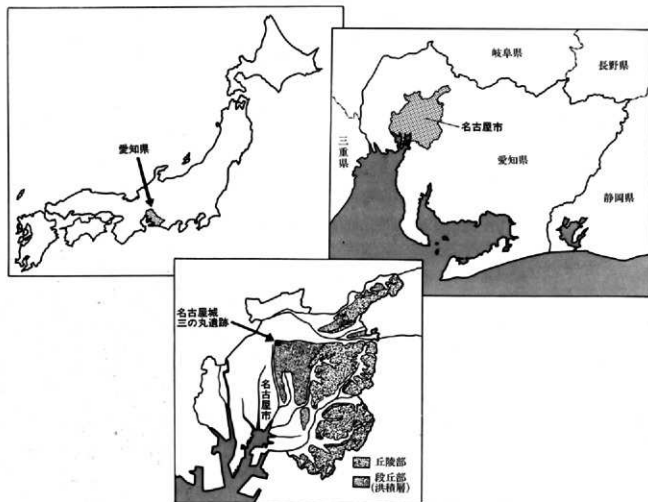
出土遺物の整理作業は、調査と並行して洗浄・注記作業を現場事務所で行い、引き続き平成6年度には本センター調査課において、遺物実測・トレースなど調査報告書作成までの作業を行った。



	H.5													H.6												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
作業員説明会	・																									
資材搬入	■																									
A区表土剥ぎ	■																									
A区上層調査	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■														
A区下層調査																										
B区表土剥ぎ																										
B区上層調査																										
B区下層調査																										
補足調査																										
空掘																										
現地説明会																										
資材等撤収																										
基礎整理	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
報告書作成																										

第1表 調査行程

第3節 遺跡の位置



第1図 遺跡位置図

愛知県は日本列島のほぼ中央、太平洋側に位置する。名古屋城三の丸遺跡の位置する名古屋は、愛知県西部の伊勢湾岸最奥部に位置し、木曾三川（木曾・長良・揖斐）などによって形成された濃尾平野南端、名古屋台地、尾張丘陵などに市域を広げる、東海地方屈指の大都市である。

市域の中央部をめぐる低地は、縄文海進や河川による堆積物によって形成された沖積地である。市域の中央部は、この沖積地からは段丘状に高い面を形成しており、この名古屋台地のさらに東方に尾張丘陵が広がっている。

名古屋城三の丸遺跡は名古屋台地北西端に立地しており、この城郭は北・西側にある低地との比高差を防御上利用した配置になっている。



第2図 道神周辺地形図 (国土地理院1/20万地形図「名古屋」)

第4節 歴史的環境

1 名古屋台地の黎明

台地の縁辺部は、原始集落の立地しやすい環境であることを多くの事例が示している。名古屋台地の縁辺部も、縄文時代以降各時代にわたる遺跡の存在が確認されている。

名古屋城三の丸遺跡の周辺に目を向けてみると、台地上には田紫川遺跡をはじめとした縄文時代の遺跡が点在している。台地の縁辺部及びその周辺低地には、初期弥生文化を收容したと思われる、西志賀・片山神社・高藏遺跡などがみられる。熱田側の台地西端から南側にかけては、古墳時代の当地域における支配状況を物語る、大須二子山・断夫山・白鳥古墳がみられる。この南北にのびる舌状台地上には尾張元興寺跡をはじめとして多くの遺跡が確認されており、さらにその南側延長線端には熱田神宮がある。この舌状台地上は古墳時代から古代にかけて、当地域を支配する上での重要な役割を果たした場所と言えるであろう。中世のこの地域については、当該期の遺跡・文献史料等においてもはっきりした材料が少なく、戦国期までは実像がつかみにくい。戦国時代に至ると、織田氏の内紛や分裂によって、本遺跡に重なる那古野城や古渡・末盛城などが築かれる。文献史料などには登場しないが、伊勢山中学校地点で検出の大溝などもこの時期の関連遺構と思われる。

- 1 田紫川遺跡
- 2 西志賀遺跡
- 3 片山神社遺跡
- 4 高藏遺跡
- 5 大須二子山古墳
- 6 断夫山古墳
- 7 白鳥古墳
- 8 尾張元興寺跡
- 9 熱田神宮
- 10 那古野城
- 11 古渡城
- 12 末盛城
- 13 伊勢山中学校遺跡
- 14 名古屋城三の丸遺跡



第3図
周辺遺跡分布図
(1/28000)

2 城と町の誕生

近世初頭、尾張国の政治の中心地は清須であった。徳川家康は関ヶ原の戦いの後、四男忠吉を清須城主とし、東海道の西に対する押さえとした。しかし忠吉が若年で死去すると、家康はさらに幼年の甲府城主、九男義直を清須城主とした。慶長14年(1609)、家康は西国に対するさらに強力な拠点の必要を痛感し、名古屋の台地北西端に築城を決意する。

名古屋城とその城下町は、この年以降順次築かれて行くことになる。外堀の内側三の丸地区には、役割を重んじられた家臣が、ブロック状に区画整理された役宅を割り当てられる。外堀の外側には、城下町が基盤の目状に割り当てられ、上・下級武家屋敷、町屋がはいる。そして、清須から人を移すだけではなく、新たにつくりあげた城下町の地名・橋の名なども清須にあったものをつける。後に言う「清須越し」は、こうした経緯で行われた。

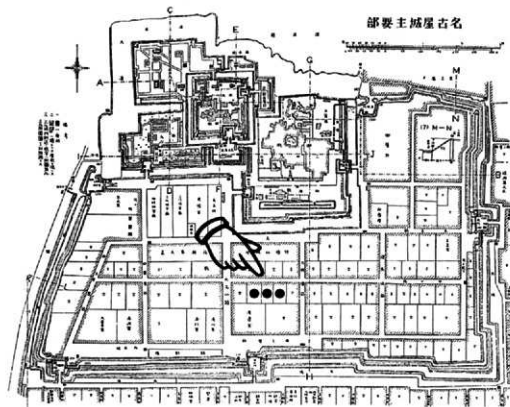
3 調査地点と三の丸地区

名古屋城三の丸遺跡は現在まで本遺跡を含めて、9地点(第7図)で発掘調査が実施されている。各調査地点は、未調査の三の丸地区北東部を除いて片寄ることなく分布しており、調査面積は総計約3万㎡におよぶ。

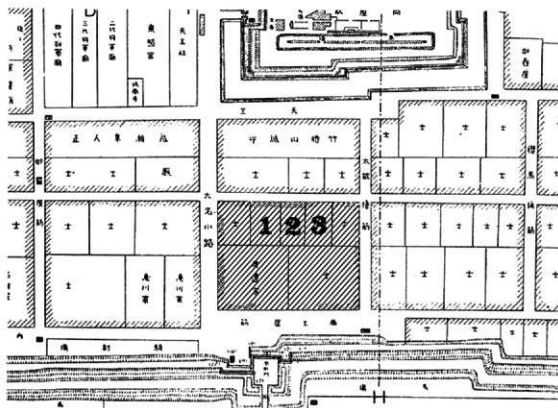
「三の丸」という区画は、近世城郭の中では家臣の居住域として機能していた場合が多いが、名古屋城もこの例にもれない。

93年度調査区は三の丸内では、中央南端の旧本町御門近くに位置している(第4図)。名古屋城三の丸の場合、敷物をひとまとまりのブロックとし、このブロックを東西・南北に敷いた道にそろえて配置している。この東西・南北の各道には名前が付けられており、調査地点に重なるブロックは北辺を中小路、南辺を南御土居筋、東辺を御太鼓橋筋、西辺を大名小路に囲まれている。この区画内には大小併せて6~7区画の屋敷が江戸時代を通じて配されている。調査地点にあたる部分は、東西に3区画分の屋敷地が並立している。第5図に示したように、この3区画を屋敷地1・2・3と区別して呼称することとし、説明する。

この屋敷地の伝邸関係は、第2表に示すようになり複数にわたっている。これは屋敷自体の性格が個人に帰属するものではなく、役宅の性格であったことを物語っている。第6図に示したように屋敷地1~3は東西に並立しているが、名古屋市博物館の所蔵している『平間路顯帳』では、宝暦3年(1753)における各屋敷の規模が記載されている。これによれば、屋敷地1は間口25間×奥行32間(800坪)、屋敷地2は間口25間半×奥行32間1尺5寸(822坪)、屋敷地3は間口20間1尺×奥行30間半(615坪)である。屋敷地1は築城当時独立した区画であったが、1700年前後に南側で屋敷を接する渡辺家の添え屋敷となる。この区画は以後明治に至るまで渡辺家の一部となるが、こうした屋敷替えなどに伴い微妙に屋敷境の修正を行ったことが、各時代の絵図から見て取れる。各屋敷地の江戸時代最後の居住者は、1=渡辺半蔵(1万330石)、2=横井万之助(600石)、3=松井雄之助(400石)である(いずれも世襲名)。



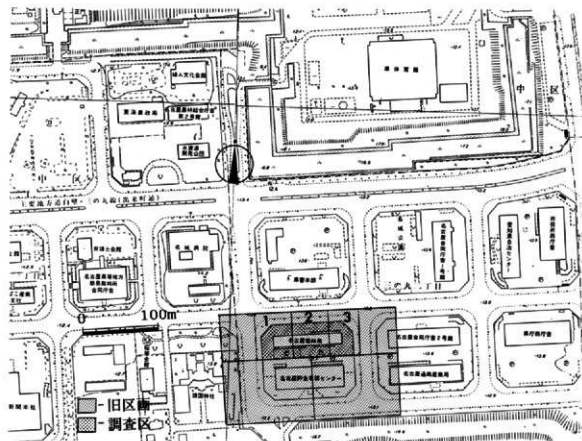
第4図 名古屋城江戸末期の図（『名古屋城史』より）



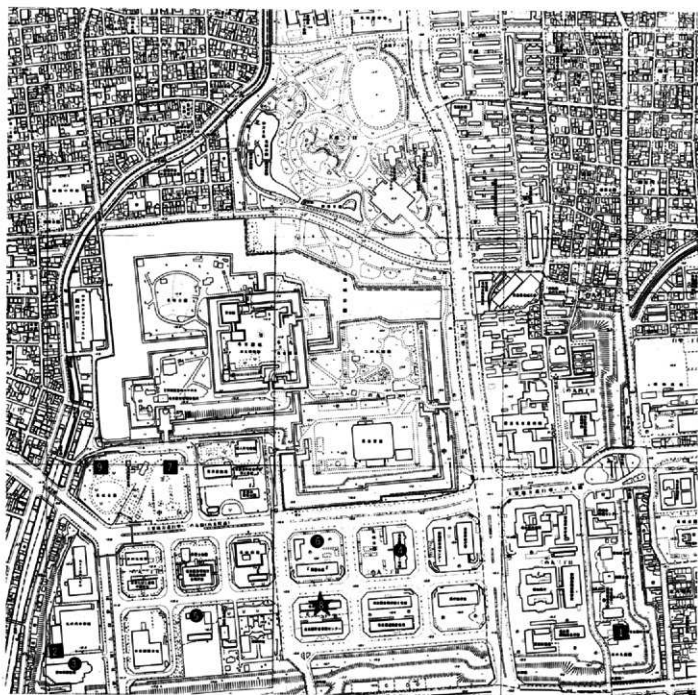
第5図 調査地点該当ブロック拡大図（第4図部分）

年代	1600	1700	1800	明治維新	※「金城温古録」「士林新話」「旧邸礎跡略」をもとに作成
屋敷地1	清水 兵助 清水 兵助 長野 重政 佐枝 様定 清水 兵助	渡辺 定綱 山内 知重 織田 貞幹 吉田六郎右衛門 渡辺 源朝 伊達 幸綱 渡辺 半平 伊達 重政 佐枝 様定 山本 宗兵衛 山本内藏助	渡辺 直綱 渡辺 綱保 渡辺 綱道 渡辺 綱倫 渡辺 綱綱 渡辺 綱光	領地の寺部へ → (豊田市)	
屋敷地2	山本内藏助	山本 伝藏 白井 常義 白井 常春 松井 光房 沢井 元吉 横井 時良 山本 秀断 山本宗兵衛	山本 孫市 松井 弉吉 松井 一澄 松井 左治馬 松井 正明 佐藤 供忠 佐藤 志益 千賀 信賢 松井 尚定	領地の寺部へ → 榎文江へ	
屋敷地3	三守 逸平治	松井 玄吉 津田 信明 三宅 重良	松井 要人	申下元庵藩町 → で酒肆を	

第2表 居住者の変遷



第6図 調査位置図



- 御愛知県埋蔵文化センター調査 ■ 名古屋市教育委員会調査
- | | | |
|---------------------|---------------------------|----------------------|
| 1. 名古屋市公館地点 (13.6m) | 2. 丸の内中学校地点 | 3. 県図書館地点 (11.8m) |
| 4. 名古屋第一地方合同庁舎地点 | 5. 簡易・家庭裁判所地点 (10.4m) | 6. 愛知県警察本部地点 (11.2m) |
| 7. 中部電力地下変電所地点 | 8. 名古屋営林支局跡地 (11.2~12.3m) | 9. 名古屋市能楽堂建設予定地点 |
- * () 内の数値は基礎層標高

第7図 名古屋城三の丸内調査地点位置図

第5節 調査の概要

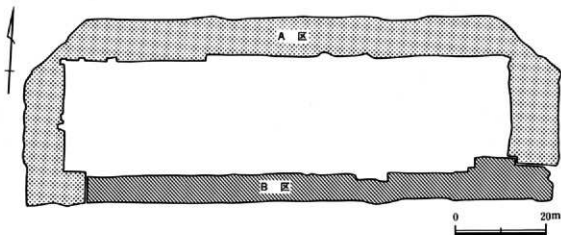
1 調査区

調査区は旧名古屋管林支局の敷地のなかで、建物以外の部分に設定した。これは、支局ビルが地下構造をもつからである。ビルは建築時に、敷地面積よりも外側に2～3mほど広げて掘り下げられて地階が施工されているため、建物とその周辺部分はすべて調査対象外と判断したためである。東西に長い敷地のほぼ中央に同様の長方形ビルが建っていたため、調査区はこのビルを「口」の字形に囲むように設定した。さらにこの調査区を排土処理の関係から南北に2分割し、北側をA区、南側をB区として分割調査を行った。

調査地点は台地上であるため、極端な変化の少ない平坦な土地である。しかし、基盤層の高さは調査区の南西隅地点がもっとも高く、東端との標高差は約1mを測る。したがって調査地点は、東に向かって緩やかに下がる基盤上に立地すると言えよう。

2 調査の方法

調査区内の表土の除去は、機械（バックホウ）掘削によって行った。この調査地に排土処理のためにベルトコンベヤーを配し、A区は排土をすべて持ち出し、B区は排土置き場をA区に充て、これをまとめた。両区ともに調査区外壁に沿ってトレンチをいれたが、遺物包含層は上・下層ともに一度に掘り下げられる厚さを越えていた。したがって、上・下層をそれぞれ任意（約10cm）で分層し、実質的にはグリッド（5m方眼）ごとに検出作業を繰り返して、それぞれの検出面に到達する方法をとった。



第8図 調査区位置図

第II章 遺構

第1節 基本層序

はじめに、三の丸地区の各調査地点における基盤層高を比較し、この地区内の地形変化を概観してみたい。

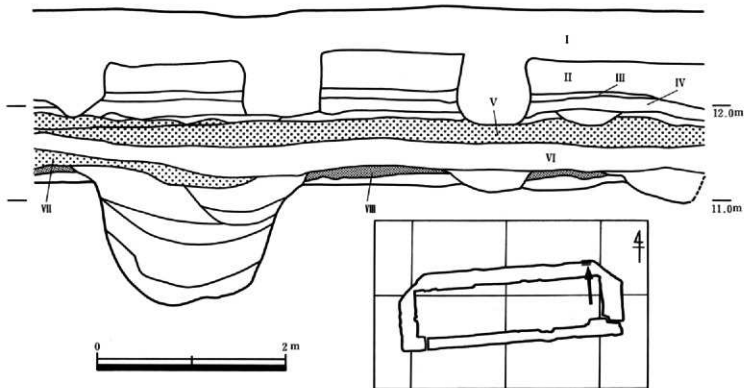
調査区は東西方向に長方形で設定したため、この方向の地形変化については全体に東に向かって傾斜することが確認できた。本センターの行った91年度調査区（県警本部地点）は、今回の調査地点から北へ約100mという至近距離に所在するが、基盤層の標高は今回の調査地点のもっとも低い位置とほぼ同じである。第7図に周辺調査地点での基盤層の標高を示したが、これを比較してみると、この県警本部地点・本調査区東端地点はこの台地上の窪地にあたる。しかも今回の調査地点は、前章でも述べたように西端と東端の基盤層の標高差が約1mあり、調査区東西方向の平均斜度は1度弱東に下がっている。これに比べて、県警本部地点の調査区内における傾斜は認められない。周辺調査地点のうちでもっとも低いのは名古屋簡易・家庭裁判所合同庁舎地点であるが、本調査区西端地点と比較的至近に位置しながらも、基盤層の標高差は2m近い。さらに三の丸地区東西両端の調査地点である名古屋市公館・愛知県図書館地点の基盤層は、それぞれこうした地点より高い。したがって、本調査区を含むこうした窪地は、本調査区西端から西に続く微高地をはさんで、県警本部地点から南西方向に続くものと、南東方向に続くものが想定される。

名古屋城三の丸遺跡93年度調査区における層序の特徴は、第9図にみるように整地層と思われる地山ブロックの多量に混じる層が数カ所で確認できることで、この層の上下に遺物包含層が堆積していることが判明した。このブロック混じりの層は、調査区全体に安定して確認できるわけではない。場所によっては遺物包含層中に2層以上認められる箇所もあれば、全く確認できない箇所も存在する。しかし、おおむね現地表高より60cmから100cmの位置で確認できるものが、調査区全体で多く認められた。このブロック混じりの層は近世の遺物包含層中に存在するが、91年度調査区で確認できた層序とは異なる。

91年度調査区では、調査区全体に同様の整地層が存在したが、この層を掘り込んでいる遺構は、すべて近世以降のものであった。したがって91年度の調査地点は、徳川家による名古屋城築城に伴い整地が行われていることが確認された。これに対して93年度調査区では、名古屋城築城に伴う整地層は少なく、相対的に近世の包含層の中で整地層が多く認められた。この近世の整地層は、焼土層などが確認されていないため、建て替えなどに伴う性格のものと考えられる。

上記のような特徴及び所見から、93年度調査区の基本層序を概観する。第1層は表土で

40～60cm堆積している。第II層は近・現代の盛り土と思われる暗褐色シルトで、15～50cm堆積している。第III層は灰オリーブ色シルトで、10～40cm堆積しているが、これは明治初期の三の丸廃絶期に伴う整地層と考えられる。さらに、第IV層は近世後期の遺物を含む黒褐色シルトが10～20cm堆積している。第V層は、熱田層がブロック状の塊となって多量に混じる暗灰黄色シルトが堆積している。この第V層中には、少量ながら近世後期の遺物が混じる。第VI層は灰黄褐色シルトが10～30cm堆積しており、近世前・中期の遺物を伴う。第VII層は熱田層ブロック混じりの黄褐色シルトで、部分的に10～20cm堆積しており、徳川家による名古屋城三の丸築城時の整地層と思われる。第VIII層は黒褐色シルトが10～30cm堆積しており、弥生・古墳時代の遺物がわずかに含まれる。この第VIII層より下位では遺物は含まれておらず、この層以下からの人為的な掘り込みは視られないため、基板層として扱った。



- 第I層 表土
 第II層 暗褐色シルト (Hue 7.5YR 2/1)
 第III層 灰オリーブ色シルト (Hue 5Y 6/2)
 第IV層 黒褐色シルト (Hue 10YR 3/1)

- 第V層 暗灰黄色シルト (Hue 2.5Y 5/2)
 第VI層 灰黄褐色シルト (Hue 10YR 5/2)
 第VII層 黄褐色シルト (Hue 2.5Y 5/3)
 第VIII層 黒褐色シルト (Hue 5YR 3/1)

* ()内の数値は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「標準土色帖」で照合した JIS notation

第9図 A区北壁土層断面図(部分・南より)

第2節 遺構

1 概要

本遺跡で検出した遺構は、古墳時代、戦国時代、江戸時代と大きく3時期に区分できる。遺構の傾度から言えば、江戸時代がもっとも多く、戦国時代は大型遺構が中心で数は少なく、古墳時代ではわずかな数しかみられない。こうした状況を調査区別にみると、A区では少ないながら古墳時代の遺構がみられるのに対して、B区では戦国時代以降の掘り込みしか確認できないという違いがみられた。この理由としてB区では、A区に比べて遺物包含層の残りが悪く、擾乱を受けた部分や削平された部分が多くみられたこと、さらに、元々この時期の遺構密度が薄いことを考えたい。

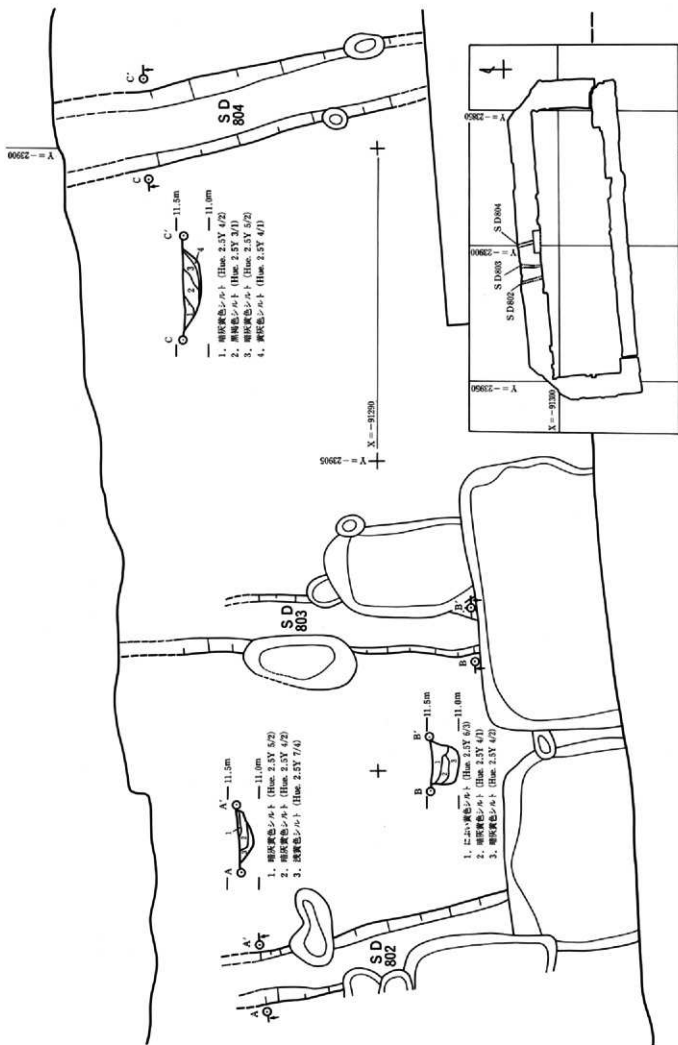
遺構検出面は概ね標高11.2~12.0mである。この検出面は基本層序の項でも述べたように、削平された部分も含まれていたため、各時期の生活面での検出とはなり得ない。

今回の調査区で検出した遺構は、全体的にかなりの数にのぼる。しかし、大型遺構や廃棄を目的に掘られたと思われる遺構以外からは、遺物を一定量伴うものが少なく時間的な特質を判断する上で苦慮した。以下に各時期別の主要遺構について説明をするが、遺構番号はA・B区を各調査区ごとではなく、両調査区を一括して通番を用いた。

2 古墳時代の遺構

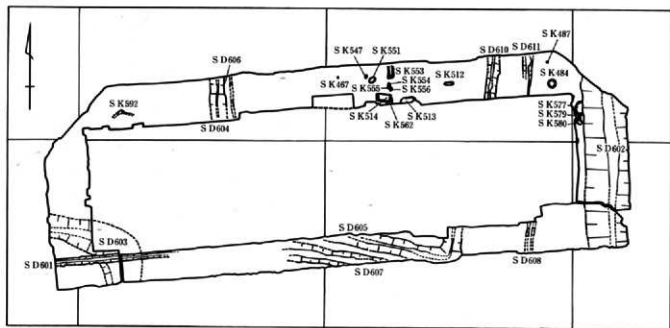
本遺跡の中で古墳時代以前の遺物を伴う遺構は、溝3条のみである。いずれもA区の中で南北方向にのびるもので、円筒埴輪片などが出土していることから、古墳に伴う溝の可能性を有する。このほかに遺物として弥生・古墳時代のもと思われる土器片を数点確認しているが、いずれも遺構に伴わない。この時期の堆積層は、基本層序の項で扱った第Ⅷ層と思われるが、この層からの明確な掘り込みはほかに認められなかった。

- S D 802 A区中央やや西側に位置する。検出高は11.4mを測り、断面形態は舟底形を呈しており、幅0.9m、深さ0.2mを測る。軸線の方向は、N-13°-Wを示す。埋土は暗灰黄色シルトを基調とし、古墳時代のもと思われる円筒埴輪片が出土している。周辺の近世遺構に切られている。
- S D 803 A区中央やや西側に位置する。検出高は11.5mを測り、断面形態はU字形を呈しており、幅0.8m、深さ0.5mを測る。軸線の方向は、N-3°-Eを示す。埋土は暗灰黄色シルトを基調とし、須恵器高杯片が出土している。周辺の近世遺構に切られている。
- S D 804 A区中央に位置する。検出高は11.4mを測り、断面形態はゆるやかな谷形を呈しており、幅1.3m、深さ0.3mを測る。軸線の方向は、N-13°-Wを示す。埋土は暗灰黄色シルトを基調とし、S D 802同様古墳時代のもと思われる円筒埴輪片が出土している。周辺の近世遺構に切られている。



第10図 古墳時代の遺構 (S D 802・803・804) 位置図及び平・断面図

3 戦国時代の遺構



第11図 戦国時代遺構位置図

本遺跡の中で戦国時代の遺物を伴う遺構は、土坑17基、溝9条である。伴う遺物の量は、江戸時代の遺構と比較すると極端に少ない。

土坑に関しては、深浅の差が若干認められ、平面形態は方形、楕円、柱穴状の小円などがみられた。これらの土坑の分布状況は、A区東側に集中する傾向がみられた。これに対し溝は、規模においてははっきりとした格差が認められ、断面形態においても違いがみられた。断面形態は逆台形を呈するいわゆる箱堀（S D 602・603・607）、逆三角形を呈するいわゆる薬研堀（S D 601・604・605）がみられた。これらの溝の分布状況は、土坑のようなまとまりがみられず、方向もいくつかのグループに分かれる。この溝のなかで明確な切り合い関係が確認できたのは、わずかにI組（SD601と603）のみであった。

時期の差については、遺物の出土量が少ないため明確にしにくい、出土遺物の時期的構成によって3段階を推定した。

- I期 15世紀後半の密窯製品のみが出土するもの
溝 S D 610
- II期 大塚 I・II期（16世紀前・中葉）を主要出土遺物とするもの
溝 S D 603・605・(607)・608 土坑 S K 512・513・514・553・555・556
- III期 大塚 III期（16世紀後半）を主要出土遺物とするもの
溝 S D 601・602・604

ただし、この戦国時代の遺構の中で溝については、出土遺物の様相から開削期間が複数期に及ぶ可能性を持つもの（S D 607）もみられた。

戦国時代Ⅰ期

- S D 610 A区東側に位置し、南北方向にのびる。検出高は11.3mを測り、断面形態は舟底形を呈しており、幅2.1m、深さ1.0mを測る。軸線の方向は、N-6.5°-Eを示す。埋土は灰褐色シルトを基調とし、竈窯期末の陶器片が少量出土している。江戸時代の土坑に切られている。

戦国時代Ⅱ期

- S D 603 A・B区南西端に位置し、西からのびてきたものが南に向けて曲がるコーナー部分が検出される。江戸時代から現代にかけて、掘り込み面の大半に激しい擾乱を受けているため、正確な規模は復元し得ない。検出高は12mを測り、断面形態は傾斜角のきつい逆台形であったと思われる。推定幅5m以上、推定の深さ3m以上を測る。軸線の方向は、N-82°-WからN-6°-Eに曲がるものと思われる。埋土は、褐色系シルトの中に黄色系細粒砂層が混じる。A区西壁に近い断面の状況は、南側から偏った埋伏行為が行われた可能性を示す。大窯Ⅰ・Ⅱ期の陶器片、土器片などが出土している。

- S D 605 B区中央やや東側に位置し、西からのびてきたものが北に向けて曲がるコーナー部分が検出される。検出高は12.8mを測り、断面形態は逆三角形を呈する。推定幅5.2m、深さ2.8mを測る。軸線の方向は、N-79°-WからN-8.5°-Eに曲がるものと思われる。埋土は、黄褐色系シルト層に黄色系細粒砂層が混じる。短期間に埋伏行為が行われたものと思われるが、溝に直行する断面には埋める方向に関して偏りは認められなかった。大窯Ⅰ・Ⅱ期の陶器片、土器片、竈道具などが出土している。

- (S D 607) B区中央やや東側に位置し、東西方向にのびる。検出高は11.7mを測り、断面形態は逆台形を呈する。幅4.1m、深さ1.7mを測る。軸線の方向は、N-81°-Wを示す。埋土は黄褐色系シルト層に黄色系細粒砂層が混じる。この溝から出土した遺物は下層においては、わずかな大窯Ⅰ・Ⅱ期の陶器片のほかに、江戸時代初頭の陶磁器片がままとまっている。しかし、中・上層からは大窯Ⅰ・Ⅱ期の陶器片、土器片などが出土している。こうした逆転現象については、埋め戻される直前の時期が江戸時代初頭であり、埋め戻しに利用した周囲の土に大窯Ⅰ・Ⅱ期の遺物が混入していたと判断したい。したがってこの溝は、方位などを合わせて判断すれば、機能を停止するのは江戸時代初頭であるが、掘削時期は戦国時代Ⅱ期の可能性を有すると考え、()表示でこの時期にいられた。この溝に関する埋土についても、溝に直行する断面には、埋伏時における一定方向からの偏りはみられなかった。

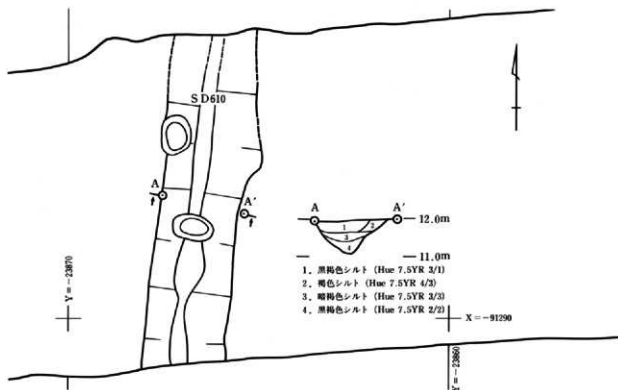
- S D 608 B区東側に位置し、南北方向にのびる。検出高は11.5mを測り、幅1.6m、深さ0.7mを測る。断面形態は舟底形を呈する。軸線の方向は、N-9°-Eを示す。埋土は灰黄褐色シルトを基調とし、遺物は、大窯Ⅰ期の陶器片や、土器片がわずかな量ではあるが出土している。

土坑群

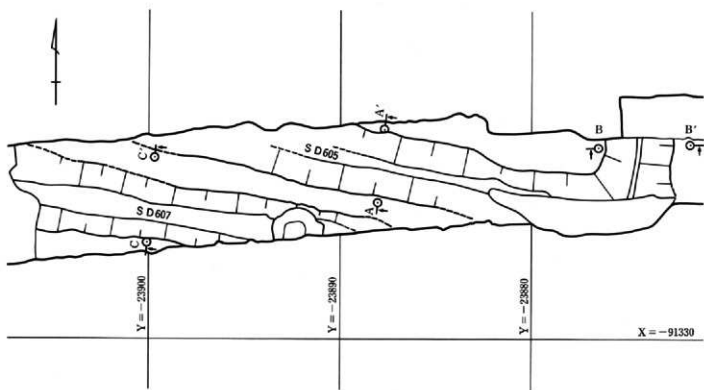
- A区東側に集中して位置する。検出高は概ね11.3mを測り、平面形態は楕円形、隅丸方形、不整形などを呈し、長径0.7~3.0m、短径0.5~1.7m、深さ0.1~0.7mを測る。埋土は灰黄色シルトを基調とするものが多く、大窯Ⅰ・Ⅱ期の陶・土器片が出土する。

戦国時代Ⅲ期

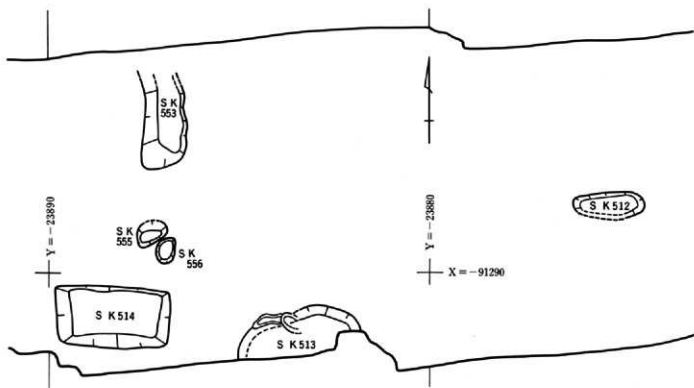
- S D 601** B区西端からA区南西端にかけて位置し、東西方向にのびる。検出高は12.1mを測り、幅1.6m、深さ1.1mを測る。断面形態は、逆三角形を呈する。軸線の方向は、N-86°-Eを示す。埋土は黄褐色系のシルトを基調とし、大塚Ⅲ期のものを含み、それ以前の陶・土器片が出土している。このS D 601は、戦国時代の溝の中で唯一切り合い関係を持ち、Ⅱ期のS D 603を切っている。
- S D 602** A・B区東端に位置し、南北方向にのびる。検出高は11.5mを測り、推定の幅11.2m、深さ4.3mを測る。断面形態は、逆台形を呈する。軸線の方向は、N-2°-Wを示す。埋土は上・中層と、下層とで明確に区分できた。上・中層は、地山である熱田層ブロックの多量に混じる、黄色系シルトが厚い層として堆積する。これに対し下層では、灰色系粘質土と黄色系シルトの薄い層が、互層となって堆積する。この堆積状況の違いは、溝の機能していた時期の堆積層が下層であり、溝を埋め戻した層が上・中層と考えたい。この溝は調査区内で全幅が検出できないため、東側の掘り込み状況が確認できないが、溝に直行する断面では、西側から偏った埋伏行為が行われた可能性がうかがえる。大塚Ⅲ期以前の陶・土器片が、わずかに下層から出土しており、上・中層は無遺物である。
- S D 604** A区中央やや西側に位置し、南北方向にのびる。検出高は11.7mを測り、幅3.2m、深さ1.8mを測る。断面形態は、逆三角形を呈する。軸線の方向は、N-1°-Eを示す。埋土は地山である熱田層ブロックが多量に混じる、黄色系シルトを基調とする。大塚Ⅲ・Ⅳ期以前の陶・土器片が出土している。



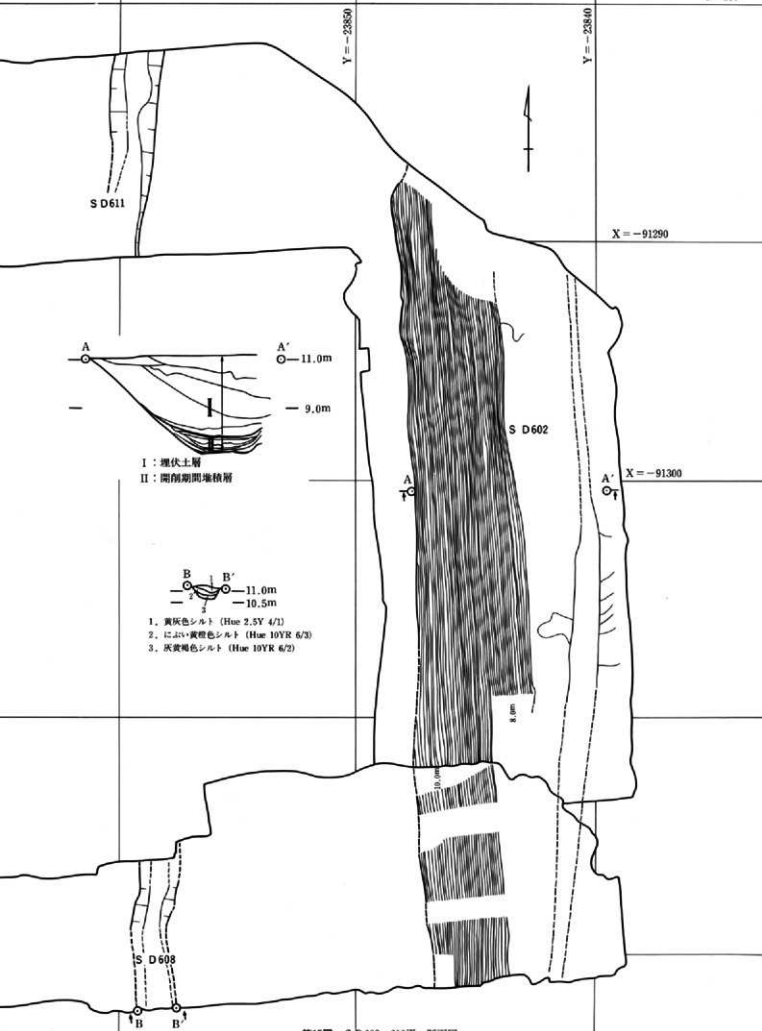
第12図 S D 610平・断面図

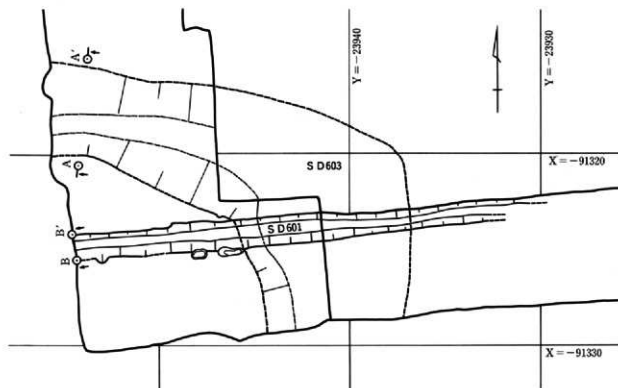


第13圖 S D 605・607平面図

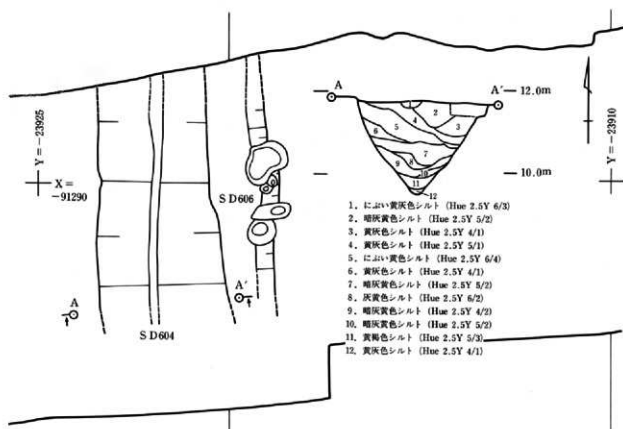


第14圖 戦国時代日期土坑群平面図

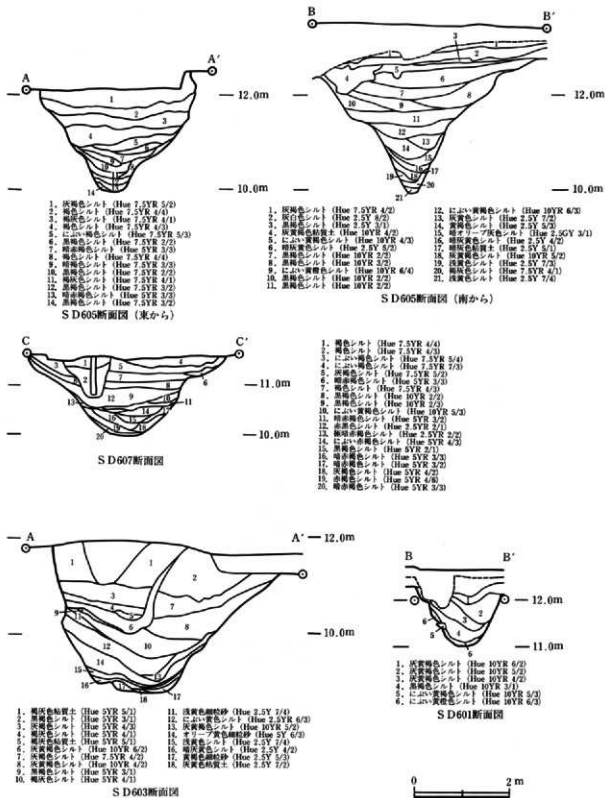




第16図 S D 601・603平面図

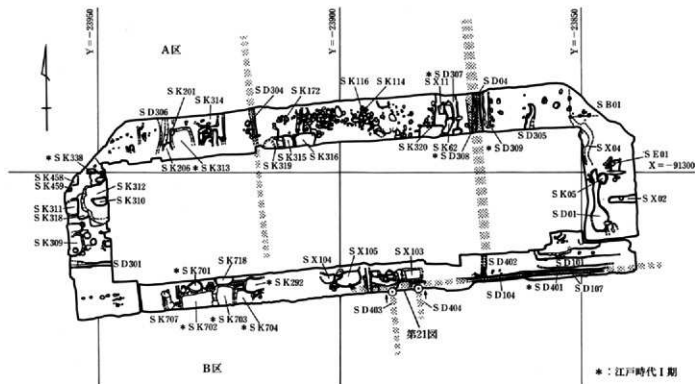


第17図 S D 604平・断面図



第18図 戦国時代溝断面図

4 江戸時代の遺構



第19図 江戸時代主要遺構位置図

本遺跡の中で江戸時代の遺物を伴う遺構は、土坑321、溝31、井戸9、建物跡1、不定形な掘り込み・その他20、である。その数は、他の時代の遺構と比較すると、圧倒的な量を占める。これらの遺構は、尾張徳川家によって築かれた名古屋城三の丸内の武家屋敷に伴うものと思われる。三の丸内の区画、屋敷境などの推定は、絵図・文献資料などと遺構との照合で可能となったが、各屋敷内の建物配置などの推定は一部を除いて成し得なかった。時期の差については、遺構の検出状況・出土遺物の時代的構成によって2段階を設定した。

I期 下層で検出した遺構、主に江戸時代初期より18世紀中頃までの遺物を伴うもの

II期 上層で検出した遺構、主に18世紀後半より幕末に至る遺物を伴うもの

(1) 江戸時代I期 (17世紀前半～18世紀中頃)

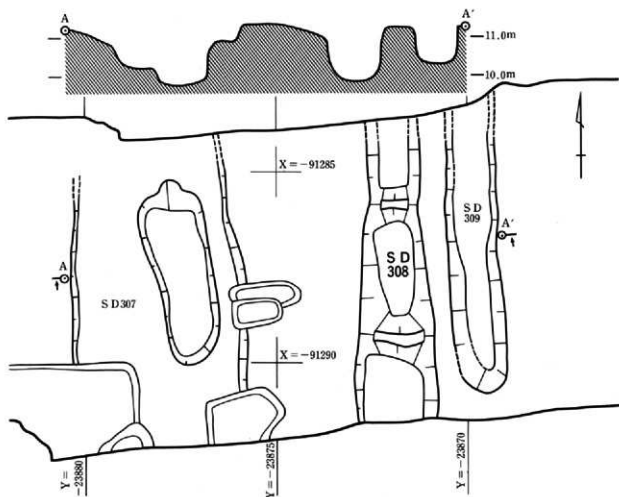
下層で検出した遺構のなかで溝状の遺構は、屋敷の境界に伴う可能性を有するものを除いて、南北方向のものがほとんどである。こうした溝の断面形態は、ゆるやかな船底形を呈しているものが多く、戦国時代の溝と比較すると浅く幅も狭い。土坑は、上層のものに比べて大型のものが目立った。土坑に関しては深浅の差が認められ、平面形態は方形、円形、楕円形、柱穴状の小円などがみられた。これらの土坑の分布状況は、極端に偏ることなく位置しているが、17世紀代の遺構がB区西側に集中する傾向がみられた。また、小規

横の土坑はA区中央付近に特に集まって検出された。この地点は、絵図・文献資料などと検出遺構とを照合し、復元した屋敷境の溝から、屋敷地2と思われる。調査区内の土坑は全体的に複雑に切り合っている場合が多く、同じ地点が何度も掘り返されたことがうかがえる。これらの土坑を規模・形状などで分類すると、大型で地下・半地下式設計の意図がうかがわれるもの、大型で設計の意図がうかがわれないもの、中・小規模のものなどがみられる。

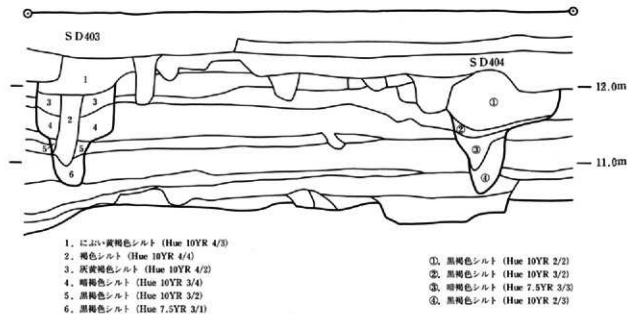
以下に主要遺構について、種別に説明する。

溝状遺構

- S D 304** A区中央やや西側に位置し、南北方向にのびる。検出高は11.25mを測り、断面形態は箱形を呈しており、幅1.0m、深さ0.36mを測る。軸線の方向はN-6.5°-Wを示し、埋土は灰黄色シルトを基調とする。周辺の基板層は、この溝を東西の境として東側が0.5m低くなっており、土坑の密度も東西で異なっている。したがって屋敷地1と2は、この南北溝によって区画されているものと思われる。遺物をほとんど含まない。
- S D 308** A区中央やや東側に位置し、南北方向にのびる。検出高は11.3mを測り、断面形態が舟底形の溝の中に、楕円形の土坑を破線状に掘削しており、幅1.9m、深さ1.6mを測る。軸線の方向はN-1°-Wを示し、埋土は褐色系シルトを基調とする。この遺構の掘削状況は、上部構造として塀を構築するための基礎を目的にしていることが想定できる。さらに、この遺構を東西の境として、土坑などの密度も異なっている。したがってこの遺構の性格は、屋敷地2と3の境界を目的としたものとして捉えたい。この遺構は位置的に、B区中央東側S D 402の延長である可能性が考えられる。遺物をほとんど含まない。
- S D 401** B区東側、調査区南端に位置し、南北方向にのびる。検出高は11.5mを測り、断面形態は箱形を呈しており、幅1.3m、深さ1.0mを測る。軸線の方向はN-86°-Eを示し、埋土は褐灰色シルトを基調とし、水の流れまたは滞水の痕跡は認められない。南北方向の屋敷境ラインと思われるS D 308-S D 402に対して、東西方向でほぼ直行するように交わる。したがって、本調査区が所在した三の丸内のブロックを南北に区画するラインと思われる。遺物は、1700年前後の陶器片がわずかに出土している。
- (S D 403
・404) B区中央南端に位置し、B区南壁の断面でのみ確認することができ、北側では検出し得ないことから、この地点から南側にのびる可能性が強い。断面形態は、箱形または舟底形の溝にさらに土坑を掘削している可能性が考えられる。したがってS D 308のように、上部構造として塀を構築するため、その基礎造りを目的として掘削された可能性が強い。両遺構の新旧関係は、断面から明確に読みとることはできない。しかし、これらの遺構が屋敷の境界だとすれば、文献資料・絵図では、この南北ラインは変更されていることが確認できるため、そうした行為の痕跡をこの断面に求めたい。この2条の遺構間は、約4.1mを測る。断面のみの確認であるため、時期は判じ得ない。



第20図 SD306平・断面図



1. にじみ・黄褐色シルト (Hue 10YR 4/3)
2. 褐色シルト (Hue 10YR 4/4)
3. 淡黄褐色シルト (Hue 10YR 4/2)
4. 暗褐色シルト (Hue 10YR 3/4)
5. 黒褐色シルト (Hue 10YR 3/2)
6. 黒褐色シルト (Hue 7.5YR 3/1)

- ①. 黒褐色シルト (Hue 10YR 2/2)
- ②. 黒褐色シルト (Hue 10YR 3/2)
- ③. 暗褐色シルト (Hue 7.5YR 3/3)
- ④. 黒褐色シルト (Hue 10YR 2/3)

第21図 SD403・404断面図

土坑

・地下・半地下式土坑

S K 313 A区西寄りに位置する。平面形態は方形を呈しているものと思われ、S K 201に切られている。残存東西径は4.7mを測り、深さ2.3mを測る。壁面はほぼ垂直に掘り込まれており、土坑内には床面に時期不明の素掘りの井戸の痕跡が認められる。埋土は褐色系シルトを基調としながら、中層に灰白色粘土が厚く層を成す。この遺構は平・断面形態や規模などから、地下室として使用された可能性が考えられる。18世紀前半の時期を主要とする陶磁器、焼塩壺、三星一文字紋瓦（波辺家紋）などが出土している。（屋敷地1）

S K 458 A区西端に位置する。S K 458は、壁面が垂直に落ちるコーナー部分が検出され、壁際で
・459 あったため深さが確認できなかった。

S K 459は同様にコーナー部分が検出される。東壁はほぼ垂直に掘り込まれているが、南壁はS K 458とは異なり、北側に向かって狭いテラスを連続して設けながら下がっている。両遺構の方位はほぼ同じで、S K 458を垂直に掘り込まれた地下室と考え、S K 459はこれに付属した素掘りの階段を設けるための掘り込みと想定できる。（屋敷地1）

・土坑

S K 338 A区北西端に位置する。平面形態は長方形を呈し、長径1.9m、短径0.9m、深さ0.4mを測る。埋土は灰褐色シルトを基調とし、S K 336を切っている。遺物は17世紀後半から18世紀前半の陶磁器片が、出土している。（屋敷地1）

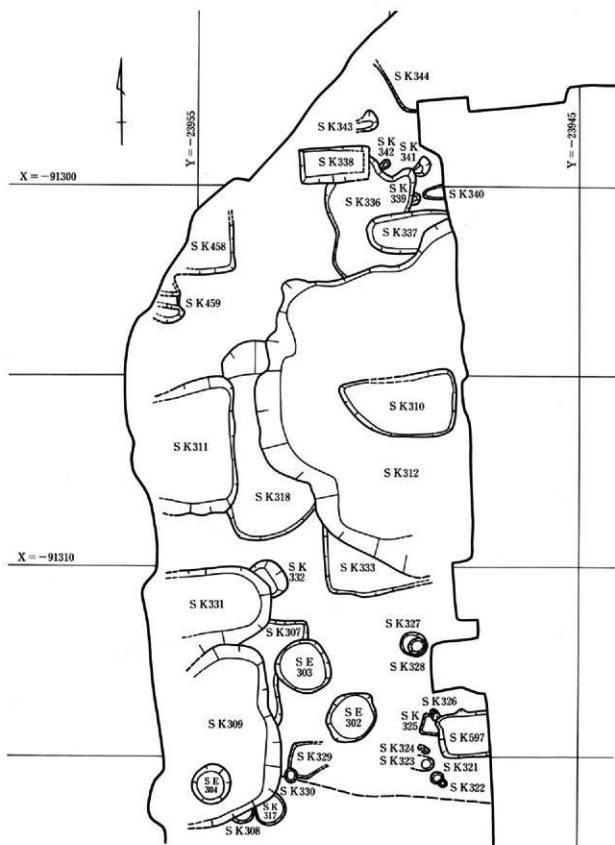
S K 701 B区西側に位置する。平面形態は不整形を呈し、長径3.2m、短径2.2m、深さ0.7mを測る。埋土は褐色系シルトを基調とし、S K 701を切っている。出土遺物は、17世紀後半のものを主体とする。

S K 701を含みこの地点の周辺には、大型で廃棄を目的として掘り込まれたと思われる土坑が集中している。いずれも主要出土遺物は17世紀代のものであり、この地点が17世紀前半～18世紀初頭の時点で集中して、廃棄を目的に利用されたことがうかがえる。各遺構の切り合い関係は、S K 702を701・703が切っており、S K 704を703・292が切っている。（屋敷地1）

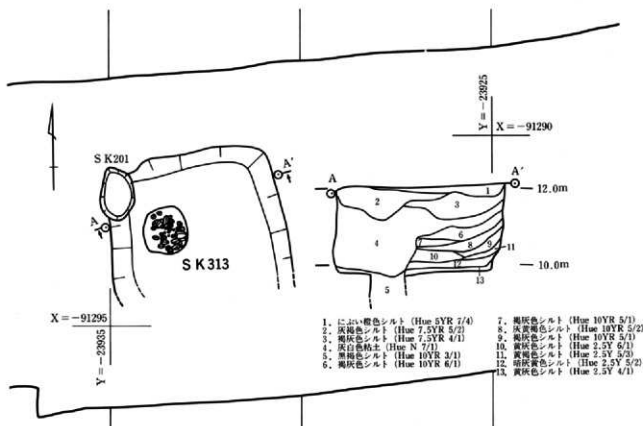
S K 702 B区西側に位置する。平面形態は不整形を呈するものと思われ、検出高は11.4mを測り、深さ1.2mを測る。埋土は黄色系シルトに地山ブロックが混じる。出土遺物は、17世紀前半のものを主体とする。（屋敷地1）

S K 703 B区西側に位置する。平面形態は不整形を呈するものと思われ、検出高は11.4mを測り、残存径4.5m、深さ1.6mを測る。埋土は褐色系シルトに地山ブロックが混じる。出土遺物は、17世紀後半のものを主体とする。（屋敷地1）

S K 704 B区西側に位置する。平面形態は不整形を呈するものと思われ、検出高は11.2mを測り、深さ1.2mを測る。埋土は黄色系シルトを基調とし、出土遺物は、17世紀後半のものを主体とする。（屋敷地1）



第23圖 A区西側土坑群平面図



第24図 S K 313平・断面図

(2) 江戸時代II期 (18世紀後半～19世紀中頃)

上層で検出した遺構は、下層の遺構同様に相互の関係を判別するのが困難で、出土遺物・切り合い関係などによって時間的な特質を推定することを主眼とした。

溝状遺構の中で屋敷の境界に伴う可能性を持つものは、下層検出の遺構と重なるものが多く、数度の掘り返しがうかがえる。

土坑に関しては、下層のように地下・半地下式施設が想定できるものが、上層でも数基確認できた。平面形態は上層と同じく、方形、円形、楕円形、柱穴状の小円などがみられた。これらの土坑の分布状況は、A区中央部分に規模の小さいものが下層と同様に集中し、廃棄を目的にしたと思われる規模の大きな遺構は、A区西側に多くみられた。

以下に主要遺構について、種別に説明する。

溝状遺構

SD 01

A区東側に位置し、南北方向にのびる。検出高は11.5mを測り、全長13.1m、幅1.1m、深さ0.5mを測る。溝の内部には石組みの痕跡が残っており、北から南に向かってやや下がっている。そして、この溝の南端は、楕円形状に広がって終結する。溝の北側はS K 05に切られているが、この土坑をSD 01に伴うものと考えれば、両遺構で汚水処理施設を形成していた可能性が考えられる。すなわち、汚水がまずS K 05に流れ込み、オーバーフローした上澄みがSD 01内の石組み溝に流れ、南端の楕円形状に広がった部分で、地下に浸透

する仕組みがうかがわれるからである。周辺には、SE01のような漆喰の枠をもつ井戸も存在するため、洗い場等の空間も考えられる。軸線の方位はN-4'-Wを示す。(屋敷地3)

S D04 A区中央やや東寄りに位置し、南北方向にのびる。検出高は11.8mを測り、幅1.5m、深さ0.4mを測る。軸線の方向はN-4'-Wを示し、I期のSD308の上層で重なるように検出するが、断面形態は舟底形を呈しており、SD308のように内部土坑は伴わない。埋土は暗褐色シルトを基調とし、ほとんど遺物を含まない。

S D101 B区東側に位置し、東西方向にのびるが西端で北へ屈曲する。検出高は11.8mを測り、幅2.1m、深さ0.6mを測る。軸線の方向はN-87'-Wを示す。溝のほぼ中央部分が東西方向に擾乱を受けており、全容をうかがうことができないが、内部に石組みの溝が設けられていた痕跡がみられる。埋土は灰黄褐色シルトを基調とし、19世紀前半から中頃にかけての陶磁器片が出土している。(屋敷地3)

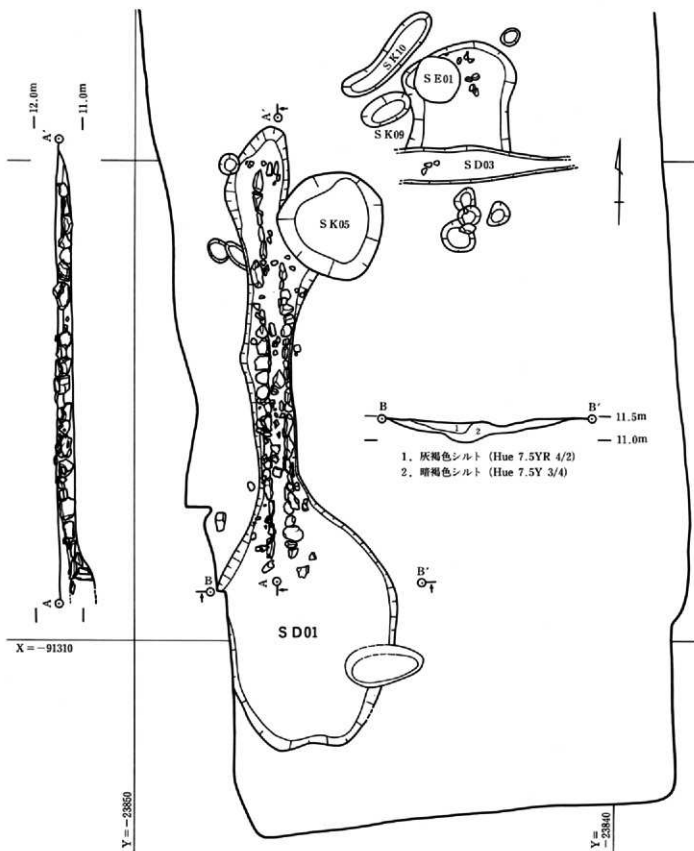
S D104 B区東側南壁沿いに位置し、それぞれ東西方向にのびる。検出高は11.8m~11.9mを測り、深さは0.2mを測る。この両溝は、壁沿いにトレンチを設定したためにいずれも南側の掘り込みが確認できず、全幅は求められなかった。両溝は、それぞれに方向を同じくしながらつながらず、SD104の東端と、SD107の西端がわずか1m程の間隔をもつ。この溝の位置は推定した屋敷地3の区画のほぼ南端であり、I期のSD401ともほぼ重なるため、何度が改修された屋敷境に伴う溝の可能性を有する。

土坑

・地下・半地下式遺構

S K315 A区中央やや西寄りに位置する。平面形態は方形を呈しているものと思われ、残存東西径は3.4mを測り、深さは検出高より0.9mを測る。東壁及び北壁はほぼ垂直に掘り込まれているが、西側のみスロープ状に角度がつけられている。埋土は黄色系シルトを基調とする。東隣にはやや浅いS K316が、わずか0.15mの距離で掘り込まれており、平面形態の方位もほぼ同じである。したがって、この両遺構は互いの存在を認識した上で掘り込まれた可能性がうかがえる。本遺構の掘削目的は、深さから判断すると人の背丈を納めるまでには及ばないため、完全な地下式とはなり得ず半地下式の構造が考えられる。さらに、片側の壁をスロープ状にし、東隣のS K316と合わせたような平面形態を持つことから、このS K315は316と併設された、半地下室的性格を持ったものではないかと思われる。ほとんど遺物を伴わない。(屋敷地2)

S K316 A区中央やや西寄りに、S K315と並ぶように位置する。平面形態は方形を呈しているものと思われ、残存東西径は4.4mを測り、深さは検出高より0.6mを測る。埋土は黄色系シルトを基調とし、壁面はほぼ垂直に掘り込まれており、19世紀前半~中頃の陶磁器片とともに三鱗紋瓦(横井家紋)が出土する。S K315とともに、半地下室的使用が想定される。(屋敷地2)

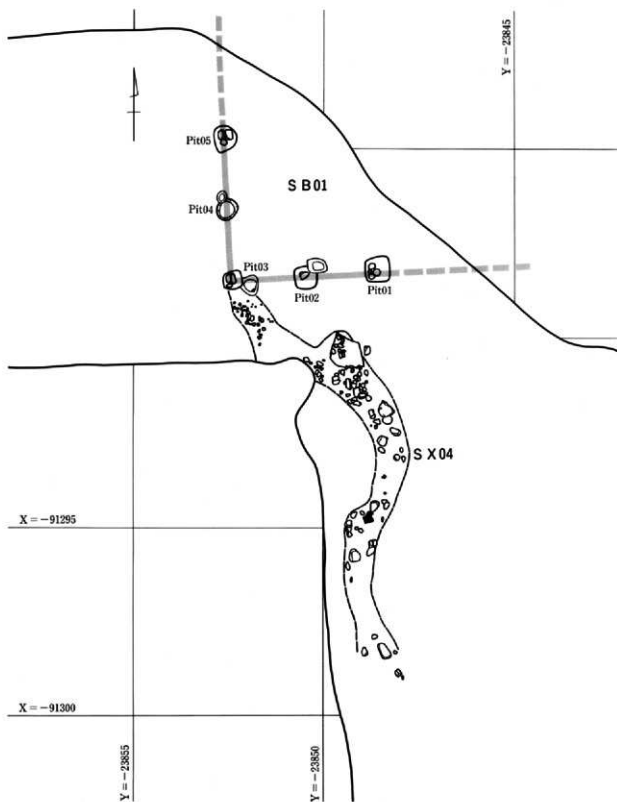


第25図 SD01平・側・断面図

- S K 320 A区中央やや東側に位置する。平面形態は方形を呈するものと思われ、検出高は11.3mを測り、残存径5.0m、深さ0.4mを測る。壁面はほぼ垂直に掘り込まれており、埋土は灰黄褐色シルトを基調とする。18世紀後半から19世紀前半の陶磁器片などが出土している。本遺構は、その深さ、掘削状況、平面形態などから、S K 315・316と同様に半地下式の施設が考えられる。(屋敷地2)

土坑

- S K 62 A区中央やや東寄りに位置する。平面形態は不整形で、南北方向にのびるほぼ中央を、近代以降の建物基礎によって擾乱を受けている。検出高は11.9mを測り、長径3.9m、短径1.6m、深さ0.5mを測る。埋土は灰黄褐色シルトを基調とし、出土遺物は18世紀後半の時期を主体とする。(屋敷地2)
- S K 114 A区中央に位置する。平面形態は楕円形を呈するものと思われ、S K 115に切られている。検出高は11.9mを測り、長径0.7m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は灰黄褐色シルトを基調とし、まじないの文言が内面に書かれた土器(皿)が出土している。(屋敷地2)
- S K 116 A区中央に位置する。平面形態は不整形楕円形を呈し、上記のS K 114に隣接しこれと同様、S K 115に切られている。検出高は11.9mを測り、長径0.9m、短径0.7m、深さ0.14mを測る。埋土は灰黄褐色シルトを基調とし、S K 114と同じくまじないの文言が内面に書かれた土器が出土している。(屋敷地2)
- S K 172 A区中央に位置する。平面形態は楕円形を呈し、検出高は11.8mを測り、長径1.3m、短径0.9m、深さ0.1mを測る。埋土は灰黄褐色シルトを基調とし、墨書土器が数点出土している。(屋敷地2)
- S K 201 A区中央西寄りに位置し、下層のS K 313を切っている。平面形態は楕円形を呈し、検出高は12.2mを測り、長径1.4m、短径0.8m、深さ0.2mを測る。埋土は灰褐色シルトを基調とし、18世紀後半から19世紀にかけての陶磁器片、三星一文字紋瓦(波辺家紋)などが出土している。(屋敷地1)
- S K 206 A区西側に位置する。検出高は12.2mを測り、深さ0.5mを測る。南側は現代の建物基礎によって擾乱を受けており、平面形態、規模などは確認できない。埋土はふい黄褐色シルトを基調とし、18世紀後半から幕末までの陶磁器片などが出土している。(屋敷地1)
- S K 309 A区西端に位置する。平面形態は不整形で、検出高は12.1mを測り、残存径は4.9mを測り、深さ0.9mを測る。埋土は暗灰褐色シルトを基調とし、出土遺物は18世紀後半から19世紀前半にかけての陶磁器片等が主体を成す。(屋敷地1)
- S K 310 A区西側に位置し、大型土坑のS K 312が埋められた後、そのほぼ中央に掘り込まれている。検出高は11.7mを測り、長径3.1m、短径1.8m、深さ0.6mを測る。埋土は暗赤褐色シルトを基調とし、出土遺物は18世紀後半から19世紀前半のものが主体をなす。(屋敷地1)
- S K 312 A区西側に位置する。平面形態は不整形で、検出高は11.6mを測り、残存径は9.2m、深さ2.4mを測る。埋土は灰褐色シルトを基調とし、18世紀後半から19世紀にかけての陶磁器片、瓦片等が大量に出土している。本遺構は今回の調査区の中でも、規模としてはもっと



第26圖 SB01・SX04平面図

も大きなものであり、遺物の出土量も含めて、大量に廃棄することを目的に掘り込まれたのではないと思われる。(屋敷地1)

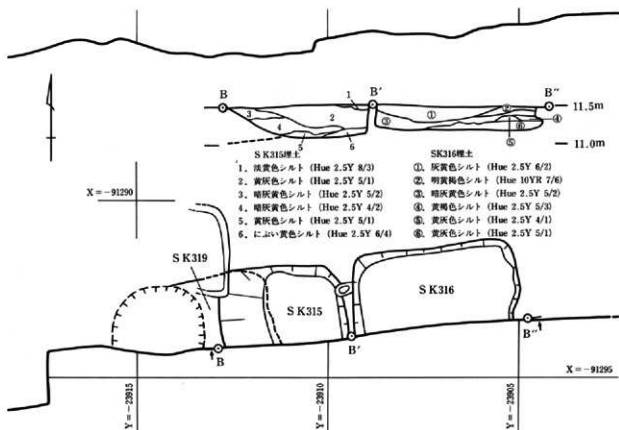
S K 318 A区西側に位置し、S K 311・312に切られている。平面形態は不整形円形を呈するものと思われ、検出高は11.6mを測り、残存径は5.3m、深さ0.3mを測る。埋土は褐灰色シルトを基調とし、出土遺物は18世紀後半の陶磁器片等が主体をなしている。(屋敷地1)

S K 319 A区中央やや西側に位置する。周辺を現代の掘削坑などによって掘り込まれているため、床の一部を残してほぼ全面が残っていない。床の一部からは、19世紀中頃の陶磁器片などが出土している。(屋敷地2)

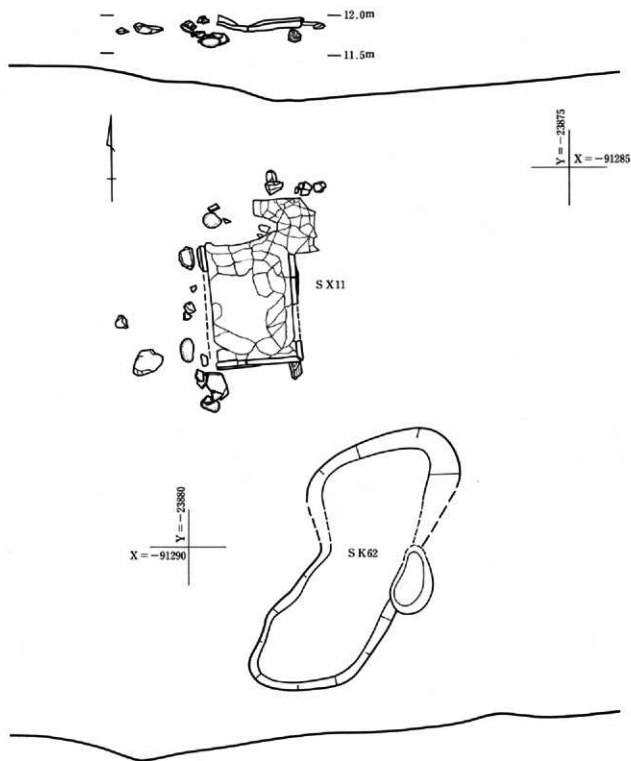
建物跡ほか

S B 01・S X 04 A区北西端に位置する。S B 01の根石を伴う柱穴列は、建物基礎と思われ、南西角部分が発見され、各柱穴間には約1.9mを測る。S X 04は灯籠石、庭石と思われる玄武岩、根石を用いて据え置いた砂岩(澁痕をもつ)などが、掘り込みをもたずに蛇行して配されている。非実用的な配石であり、位置的にも庭の一部ではないかと思われる。(屋敷地3)

S X 11 A区中央やや東寄りに位置する。漆喰で平面を設け、これを枠で囲んだ痕跡が残るが、枠の一部は舟底形に切られており、平面はこの部分に向かって傾斜が設けられていて、水を扱う場を目的につくられたものと考えられる。(屋敷地2)



第27図 S K 315・316・319平・断面図



第28圖 S K62平面図及びS X11平・側面図

第Ⅲ章 遺構

登録番号	区	田名	遺構番号	長(m)	幅(m)	深(m)	断面形態	平面形態	時期	原数	備考
SD062	A	SD062	-	90	32	-	U字形	-	古墳	-	南から北へ下がる、N-13-W
SD083	A	SD083	-	(80)	52	-	楕形	-	古墳	-	南から北へ下がる、N-3-E
SD084	A	SD084	-	125	31	-	楕形	-	古墳	-	南から北へ下がる、N-13-W
SD010	A	SD010	-	210	100	V字形	-	戦国Ⅰ期	-	南から北へ下がる、N-6-E	
SD603	A,B	SD603	-	(1120)	430	楕形	-	戦国Ⅱ期	-	傾き不明、N-82°-W、調査区外で南へ屈曲、N-6°-E	
SD606	B	SD606	-	395	(280)	V字形	-	戦国Ⅱ期	-	東から西へ下がる、N-79°-W、東端で北へ屈曲、N-8.5°-E	
SD607	B	SD604	-	410	202	U字形	-	(戦国Ⅱ期)	-	西から東へ下がる、N-81°-W	
SD608	B	SD608	-	160	69	楕形	-	戦国Ⅱ期	-	北から南へ下がる、N-9°-E	
SK512	A	SK512	190	75	29	(U字形)	楕円形	-	戦国Ⅱ期	-	
SK513	A	SK513	(530)	-	69	-	-	-	戦国Ⅱ期	-	
SK514	A	SK514	295	165	35	(楕形)	方形	-	戦国Ⅱ期	-	
SK553	A	SK553	-	115	19	(U字形)	-	-	戦国Ⅱ期	-	
SK554	A	SK554	70	55	6	(楕形)	円形	-	戦国Ⅱ期	-	
SK555	A	SK555	85	90	18	(楕形)	楕円形	-	戦国Ⅱ期	-	
SK556	A	SK556	70	50	7	(楕形)	円形	-	戦国Ⅱ期	-	
SD601	A,B	SD601	-	160	110	U字形	-	戦国Ⅲ期	-	西から東へ下がる、N-86°-E	
SD602	A,B	SD602	-	(520)	401	楕形	-	戦国Ⅲ期	-	南から北へ下がる、N-2°-W	
SD604	A	SD604	-	320	175	V字形	-	戦国Ⅲ期	-	北から南へ下がる、N-1°-E	
SD606	A	SD606	-	-	140	U字形	-	戦国Ⅲ期	-	南から北へ下がる、N-4°-W	
SD611	A	SD611	-	190	142	U字形	-	戦国Ⅲ期	-	北から南へ下がる、N-5°-E	
SD037	A	SD067	-	470	34	U字形	-	江戸時代Ⅰ期	2	北から南へ下がる、N-4°-W	
SD038	A	SD068	-	190	163	U字形	-	江戸時代Ⅰ期	2,3	区画溝、北から南へ下がる、N-1°-W	
SD039	A	SD069	-	145	97	楕形	-	江戸時代Ⅰ期	3	北から南へ下がる、N-3°-W	
SD401	B	SD091	-	125	100	楕形	-	江戸時代Ⅰ期	3	区画溝、東から西へ下がる、N-86°-E	
SD402	B	SD092	-	115	45	U字形	-	江戸時代Ⅰ期	2,3	区画溝、北から南へ下がる、N-3°-E	
SD403	B	SD093	-	-	-	V字形	-	江戸時代Ⅰ期	2,3	区画溝、セクション図のみ	
SD404	B	SD094	-	-	-	V字形	-	江戸時代Ⅰ期	2,3	区画溝、セクション図のみ	
SK292	B	SK68	-	320	68	楕形	(方形)	江戸時代Ⅰ期	1		
SK313	A	SK313	465	-	230	楕形	(方形)	江戸時代Ⅰ期	1		
SK338	A	SK338	185	93	39	(楕形)	方形	江戸時代Ⅰ期	1		
SK458	A	SK458	-	-	77	(楕形)	-	江戸時代Ⅰ期	1	階段を伴う地下室	
SK459	A	SK459	-	-	20	(楕形)	-	江戸時代Ⅰ期	1	階段を伴う地下室	
SK761	B	SK301	320	215	66	(楕形)	円形	江戸時代Ⅰ期	1		
SK762	B	SK302	-	-	123	楕形	-	江戸時代Ⅰ期	1		
SK763	B	SK303	-	445	155	楕形	隅丸方形	江戸時代Ⅰ期	1		
SK764	B	SK304	410	-	118	楕形	方形	江戸時代Ⅰ期	1		
SD01	A	SD01	1310	110	48	楕形	-	江戸時代Ⅰ期	3	北から南へ下がる、N-4°-W、SK301と同一	
SD04	A	SD04	-	150	39	U字形	-	江戸時代Ⅰ期	2,3	区画溝、南から北へ下がる、N-3°-W	
SD03	A	SD03	-	75	10	(楕形)	-	江戸時代Ⅰ期	3	西から東へ下がる、N-88°-E	
SD104	B	SD04	-	-	14	(U字形)	-	江戸時代Ⅰ期	3	区画溝、東から西へ下がる、N-85°-E	
SD107	B	SD07	-	-	23	(U字形)	-	江戸時代Ⅰ期	3	区画溝、北から東へ下がる、N-87°-E、西端で南へ屈曲(?)	
SK05	A	SK05	230	220	63	(U字形)	楕円形	江戸時代Ⅰ期	3		
SK09	A	SK09	110	60	33	(U字形)	楕円形	江戸時代Ⅰ期	3		
SK10	A	SK10	243	55	32	(楕形)	楕円形	江戸時代Ⅰ期	3	灰白色粘土ブロックを多く含む	
SK62	A	SK62	385	155	45	(U字形)	不定形	江戸時代Ⅰ期	2		
SK114	A	SK114	73	50	12	(楕形)	楕円形	江戸時代Ⅰ期	2		
SK116	A	SK116	90	65	14	(楕形)	楕円形	江戸時代Ⅰ期	2		
SK172	A	SK172	130	85	10	(楕形)	楕円形	江戸時代Ⅰ期	2		
SK201	A	SK201	140	80	24	楕形	楕円形	江戸時代Ⅰ期	1		
SK309	A	SK309	485	-	88	(U字形)	(楕円形)	江戸時代Ⅰ期	1		
SK310	A	SK310	310	175	57	(楕形)	不定形	江戸時代Ⅰ期	1		
SK311	A	SK311	360	-	51	(U字形)	-	江戸時代Ⅰ期	1		
SK312	A	SK312	920	-	241	(U字形)	-	江戸時代Ⅰ期	1		
SK315	A	SK315	335	-	-	楕形	方形	江戸時代Ⅰ期	2		
SK316	A	SK316	440	-	55	楕形	方形	江戸時代Ⅰ期	2		
SK318	A	SK318	525	-	26	(楕形)	-	江戸時代Ⅰ期	1		
SK319	A	SK319	(425)	-	-	-	(方形)	江戸時代Ⅰ期	2		
SK320	A	SK320	500	-	37	(楕形)	方形	江戸時代Ⅰ期	2		
SK331	A	SK331	(225)	147	(楕形)	-	-	江戸時代Ⅰ期	1		
SK332	A	SK332	103	-	-	-	-	江戸時代Ⅰ期	1		
SK333	A	SK333	-	-	18	(楕形)	-	江戸時代Ⅰ期	1		
SK337	A	SK337	-	108	43	(U字形)	(楕円形)	江戸時代Ⅰ期	1		
SK344	A	SK344	-	-	10	(楕形)	-	江戸時代Ⅰ期	1		
PH01	A	上面PH01	65	65	-	-	方形	江戸時代Ⅰ期	3	SB01	
PH02	A	上面PH02	65	60	-	-	方形	江戸時代Ⅰ期	3	SB01	
PH03	A	上面PH03	45	45	-	-	方形	江戸時代Ⅰ期	3	SB01	
PH04	A	上面PH04	60	50	7	(楕形)	円形	江戸時代Ⅰ期	3	SB01	
PH05	A	上面PH05	83	60	-	-	(方形)	江戸時代Ⅰ期	3	SB01	
SX04	A	SX04	-	110	-	-	溝状	江戸時代Ⅰ期	3	庭の一部?	
SK11	A	SK11	(160)	(125)	-	(楕形)	方形	江戸時代Ⅰ期	3	溝	
SE01	A	SE01	88	95	-	-	楕形	円形	江戸時代Ⅰ期	3	溝
SE302	A	SE302	130	125	(78)	(楕形)	円形	江戸時代Ⅰ期	1		
SE303	A	SE303	145	145	(95)	(楕形)	円形	江戸時代Ⅰ期	1		
SE304	A	SE304	105	100	(150)	(楕形)	円形	江戸時代Ⅰ期	1		

第3表 主要遺構一覧表

第III章 遺物

第1節 概要

名古屋城三の丸遺跡における今回の調査地点で出土した遺物は、遺跡の主体が江戸時代であったため、当該期の他遺跡同様に膨大な量(27リットルコンテナ約800箱)にのぼった。したがって本調査地点では、出土遺物の時代的な比率は江戸時代が圧倒的に多く、ほかにも古墳・戦国時代の遺物が確認できたが、比較対象になる量ではなかった。

本遺跡では江戸時代の遺構が比較的良好に残っているが、数回にわたるものと思われる大規模な整地行為によって複雑な検出状況のみせており、遺構の時代的な判断は出土遺物に負うところが多かった。

これらの遺物の出土状況は、各時代の遺構に伴うものが少なく、包含層中より出土したものが多。

古墳時代の遺物は円筒埴輪片が溝から出土しており、そのほかにはトレンチから須恵器片がわずかに出土しているのみである。したがって本調査地点は、この時期には生産・消費といった性格をもつ空間ではなかったことが遺物の出土状況からうかがえる。

戦国時代の遺物は古墳時代と比較すると量的には増加するものの、遺構の数、規模などから考えると少ないと言える。このことは、当該期における本調査地点の、遺構から考えられる空間的特質が、かならずしも生活空間とは直結しないものも存在することを示唆している。

江戸時代の遺物は、古墳・戦国時代の遺物と比較すると量的には大半を占める。遺構内出土遺物は、包含層出土遺物に比べると少ないながらも、短期間に大量に廃棄されたと思われる一括性の強い出土状況のものもみられた。こうした遺構間の時代的な差は、遺構の分類上は2時期に大別したが、遺物の時期幅が比較的短期間に絞れるものもあり、さらに細かい設定も可能である。

今回の調査地点は江戸時代の名古屋城においては、特に信頼された家臣の役宅が所在した三の丸の内側地点という場所で、このことは絵図・文献資料などからもほぼ正確な位置が推定可能である。遺物は、役宅跡とはいえほかの時代から比べると、生活空間を想定させる多様な器種が出土している。これらの大量な遺物は江戸時代の名古屋が、瀬戸・美濃地域という、この時期におけるわが国の代表的窯業生産地をひかえていたため、大半が瀬戸・美濃産という産地組成を示す。しかし、そうした強力な地場産業の流通圏に、他地域から流通してくる製品も確実に存在している。これらの製品は組成としては少ないが、この地域における江戸時代各時代の流通状況がうかがえる資料となっている。

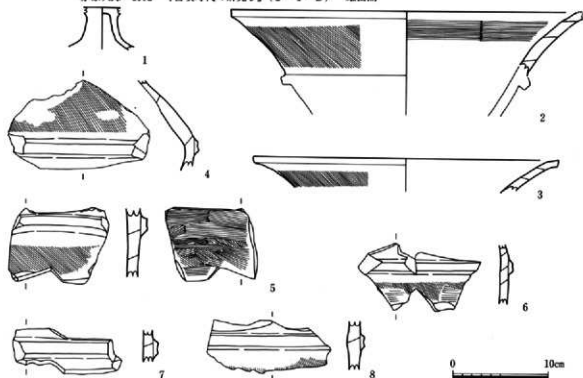
第2節 古墳時代の遺物

1は、須志器高杯の脚部であり、外面調整には、丁寧なヨコナデを用い、内面にもヨコナデを施している。色調は青灰色を呈し、焼成は良好である。透孔は確認できない。2～8はすべて円筒埴輪であり、2～4は朝顔形であることが確認できる。外面調整は、7については確認できないが、ナナメハケを施すものが大部分であり、口縁部と凸帯の前後にヨコナデによる二次調整が認められ、6は、さらにヨコハケが施されている。内面調整は、2・3がヨコハケ、4・6～8が指オサエを用い、5についてはランダムなヨコハケが施されている。色調は、5・8は白色を呈し、それ以外は、淡黄褐色を呈する。なお、凸帯は、突出高と側面長比が1:3となり、時期は、6世紀代と思われる。

参考文献

横上 昇 1991 『池下古墳』 朝愛知県埋蔵文化財センター

赤塚次郎 1992 『古墳時代の研究9』（2-1-D） 雄山閣



第29図 古墳時代出土遺物実測図

図版No.	遺構No.	品種名	法量 (cm)	備考	登録No.
29-1	S D 803	須志器・高杯	—	ヨコナデ、ヘラケズリ	E-1
29-2	S D 804	埴輪・朝顔形	口径 18.40	ナナメハケ、ヨコナデ、ヨコハケ	E-2
29-3	S D 804	埴輪・朝顔形	口径 16.00	ナナメハケ、ヨコナデ、ヨコハケ	E-3
29-4	S D 804	埴輪・朝顔形	—	ナナメハケ、ヨコナデ、指オサエ	E-4
29-5	S D 804	埴輪	—	ナナメハケ、ヨコナデ、ヨコハケ	E-5
29-6	S D 804	埴輪	—	ナナメハケ、ヨコハケ、ヨコナデ	E-6
29-7	S D 804	埴輪	—	ヨコナデ	E-7
29-8	S D 804	埴輪	—	ナナメハケ、ヨコナデ	E-8

第4表 古墳時代出土遺物観察表

第3節 戦国時代の遺物

主要遺構別出土遺物

戦国時代Ⅰ期（15世紀後半の竈窯製品のみ出土する遺構）

- S D 610 Ⅰ期唯一の遺構で、本遺構の出土遺物はわずかである。9は陶器の鉢片で、口縁部内側に突帯がめぐる。10は陶器の蓋の口縁部片で、表面には粗く錆軸がかけられている。ともに竈窯製品では後半期につくられたものと思われる。

戦国時代Ⅱ期（16世紀前・中葉の大窯Ⅰ・Ⅱ期を主要出土遺物とする遺構）

- S D 603 11・12は天目茶碗である。輪高台で、高台内から外側体部にかけて錆軸で化粧掛けされており、外側体部から内側全面に鉄軸がかけられている。大窯Ⅰ期の特徴を持つ。13は付け高台に特徴を持つ陶器碗の底部で、瀬戸・美濃地域でつくられた竈窯製品と思われる。14・15は土製の皿で、いずれもロクロ成形である。16は土製の鍋で、内耳をもつ。本遺構の主要出土遺物は、全体として大窯Ⅰ期のものと思われる。

- S D 605 17はエンゴロ（竈道具）である。口縁部から体部にかけてのみ、炭化物及びびすが付着しており、竈道具以外の使用がうかがえる。18・19は陶器の皿で、18は外側体部から内側にかけて、19は全面に鉄軸がかけられている。20はロクロ成形の土製皿である。本遺構の遺物は、全体として大窯Ⅰ・Ⅱ期のものと思われる。

- (S D 607) 本遺構は遺構の章でも述べたが、埋土の下層より江戸時代初頭の遺物が出土し、中・上層からは埋め戻しに利用した周囲の土に混じったと思われる大窯Ⅰ・Ⅱ期の遺物が出土している。この逆転現象から、廃絶時期を江戸時代初頭、掘削時期を方位などと考え合わせて戦国時代Ⅱ期と判断したため、() 表示でこの時期にいらした。

21は端反り口縁の陶器皿で、全面に鉄軸がかけられており、見込み部には印花が施されている。22は無軸の焼き締め陶器皿で、内側のロクロ目が同心円状にはっきり残るいわゆる「重圍皿」である。23はロクロ成形の土製皿である。器壁は全体的に厚手であるが、見込み部はロクロの回転を利用してくばせている。24は土製の鍋で、内耳をもつ。本遺構の出土遺物は、大窯Ⅰ期の特徴をもつものが多い。

- S D 608 25は天目茶碗である。体部外側から内側にかけては鉄軸に鉄軸掛けがされており、高台内から体部にかけては錆軸が化粧掛けされていて、いわゆる「黄（黄瀬戸）天目」と言われるものである。26は端反り口縁の陶器皿で、全面に鉄軸がかけられており、見込み部には印花が施されている。27は重圍皿である。25～27は、いずれも大窯Ⅰ期のものと思われる。28～31は土製の皿で、31のロクロ成形を除いて、いずれも非ロクロ成形で口径は6cm程度である。29・30はナデ調整がされておらず、28はヨコナデが認められる。

- S K 513 32は重圍皿で、27とは若干形態が異なり、平底の底部は一端高台状に立ち上がり、口縁部は薄く直立する。33は端反り口縁の陶器皿で、全面に鉄軸がかけられている。34は播鉢の口縁部片で、残存部にわずかに擦目が認められる。口縁部は、成形時に段状に折り返さ

れている。35・36はロクロ成形の土製皿である。いずれも見込み部及び見込み部脇が、くぼめられている。本遺構の出土遺物は大塚Ⅰ・Ⅱ期のものと思われる。

戦国時代Ⅲ期（16世紀後葉の大塚Ⅲ期を主要出土遺物とする遺構）

S D 601 37は天目茶碗で、体部外側から内側にかけては鉄軸がかけられており、外側体部から高台にかけては錆軸が化粧掛けされているものと思われ、大塚Ⅰ期の製品と思われる。38は土製の焙烙で、口縁部は「逆ハの字」状に開き、内耳が口縁部内側に三ヶ所二等辺三角形状に配されていて、その形状から、大塚Ⅲ期併行の製品と思われる。

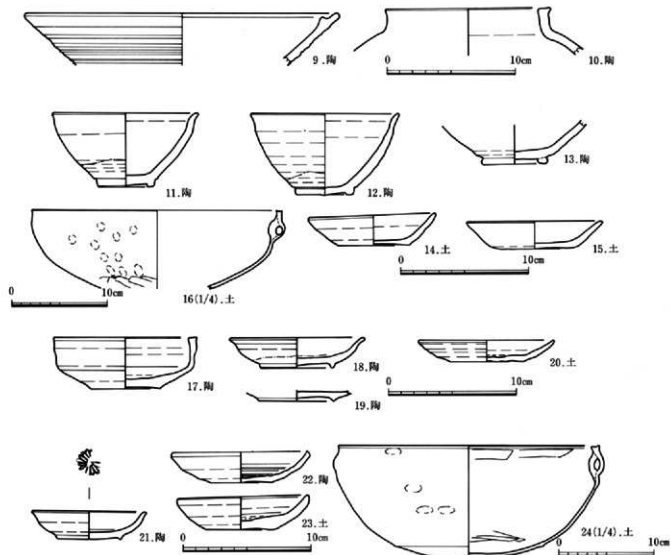
S D 602 本調査地点の中でもっとも規模が大きな遺構で、他の遺構も規模から考えると出土遺物量が少ないが、本遺構はその中でも極端に少ない。遺構の章でも述べたが、埋土のほとんどを占める地山混じりの埋め戻し層は無遺物で、溝の開削期間中に自然堆積したと思われる最下層からわずかな量の遺物が出土している。

39は天目茶碗の底部片で、残存する内側には鉄軸がかけられ、外側は錆軸で化粧掛けが施されている。高台は輪高台で、大塚Ⅰ期のものと思われる。40は陶器皿の底部片で、内外面ともに灰釉がかけられている。41は播鉢の口縁部片で、残存部にはわずかに擦目が認められ、口縁部は段状に折り返されていて、その形状から大塚ⅢまたはⅣ期のものと思われる。42は平瓦片で、全体的に厚く凸面には成形時のハナレ砂が付着している。

S D 604 本調査地点の戦国時代の遺構の中で、遺物がもっともまとまって出土した遺構である。43は天目茶碗で、口縁部の断面形態は「S字」の屈曲がやや強く、外側体部の下方は錆軸によって化粧掛けがされており、形態上密窯末から大塚Ⅰ期の製品と思われる。44・45は白磁の皿である。44は端反りの口縁部をもち、45は底部がいわゆる「葎ヶ底」で、いずれも中国産と思われる。46～49は陶器皿で、46・47は見込み部には印花が施され、全面に灰釉がかけられており、49は全面に鉄軸がかけられ、48は外側体部から内側にかけて灰釉がかけられている。これらの皿はいずれも大塚Ⅱ期のものと思われる。50は重圓皿で、同心円状のロクロ目は間隔が比較的広い。51は陶器壺の口縁部片である。形態的には広口で、口縁部内側から外側にかけて鉄軸がかけられており、密窯後期の製品と思われる。52～54は播鉢の口縁部片である。52は口縁端部が玉縁状に丸くなる形態と思われるが、彫らみは少ない。53は口縁部の断面形態が内・外に分かれて開くもので、これによってつくられた平坦面の中央はわずかにくぼむ。54は口縁端部が段状に折り返されており、折り返し部端はわずかに外に出され、段の中央はややくぼむ。55は陶器の筒形鉢で、口縁端部は平坦面が設けられており、わずかにくぼみがつけられ、外側体部から口縁部内側にかけて錆軸がかけられている。形態的に大塚Ⅲ期の製品と思われる。56は土製の内耳鍋で、体部は丸みをもち、器壁は薄い。57は土製の茶釜形羽釜で、壺形の頸部は比較的短い。58は土製の羽釜で、体部は丸みをもつものと思われる。

参考文献

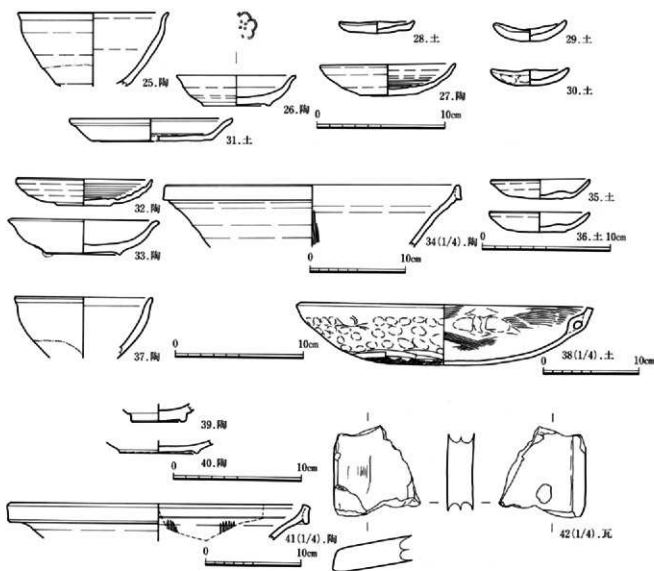
- 藤澤良祐 1986 『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要V』 瀬戸市歴史民俗資料館
橋崎彰一 1976 『美濃の古陶』 光琳出版



第30図 S D610・603・605・607出土遺物実測図(16・24は1/4、その他は1/3)

図版No	遺構No	時期	産地・材質	器種名	器形	口縁形	輪差	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
30-9	SD610	戦国Ⅰ期	1	3	1	3	1	-	-	(24.20)	-	-	古瀬戸後期4	E-9
30-10	SD610	戦国Ⅰ期	1	8			5	-	-	(13.00)	-	-	古瀬戸後期3~4	E-10
30-11	SD603	戦国Ⅰ期	1	1	1	1	2	-	5.90	11.10	4.30	-	大室Ⅰ	E-11
30-12	SD603	戦国Ⅰ期	1	1	1	2	2	-	6.40	(11.40)	4.40	-	大室	E-12
30-13	SD603	戦国Ⅰ期	1	1	3		1	-	-	-	5.00	-	付け高合、14c米~15c初、古瀬戸後期Ⅰ	E-13
30-14	SD603	戦国Ⅰ期	2	2	1	2	5	5	2.50	9.90	5.60	-		E-14
30-15	SD603	戦国Ⅰ期	2	2	1	2	5	-	2.20	(10.40)	5.00	-		E-15
30-16	SD603	戦国Ⅰ期	2	8	2	3	5	5.6	-	26.20	-	-	大室ⅠorⅡ	E-16
30-17	SD605	戦国Ⅰ期	1	5	1		5	6	4.00	(11.10)	(5.40)	-		E-17
30-18	SD605	戦国Ⅰ期	1	2	3	1	1	-	2.40	(10.30)	(5.60)	-	大室Ⅰ	E-18
30-19	SD605	戦国Ⅰ期	1	2			1	-	-	-	5.90	-	大室ⅠorⅡ	E-19
30-20	SD605	戦国Ⅰ期	2	2	1	2	5	-	1.70	(10.50)	(5.70)	-		E-20
30-21	SD607	戦国Ⅰ期	1	2	3	1	1	-	2.20	(8.70)	(4.90)	-	大室Ⅰ	E-21
30-22	SD607	戦国Ⅰ期	1	2	1	0	5	-	2.50	10.50	4.80	-	大室Ⅰ	E-22
30-23	SD607	戦国Ⅰ期	2	2	1	2	5	-	2.80	10.30	5.40	-		E-23
30-24	SD607	戦国Ⅰ期	2	8	2	3	5	5.6	11.60	27.10	-	-		E-24

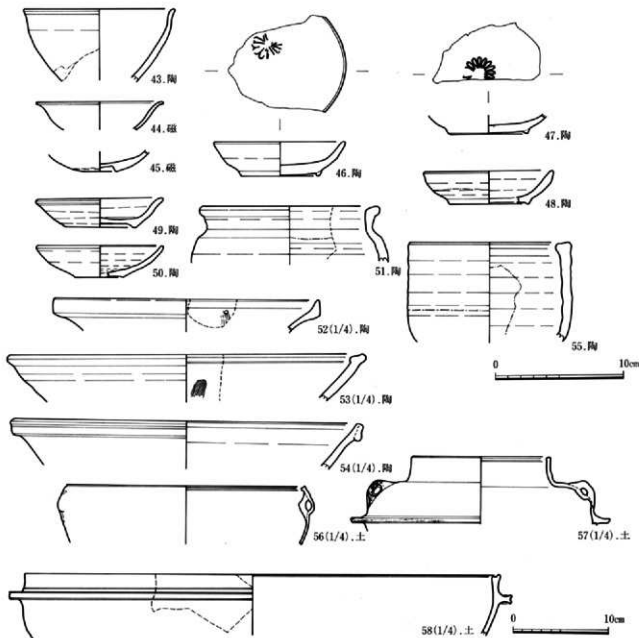
第5表 S D610・603・605・607出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



第31図 SD608・SK513・SD601・602出土遺物実測図(34・38・41・42は1/4、その他は1/3)

図版No	遺物No	時期	産地・材質	器種名	器形	口縁形	輪数	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	脱大径(cm)	備考	登録No
31-25	SD608	戦国前期	1	1	1	2	2	-	-	(11.60)	-	-	黄天目、大甕I新段階	E-25
31-26	SD608	戦国前期	1	2	3	1	1	-	2.40	(9.20)	5.20	-	大甕I	E-26
31-27	SD608	戦国前期	1	2	1	0	5	-	2.40	(10.40)	(4.40)	-	大甕I	E-27
31-28	SD608	戦国前期	2	2	2	1	5	-	1.00	5.70	-	-		E-28
31-29	SD608	戦国前期	2	2	2	3	5	-	1.60	5.50	-	-		E-29
31-30	SD608	戦国前期	2	2	2	3	5	-	1.30	6.00	-	-		E-30
31-31	SD608	戦国前期	2	2	1	1	5	-	1.80	(12.70)	(7.70)	-		E-31
31-32	SK513	戦国前期	1	2	1	0	5	-	2.10	10.40	4.20	-	大甕I	E-32
31-33	SK513	戦国前期	1	2	3	1	1	-	2.70	11.80	5.80	-	大甕I	E-33
31-34	SK513	戦国前期	1	4	0	3	2	-	-	(30.40)	-	-	大甕I~II	E-34
31-35	SK513	戦国前期	2	2	1	3	5	6	2.40~1.60	7.80	2.20	-	大甕I<II	E-35
31-36	SK513	戦国前期	2	2	1	2	5	6	1.60	7.80	2.20	-	大甕I<II	E-36
31-37	SD601	戦国前期	1	1	1	2	2	-	-	(10.60)	-	-	大甕I	E-37
31-38	SD601	戦国前期	2	8	3	1	5	6	6.50	31.10	-	-		E-38
31-39	SD602	戦国前期	1	1	1	0	2	-	-	-	(4.10)	-	大甕I	E-39
31-40	SD602	戦国前期	1	2	-	-	1	-	-	-	6.10	-	大甕I or II	E-40
31-41	SD602	戦国前期	1	4	0	6	2	-	-	(31.20)	-	-	大甕II	E-41
31-42	SD602	戦国前期	瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-		E-42

第6表 SD608・SK513・SD601・602出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



第32図 S D604出土遺物実測図 (52~54・56~58は1/4、その他は1/3)

図版No	遺構No	時期	産地・材質	器種名	器形	口縁形	輪室	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
32-43	SD604	戦国前期		1	1	1	1	2	-	(11.70)	-	-	甕蓋未	E-43
32-44	SD604	戦国前期		6	2			7	-	(9.70)	-	-	陶反・莽々底、16c	E-44
32-45	SD604	戦国前期		6	2			7	-	-	2.40	-	陶反・莽々底、16c	E-45
32-46	SD604	戦国前期		1	2	4	1		2.70	(10.20)	6.00	-	大甕II	E-46
32-47	SD604	戦国前期		1	2			1	-	-	6.20	-	大甕I or II	E-47
32-48	SD604	戦国前期		1	2	4	1	1	2.60	(9.90)	(6.25)	-	大甕II	E-48
32-49	SD604	戦国前期		1	2	5	1		2.40	9.70	5.50	-	大甕II	E-49
32-50	SD604	戦国前期		1	2	1	0	5	2.50	(9.70)	(3.80)	-	大甕I	E-50
32-51	SD604	戦国前期		1	5	2	4	2	-	(13.60)	-	(15.40)	大甕II(少)~III	E-51
32-52	SD604	戦国前期		1	4	0	5	2	-	(27.50)	-	-	古瀬戸後期	E-52
32-53	SD604	戦国前期		1	4	0	9	2	-	(36.90)	-	-	大甕IV	E-53
32-54	SD604	戦国前期		1	4	0	7	2	-	(35.80)	-	-	大甕IV	E-54
32-55	SD604	戦国前期		1	5	1	2	2	-	(12.30)	-	-	大甕III	E-55
32-56	SD604	戦国前期		2	8	2	3	5	-	(24.80)	-	-	大甕II	E-56
32-57	SD604	戦国前期		2	8	4	2	5	6	(14.30)	-	-		E-57
32-58	SD604	戦国前期		2	8	1		5	6	(34.70)	-	-	大甕II?	E-58

第7表 S D604出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照

第4節 江戸時代の遺物

主要遺構別出土遺物

1 江戸時代Ⅰ期（17世紀前半～18世紀中頃）

- S D 307 59～62は天目茶碗である。いずれも高台脇から内側にかけて鉄軸がかけられ、高台は高く深めに削られており、口縁部から体部にかけての屈曲部は長く、17世紀前半のものと思われる。63・64は陶器の灰釉小碗で、65～70は陶器碗である。65は天目茶碗で、輪高台の周辺は錆釉で化粧掛けが施されており、大窯Ⅰ期のものと思われる。66～68は灰釉碗である。69・70は高い高台に体部が張る断面形態の碗で、口縁部の脣は楕円形を呈する。形態的な特徴などから66～70は、17世紀前半～中頃のものと思われる。71～74は陶器皿で、71・72には灰釉が、73・74には長石釉がかけられている。75は燻硝鉢鉢で、体部内側から外側にかけて鉄軸がかけられ、内側の鉄軸以外の部分には錆釉がかけられている。76・77は鉢で、口縁部内側は76では凸部がめぐり、77では凹部が作り出されている。78は盤状の陶器で、断面形態は折り返された口縁部と張り出した体部をもつ。79は陶器の鉢で、内側体部には柳描きの波状文が、見込み部には菊花文が施されている。80は非円形の陶器鉢片で、内側には端に銅緑釉、中央には長石釉の上に鉄軸が描かれていて、いわゆる「織部」製品である。81は筒形の陶器で、口縁部の脣は方形を呈し、断面形態は体部上方がくびれている。82は陶器碗の底部で、器壁は厚く、内外両面にクロロ目がはっきり残る。83は内側にはいわゆる「三島手」の文様が施されており、82・83ともに肥前陶器と思われる。84・86～88は磁器碗で、84は肥前産の白磁で、口縁部から体部にかけて筒形に直立する断面形態をもち、86～88は中国産白磁染付である。85は肥前産磁器染付小碗である。89・90は土製の鍋で、いずれも内耳をもち体部は丸をもつ。89は三足と思われる突起が、底部上方に設けられている。

陶器は17世紀前半～中頃のものが多いが、肥前産磁器などと考え合わせると17世紀中頃～後半に廃絶した遺構と思われる。

- S D 308 91は天目茶碗で、92は長石釉に鉄軸が施された陶器碗である。93・94は陶器の皿で、94は端反り口縁に灰釉がかけられ、大窯Ⅰ期のものと思われる。94は灰釉に白化粧が斑にかけられている。95は大窯期のエンゴロ（窯道具）である。97は鉢で、口縁部内側は凸部がめぐり、99は陶器の蓋で、外側にのみ白釉がかけられている。100～106は土製の皿で、100～103はクロロ成形成、104～106は非クロロ成形成である。100・102は、内側にクロロ目の彫らみが比較的残っており、101・103は内・外ともに丁寧な整形が成されている。非クロロ成形成のものでは、106のみ内側に一方のナデ調整が認められる。107・108は常滑系の風炉・甕である。

本遺構の遺物は、大窯期のものも混じるが、碗などの時期を考え合わせると17世紀中頃に廃絶した遺構と思われる。

- S D 309 109～110は天目茶碗で、いずれもやや小型である。111は陶器碗で、外側高台脇から内側

にかけて白釉がかけられており、高台内には「十」と思われる文字が書かれている。112・113は陶器皿で、112は素地に蘭竹文と思われる鉄絵が施され、長石釉がかけられている。114は陶器鉢で、口縁部は折縁状を呈し、口縁端部はやや受口状を呈する。115・116は染付磁器碗で、115は高台端部に明赤褐色の焼けがみられ、砂が付着しており、中国産と思われる。116は外側に如意頭繫ぎ文が描かれ、肥前の百間川窯製品と思われる。117は非口口成形の土製皿である。

本遺構の出土遺物は、陶器皿などから17世紀後半が下限として考えられる。

S D 401 118・119は陶器皿で、118は口縁部外側から内側にかけて灰釉がかけられており、端反りの口縁をもち、寛永末期の製品と思われる。119はいわゆる「菊皿」で、外側高台脇から内側にかけて灰釉がかけられ、口縁端部には銅緑釉が流しかけられている。120はいわゆる「笠原鉢」である。

S K 313 121～127は陶器の碗で、121は外側体部から高台内にかけて錆釉がかけられ、内側から外側体部にかけて灰釉がかけられている。122・123は外側に呉須絵が描かれ、124には灰釉の上に鉄釉が流しかけられており、125・127には鉄絵が描かれている。125・126は体部が直立し、腰部にははっきりと絞線がはいる。126の高台内には、「六・御部屋・子（乃）四月」と墨で三行に分けて書かれている。128～137は陶器皿で、128の菊皿は、内側から外側高台脇にかけて灰釉がかけられている。129は見込み部に重ね焼き痕が認められ、130には、高台内に「・・・元御主」と書かれた墨書がみられる。131は軟質陶器の皿で、薄い器壁に端反りの口縁部をもち、内側には線刻による文様が施され、緑釉が全体的にかけられている。132は見込み部に呉須絵が描かれ、133の口縁部は、甗職が方形を呈するものと思われるが、高台は丸い。134～137は型打ち成形の皿で、136を除いて、甗職は木瓜形を呈するものと思われる。138・139は搦鉢で、口縁部はいずれも段状に折り返されているが、139は段の外側に彫らんで縁帯状を呈する。140は三足の香炉で、外側の口縁部から腰部にかけてのみ灰釉がかけられている。141～144は陶器鉢で、断面形態が141は筒形に近く、143は直線的に開いている。144は笠原鉢である。145～148は陶器の瓶で、145は把手と注口をもち、口縁部はしばられ受口状を呈する。146・147は小型の瓶で、それぞれ高台の幅は広く、胴部が張り、頸部は細くしばられていて、油壺として使用されたものと思われる。148はなで肩で、筒形の長い体部をもつ。149は筒形陶器で、筒形の竹を模したものを3本並べて接合したものと思われ、底部には「キシタ」と墨で書かれている。150は陶器蓋で、外側には鉄絵が施されている。151～155・157は陶器碗で、151には外側に楼閣山水文と思われる図柄が描かれ、高台内には「木下弥」と思われる印が押されている。152～154は内外面ともに刷毛目文様が施されており、焼き締められた緻密な胎土で、154には外側に呉須で印判及び施文がみられる。156は陶器皿で、外側体部から内側にかけて透明釉がかけられ、内側には緑釉がわずかに流しかけられており、見込み部は輪割けがみられる。157は色絵磁器の合子と思われ、外側に描かれた文様は蓋から続いているものと思われ、欠損部には漆継ぎの痕跡が残る。158～161は染付磁器の碗で、160・162の高台内には「大明年製」の2行4字

銘が書かれており、161には、二重方形枠内に「福」字銘の溝状にくずしたものが書かれている。163～165は染付磁器の皿で、164の見込み部にはコンニャク印判による五弁花が押されており、165の高台内には方形枠内に「福」字銘が書かれている。166は青磁の徳利で、肩部に二ヶ所稜がみられる。167～174は土製の皿で、すべてロクロ成形で、口径は4種類に大別できる。口径が6cm弱のもの(167)、9cm前後のもの(168・169)、11cm前後のもの(170～172)、16cm前後のもの(173・174)である。遺存度の低いものを除いてタールの付着が認められるため、灯明皿としての使用がうかがえる。175～178は焼塩壺の身で、179・180は同蓋である。身はいずれも粘土板を芯に巻き付けた作りで、印籠形を呈する。175・178には外側体部に一重枠で、「御壺塩師堺湊伊織」という2行8字銘の刻印が押されており、176・177には方重に、「泉州麻生」という4字銘の刻印が押されている。蓋はいずれも、伴出している印籠形の身に伴うものと思われ、型づくりで内面には布目が残る。181は土製の鍋で、内耳をもつ。182・183はミニチュア製品である。182には内側に緑釉で絵が描かれており、鉢または碗のミニチュアと思われる。183は口縁部に把手がつけられていたと思われ、底部には三足が設けられている。

本遺構の遺物は今回の調査の中でも、出土量の多さ、器種の多様さにおいて、良好な出土状況を見せている。これらの遺物の時期は、陶器においては18世紀中頃の可能性を有するものもみられるが、焼塩壺、磁器などは18世紀前半が下限と思われる。

S K 338 184は陶器蓋で、成型時に口縁部が一ヶ所「U」字状に空けられており、外側には鉄釉がかけられている。185・186は陶器碗で、いずれも口縁部から体部は直立し、腰部は丸みを帯びた断面形態である。185は体部に楼閣山水文が描かれ、高台内には「清水」銘の刻印が押され、186の体部には鉄釉と呉須で笹文が描かれている。187は土製の皿で、ロクロ成形であり、内外面ともに丁寧にナデ調整されている。188は土製の火器で、上部は欠損しており、体部に通気孔が空けられ、三足が設けられている。

S K 701 189～198は陶器碗である。189～191は天目茶碗で、高台はいずれも深く削られている。192～194は端反りの口縁部をもち、197・198は腰部に稜をもち、199～203は陶器皿である。199には長石軸が、200には灰軸がかけられている。201～203は型打ち成形の皿で、底部は201・202には三足が設けられており、203は高台である。204・205は陶器鉢で、いずれも内側は無釉で、205の口縁端部は、打ち欠けた痕跡を示す。206～208は摺鉢で、口縁部の断面形態は受口状に折られ、立ち上がりは短い。209～214は陶器鉢で、209は口縁端部に平坦面をもち、体部上方は波状文や刻みが施され、体部外側から内側にかけて白釉をかけた後、緑釉を重ねかけ、内外の底部には鉄釉がかけられている。209～214は灰軸が全面にかけられた大型の鉢で、211・213・214は内側に鉄絵及び銅緑釉流しが施されている。210・212は銅緑釉流しのみである。215は陶器の形で、低く幅広い高台をもち、体部は肩から腰にかけてほぼ筒形である。216～219は染付磁器の碗で、外側体部にはそれぞれ文様が施され、216には口縁端部に銅釉がかけられており、高台内には「大明」字銘がみられる。220は色絵磁器の底部片で、見込み部には赤絵具で文字が書かれ、外側体部の残存部には緑、赤などの

文様がみられる。これらの装飾は内外面ともに、上絵付けである。221は染付磁器の鉢で、見込み部には荒織文が、外側体部には鳳凰が描かれ、高台内には「大明」字銘がみられる。222は青磁の脚付き碗で、口径に比べると底部は幅が比較的狭い。223～238は土製の皿である。このうち、223～236はロクロ成形で、237・238は非ロクロ成形である。ロクロ成形の皿では、口径が11cm前後のものをもっとも多く、225～231がこれにあたり、続いて14cm強のものも多く、233～236がこれにあたる。239は土製の茶釜形羽釜の口縁部片である。240・241は土製の鍋である。242～244は焼塩壺の身である。身の残存部はいずれも無印で、輪積み成形である。245は道具瓦(丸)で、外側には丸形で花卉状に図案化された印が押されている。

本遺構の出土遺物は、焼塩壺に印の有無が確実に判明するものがなく、肥前系磁器の下限は17世紀中頃と思われるが、瀬戸・美濃産陶器は17世紀後半のものがみられる。したがって、この遺構の廃絶時期は、17世紀後半と思われる。

- S K 702 246～248は陶器碗で、246の小碗は灰釉が、247・248は長石釉がかけられている。249は陶器皿で、全面に長石釉がかけられ、内側には鉄釉で施文されている。250は搦鉢で、口縁部内側に段をもつ。251は染付磁器で、断面形態はやや開く筒形で腰部は90°近く折れ、やや広めの高台をもつ。252～258は土製の皿で、252～256はロクロ成形で、257・258は非ロクロ成形である。260～263は焼塩壺の身で、264～267は同蓋である。身はいずれも輪積み成形で、体部上方から口縁部にかけてややすぼみ、欠損している262を除いて無印である。蓋はいずれも輪積み成形の身に伴う形態と思われる。268は焼き締められ白色の細砂粒を含む胎土の鉢で、三足が設けられており、常滑産の火器ではないかと思われる。269は石製の碗で、裏面には「天口」と線刻されている。

本遺構の出土遺物は、246が17世紀でもやや新しい様相を示しているものの、そのほかは17世紀前半～中頃までのものが多くみられる。したがって、本遺構は時間的に17世紀中頃のものと思える。

- S K 703 270～273は天目茶碗である。270・271は器形が小型化したもので、273は丸みを帯びた断面形態で、17世紀後半～18世紀前半のものと思われる。275～281は陶器碗である。275及び276は小碗で、280の碗とともに灰釉がかけられ、277は鉄釉が、278・281は鉄釉に灰釉掛けが施されている。279は鉄分の多い素地に白泥と鉄絵具で施文が成されている。282～289は陶器の皿である。灰釉または長石釉がかけられているものが多く、282には口縁部にタールが付着している。287は灰釉に口縁部のみ銅緑釉を流した菊皿である。288・289は型打ち成形の皿で、いずれも三足が設けられている。290・291は陶器鉢で、いずれも鉄釉がかけられ、290の口縁部には蓋掛かりが設けられている。292・293は陶器の大皿である。294は搦鉢で、口縁部内側に段をもつ。297～308は磁器碗で、300以外はすべて染付が確認できる。高台内に銘をもつものがみられ、301には「大明成化年製」という2行6字銘が、304には「大明」銘が、305・306には「製」が記されている。形態的には腰部が丸みを帯びた小碗、碗が多いが、308のように筒形を呈するものもみられる。310は染付磁器の皿で、高台から

内側に付けて砂が熔着している。307・310は中国産と思われる。311～316は土製の皿で、311～314はロクロ成形、315・316は非ロクロ成形である。319は土製の釜片で、318～322は土製の鍋である。323・324の鉢・壺は、胎土に白色の細砂粒を含み、良く焼き締められており、常滑産と思われる。325は常滑産の甕で、底をもたず管状につくられている。

本遺構の出土遺物の中で、磁器は製作年代が17世紀中頃までのものが多くみられ、陶器は17世紀前半～18世紀初頭のもののみみられた。したがってこれらの遺物の廃棄は、18世紀初頭と考えられる。

- S K 704 326～328は陶器碗で、326は灰釉がかけられ、327・328には灰釉に鉄釉が流し掛けされている。329～333は陶器の皿で、332の見込み部には鉄絵具で蘭文が描かれている。333は型打ち成形の皿で、三足が設けられている。334は灯明皿受台の破片で、皿部が欠損しており、鉄釉がかけられている。335・336は摺鉢で、335は内側に無釉で擦り目をもたない、いわゆる「煙硝摺鉢」である。337～340は陶器鉢で、338・339の見込み部には菊印花文が施されている。343は瓦質の火器口縁部片と思われ、内外面にすずが付着し、体部上方には焼成前に穿孔が成されている。344～352は染付磁器の碗である。351・352の器形は天目形を呈し、外面青磁掛けである。354～359は土製の皿で、354～358はロクロ成形、359は非ロクロ成形である。361・362は焼塩壺の身で、363は同壺である。361の外側体部上方には「ミなど藤左右衛門」銘と思われる刻印が押されている。364は常滑産の壺で、365は土製の火器、366は石製の硯である。

本遺構の出土遺物は、「ミなど藤左右衛門」銘の焼塩壺を筆頭に、17世紀中頃に製作年代が求められるものが多い。わずかにこの時期以降の様相を示すものもみられるが、埋伏行為の時期は、17世紀中頃と想定できよう。

2 江戸時代Ⅱ期 (18世紀後半～幕末)

- S D 101 367・368は陶器の碗で、368の高台内には扇形の枠内に「清」銘の刻印が押されている。369～371は陶器皿である。371は灯明皿受で、受部の口縁が皿部の口縁より高い。373は陶器壺で、灰釉が外側体部下方から口縁部内側にかけられており、肩部には双耳が設けられている。375・376は陶器蓋で、いずれも落とし蓋で、375には鉄釉が、376には灰釉がかけられている。378は焼塩壺の身で、蓋掛かりはみられない形態である。379は土製の人形で、動物をかたどったものと思われる。

本遺構の出土遺物は、368・371などのように製作年代が18世紀と思われるものも含まれているが、そのほかの陶器や、焼塩壺の形態から考えると、19世紀前半～中頃の時期が想定できる。

- S K 316 380・381は陶器の有脚碗で、仏飯具と思われる。382・385・386は陶器の合子で、382は小型製品である。385の高台内には「御用」と墨で書かれている。383・384は陶器の小鉢で、側入れと思われる。388は「三鱗」紋をかたどった家紋入り瓦である。389～391は陶器鉢である。389は片口鉢で、白釉に鉄絵及び銅緑釉が流し掛けされている。390は転用植木

鉢と思われ、焼成後に底部中央が穿孔されている。393・394は陶器瓶で、いずれも底部脇には補助的な三足が設けられている。395は陶器鍋で、把手にはそれぞれ2穴、3穴と穿孔されている。397～401は染付磁器の碗で、398・399は広東碗で、401は仏器具である。402は染付磁器の皿で、見込み部にはコンニャク印利による五弁花が施されている。403～406は土製の皿で、いずれもロクロ成形で、器壁は薄く径は小さい。403は焼成後に底部中央が穿孔されている。

本遺構の出土遺物は、19世紀前半～中頃のものが多く、この時期に比定することができよう。

- S K 320 407・408は陶器の碗で、408は外側体部中ほどにくほみが数方所つけられた、いわゆる「拳骨茶碗」である。409は陶器の皿で、非ロクロ成形で、2枚の葉を重ねたように作られており、重なる部分は段をつけ、鉄絵具で輪郭を描きこれを強調している。2枚の葉先には銅緑釉流しがなされ、底部には三足が設けられている。410は搦鉢で、折り返された口縁部外側は垂下せず、薄く重ねられている。411～414は陶器蓋で、このうち411～413は落とし蓋、414は被せ蓋である。420～425は人形・玩具類である。420はミニチュア鍋で、421はミニチュア急須、422は金魚、423は坊主をかたどったもので、424はミニチュア合子の蓋で、425は土製の碁石代用品と思われる。

本遺構の出土遺物の廃棄は、搦鉢、焼塩壺の形態から想定すると18世紀後半～19世紀前半に位置づけられよう。

- S K 62 426は陶器碗で、丸い腰部に小径の高台がつく。429～434は土製の皿で、いずれもロクロ成形である。435・436は焼塩壺の蓋で、印籠形の身に伴うものと思われる。437はミニチュアの鍋で、438は鳥をかたどったものである。
- S K 114 土製の皿が2点のみ出土しているが、いずれもロクロ成形で、440には内側に墨で、まじない的文言が書かれている。
- S K 116 土製の皿が4点のみ出土しているが、いずれもロクロ成形で、器壁は極端に薄く、443・444には底部に墨書の痕跡が認められる。
- S K 172 土製の皿が4点のみ出土しているが、いずれもロクロ成形で、448には内側に440同様に、まじない的文言が墨で書かれている。
- S K 201 449～453は陶器碗で、451・453は高台内が溝状に削り出されている。454～456は陶器皿で、454の内側には文花が襷絵で施されている。455・456は灯明皿受で、いずれも受け部の口縁の方が皿部の口縁より高い。457は搦鉢の小型製品で、458は盤状陶器である。460は陶器の徳利で、体部中ほどには焼成後に穿孔されており、高台内には「キヨ」と墨で書かれている。467・468は焼塩壺の身で、469は同蓋である。身はいずれも無印と思われ、467には蓋掛かりが噴踏的に残る。470～472は瓦である。470・472は「三星一文字」紋の家紋入り瓦で、471は樅入瓦である。

本遺構の出土遺物は18世紀後半～19世紀前半のものが多い。したがって、19世紀前半頃に機能を停止したことが、想定できよう。

S K 206 473～478は陶器碗である。473は、外側体部上方から高台内にかけて鉄軸がかけられた、いわゆる「腰鉗茶碗」である。475は外側体部上方から高台脇にかけて刻目を施された、いわゆる「鉗手茶碗」である。478は高めの高台から斜め直線的に口縁部まで立ち上がる、いわゆる「広東茶碗」で、白釉に染付が施された陶器である。479～481は陶器皿で、479には高台内に「渡勲」と墨で書かれている。480は478同様で、染付磁器風に仕上げた陶器である。481は灯明皿受で、受け部の口縁の方が皿部の口縁より低い。483は播鉢で、口縁部外側は段状に折り返された形態を残しているが、形態のみで折り返されていない。485・486は磁器で、485は器高が低いのに比べると体部の径は広く、頸部は細い形態で、油壺と思われる。486の小碗は蛇の目状で幅広の高台をもつ。489は十能の破片で、ロクロ成形の皿を作った後、口縁部を方形に縁取り、把手をつけたものと思われる。490～492は陶器蓋である。490・491は落とし蓋で、492は被せ蓋である。493は染付磁器の蓋で、内外面ともに文様が密に描かれている。494は常滑産と思われる焼き締め陶器の火器で、両肩部に把手がつく。495は焙烙で、内耳には掛け具を止めた針金が残る。

本遺構の出土遺物は、陶器碗・皿などの特徴から19世紀前半～中頃に位置づけられる。

S K 309 496～504は陶器碗で、496～498・500は半球状の体部に径が小さめの高台をもち、499・504は端反りの口縁で、502は広東茶碗である。505～516は陶器の皿で、505～508は丸みを帯びた腰部から口縁部があまり開かず、径の小さい高台がつく皿で、506には「サ」、507には「茶」と墨書が書かれている。514は灯明皿で、3穴の飾り把手がつく。515・516は灯明皿受で、受け部はいずれも口縁部より低い。522は播鉢で、口縁端部は折り返されず、内側摺り目上端には丸に「大」銘の印が隣接して押されている。517～520は餅入れで、各容量は一定でなく、目的、対象に応じた使い分けが想定できる。523～531は陶器鉢で、525・526・530は焼成後に底部が穿孔されており、転用植木鉢と思われる。528はいわゆる「水壺」で、口縁端部の断面形態は内外に開く「T」字形を呈している。529はいわゆる「瓶掛」と呼ばれる火鉢である。532・533及び534・535は蓋と身のセットで出土した陶器瓶である。547は陶器の火器と思われ、口縁部から内側にかけてはスス、炭化物が付着しており、体部上方は数カ所穿孔され、各穴は体部外側の排気管と連結する。548は伏せた半球状の体部に幅9cm程の窓と、径1cm程の空気孔を設けた手あぶり状の陶器で、鉄絵に銅緑釉流しが施されている。549～552・556～558は磁器の碗で、549・551・552・556は筒形を呈し、550・557・558は口縁端部が端反りを呈する。557は外面が青磁で、高台内には「大明成化年製」と2行6字銘が書かれている。554・555・559・560は磁器の皿で、559の高台内には方重に「福」字銘が書かれている。564～566は土製の皿で、これらはいずれもロクロ成形である。568・569は土製の被せ蓋と身で、セット関係にあり、蓋の外面にはスタンプで菊花が散らし押されており、身の底部には「玉光」字銘の刻印が押されている。それぞれの外面及び身の口縁部から内側には朱泥が塗られている。570は土製の鉢で、内外面ともに朱泥が塗られ、口縁部外側には2条のへら描き沈線が、体部にはへら状工具による施文が認められる。572・575は常滑産と思われる焼き締め陶器の火器である。575の体部下方には空気取り入れ

の窓が開けられ、肩部は排気用に穿孔が成されている。573・576・577は瓦類で、573は棟入瓦と思われ、576は道具瓦、577は軒丸瓦である。578～580は磁石で、581は石製の小型硯である。

本遺構の出土遺物は、陶器の碗、皿などが19世紀前半～中頃までのもので占められており、幕末までは至らないものの19世紀中頃に投棄されたものと位置づけられよう。

S K 310 582は染付陶器の筒形碗で、見込み部には梅文が施されている。585は陶器鉢で、体部下方から内側にかけて鉄軸がかけられている。587・588は瓦類である。587は「三星一文字」紋の家紋入り瓦で、裏側には「奴古や・・師権右衛門」とへら書きされている。588は丸瓦である。

S K 312 589～600・664～666は陶器碗で、全体的に腰部の丸いものが多い。597は天目茶碗で、体部は丸みを帯びる。589・590は小碗で、590は無高台である。601～603は広東碗で、603は見込み部側から高台内に向かって穿孔されており、植木鉢などの転用が考えられる。600は幅広の高台をもち、方形枠をもつ印が押されている。604～614は陶器皿である。604～610は見込み部の文様、形態など共通するが、606を除いて底部に局部的な被熱痕が認められる。606・608～610には高台内に墨書が認められる。612は内側全体に網目文が施されており、底部は高台を作った後、3ヶ所を切り込み三足にしている。614は白釉に染付文様を施した磁器風の陶器である。615～617は播鉢で、615・616は小型製品である。618～621は陶器小型鉢で、把手付きは621のみである。625・626は陶器鉢で、体部下方から内側にかけて鉄軸がかけられ、いずれも焼成後に底部が穿孔されており、転用植木鉢と思われる。631は植木鉢で、高台脇から口縁部内側にかけて灰軸がかけられている。634・658・659は陶器の大型鉢で、634は口縁部から体部にかけて窓が切られ、その対面の体部には2ヶ所に穿孔が行われ、いわゆる「風炉」と呼ばれる火器である。635～640は陶器壺・瓶類である。638の壺には高台内に「十八」と墨書が書かれている。644～657・663は陶器蓋で、644～646は被せ蓋である。667～671・676～679は磁器碗で、676を除いて染付が施されている。676は白磁の猪口で、高台は深く削られている。678には割れ口に焼継ぎ痕がみられ、高台内には「七五四」と朱書きされている。672・673・683は磁器皿で、673の高台内には、「天明年製」という2行4字銘のくずしたものが、683の高台内には「乾」字銘が書かれている。684は白磁の蓋で、碗に伴うものと思われる。685～689は土製の皿で、いずれもロクロ成形で、689は器壁が極端に薄い。690～693は土製の耳皿で、いずれもロクロ成形の皿を焼成前に変形させたものと思われる。694～699は土製の焙烙で、口縁端部の断面形態はいずれも「Y」字形を呈し、697・698は器壁が極端に薄い。700は用途不明の土製品で、形態はキノコ形を呈し、半球状の曲面には2状の沈線の中に刻み目が施されている。701は、土製の五徳片である。703～705は火器で、703・704は、白色の細砂粒を多く含む焼き締められた胎土であるが、705は砂粒を含まず白色で緻密な胎土で、下段の体部が一部欠損しているが、その部分に風穴が設けられていたと思われる。706・707は焼塩壺の身で、708～710は同蓋である。706の口縁部には蓋掛かりはみられず、707には低い蓋掛かりが設けられている。714は土製の鉢

で、火桶として使用されたものと思われる。711は焼き締められた無釉陶器の蓋で、長方形の窓が連続してめぐり、712は瓦質の筒形小浅鉢である。いずれも内側にはスズ、炭化物が付着しており、711・712はセットとして、瓦葺のように灯明具を入れた容器かと思われる。713・715～722は瓦類である。713は棟入瓦で、715～717・721は道具瓦、718は九瓦である。722は軒丸瓦で右巻き三つ巴、珠文ともにシャープである。719・720は軒棧瓦で、いずれも周縁には丸に「三」字銘の刻印が押され、中心飾りは三葉に7個の珠文が入る。

本遺構出土遺物は、瀬戸・美濃産陶磁器において19世紀に位置づけられるものが圧倒的に多く、下限は19世紀中頃に求められよう。

- S K 318 723～732は陶器の碗で、断面形態は全体的に丸い腰を呈するものが多い。724は全体に銷軸がかけられ、鉄軸が流し掛けられている。727は外側体部に凹縁が2条入る、いわゆる「重層碗」で灰釉に鉄軸が流し掛けされている。733・734・736～741は陶器皿で、736は首縁が方形で四隅は谷状に波をもつ口縁を呈する。737は型打ち成形の皿である。740・741は灯明皿受で、いずれも受け部の口縁は皿部の口縁より高い。受け部における油の落ち口は、741では受け部を切り込んでいるが、740では受け部に穿孔して設けられている。747～749は播鉢で、いずれも口縁部外側は段状に折り返されているが、段は痕跡的で体部に密着している。735・742～746・750～754は陶器鉢である。735は非円形の浅い鉢で、口縁部は数カ所に内彎部が設けられている。745の合子は、高台内に「五ヵ〇屋」と思われる墨で書かれている。746はびん水入れで、外側体部には梅文と笹文が表裏に、それぞれ色絵で描かれている。750は灰釉の鉢であるが、高台端部にはヘラ状工具による刻み目が3ヶ所一対で2単位施されている。751はこね鉢で、高台内には「延享五年 辻〇右衛門 辰六月吉日」と墨で3行に分けて書かれている。この記年銘が正確だとすれば、延享五(1748)年六月にこの鉢を入手した記述と思われる。752・753は平鉢で、内側には櫛描波状文がめぐり、銅緑釉が流し掛けられ、753の底部には「未… 十… 太…」と墨で書かれている。755は灰釉が掛けられ、体部に長石が等間隔で埋め込まれている。756～762は陶器の壺・瓶類である。756～758は花瓶で、口縁部はいずれも開いており、757の底部には、「せん〇様」と墨で書かれている。759・760は双耳壺で、760の底部は焼成後に穿孔されている。761・762は汁つぎで、いずれも壺形の体部に注口と把手が付属し、注口の断面形態はゆるやかな「S」字状に屈曲する。763・791は灰落として、いずれも底径に比して口径は狭くすぼむ。764～767は灯明具で、764～766はひょうそく、767は灯明皿受台である。768～774は陶器蓋で、774の被せ蓋以外は落とし蓋で、773の内側には「嘉〇」と墨で書かれている。777・779～781は火鉢で、781の底部には「御部屋」と思われる墨で書かれている。792～797は土製の皿で、いずれもロクロ成形である。796・797は口径が20cm前後と大きく、いずれも丁寧に磨かれている。798～800は焼塩壺の身で、801・802は同蓋である。799には「泉湧伊織」、800には「泉州磨生 サカイ 御塩所」銘の刻印が外側体部に押されており、いずれも蓋掛かり部は痕跡的である。798は無印で、蓋掛かりを設けられていない。蓋はいずれも被せられる部分が浅く、痕跡的な蓋掛かりをもつ身に伴うものと思われる。805～807は焼き締

められた無釉陶器の蓋、皿で、いずれも内面にはスス、炭化物が付着している。805と806は形態が類似しており、長方形の窓がめぐらされているか否か、端部が落とし蓋か被せ蓋かの違いである。807の皿は底部中央につまみが欠損したとも考えられる痕跡がみられ、蓋からの転用品の可能性も有するが、特徴ある胎土は3点とも同一で、805・807の2点で瓦壇のように灯明具の容器として使用し、806は消火用として3点セットで使用された可能性も考えられる。808～812は瓦類である。808は陶器軒丸瓦片で、緑釉が掛けられ、巴部は左巻き三つ巴と思われる。809は道具瓦で、810は棟入瓦であり、811は丸瓦、812は棧瓦である。813は石製の碗である。

本遺構の出土遺物は、全般的に18世紀代のものが多くみられるが、播鉢、焼塩壺などから判断すると、18世紀後半に位置付けられよう。

- S K 319 814・815は陶器碗で、815の広東碗は820の皿とともに白釉を掛け染付を施して、磁器風に仕上げている。816～820は陶器皿で、817・818の灯明皿受は、いずれも受け部の口縁が皿部の口縁より低い。821・822は陶器壺で、821は半環耳の双耳壺である。824の陶器鍋は、823の蓋とともに鉄絵と銅緑釉の流し掛けが施され、セット関係にあるものと思われるが、蓋の裏には「□部屋」という文字が書かれている。830・831は染付磁器碗で、832・833は白磁の皿である。832には内側に菊花が陽刻で散らされている。836は土製の培烙で、口縁部は短く直立し、端部は内傾している。829の土製品は、断面形態が筒形を呈し、体部下方には窓が設けられている。837・838は常滑産の甕・火器で、837の外側体部には、いわゆる「松皮手」といわれる波状文が施されている。839～845は人形・玩具類である。839・840は壺形を呈するが、いずれも破片であり土製のミニチュアの可能性を有する。843は火器、845は蓋蓋のミニチュアで、844は有人船のミニチュアである。

本遺構の出土遺物は19世紀代のものが中心で、陶器碗、磁器などの年代観から、19世紀中頃に位置付けられよう。

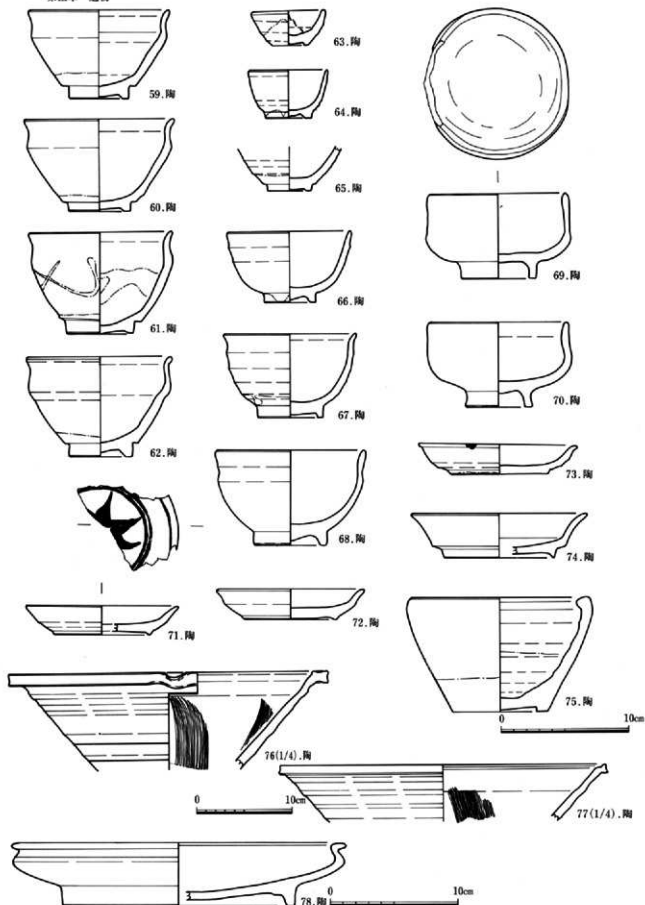
- S X 11 846・847は陶器碗で、847は灰釉の拳骨茶碗である。848は陶器皿で、銅釉が全体に掛けられている。849・850は播鉢である。849の口縁部外側は、段が痕跡的で折り返されていない。850は無釉で、明赤褐色の胎土は焼き締められており、口縁部内側と外側の段には2本の凹線が入る。854・855は磁器の仏飯具で、854の底部は山形にえぐられているが、855の底部は浅く平らに削られている。858～860は土製の皿で、いずれもロクロ成形で器壁は薄い。863は焼塩壺の身、864・865は同蓋で、身の蓋掛かりは痕跡的である。866～869は人形・玩具類で、868は獅子頭、869はニワトリをかたどったものと思われる。

本遺構出土遺物は、播鉢、焼塩壺の形態などから、18世紀後半～19世紀前半に位置付けられよう。

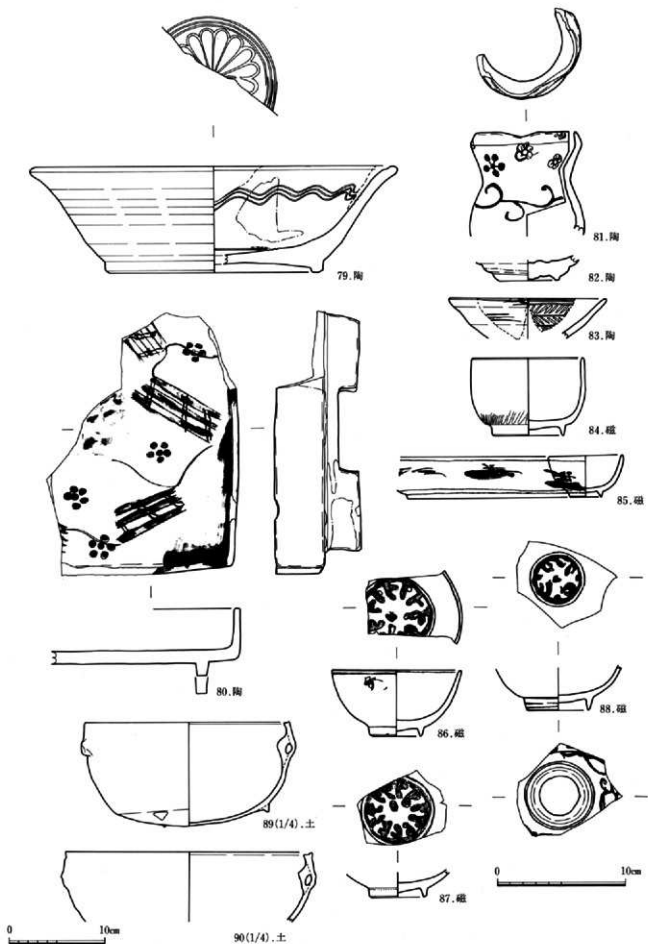
参考文献

- 藤澤良祐 1986～1989 『研究紀要V～VII』 瀬戸市歴史民俗資料館
 田口昭二 1993 『美濃窯の発物』 多治見市教育委員会
 大橋康二 1993 『肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社

第三章 遺物



第33図 SD307出土遺物実測図①(76・77は1/4、その他は1/3)

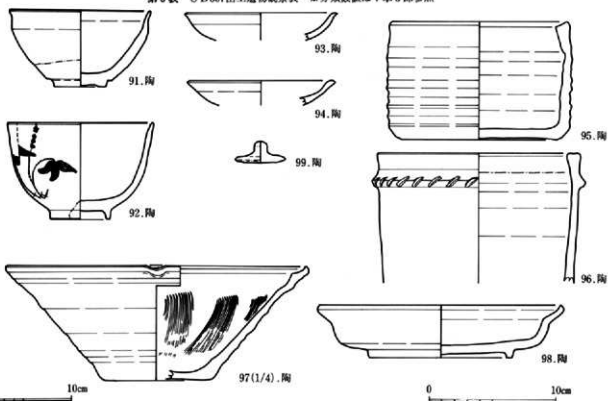


第34図 S D307出土遺物実測図② (89・90は1/4、その他は1/3)

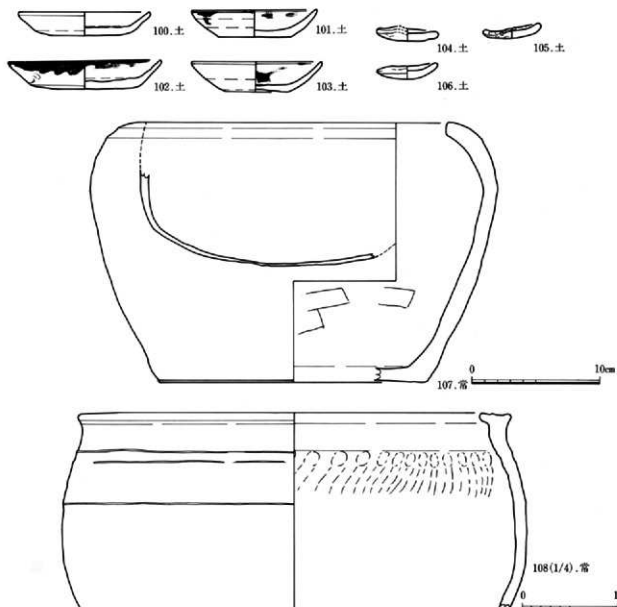
第3章 遺物

図版No	遺物No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸高	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
33-59	SD307上層	2	美濃	1	1	2	-	-	7.00	(10.80)	4.50	-	17c	E-59
33-60	SD307	2	美濃	1	1	2	-	-	7.30	(11.80)	4.80	-	17c	E-60
33-61	SD307	2	美濃	1	1	2	-	-	8.00~8.10	11.10	5.20	-	灰輪流し, 17c	E-61
33-62	SD307	2	瀬戸	1	1	2	-	-	7.90~7.95	11.20	5.00	-	17c	E-62
33-63	SD307	2	瀬戸・美濃	1	7	2	-	-	2.80	5.50	2.60	-	大瀧IV	E-63
33-64	SD307	2	美濃	1	7	1	-	-	3.80	(6.00)	3.60	-	17c	E-64
33-65	SD307	2	瀬戸	1	1	2	-	-	-	-	3.40	-	大瀧I	E-65
33-66	SD307	2	美濃	1	2	1	-	-	5.60	9.60	4.00	-	17c	E-66
33-67	SD307	2	瀬戸	1	2	1	7	-	6.60	10.2	5.00	-	17c	E-67
33-68	SD307	2	美濃	1	1	1	-	-	7.50	(11.40)	5.60	-	17cか	E-68
33-69	SD307	2	美濃	1	2	1	-	-	6.70	10.60	5.80	-	17c	E-69
33-70	SD307	2	美濃	1	2	1	-	-	6.70	10.70	5.20	-	志野, 17c	E-70
33-71	SD307上層	2	瀬戸・美濃	2	1	1	-	-	2.30	(5.80)	7.40	-	志野, 鉄絵, 17c	E-71
33-72	SD307	2	美濃	2	1	1	7	-	2.40	11.60	7.00	-	17c	E-72
33-73	SD307	2	瀬戸	2	1	1	7	2.20~2.50	12.40	12.40	7.60	-	17c	E-73
33-74	SD307	2	瀬戸	2	2	1	-	-	3.50	13.80	8.60	-	17c	E-74
33-75	SD307	2	美濃	3	3	10	2	5,6	9.00	(14.00)	7.50	-	17c	E-75
33-76	SD307	2	瀬戸	3	3	3	2	-	-	(23.40)	-	-	17c	E-76
33-77	SD307上層	2	瀬戸	3	3	3	2	-	-	(34.10)	-	-	17c	E-77
33-78	SD307	2	美濃	3	8	2	-	-	5.00	(25.60)	18.20	-	17c	E-78
34-79	SD307上層	2	瀬戸	3	1	1	-	-	8.35	(28.20)	16.40	-	除却, 網線輪流し, 17c	E-79
34-80	SD307	2	美濃	7	6	1,4	-	-	6.70	-	-	-	鉄絵(織部), 17c	E-80
34-81	SD307	2	美濃	4	5	1	2	-	-	(7.80)	-	-	鉄絵, 17c	E-81
34-82	SD307	2	肥前(唐津)	2	-	1	-	-	-	-	4.60	-	1590~1610年代	E-82
34-83	SD307上層	2	肥前	2	1	1	-	-	-	(12.30)	-	-	唐津, 三島手, 17c前~	E-83
34-84	SD307	2	肥前	1	2	7	-	-	6.10	(8.60)	5.40	-	17c後半	E-84
34-85	SD307上層	2	肥前	1	7	3	-	-	3.30	5.70	2.40	-	1640~1660	E-85
34-86	SD307上層	2	中国(景德鎮)	1	2	3	-	-	5.20	(10.00)	3.80	-	1590~1630	E-86
34-87	SD307上層	2	中国(景德鎮)	1	2	3	-	-	-	-	4.00	-	1590~1630	E-87
34-88	SD307上層	2	中国(景德鎮)	1	2	3	-	-	-	-	4.80	-	1590~1610	E-88
34-89	SD307	2	土器	5	3	5	-	-	10.90	21.30	-	-	-	E-89
34-90	SD307	2	土器	5	3	5	6	-	-	(25.70)	-	-	-	E-90

第8表 S D307出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



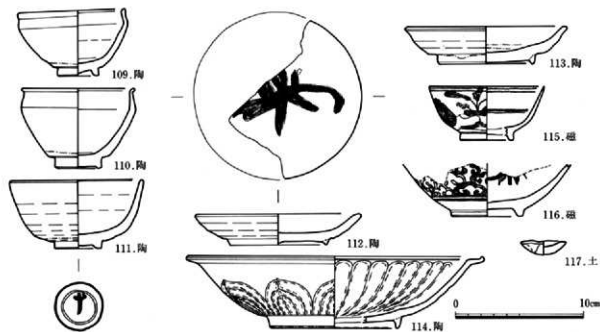
第35図 S D308出土遺物実測図① (97は1/4, その他は1/3)



第36図 S D308出土遺物実測図② (108は1/4、その他は1/3)

図版No.	遺構No.	層位	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪数	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No.
35-91	SD308	2,3	瀬戸	1	1	2	-	-	6.10	10.80	4.00	-	17c	E-91
35-92	SD308	2,3	美濃	1	2	1	-	-	7.60	11.40	4.60	-	鉄絵、17c	E-92
35-93	SD308	2,3	瀬戸	2	1	1	-	-	(11.60)	-	-	-	大甕 I	E-93
35-94	SD308	2,3	不明	2	1	1	-	-	(11.00)	-	-	-	白化糖まだら、大甕 I	E-94
35-95	SD308	2,3	瀬戸	3	4	5	-	-	9.30	(13.80)	12.20	-	-	E-95
35-96	SD308	2,3	美濃	3	4	2	-	-	-	15.60	-	-	17c~18c中	E-96
35-97	SD308	2,3	瀬戸	3	3	3	2	2	12.10	31.10	10.80	-	外ナデ、糸切紙、大甕IV	E-97
35-98	SD308	2,3	瀬戸	3	8	2	-	-	4.20	(18.80)	11.20	-	17c	E-98
35-99	SD308	2,3	不明	7	10	1	-	-	1.65	3.90	-	-	-	E-99
36-100	SD308	2,3	土器	2	1	5	6	-	1.80	(10.20)	4.50	-	-	E-100
36-101	SD308	2,3	土器	2	1	5	-	-	2.20	9.70	5.60	-	-	E-101
36-102	SD308	2,3	土器	2	1	5	7	-	2.30	11.80	7.00	-	-	E-102
36-103	SD308	2,3	土器	2	1	5	6	-	2.40	10.10	4.60	-	-	E-103
36-104	SD308	2,3	土器	2	2	5	-	-	1.20	4.60	-	-	-	E-104
36-105	SD308	2,3	土器	2	2	5	-	-	1.20	4.10	-	-	-	E-105
36-106	SD308	2,3	土器	2	2	5	-	-	1.30	4.50	-	-	-	E-106
36-107	SD308	2,3	常滑	7		10	6	-	20.50	(24.00)	(20.50)	-	-	E-107
36-108	SD308	2,3	常滑	6		10	-	-	-	(44.70)	-	-	-	E-108

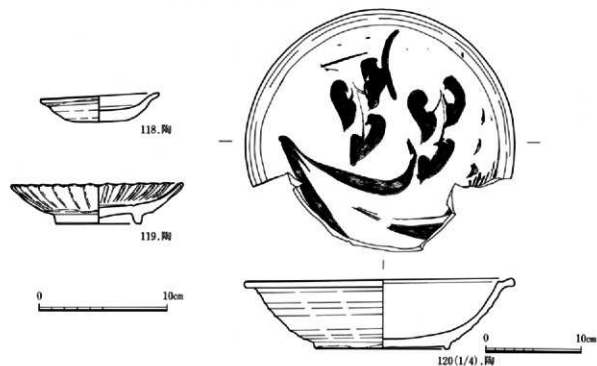
第9表 S D308出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



第37図 SD309出土遺物実測図

図版No.	遺構No.	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪base	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No.
37-109	SD309	3	美濃	1	1	2	-	-	5.30	8.20	3.10	-	17cか	E-109
37-110	SD309	3	美濃	1	1	2	-	-	6.30	(8.70)	3.60	-	17c	E-110
37-111	SD309	3	美濃	1	2	1	9	-	5.40	(10.20)	3.50	-	17c	E-111
37-112	SD309	3	美濃	2	1	1	-	-	2.40	(12.60)	7.60	-	志野, 鉄絵, 17c	E-112
37-113	SD309	3	瀬戸	2	1	1	-	-	2.95	(12.30)	7.40	-	17c	E-113
37-114	SD309	3	美濃	3	8	1	-	-	5.70	(25.30)	(9.90)	-	御深井, 17c	E-114
37-115	SD309	3	中国(福建省)	1	7	3	-	-	4.20	(8.90)	(4.00)	-	1590~1630	E-115
37-116	SD309	3	肥前(百間川)	1	2	3	-	-	-	-	-	-	1630~1640	E-116
37-117	SD309	3	土師	2	2	5	-	-	1.00	3.60	-	-	-	E-117

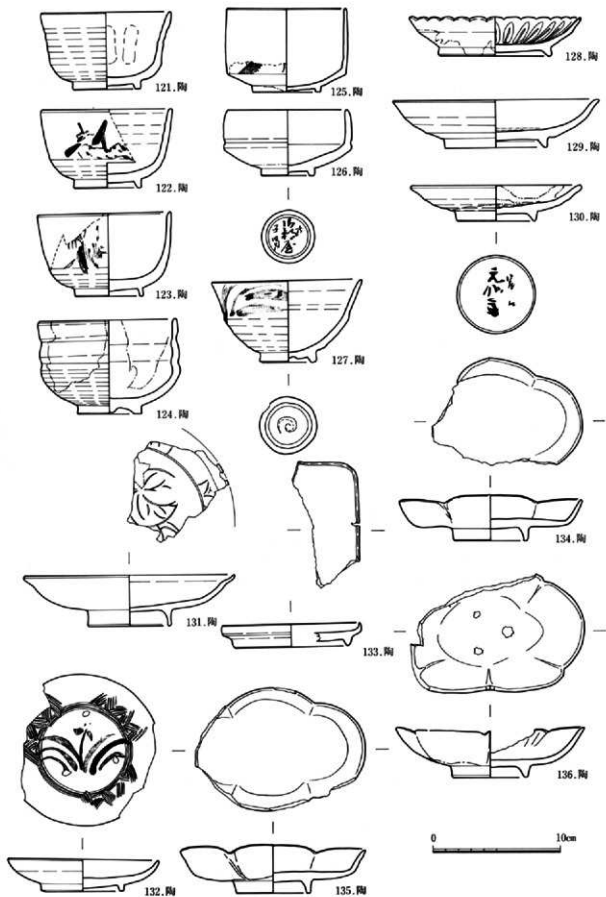
第10表 SD309出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



第38図 SD401出土遺物実測図 (120は1/4、その他は1/3)

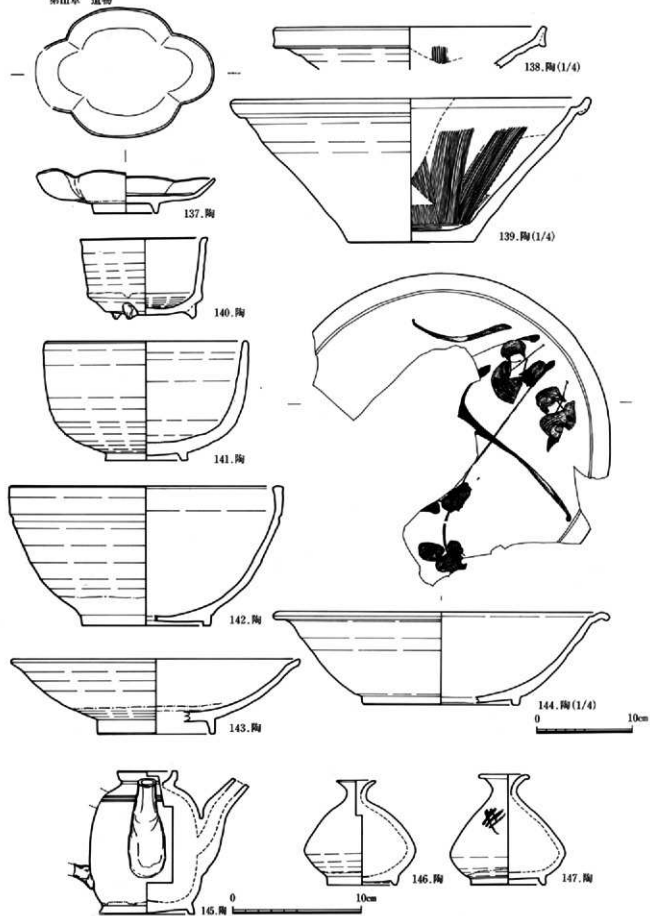
図版No.	遺構No.	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪base	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No.
38-118	SD401	3, 7	瀬戸	2	1	1	-	-	2.30	9.10	4.20	-	寄席後期鉄土	E-118
38-119	SD401	3, 7	瀬戸	2	1	1	-	-	3.00~3.30	13.50	6.80	-	18c, 銅緑釉成し	E-119
38-120	SD401	3, 7	美濃	3	1	1	-	-	7.00~7.50	27.70	14.00	-	鉄絵, 銅緑釉成し, 17c	E-120

第11表 SD401出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照

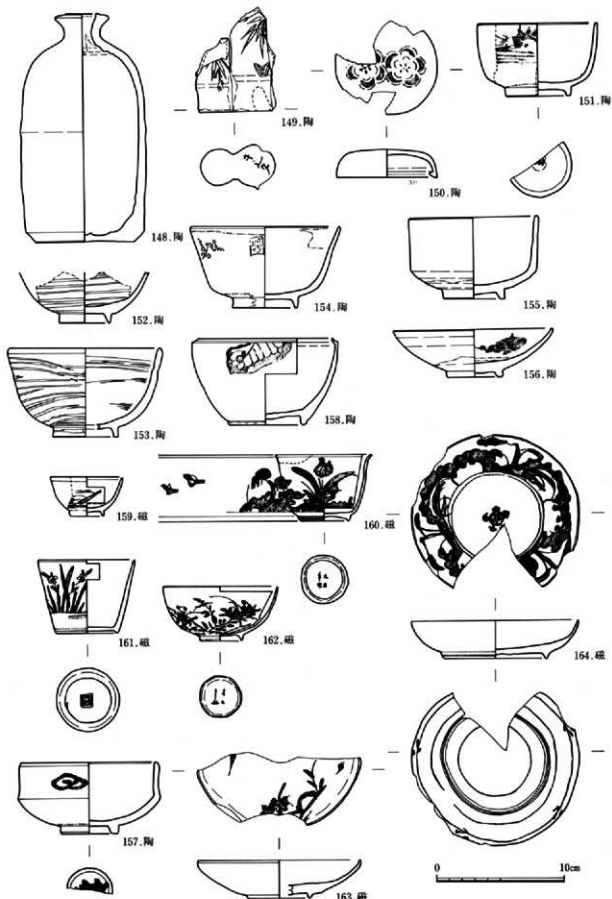


第39圖 S K313出土遺物実測図①

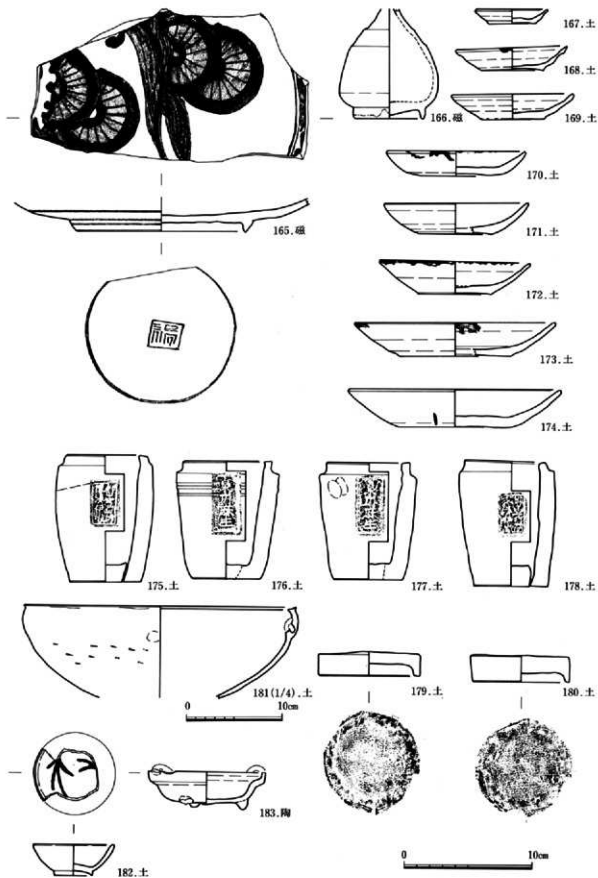
第三章 遺物



第40図 S K313出土遺物実測図② (138・139・144は1/4、その他は1/3)



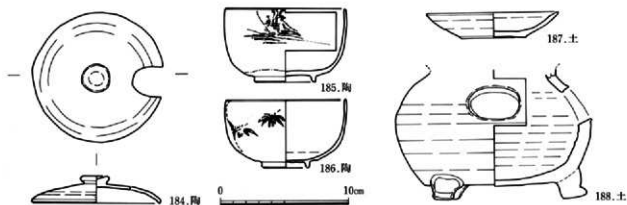
第41図 S K 313出土遺物実測図③



第42図 SK313出土遺物実測図④ (181は1/4、その他は1/3)

図版No	遺構No	屋敷	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪高	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備 考	登録No
39-121	SK313	1	瀬戸	1	2		1.2	-	6.10	(10.30)	5.20		18c	E-121
39-122	SK313	1	瀬戸	1	2		1	-	6.20	(10.20)	5.00		呉須絵, 18c	E-122
39-123	SK313	1	瀬戸	1	2		1	-	6.60	10.30	5.20		御室茶碗, 呉須絵, 18c	E-123
39-124	SK313	1	美濃	1	2		1	-	7.45	10.60	4.90		鉄輪流し, 18c	E-124
39-125	SK313	1	不明	1	3		1	-	6.60	(9.30)	5.30		鉄絵	E-125
39-126	SK313	1	瀬戸	1	3		1	9	5.20	(8.20)	4.60		18c	E-126
39-127	SK313	1	美濃?	1	2		1	-	6.50	11.60	4.00		鉄絵, 18cか	E-127
39-128	SK313	1	美濃	2	1		1	-	3.10	(13.20)	8.70		陰刻, 18c	E-128
39-129	SK313	1	瀬戸	2	1		1	-	3.75	(15.80)	7.80		18c	E-129
39-130	SK313	1	美濃	2	1		1	9	2.80	(15.20)	6.00		銅線物流し, 18c	E-130
39-131	SK313	1	京都	3	8		4	-	4.00	(16.40)	6.40			E-131
39-132	SK313	1	瀬戸・美濃	2	1		1	-	2.65	11.70	5.80		陰刻, 呉須絵, 18c	E-132
39-133	SK313	1	瀬戸	2	3		1	-	1.80	(10.80)	8.80		18c	E-133
39-134	SK313	1	美濃	2	3		1	-	3.60	(14.40), (9.90)	5.70		18c	E-134
39-135	SK313	1	美濃	2	3		1	-	3.85	(14.70), (9.70)	5.80		18c	E-135
39-136	SK313	1	美濃	2	3		1	-	3.90	(14.80)	5.70		18c	E-136
40-137	SK313	1	美濃	2	3		1	-	-	(13.90)	4.90		18c	E-137
40-138	SK313	1	瀬戸	3	3	2	2	-	-	(27.90)	-		大窪田古段階	E-138
40-139	SK313	1	瀬戸(赤津)	3	3	6	2	4	15.20	(36.90)	13.00		18c	E-139
40-140	SK313	1	瀬戸	3	4		1	-	6.40	9.80	6.40		18cか	E-140
40-141	SK313	1	瀬戸・美濃	3	1		1	-	9.40	15.60	6.40		18c	E-141
40-142	SK313	1	瀬戸(赤津)	3	1		2	-	14.75	28.20	13.40		18c~19c中	E-142
40-143	SK313	1	瀬戸	3	2		1	-	5.90	(12.40)	9.10		18c	E-143
40-144	SK313	1	美濃	3	2		1	-	9.80	34.00	16.20		鉄絵, 18c	E-144
40-145	SK313	1	美濃	4	7		2	-	11.30	4.60	7.40		18c	E-145
40-146	SK313	1	美濃	4	10		1	-	8.20	(2.90)	5.40	8.70	18c	E-146
40-147	SK313	1	美濃	4	10		1	-	8.70	3.70	5.80	8.95	呉須絵, 18c	E-147
41-148	SK313	1	瀬戸・美濃	4	8		2	-	18.00	2.20	7.80	9.45	18c	E-148
41-149	SK313	1	不明	7	1		1	9	-	-	-	-	上絵	E-149
41-150	SK313	1	美濃?	7	10		1	-	2.20	7.80	-	-	鉄絵	E-150
41-151	SK313	1	肥前	1	2		1	-	5.70	(9.20)	5.00		呉須絵, 刷印, 17c後	E-151
41-152	SK313	1	肥前	1	2		1	-	4.00	-	-	3.90	刷毛目唐律	E-152
41-153	SK313	1	肥前	1	2		1	-	7.00	(12.20)	(5.00)		刷毛目唐律, 17c前後~18c前	E-153
41-154	SK313	1	肥前(鬼川)	1	2		1	-	6.40	11.60	5.00		刷毛目, 呉須絵, 1690~18c前	E-154
41-155	SK313	1	美濃?	1	3		2	-	6.40~6.50	10.10	4.80		刷毛で鉄輪, 内面無輪, 18c	E-155
41-156	SK313	1	不明	2	1		1	-	3.75	(12.20)	4.20		銅線物流し	E-156
41-157	SK313	1	京都	1	3		1	9	5.60	(10.60)	4.40		鉄絵	E-157
41-158	SK313	1	肥前(有田)	3	10		7	11	6.80	9.45	5.90	11.55	上絵, 1650~1670	E-158
41-159	SK313	1	肥前	1	7		3	-	3.10	5.60	2.50		1840頃	E-159
41-160	SK313	1	肥前	1	7		3	-	5.20	7.40	3.20		1690~18c	E-160
41-161	SK313	1	肥前	1	7		3	-	5.80	7.50	4.30		ソバ楕口, 18c前頃	E-161
41-162	SK313	1	肥前	1	2		3	-	4.30	8.80	3.30			E-162
41-163	SK313	1	肥前	2	1		3	-	3.00	(12.70)	4.90		1640~1650	E-163
41-164	SK313	1	肥前	2	1		3	-	3.00	13.00	8.00		1690~18c初	E-164
42-165	SK313	1	肥前(有田)	3	8		3	-	-	-	-	13.00	17c後	E-165
42-166	SK313	1	肥前	4	8		6	-	-	-	-	5.40	1630~1650	E-166
42-167	SK313	1	土器	2	1		5	-	1.10	5.50	3.60			E-167
42-168	SK313	1	土器	2	1		5	7	1.80	8.60	4.90			E-168
42-169	SK313	1	土器	2	1		5	-	2.00	(9.45)	4.70			E-169
42-170	SK313	1	土器	2	1		5	5, 6	1.90	10.80	5.20			E-170
42-171	SK313	1	土器	2	1		5	6	2.50	11.10	5.70			E-171
42-172	SK313	1	土器	2	1		5	7	2.60	(11.70)	5.70			E-172
42-173	SK313	1	土器	2	1		5	7	2.60	(15.60)	8.80			E-173
42-174	SK313	1	土器	2	1		5	6, 7	2.95	(16.50)	8.90			E-174
42-175	SK313	1	土器	8	1		5	-	9.90~10.00	5.80	5.60		刷印「御寄塩師髹伊織」	E-175
42-176	SK313	1	土器	8	1		5	2	9.25	6.90	5.20		刷印「泉州麻生」	E-176
42-177	SK313	1	土器	8	1		5	2	9.20	6.50	5.30		火押, 刷印「泉州麻生」	E-177
42-178	SK313	1	土器	8	1		5	2	9.70~9.90	6.30	5.80		刷印「御寄塩師髹伊織」	E-178
42-179	SK313	1	土器	8	2		5	-	1.90	7.80	-	-		E-179
42-180	SK313	1	土器	8	2		5	-	2.10	7.60	-	-		E-180
42-181	SK313	1	土器	5	3		5	6	-	(28.40)	-	-		E-181
42-182	SK313	1		人形									第39表参照	E-182
42-183	SK313	1		人形									第39表参照	E-183

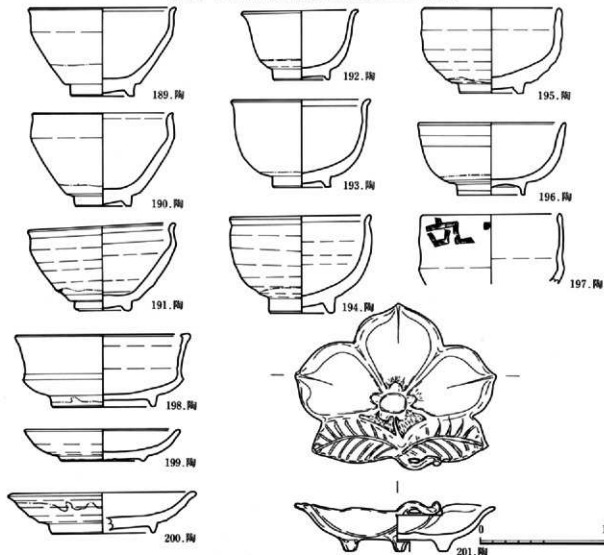
第12表 SK313出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



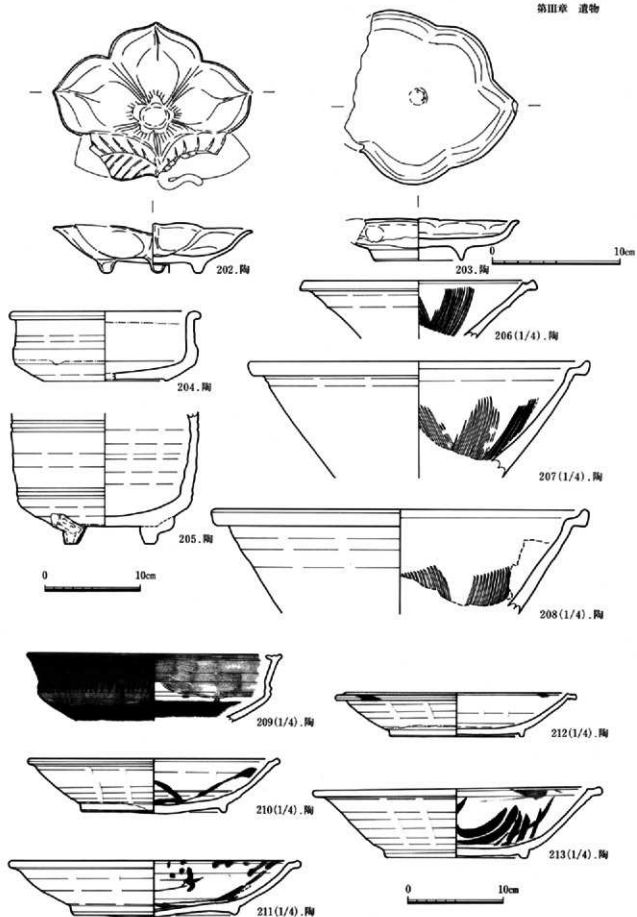
第43図 S K 338出土遺物実測図

図版No	遺構No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪差	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
43-184	SK 338	1	不明		7	10	2	-	2.10	10.10	-	-		E-184
43-185	SK 338	1	肥前		1	2	1	-	5.80	9.40	4.70	-	京焼風、貝須絵、17c末~18c初	E-185
43-186	SK 338	1	京都		1	2	1	-	5.40	(9.40)	3.50	-	鉄・貝須絵	E-186
43-187	SK 338	1	土器		2	1	5	5.7	2.00	10.10	5.10	-		E-187
43-188	SK 338	1	土器		7	1	5	-	-	-	11.00	-		E-188

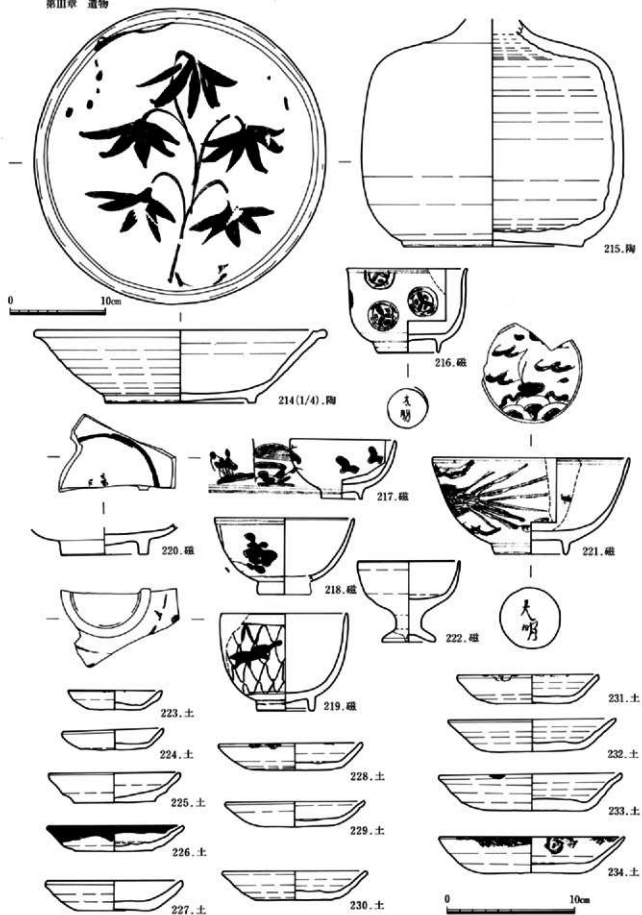
第13表 S K 338出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



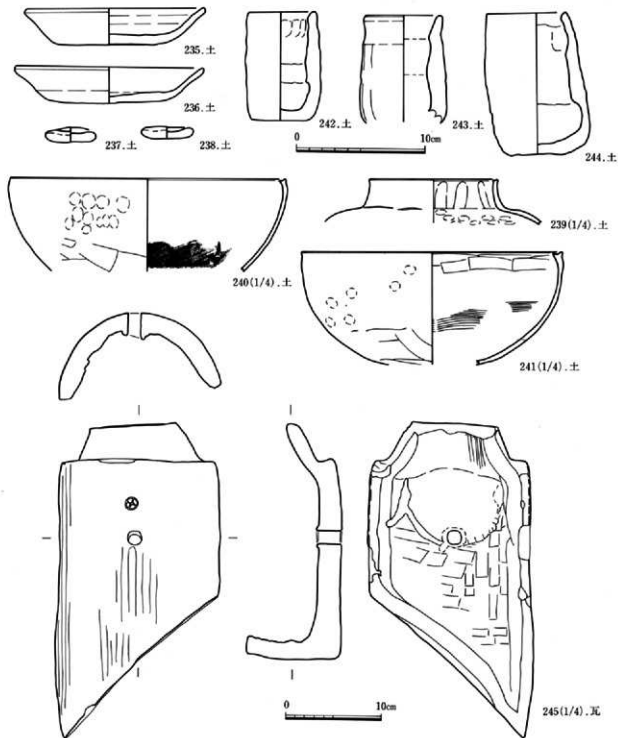
第44図 S K 701出土遺物実測図①



第45図 SK 701出土遺物実測図② (206~213は1/4、その他は1/3)



第46図 SK701出土遺物実測図③ (214は1/4、その他は1/3)



第47図 SK701出土遺物実測図④ (239~241・245は1/4、その他は1/3)

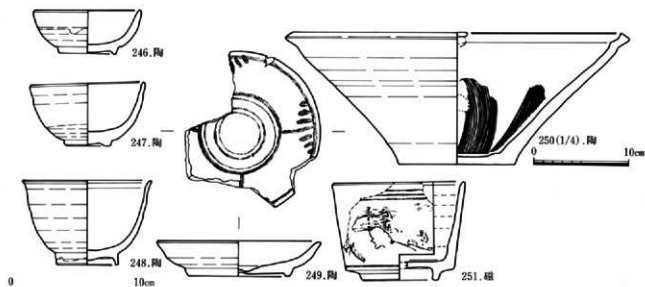
図版No	遺物No	原数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪率	使用態	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備	考	登録No
44-189	SK701	1	瀬戸<美濃	1	1	2	-	6.90~7.00	11.30	5.60	17c			E-189	
44-190	SK701	1	瀬戸	1	1	2	-	7.35	(11.00)	4.40	17c			E-190	
44-191	SK701	1	美濃	1	1	2	-	6.80	11.30	4.40	17c			E-191	
44-192	SK701	1	美濃	1	2	1	-	5.50	8.80	4.20	17c			E-192	
44-193	SK701	1	美濃	1	2	2	-	6.90	10.90	4.50	17c			E-193	
44-194	SK701	1	瀬戸	1	2	1	-	7.70	10.80	4.90	17c			E-194	
44-195	SK701	1	瀬戸	1	2	1	-	6.70	10.40	5.00	17c			E-195	
44-196	SK701	1	美濃	1	2	1	-	5.70	(11.30)	5.20	17cか			E-196	
44-197	SK701	1	美濃	1	2	1	-	-	(10.80)	-	17c			E-197	
44-198	SK701	1	瀬戸	1	3	1	-	5.70	(13.60)	8.20	17c			E-198	

第14表 SK701出土遺物観察表① 東分類数値はV章3節参照

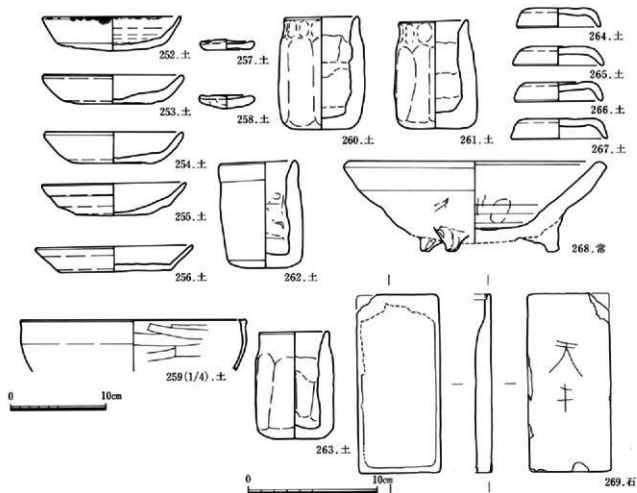
第4章 遺物

図版No	遺物No	屋敷	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪数	使用期	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
44-199	SK701	1	瀬戸・美濃	2	1	1	1	--	2.45	(12.00)	(6.50)	--	志野, 17c	E-199
44-200	SK701	1	美濃	2	1	1	--	--	3.20	(14.80)	8.00	--	17c	E-200
44-201	SK701	1	美濃	2	3	1	--	--	4.00	15.70	--	--	清安寺御座井, 17c第二回半期	E-201
45-202	SK701	1	美濃	2	3	1	--	--	4.00	--	--	--	17c	E-202
45-203	SK701	1	美濃	2	3	1	--	--	3.30	--	6.80	--	御座井志野, 17c	E-203
45-204	SK701	1	瀬戸・美濃	3	4	2	--	--	5.50	(14.00)	(9.60)	(15.00)	17c	E-204
45-205	SK701	1	瀬戸	3	4	2	2, 5	--	10.30	--	8.10	--	17c	E-205
45-206	SK701	1	瀬戸	3	3	3	2, 4	--	6.10	(24.00)	--	--	17c	E-206
46-207	SK701	1	瀬戸	3	3	4	2	--	--	(35.60)	--	--	17c	E-207
45-208	SK701	1	瀬戸	3	3	4	2	--	--	(38.60)	--	--	17c	E-208
45-209	SK701	1	不明	3	6	4	--	--	--	26.40	--	--	17c	E-209
45-210	SK701	1	美濃	3	1	1	--	--	5.60	25.90	14.90	--	鉄絵, 17c	E-210
45-211	SK701	1	美濃	3	1	1	--	--	5.75	(30.00)	16.80	--	鉄絵, 銅緑釉流し, 17c	E-211
45-212	SK701	1	美濃	3	1	1	--	--	4.60	23.30	13.90	--	17c	E-212
45-213	SK701	1	美濃	3	1	1	--	--	7.50	29.90	14.80	--	鉄絵, 銅緑釉流し, 17c	E-213
46-214	SK701	1	美濃?	3	2	1	--	--	7.70	30.10	15.90	--	志野編部, 鉄絵, 17c	E-214
46-215	SK701	1	美濃?	4	8	2	--	--	--	--	14.00	--	17c	E-215
46-216	SK701	1	肥前	1	2	3	--	--	6.70	9.30	4.80	--	1640~1650	E-216
46-217	SK701	1	肥前	1	2	3	--	--	4.70	8.20	3.20	--	1650~1670	E-217
46-218	SK701	1	肥前	1	2	3	--	--	--	(10.90)	--	--	1650~1670	E-218
46-219	SK701	1	肥前	1	2	3	--	--	7.70	(9.80)	4.40	--	1650~1660	E-219
46-220	SK701	1	中国(福建省)	3	1	7	--	--	2.10	--	6.80	--	呉須赤, 1590~1630	E-220
46-221	SK701	1	肥前	1	2	3	--	--	7.60	(15.30)	5.50	--	1655~1660	E-221
46-222	SK701	1	肥前	1	6	6	--	--	6.40	(8.00)	4.10	--	1630年代	E-222
46-223	SK701	1	土器	2	1	5	--	--	1.50	(7.30)	4.00	--		E-223
46-224	SK701	1	土器	2	1	5	--	--	1.65	7.85	5.20	--		E-224
46-225	SK701	1	土器	2	1	5	--	--	2.35	(10.20)	6.30	--		E-225
46-226	SK701	1	土器	2	1	5, 6, 7	--	--	2.05	10.60	6.10	--		E-226
46-227	SK701	1	土器	2	1	5	--	--	2.35	10.60	5.80	--		E-227
46-228	SK701	1	土器	2	1	5	7	--	2.15	(11.10)	6.00	--		E-228
46-229	SK701	1	土器	2	1	5	--	--	2.00	10.70	8.00	--		E-229
46-230	SK701	1	土器	2	1	5	7	--	2.25	(11.00)	5.90	--		E-230
46-231	SK701	1	土器	2	1	5	7	--	2.30	(11.60)	8.00	--		E-231
46-232	SK701	1	土器	2	1	5, 6	--	--	2.60	(13.10)	8.00	--		E-232
46-233	SK701	1	土器	2	1	5	--	--	3.00	(14.30)	8.00	--		E-233
46-234	SK701	1	土器	2	1	5	7	--	3.00	14.50	8.60	--		E-234
47-235	SK701	1	土器	2	1	5, 6, 7	--	--	2.90	(13.50)	8.00	--		E-235
47-236	SK701	1	土器	2	1	5	--	--	3.00	14.90	9.00	--		E-236
47-237	SK701	1	土器	2	2	5	--	--	1.15	3.95	--	--		E-237
47-238	SK701	1	土器	2	2	5	--	--	1.00	4.05	--	--		E-238
47-239	SK701	1	土器	5	2	5	6	--	--	(17.40)	--	--		E-239
47-240	SK701	1	土器	5	3	5, 6, 7	--	--	--	(28.90)	--	--		E-240
47-241	SK701	1	土器	5	3	5, 6, 7	--	--	--	(27.30)	--	--		E-241
47-242	SK701	1	土器	8	1	5	--	--	8.60	5.20	3.30	--		E-242
47-243	SK701	1	土器	8	1	5	--	--	8.00	(6.00)	--	--	輪積	E-243
47-244	SK701	1	土器	8	1	5	--	--	11.10	(6.10)	4.00	--		E-244
47-245	SK701	1	瓦						10.00	全長 33.40	幅17.20	--	瓦瓦	E-245

第15表 SK701出土遺物観察表② ※分類数値はV章3節参照



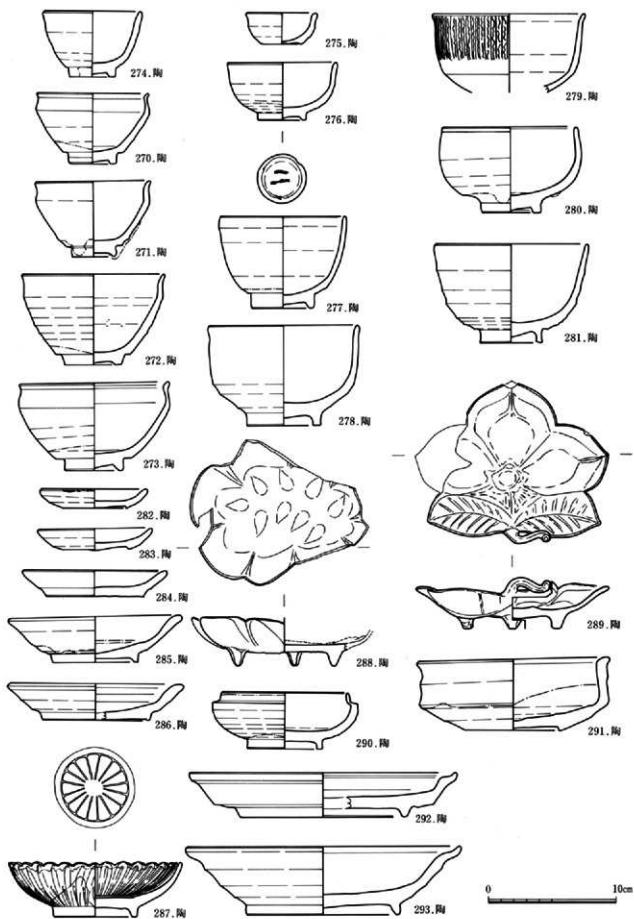
第48図 SK702出土遺物実測図① (250は1/4, その他は1/3)



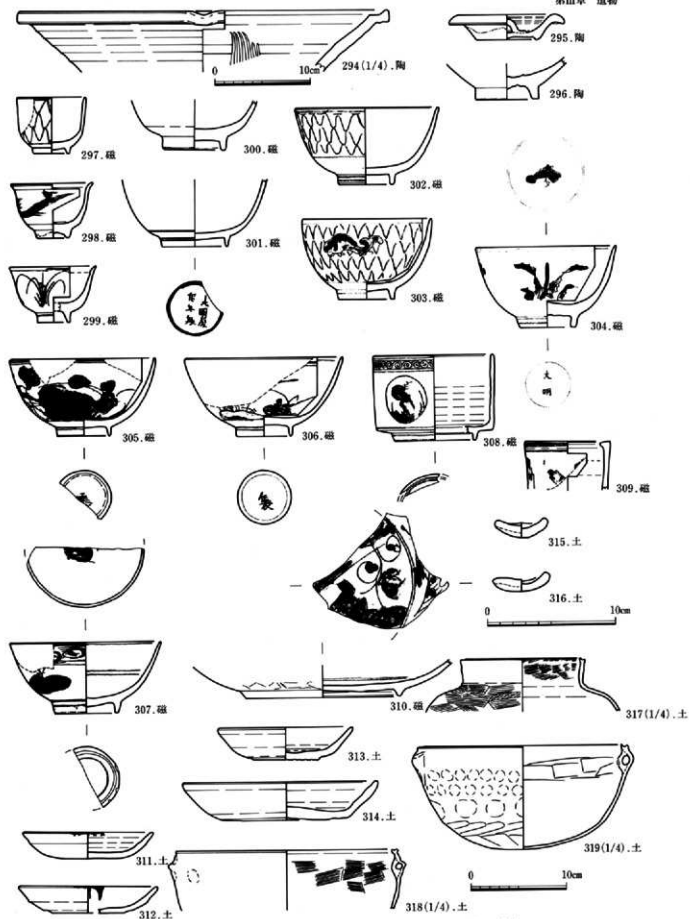
第49図 SK702出土遺物実測図② (259は1/4、その他は1/3)

図版No	遺物No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸差	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
48-246	SK702	1	美濃		1	7	1	9?	3.40	8.20	4.40		17c	E-246
48-247	SK702	1	瀬戸		1	2	1	-	4.90	8.80	3.40		志野, 17c	E-247
48-248	SK702	1	瀬戸		1	2	1	-	6.70	(9.90)	(4.60)		志野, 17c	E-248
48-249	SK702	1	美濃		2	1	1	-	2.80	12.60	8.00		志野, 鉄線, 17c	E-249
48-250	SK702	1	瀬戸		3	3	3	2	13.90	(32.40)	22.20			E-250
48-251	SK702	1	肥前		1	3	3	-	7.70	(10.10)	(5.80)			E-251
49-252	SK702	1	土器		2	1	5	7	2.70	(10.60)	7.40			E-252
49-253	SK702	1	土器		2	1	5	5, 6, 7	2.30	(10.80)	5.60			E-253
49-254	SK702	1	土器		2	1	5	-	2.40	(10.60)	5.80			E-254
49-255	SK702	1	土器		2	1	5	6	2.55	(11.20)	5.40			E-255
49-256	SK702	1	土器		2	1	5	-	2.00	(12.20)	8.40			E-256
49-257	SK702	1	土器		2	2	5	-	0.80	4.10	3.30			E-257
49-258	SK702	1	土器		2	2	5	-	1.05	3.90	0.90			E-258
49-259	SK702	1	土器		5	3	5	6	-	(23.60)	-			E-259
49-260	SK702	1	土器		8	1	5	-	8.90	5.60	4.00			E-260
49-261	SK702	1	土器		8	1	5	-	8.50	5.20	3.80			E-261
49-262	SK702	1	土器		8	1	5	-	8.50	5.70	3.00			E-262
49-263	SK702	1	土器		8	1	5	-	8.45	5.20	3.40			E-263
49-264	SK702	1	土器		8	2	5	-	1.50	(6.40)	-			E-264
49-265	SK702	1	土器		8	2	5	-	1.40	7.00	-			E-265
49-266	SK702	1	土器		8	2	5	-	1.30	(6.80)	-			E-266
49-267	SK702	1	土器		8	2	5	-	1.60	(7.40)	-			E-267
49-268	SK702	1	雪滑		7		9	-	7.10	(19.60)	(10.20)			E-268
49-269	SK702	1	石						1.35	全長14.10	幅6.50		硯	S-269

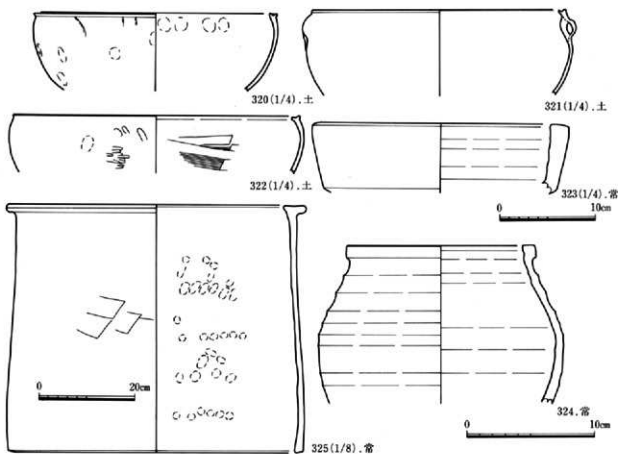
第16表 SK702出土遺物類聚表 ※分類数値はV章3節参照



第50图 SK703出土物实例图①



第51図 S K703出土遺物実測図② (294・317-319は1/4、その他は1/3)



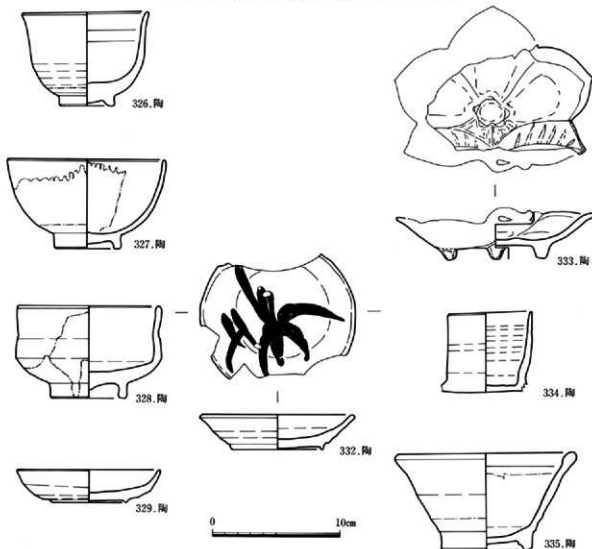
第52図 SK703出土遺物実測図③ (320~323は1/4、325は1/8 324は1/3)

図版No	遺構No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸差	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
50-270	SK703	1	瀬戸	1	1	2	-	-	5.60	8.60	3.50	8.90	17c	E-270
50-271	SK703	1	美濃	1	1	2	-	-	5.95	9.10	3.40	-	17c	E-271
50-272	SK703	1	美濃	1	1	2	-	-	7.20	(11.20)	4.50	-	17c	E-272
50-273	SK703	1	瀬戸	1	1	2	-	-	7.00	11.50	4.40	-	18c	E-273
50-274	SK703	1	瀬戸	1	2	1	-	-	5.20	7.80	3.60	-	17c	E-274
50-275	SK703	1	瀬戸	1	7	1	-	-	2.55	(5.40)	3.00	-	17c	E-275
50-276	SK703	1	瀬戸	1	7	1	9	-	4.60	8.41	3.80	-	志野, 18cか	E-276
50-277	SK703	1	美濃	1	2	2	-	-	7.20	(9.80)	4.50	-	17c	E-277
50-278	SK703	1	美濃	1	2	2	-	-	7.90	11.60	5.80	-	鳴海産土, 18c	E-278
50-279	SK703	1	美濃	1	2	1	-	-	-	(11.80)	-	-	鳴海産土, 18c	E-279
50-280	SK703	1	美濃	1	2	1	-	-	6.80	(10.40)	4.60	11.20	17c	E-280
50-281	SK703	1	美濃	1	2	2	-	-	7.80	(12.60)	4.90	-	18c	E-281
50-282	SK703	1	瀬戸・美濃	2	1	1	7	-	1.50	8.30	5.00	-	志野, 18c	E-282
50-283	SK703	1	美濃	2	2	1	-	-	1.65	9.00	5.00	-	18c	E-283
50-284	SK703	1	美濃	2	1	1	-	-	2.05	(11.20)	7.60	-	17c	E-284
50-285	SK703	1	美濃	2	1	1	-	-	3.70	13.20	6.60	-	17c	E-285
50-286	SK703	1	瀬戸	2	1	1	6	-	2.90	(13.20)	(8.30)	-	17c	E-286
50-287	SK703	1	瀬戸	2	1	1	-	-	4.30	(13.60)	6.40	-	銅線輪流し, 17c~18c中	E-287
50-288	SK703	1	美濃	2	3	1	-	-	3.90	-	-	-	17c	E-288
50-289	SK703	1	美濃	2	3	1	-	-	-	(15.10)	-	-	17c	E-289
50-290	SK703	1	美濃	3	1	2	-	-	4.45	4.80	5.80	-	18c	E-290
50-291	SK703	1	美濃	3	4	2	-	-	5.85	14.70	7.60	-	17c	E-291
50-292	SK703	1	瀬戸	3	8	1	-	-	3.50	(20.70)	(13.00)	-	17c	E-292
50-293	SK703	1	瀬戸	3	1	1	-	-	5.40	(21.60)	12.00	-	17c	E-293
51-294	SK703	1	瀬戸	3	3	3	2	-	7.00	(38.40)	-	-	片口, 17c	E-294
51-295	SK703	1	瀬戸	7	10	2	-	-	2.00	(9.10)	4.70	-	18c	E-295
51-296	SK703	1	肥前	1	2	1	-	-	2.80	-	5.00	-	-	E-296
51-297	SK703	1	肥前	1	7	3	-	-	4.40	(5.20)	2.80	-	1640~1660	E-297
51-298	SK703	1	肥前	1	7	3	-	-	4.30	(6.20)	(2.40)	-	1640年頃	E-298
51-299	SK703	1	肥前	1	7	3	-	-	4.40	6.70	2.50	-	1640頃	E-299

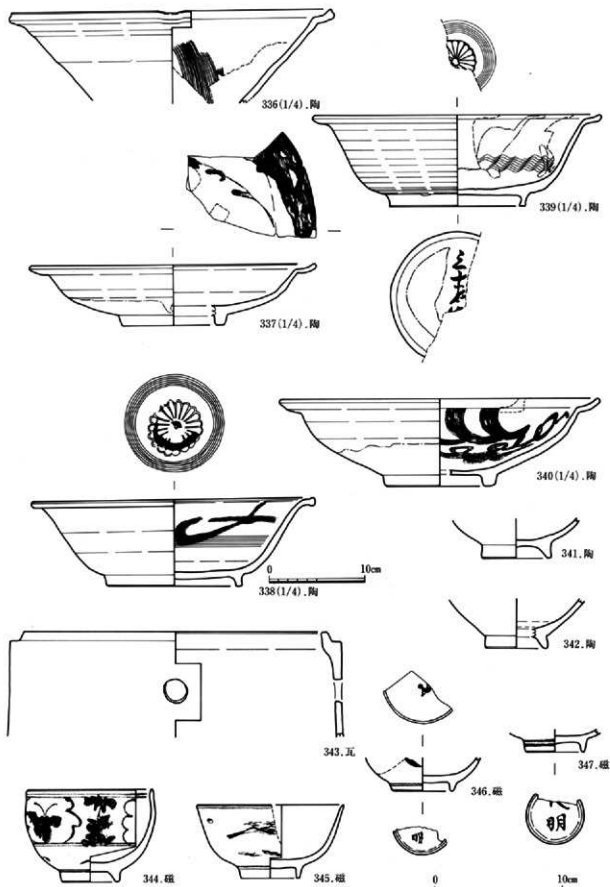
第17表 SK703出土遺物観察表① 専ら分類数はV章3節参照

国産No	遺構No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	数量	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
51-300	SK703	1	肥前		1	2	7	-	-	-	-	4.70	1640年代	E-300
51-301	SK703	1	肥前		1	2	3	-	5.30	-	5.00	-	1650~1670	E-301
51-302	SK703	1	肥前		1	2	3	-	6.10	(11.00)	(4.20)	-	1650~1670	E-302
51-303	SK703	1	肥前		1	2	3	-	6.50	10.20	4.40	-	1350~1660	E-303
51-304	SK703	1	肥前		1	2	3	-	6.40	11.10	4.40	-	1640~1650	E-304
51-305	SK703	1	肥前		1	2	3	-	6.10	(11.20)	4.20	-	1650~1670	E-305
51-306	SK703	1	肥前		1	2	3	-	6.30	(12.40)	4.20	-	1660~1670	E-306
51-307	SK703	1	中州(曾根)		1	2	3	-	5.60	(11.70)	(4.50)	-	1550~1630	E-307
51-308	SK703	1	肥前		1	2	3	-	6.70	(9.20)	(6.30)	-	1630~1640	E-308
51-309	SK703	1	肥前		3	4	3	-	-	(6.60)	-	-	香炉、鉄胎施文、1630~1640	E-309
51-310	SK703	1	中州(梅屋敷)		3	8	3	-	-	-	(12.10)	-	1580~1630	E-310
51-311	SK703	1	土器		2	1	5	7	2.10	(10.00)	4.20	-		E-311
51-312	SK703	1	土器		2	1	5	7	2.10	(10.60)	5.60	-		E-312
51-313	SK703	1	土器		2	1	5	-	2.60	10.30	5.20	-		E-313
51-314	SK703	1	土器		2	1	5	6	3.00	(15.10)	10.10	-		E-314
51-315	SK703	1	土器		2	2	5	-	1.40~1.50	3.60	-	-		E-315
51-316	SK703	1	土器		2	2	5	-	1.10~1.60	3.90	-	-		E-316
51-317	SK703	1	土器		5	2	5	6	-	13.00	-	-		E-317
51-318	SK703	1	土器		5	3	5	5,6	-	(23.10)	-	-		E-318
51-319	SK703	1	土器		5	3	5	5,6,7	11.00	(23.00)	-	-		E-319
52-320	SK703	1	土器		5	3	5	6	-	(23.90)	-	-		E-320
52-321	SK703	1	土器		5	3	5	6	-	(26.40)	-	(28.70)		E-321
52-322	SK703	1	土器		5	3	5	5,6	6.10	(31.00)	-	-		E-322
52-323	SK703	1	常滑		7		9	-	-	(23.30)	-	-		E-323
52-324	SK703	1	常滑		7		9	-	12.50	(14.60)	-	-		E-324
52-325	SK703	1	常滑		6		10	-	52.15	31.80	58.80	-	底無し	E-325

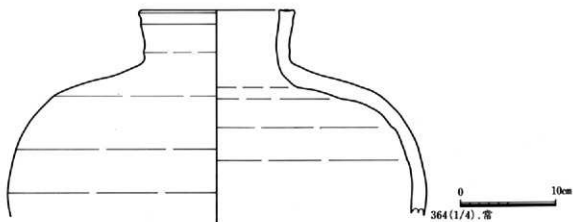
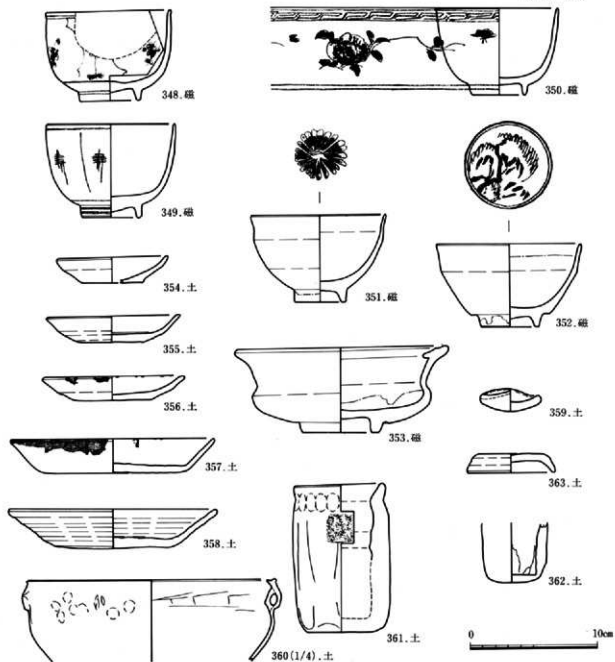
第18表 SK703出土土物観察表② ※分類数値はV章3節参照



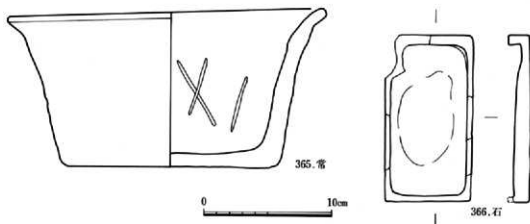
第53図 SK704出土土物実測図①



第54図 S K 704出土遺物実測図② (336~340は1/4、その他は1/3)



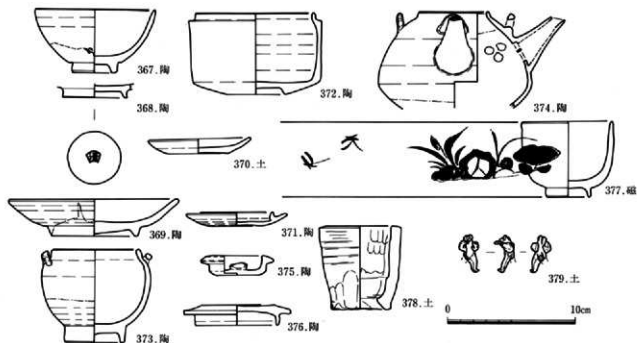
第55図 S K 704出土遺物実測図③ (360・364は1/4、その他は1/3)



第56図 S K704出土遺物実測図④

図版No	遺構No	屋敷	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸差	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
53-326	SK704	1	瀬戸		1	2	1	-	7.40	9.70	4.10		17c	E-326
53-327	SK704	1	瀬戸		1	2	1,2	-	7.00	12.20	5.00		灰・鉄粒混じり、17c	E-327
53-328	SK704	1	美濃		1	3	1,2	-	7.80	11.00	5.80		17c	E-328
53-329	SK704	1	美濃		2	1	1	-	2.60	11.10	5.80		志野、17c	E-329
53-332	SK704	1	瀬戸		2	1	1	-	2.70	11.70	7.10		鉄絵、17c	E-332
53-333	SK704	1	美濃		2	3	1	-	-	(14.90)	-		17c	E-333
53-334	SK704	1	美濃		7	4	1	-	6.40	-	-		17c	E-334
53-335	SK704	1	美濃		3	3	10	2	7.70	(13.40)	6.40		燻硝子鉢、17c	E-335
54-336	SK704	1	瀬戸		3	3	3	2	-	(33.30)	-		17c	E-336
54-337	SK704	1	肥前		3	1	1	-	6.40	(29.60)	10.70		鉄絵、銅粒輪文	E-337
54-338	SK704	1	瀬戸		3	1	1	-	9.10	29.20	13.90		陰州、印花、銅粒輪文、17c	E-338
54-339	SK704	1	美濃		3	2	1	9	9.60	(30.00)	14.20		陰州、印花、銅粒輪文、17c	E-339
54-340	SK704	1	肥前		3	1	1	-	9.30	(33.10)	10.80		鉄絵、銅粒輪文	E-340
54-341	SK704	1	肥前		1	2	1	-	-	-	-	5.20		E-341
54-342	SK704	1	肥前		1	2	1	-	-	-	-	4.80		E-342
54-343	SK704	1	瓦葺		7	4	5	6	-	(23.80)	-			E-343
54-344	SK704	1	肥前(有田)		1	2	3	-	7.30	(9.80)	4.40		1630~1640	E-344
54-345	SK704	1	肥前		1	2	3	-	5.80	(11.40)	4.60		1650~1670	E-345
54-346	SK704	1	肥前		1	2	3	-	-	-	-	4.80	1650~1660	E-346
54-347	SK704	1	肥前		1	2	3	-	-	-	-	4.60	1650~1660	E-347
55-348	SK704	1	肥前		1	2	3	-	7.10	(9.80)	4.70		1650~1660	E-348
55-349	SK704	1	肥前		1	2	3	-	7.40	(10.90)	4.50		1650~1660	E-349
55-350	SK704	1	肥前		1	2	3	-	6.90	9.50	4.40		1640~1660	E-350
55-351	SK704	1	肥前		1	1	6,3	-	6.90	(10.50)	4.00		1630~1640	E-351
55-352	SK704	1	肥前(有田)		1	1	6,3	-	6.50~6.60	11.40	4.60		谷梨、1630~1640	E-352
55-353	SK704	1	肥前		3	4	6	-	6.60~6.85	16.80	6.00		香炉、1630~1640	E-353
55-354	SK704	1	土器		2	1	5	6	2.00	8.60	4.80			E-354
55-355	SK704	1	土器		2	1	5	-	2.20	10.00	4.80			E-355
55-356	SK704	1	土器		2	1	5	6,7	1.90	10.80	5.60			E-356
55-357	SK704	1	土器		2	1	5	6,7	2.70	(15.90)	10.00			E-357
55-358	SK704	1	土器		2	1	5	-	3.30	16.00	9.00			E-358
55-359	SK704	1	土器		2	2	5	-	1.80	4.40	-			E-359
55-360	SK704	1	土器		5	3	5	6	-	(25.80)	-			E-360
55-361	SK704	1	土器		8	1	5	7,6	11.50~11.70	6.90	5.10		刷印「ミと藤左工門」、内面焦げ	E-361
55-362	SK704	1	土器		8	1	5	-	-	-	1.50			E-362
55-363	SK704	1	土器		8	2	5	-	1.50	(6.70)	-			E-363
55-364	SK704	1	常滑		7		9	-	21.80	16.20	-			E-364
56-365	SK704	1	常滑		7		10	6	22.20	24.80	15.60			E-365
56-366	SK704	1	石						1.70	全長 13.20	幅 9.90		硯	S-366

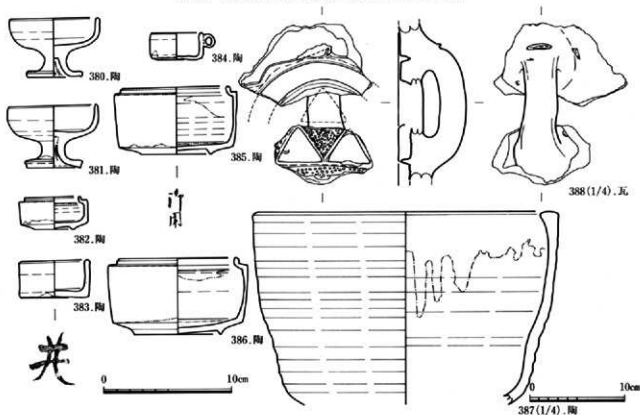
第19表 S K704出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



第57図 SD101出土遺物実測図

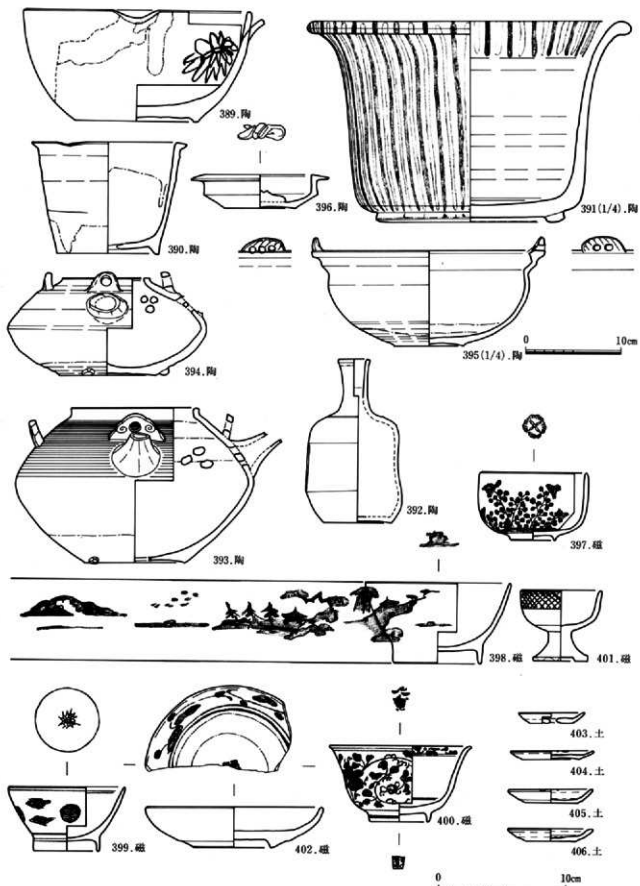
図版No	遺構No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪数	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
57-367	SD101	3	瀬戸		1	2	1	-	5.00	(9.20)	3.20			E-367
57-368	SD101	3	瀬戸		1		2	-	-	-	5.10		18c	E-368
57-369	SD101	3	美濃		1	2	1	?	3.00	(13.10)	6.70		18c	E-369
57-370	SD101	3	土器		2	1	5	-	1.20	7.80	4.60			E-370
57-371	SD101	3	美濃		2	1	2	-	1.10	(7.60)	4.00			E-371
57-372	SD101	3	不明		3	4	1	-	6.40	9.20	4.50			E-372
57-373	SD101	3	瀬戸		4	2	1	-	7.30	6.60	4.60			E-373
57-374	SD101	3	瀬戸		4	6	2	-	-	5.40	-		18c後-19c中	E-374
57-375	SD101	3	瀬戸		7	10	2	-	1.50	5.80	3.40			E-375
57-376	SD101	3	瀬戸		7	10	1	-	1.60	6.30	-	8.40		E-376
57-377	SD101	3	関西系?		1	7	3	-	6.10	7.00	3.40			E-377
57-378	SD101	3	土器		8	1	5	-	6.60	5.00	4.60			E-378
57-379	SD101	3		人形									第39表参照	E-379

第20表 SD101出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



第58図 SK316出土遺物実測図①(387・388は1/4、その他は1/3)

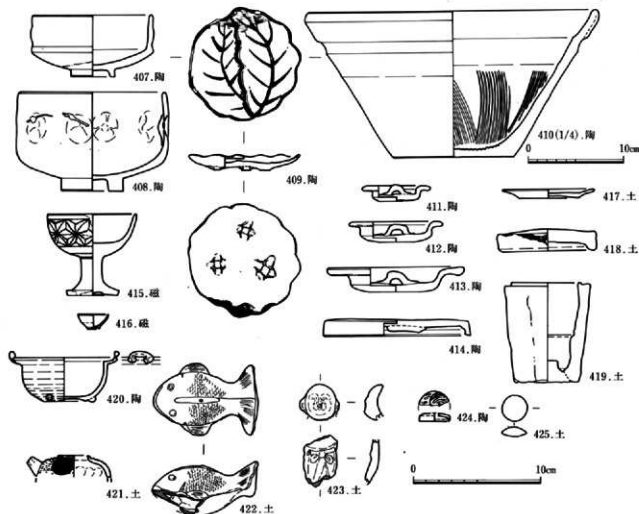
第59章 遺物



第59図 SK316出土遺物実測図② (391・395は1/4、その他は1/3)

図説No	遺物No	屋敷	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸差	使用数	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	発掘No
58-380	SK316	2	美濃		1	6	1	-	4.60	6.80	4.20		18c後-19c中	E-380
58-381	SK316	2	瀬戸		1	6	1	-	5.00	6.80	4.10		18c後	E-381
58-382	SK316	2	美濃		3	9	1	-	2.60	4.20	3.00	5.30	18c後-19c中	E-382
58-383	SK316	2	美濃		3	9	1	9	2.95	5.10	5.10		18c後-19c中	E-383
58-384	SK316	2	美濃		3	9	1	-	2.10	3.90	3.10	4.20	18c後-19c中	E-384
58-385	SK316	2	美濃		3	4	1	9	5.30	8.20	5.50	9.60	18c後-19c中	E-385
58-386	SK316	2	瀬戸?		3	4	1	-	6.00	9.10	6.80	10.90	18c後-19c中	E-386
58-387	SK316	2	美濃		3	1	1	-	-	30.60	-	-	鉄輪焼し	E-387
58-388	SK316	2	瓦						-	-	-	-	(三島) 紋瓦	E-388
59-389	SK316	2	瀬戸?		3	1	1	-	8.70	17.50	9.50	18.90	鉄土、銅輪焼し(編部)、18c後-19c中	E-389
59-390	SK316	2	瀬戸(赤津)		3	7	2	3	8.80	12.15	7.90		18c後-19c中	E-390
59-391	SK316	2	瀬戸		3	1	1	-	21.30	32.10	19.70		鉄・外須絵	E-391
59-392	SK316	2	美濃		4	8	2	2	12.90	-	5.30	8.00		E-392
59-393	SK316	2	美濃?		4	6	1	6	12.25	9.90	7.80	18.70	18c後-19c中	E-393
59-394	SK316	2	瀬戸?		4	6	2	5,6	8.10	6.80	7.40		18c後	E-394
59-395	SK316	2	美濃		7	9	2	5,6	11.50	24.40	7.20		18c後-19c中	E-395
59-396	SK316	2	不明		7	10	1	-	2.60	10.80	5.70			E-396
59-397	SK316	2	肥前系		1	2	3	-	5.35	8.20	3.40		内外面絵付、1780-19c前	E-397
59-398	SK316	2	肥前系		1	2	3	1	6.40	11.40	6.80		内外面絵付、1780-19c前	E-398
59-399	SK316	2	肥前系		1	5	3	1	5.10	9.00	5.00		内外面絵付、1780-19c前	E-399
59-400	SK316	2	瀬戸		1	2	3	-	6.00	11.20	4.50		内外面絵付、1820-幕末	E-400
59-401	SK316	2	肥前		1	6	3	-	5.60	6.20	4.20		1780-19c前	E-401
59-402	SK316	2	肥前(或佐見)		2	1	3	-	3.70	(13.80)	5.80		18c後	E-402
59-403	SK316	2	土器		2	1	5	3	0.85	5.10	3.20			E-403
59-404	SK316	2	土器		2	1	5	6	0.70	6.40	4.40			E-404
59-405	SK316	2	土器		2	1	5	6	1.10	6.50	4.10			E-405
59-406	SK316	2	土器		2	1	5	-	1.00	6.40	3.90			E-406

第21表 SK316出土遺物観察表 ■分類数値はV章3節参照

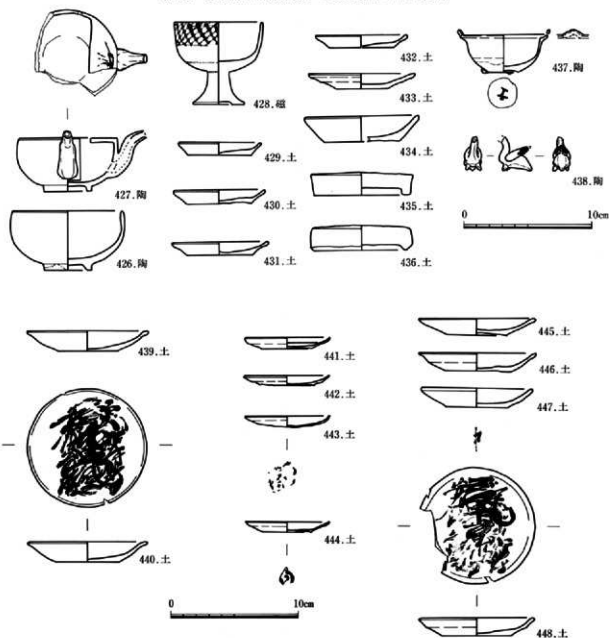


第60図 SK320出土遺物実測図 (410は1/4、その他は1/3)

第10章 遺物

図版No	遺物No	屋敷	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸差	使用痕	器高(cm)	口徑(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
60-407	SK320	2	瀬戸		1	3	1	-	4.80	(9,20)	3.40		18c後	E-407
60-408	SK320	2	瀬戸		1	3	2	-	7.80	(11,30)	4.80		18c	E-408
60-409	SK320	2	瀬戸		2	3	1	-	1.20		8.80	4.40	鉄線、銅線輪流し(織部)、18c後-19c中	E-409
60-410	SK320	2	瀬戸		3	3	6	2	15.50	(30,00)	12.60		18c後-19c中	E-410
60-411	SK320	2	美濃		7	10	1	-	1.30	5.40	2.90		18c後-19c中	E-411
60-412	SK320	2	瀬戸		7	10	1	-	1.60	7.40	3.60		18c後-19c中	E-412
60-413	SK320	2	美濃		7	10	1	-	1.95	10.80	4.60		18c後-19c中	E-413
60-414	SK320	2	美濃		7	10	1	-	1.40	11.60	-		18c後-19c中	E-414
60-415	SK320	2	肥前		1	6	3	-	6.40	(6,80)	3.90		18c後	E-415
60-416	SK320	2	肥前		1	7	7	-	1.10	2.40	0.90		萩皿	E-416
60-417	SK320	2	土器		2	1	5	-	0.70	7.20	4.80			E-417
60-418	SK320	2	土器		8	2	5	7	1.70	7.20	-			E-418
60-419	SK320	2	土器		8	1	5	-	7.90	5.80	4.50	6.70		E-419
60-420	SK320	2	美濃?		7	9	2	-	4.00	7.80	3.20		ミニチュア、18c後-19c中	E-420
60-421	SK320	2	人形										第39表参照	E-421
60-422	SK320	2	人形										第39表参照	E-422
60-423	SK320	2	人形										第39表参照	E-423
60-424	SK320	2	人形										第39表参照	E-424
60-425	SK320	2	人形										第39表参照	E-425

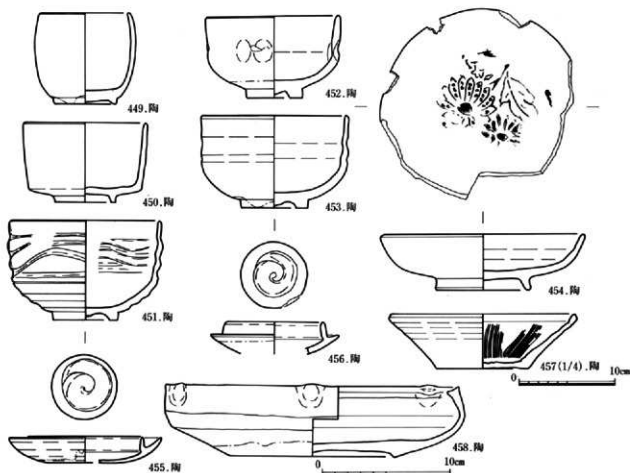
第22表 SK320出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



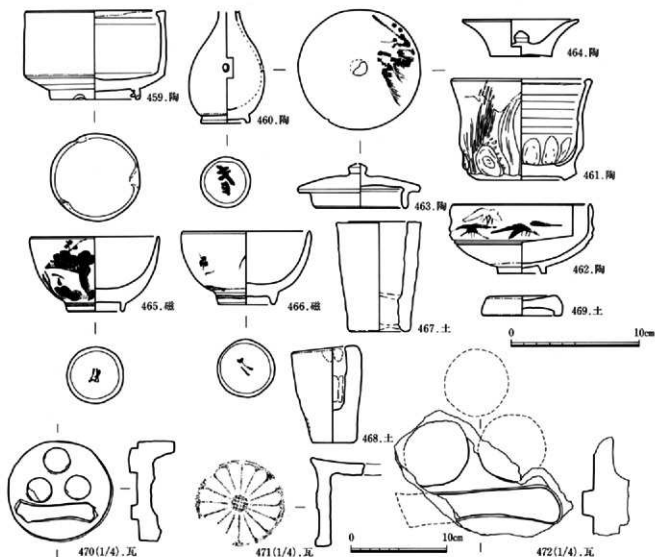
第61図 SK62・SK114・SK116・SK172出土遺物実測図

図原No	遺物No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪数	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
61-426	SK62	2	美濃?		1	2	1	9	4.70	(8.60)	3.80		18c後~19c中	E-426
61-427	SK62	2	瀬戸		4	7	1	-	4.80	(7.80)	3.80		鉄紋, 18c後~19c中	E-427
61-428	SK62	2	肥前		1	6	3	-	6.50	7.00	4.00			E-428
61-429	SK62	2	土器		2	1	5	5	1.00	(6.60)	5.00			E-429
61-430	SK62	2	土器		2	1	5	-	1.10	(7.00)	5.20			E-430
61-431	SK62	2	土器		2	1	5	-	1.00	(7.60)	5.60			E-431
61-432	SK62	2	土器		2	1	5	-	1.00	(7.20)	5.00			E-432
61-433	SK62	2	土器		2	1	5	-	1.20	(8.40)	4.00			E-433
61-434	SK62	2	土器		2	1	5	-	2.00	(9.00)	5.60			E-434
61-435	SK62	2	土器		8	2	5	-	1.80	7.40	-			E-435
61-436	SK62	2	土器		8	2	5	-	2.00	8.00	-			E-436
61-437	SK62	2		人形									第39表参照	E-437
61-438	SK62	2		人形									第39表参照	E-438
61-439	SK62	2	土器		2	1	5	-	1.60	9.60	4.70			E-439
61-440	SH62	2	土器		2	1	5	9	1.60	9.40	4.90			E-440
61-441	SH62	2	土器		2	1	5	-	0.90	6.50	3.90			E-441
61-442	SH62	2	土器		2	1	5	9	0.80	6.60	1.90			E-442
61-443	SH62	2	土器		2	1	5	9	0.90	6.60	1.00			E-443
61-444	SK62	2	土器		2	1	5	9	0.80	6.50	3.80			E-444
61-445	SH62	2	土器		2	1	5	-	1.20~1.50	9.20	4.70			E-445
61-446	SH62	2	土器		2	1	5	-	1.40~1.50	9.20	5.10			E-446
61-447	SH62	2	土器		2	1	5	9	1.50	8.80	5.00			E-447
61-448	SH62	2	土器		2	1	5	9	1.40	9.20	5.40			E-448

第23表 SK62・114・116・172出土遺物観察表 断面数値はV章3節参照



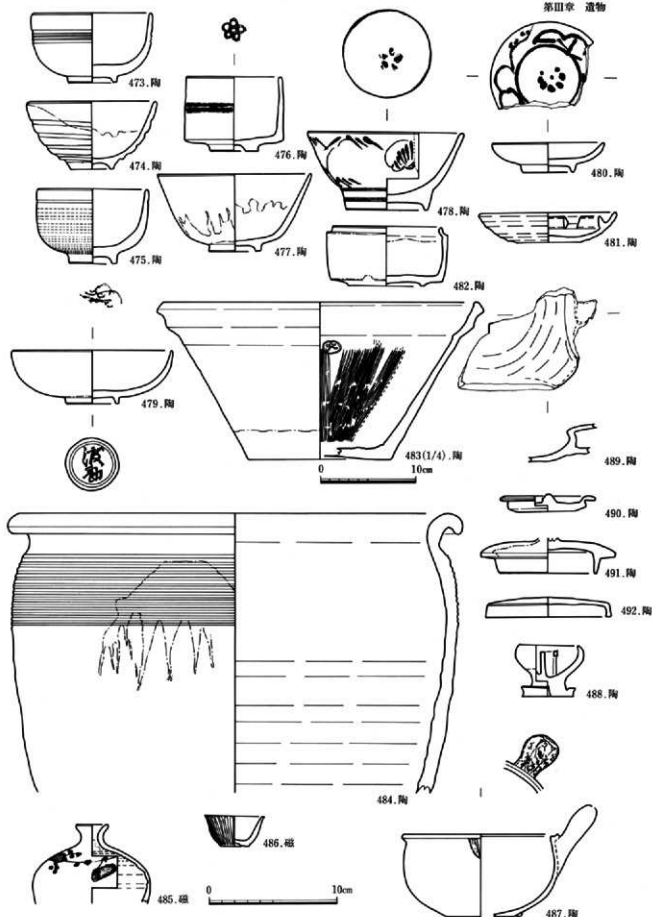
第62図 SK201出土遺物実測図①(457は1/4, 其他は1/3)



第63図 SK201出土遺物実測図② (470~472は1/4、その他は1/3)

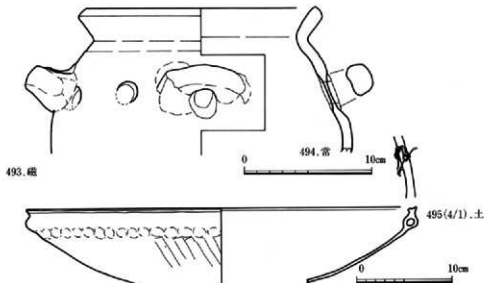
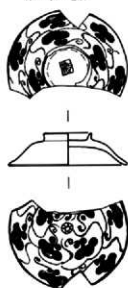
図取No.	遺物No.	層数	産地・材質	器形1	器形2	輪数	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No.
62-449	SK201	1	瀬戸	1	2	1	-	7.20	(7.00)	4.80	-	18c後~19c中	E-449
62-450	SK201	1	瀬戸	1	3	1	-	6.30	(9.60)	4.80	-	18c	E-450
62-451	SK201	1	美濃?	1	2	2	-	7.90	11.60	5.10	-	18c少	E-451
62-452	SK201	1	瀬戸	1	3	2	-	6.40~6.50	10.30	4.40	-	長石釉施文, 18c後~19c中	E-452
62-453	SK201	1	美濃	1	2	1	-	7.30	(11.40)	5.20	-	鉄物成し, 18c	E-453
62-454	SK201	1	瀬戸	3	8	1	-	4.40	(15.60)	7.40	-	鉄物成し, 18c後	E-454
62-455	SK201	1	美濃	2	4	2	-	2.05	(9.00)	6.00	11.90	18c後~19c中	E-455
62-456	SK201	1	美濃	2	4	1	-	-	(7.60)	-	10.10	18c	E-456
62-457	SK201	1	瀬戸(赤田津)	3	3	7	2	4	-	(19.20)	9.60	18c後~19c中	E-457
62-458	SK201	1	瀬戸	7	6	1	-	5.70	23.00	12.80	-	18c後~19c中	E-458
63-459	SK201	1	瓦	3	4	1	6	7.00	10.80	6.80	-	内面無輪, 18c	E-459
63-460	SK201	1	瀬戸	4	9	1	9	-	-	3.70	-	18c後~19c中	E-460
63-461	SK201	1	瀬戸	7	2	1	2	8.00	(10.70)	6.80	-	口縁鉄物成し, 内面無輪, 19c	E-461
63-462	SK201	1	京都	1	3	1	-	5.50	10.80	3.80	-	鉄・灰物成し	E-462
63-463	SK201	1	瀬戸	7	10	1	-	3.50	9.60	-	9.60	鉄・灰物成し, 19c	E-463
63-464	SK201	1	美濃	7	10	2	-	2.90	9.15	4.80	-	18c	E-464
63-465	SK201	1	肥前(唐津見取)	1	2	3	-	5.90	(10.00)	4.30	-	18c中~末	E-465
63-466	SK201	1	肥前(唐津見取)	1	2	3	-	5.80	(10.00)	4.40	-	18c中~末	E-466
63-467	SK201	1	土器	8	1	5	-	8.70	(5.10)	4.30	6.60	-	E-467
63-468	SK201	1	土器	8	1	5	-	7.70	4.70	3.10	-	-	E-468
63-469	SK201	1	土器	8	2	5	-	1.55	6.40	-	-	-	E-469
63-470	SK201	1	瓦					径 10.30	-	-	-	「三星一文字」紋瓦	E-470
63-471	SK201	1	瓦					径 9.20	-	-	-	種入瓦	E-471
63-472	SK201	1	瓦					-	-	-	-	「三星一文字」	E-472

第24表 SK201出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



第64図 SK206出土遺物実測図① (483は1/4、その他は1/3)

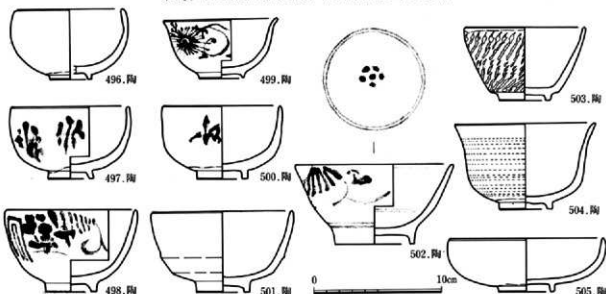
第田草 遺物



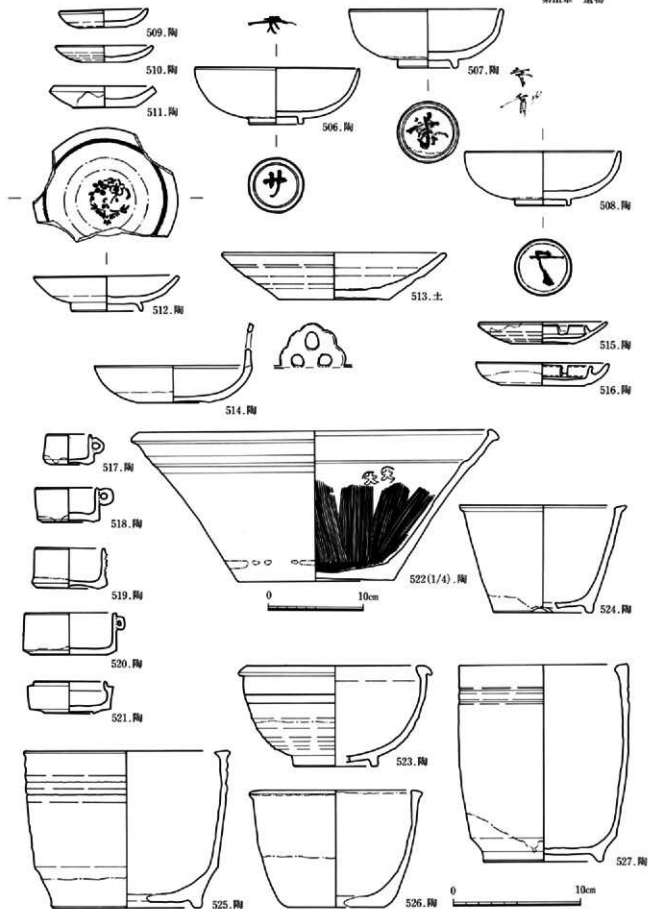
第65図 SK206出土遺物実測図② (495は1/4、その他は1/3)

図版No	遺物No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	要素	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
64-473	SK206	1	瀬戸	1	2	1,2	-	-	5.50	9.40	3.80	-	18c後	E-473
64-474	SK206	1	瀬戸	1	2	1	-	-	5.35	(10.00)	3.40	-	鉄胎、銅線軸施し、18c後~19c中	E-474
64-475	SK206	1	瀬戸	1	2	2,4	-	-	6.00	8.60	3.80	-	19c	E-475
64-476	SK206	1	瀬戸	1	3	1	-	-	5.90	(7.40)	3.80	-	鉄胎、19c	E-476
64-477	SK206	1	美濃	1	2	1	-	-	6.10	12.00	4.00	-	鉄胎(2色)施し、18c後~19c中	E-477
64-478	SK206	1	瀬戸	1	5	1	-	-	6.10~6.20	12.20	6.40	-	鉄胎、19c	E-478
64-479	SK206	1	瀬戸	2	1	1	9	-	4.20	12.60	4.20	-	鉄胎、18c後	E-479
64-480	SK206	1	瀬戸	2	1	1	-	-	2.30	8.80	4.00	-	鉄胎、18c後	E-480
64-481	SK206	1	美濃	2	4	2	-	-	2.35	(10.80)	5.00	-	18c後~19c中	E-481
64-482	SK206	1	美濃	3	4	1	-	-	4.60~4.70	8.50	6.00	-	18cか	E-482
64-483	SK206	1	瀬戸	3	3	7	2	-	16.60	(32.90)	(15.00)	-	19c	E-483
64-484	SK206	1	瀬戸	4	2	2	-	-	-	33.50	-	-	鉄胎(2色)施し、18c後	E-484
64-485	SK206	1	肥前	4	10	3	-	-	-	2.40	-	-	18c	E-485
64-486	SK206	1	肥前	1	7	7	-	-	2.40	4.70	2.20	-	紅皿、17c後~18c前	E-486
64-487	SK206	1	不明	7	8	4	-	-	8.70	16.20	7.00	-	柄に龍脚(オワム)	E-487
64-488	SK206	1	瀬戸	7	4	2	-	-	4.00~4.10	4.40	4.00	-	19c	E-488
64-489	SK206	1	瀬戸	7	11	2	-	-	-	-	-	-	土胎、18c後~19c中	E-489
64-490	SK206	1	美濃	7	10	2	-	-	1.40	7.60	-	-	18c後~19c中	E-490
64-491	SK206	1	瀬戸	7	10	1,4	-	-	2.80	10.60	-	-	18c後~19c中	E-491
64-492	SK206	1	美濃	7	10	1	-	-	1.55	9.50	-	-	18cか	E-492
65-493	SK206	1	瀬戸	7	10	3	-	-	2.60	9.40	-	-	18c?~1860	E-493
65-494	SK206	1	常滑	7	10	6	-	-	-	(18.00)	-	-	-	E-494
65-495	SK206	1	土師	5	3	5	6	-	-	(40.80)	-	-	銅線残存	E-495

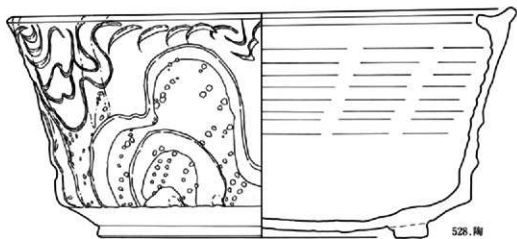
第25表 SK206出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



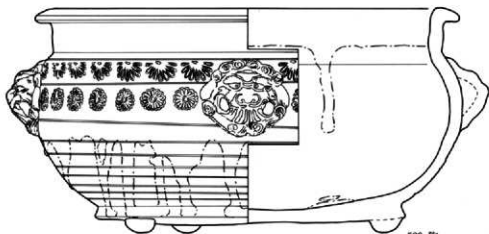
第66図 SK309出土遺物実測図①



第67図 SK309出土遺物実測図② (522は1/4、その他は1/3)

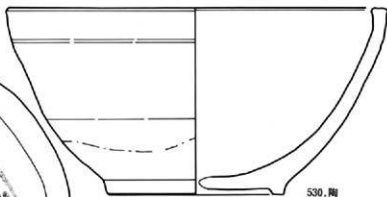


528. 陶

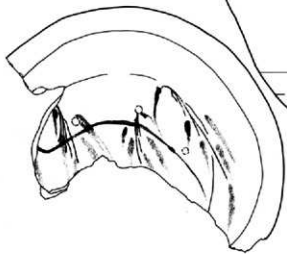


529. 陶

0 10cm



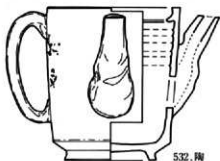
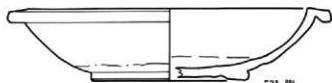
530. 陶



531. 陶

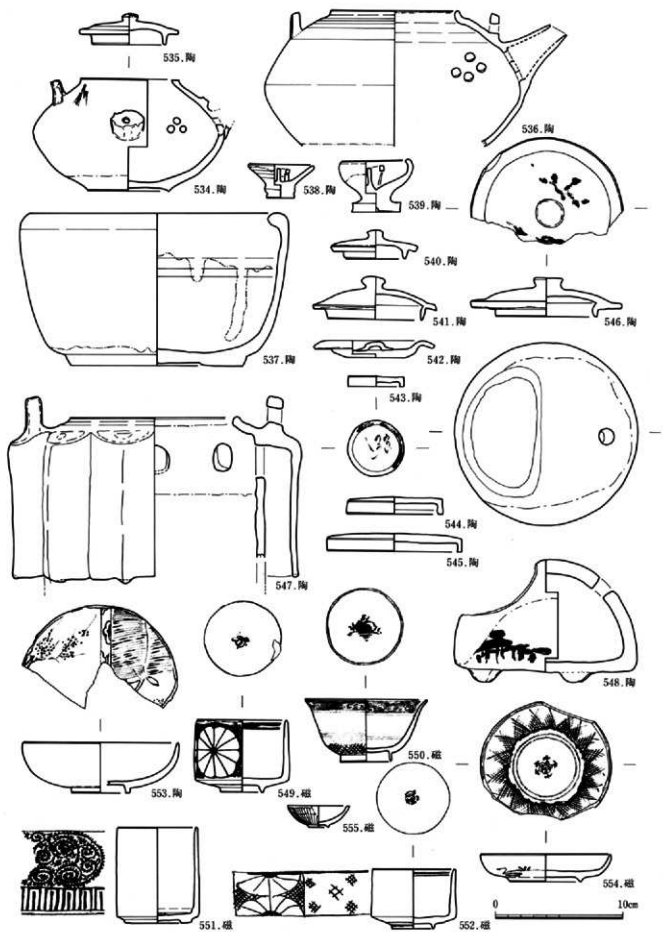


533. 陶

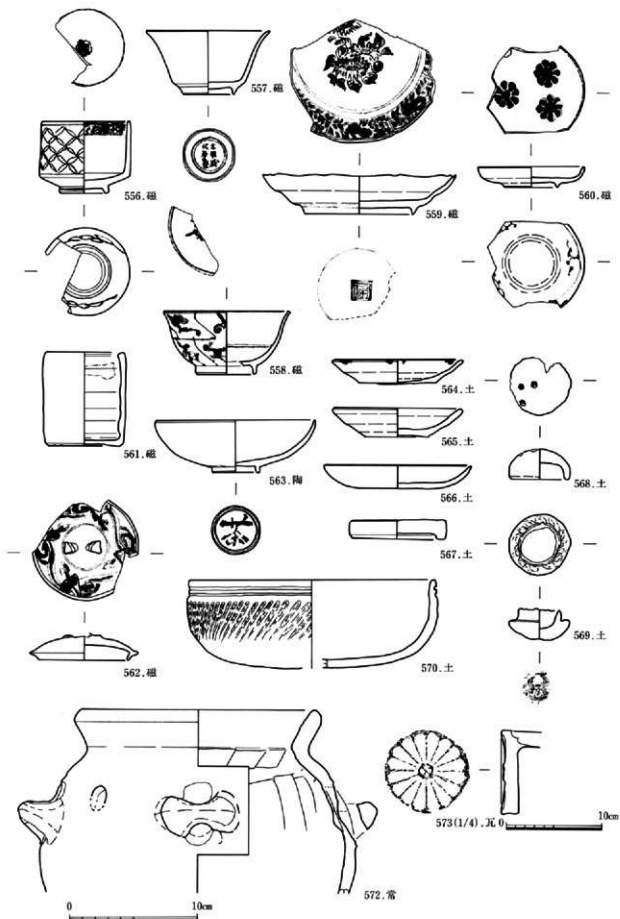


532. 陶

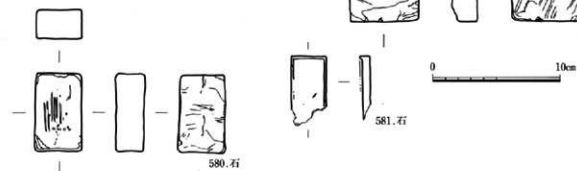
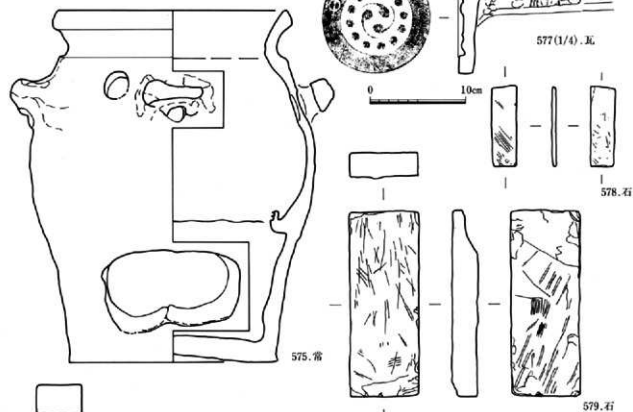
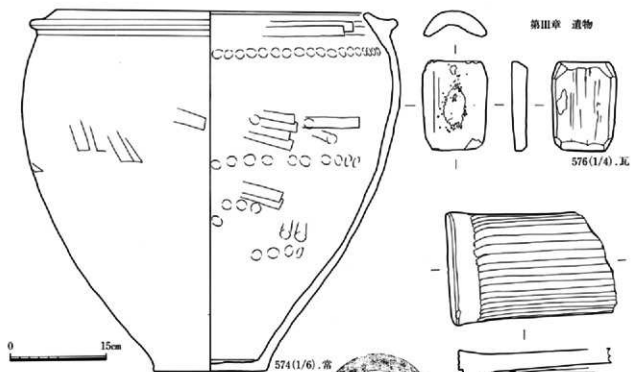
第68圖 S K 309出土遺物実測図③



第69圖 SK309出土遺物実測図④



第70図 S K 309出土遺物実測図⑤ (573は1/4、その他は1/3)



第71図 SK309出土遺物実測図⑥ (576・577は1/4、574は1/6、その他は1/3)

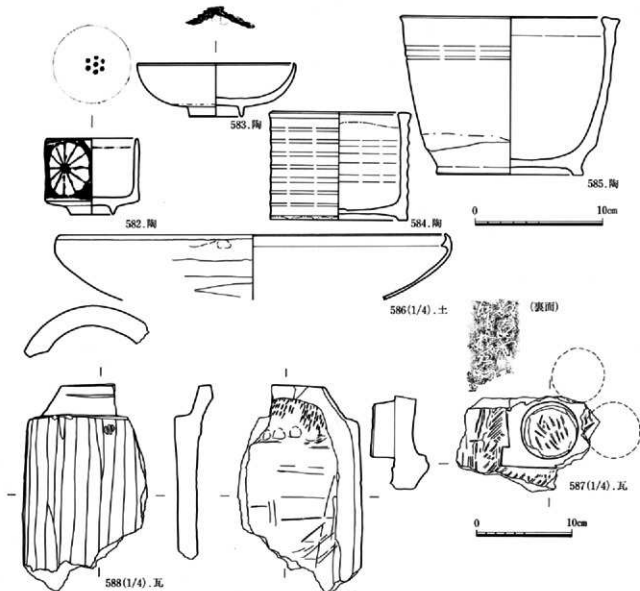
第4章 遺物

図面No	遺物No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	使用数	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	備考	図録No	
66-496	SK309	1	瀬戸	1	2	1	-	5.05	(8.20)	3.20	-	18c後～19c中	E-496	
66-497	SK309	1	瀬戸	1	2	1	-	5.70	9.20	3.60	-	呉須絵, 18c後～19c中	E-497	
66-498	SK309	1	瀬戸	1	2	1	2,6	6.50	10.20	4.00	-	呉須絵, 白文脈, 赤文脈, 18c後～18c中	E-498	
66-499	SK309	1	瀬戸	1	2	1	-	4.70	(9.00)	3.60	-	鉄絵, 18c後～19c中	E-499	
66-500	SK309	1	瀬戸	1	2	1	2,6	5.80	9.20	4.00	-	呉須絵, 18c後～19c中	E-500	
66-501	SK309	1	瀬戸	1	2	1	-	6.40	(11.00)	4.20	-	18c後～19c中	E-501	
66-502	SK309	1	瀬戸	1	5	1	-	6.30	(12.40)	6.20	-	呉須絵, 15c	E-502	
66-503	SK309	1	瀬戸	1	3	1,2	-	5.80	9.40	4.00	-	トビガンナ, 18c後～19c中	E-503	
66-504	SK309	1	瀬戸	1	2	1	-	6.80	(11.00)	4.20	-	18c後	E-504	
66-505	SK309	1	瀬戸	2	1	1	-	4.20	12.20	4.40	-	鉄絵, 18c後	E-505	
67-506	SK309	1	瀬戸?	2	1	1	6,9	4.50	12.70	4.20	-	鉄絵, 18c後	E-506	
67-507	SK309	1	瀬戸?	2	1	1	9	4.65	11.90	4.60	-	18c後	E-507	
67-508	SK309	1	瀬戸	2	1	1	6,9	4.30	12.00	4.20	-	鉄絵, 18c後	E-508	
67-509	SK309	1	美濃	2	5	2	-	1.40	6.80	3.40	-	18c後～19c中	E-509	
67-510	SK309	1	美濃	2	5	2	-	1.30	7.40	3.20	-	18c後～19c中	E-510	
67-511	SK309	1	瀬戸	2	5	1	-	1.60～1.80	7.80	5.00	-	18c後～19c中	E-511	
67-512	SK309	1	瀬戸	2	1	1	-	2.80	11.20	5.60	-	鉄絵, 18c後～19c中	E-512	
67-513	SK309	1	土器	2	1	5	-	3.70	(17.60)	8.70	-	-	E-513	
67-514	SK309	1	不明	2	5	1	-	6.20	12.40	5.60	-	おろし目, 取手付	E-514	
67-515	SK309	1	美濃	2	4	2	-	1.70	10.00	4.70	-	18c後～19c中	E-515	
67-516	SK309	1	美濃	2	4	1	-	1.80	(10.40)	6.40	-	18c後～19c中	E-516	
67-517	SK309	1	瀬戸	3	9	1	-	2.40	3.40	3.20	-	18c後～19c中	E-517	
67-518	SK309	1	美濃?	3	9	1	-	2.70	4.30	4.00	-	18c後～19c中	E-518	
67-519	SK309	1	美濃	3	9	1	-	3.20	5.30	5.00	-	18c後～19c中	E-519	
67-520	SK309	1	瀬戸	3	9	1	-	3.30	7.20	6.00	-	18c後～19c中	E-520	
67-521	SK309	1	美濃	3	4	1	-	2.45～2.50	5.70	5.80	-	18c後	E-521	
67-522	SK309	1	瀬戸	3	3	10	2	4	15.90	36.80	16.20	-	19c	E-522
67-523	SK309	1	瀬戸	3	1	1	-	8.00	14.00	6.60	-	18c後～19c中	E-523	
67-524	SK309	1	瀬戸(赤津)	3	7	2	-	8.50	(13.00)	7.70	-	18c後～19c中	E-524	
67-525	SK309	1	瀬戸(赤津)	3	4	2	3	12.40	(16.00)	(11.50)	-	転用硝子鉢, 18c後～19c中	E-525	
67-526	SK309	1	瀬戸(赤津)	3	4	2	3	9.20	(12.00)	(7.60)	-	転用硝子鉢, 18c後～19c中	E-526	
67-527	SK309	1	瀬戸(赤津)	7	1	2	-	15.60	(13.20)	(9.10)	-	18c後～19c中	E-527	
68-528	SK309	1	瀬戸	3	6	1	-	17.80	38.90	25.00	-	鉄輪成し, 19c	E-528	
68-529	SK309	1	瀬戸	3	1	2,4	-	17.80	30.10	24.20	-	脚分付, 脚子頭取手, 18c後	E-529	
68-530	SK309	1	瀬戸(赤津)	3	1	2	3	14.70	30.00	13.80	-	転用硝子鉢, 18c後～19c中	E-530	
68-531	SK309	1	瀬戸	3	8	1	-	5.70	(22.00)	(11.90)	-	鉄・呉須絵, 18c後～19c中	E-531	
68-532	SK309	1	瀬戸	4	7	1	-	12.10	10.40	7.20	-	18c後～19c中	E-532	
68-533	SK309	1	瀬戸	7	10	1	-	1.80	9.60	-	-	18c後～19c	E-533	
69-534	SK309	1	瀬戸	4	6	1	-	8.80～8.90	7.70	6.40	-	鉄絵, 18c後～19c中	E-534	
69-535	SK309	1	瀬戸	7	10	1	-	2.45	7.70	-	-	18c後～19c中	E-535	
69-536	SK309	1	瀬戸	4	6	2	-	-	(10.00)	-	-	18c後～19c中	E-536	
69-537	SK309	1	美濃	7	7	2	2	12.10	19.10	13.50	-	18c前後～19c中	E-537	
69-538	SK309	1	瀬戸	7	4	1	-	3.20	4.90	2.20	-	18c後～19c中	E-538	
69-539	SK309	1	瀬戸	7	4	2	-	4.10	5.10	3.80	-	18c後～19c中	E-539	
69-540	SK309	1	瀬戸	7	10	1	-	2.30	6.40	-	-	18c後～19c中	E-540	
69-541	SK309	1	瀬戸?	7	10	1	-	3.40	9.60	-	-	18c後～19c中	E-541	
69-542	SK309	1	瀬戸	7	10	1	-	1.35	9.30	9	-	18c後～19c中	E-542	
69-543	SK309	1	美濃	7	10	1	9	0.80	4.40	-	-	18c後～19c中	E-543	
69-544	SK309	1	美濃	7	10	1	-	1.80	7.60	-	-	18c後～19c中	E-544	
69-545	SK309	1	瀬戸?	7	10	1	-	1.40	10.60	-	-	18c後～19c中	E-545	
69-546	SK309	1	瀬戸	7	10	1	-	3.10	11.80	-	-	呉須絵, 18c後～19c中	E-546	
69-547	SK309	1	瀬戸	7	11	1	5,6,7	-	-	13.00	-	-	E-547	
69-548	SK309	1	瀬戸	7	11	1,4	-	2	9.70	-	14.40	-	鉄絵(縞目), 明治近く, 19c中	E-548
69-549	SK309	1	瀬戸	1	3	3	-	5.70	7.50	3.70	-	1780～1810	E-549	
69-550	SK309	1	瀬戸	1	2	3	-	5.00	9.50	3.90	-	1820～幕末	E-550	
69-551	SK309	1	肥前	1	3	3	-	7.60	6.20	5.20	-	18c末～19c前	E-551	
69-552	SK309	1	肥前系	1	3	3	-	4.80	6.50	3.20	-	1780～1810	E-552	
69-553	SK309	1	京都?	2	1	1	-	4.50	(12.20)	4.60	-	上絵, 18c	E-553	
69-554	SK309	1	肥前	2	1	3	-	2.20	10.40	5.50	-	18c中～末	E-554	
69-555	SK309	1	肥前	1	7	7	-	1.70	(4.80)	1.60	-	絵籠	E-555	
70-556	SK309	1	肥前系	1	3	3	-	5.70	6.80	3.50	-	1780～1810	E-556	
70-557	SK309	1	中国(雲南)	1	3	6,3	-	5.10	9.70	3.90	-	1600～1630	E-557	
70-558	SK309	1	中国	1	2	3	-	5.00	(9.80)	4.50	-	18c末～19c前	E-558	
70-559	SK309	1	肥前(有田)	2	1	3	-	3.00	(15.00)	8.50	-	1660～1690	E-559	
70-560	SK309	1	肥前	2	1	3	-	1.60	(8.20)	4.10	-	18c	E-560	
70-561	SK309	1	肥前	7	1	6,7	-	7.40	6.10	4.10	-	18c後～幕末	E-561	
70-562	SK309	1	肥前	7	10	3	-	1.80	8.40	-	-	18c	E-562	
70-563	SK309	1	不明	2	1	1	9	4.15	(12.00)	3.70	-	18c後	E-563	
70-564	SK309	1	土器	2	1	5	6	1.90	(10.30)	(6.00)	-	-	E-564	

第26表 SK309出土遺物観察表① ※分類数値はV章3節参照

図版No	遺構No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸差	使用数	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
70-565	SK309	1	土器		2	1	5	-	2.30	10.20	5.00	-		E-565
70-566	SK309	1	土器		2	1	5	5, 6	1.85	11.60	10.00	-		E-566
70-567	SK309	1	土器		8	2	5	-	1.50	7.20	-	-		E-567
70-568	SK309	1	土器		7	2	8	-	2.40	(4.40)	-	-	朱高(外側丁字、内側無). No.569 とセット	E-568
70-569	SK309	1	土器		7	1	8	-	2.50	3.20	1.20	4.80	内外に朱高(蓋受外は無輪). No.568とセット	E-569
70-570	SK309	1	土器		7	1	8	-	-	(19.10)	-	-	全面に朱泥	E-570
70-572	SK309	1	常滑		7	-	10	5, 6	-	(18.10)	-	-		E-572
70-573	SK309	1	瓦		-	-	-	-	径 8.80	-	-	-	種入瓦	E-573
71-574	SK309	1	常滑		6	-	10	14	57.00	42.90	18.00	59.40		E-574
71-575	SK309	1	常滑		7	-	10	-	28.80	(17.90)	16.20	-		E-575
71-576	SK309	1	瓦		-	-	-	-	-	全長 9.20	幅 6.80	-		E-576
71-577	SK309	1	瓦		-	-	-	-	径 11.80	-	-	-	道具瓦	E-577
71-578	SK309	1	石		-	-	-	-	全長 8.60	幅 2.60	-	-	群瓦	E-578
71-579	SK309	1	石		-	-	-	-	全長 19.60	幅 7.40	-	-	群瓦	S-579
71-580	SK309	1	石		-	-	-	-	全長 3.00	幅 8.40	厚 4.90	-	群瓦	S-580
71-581	SK309	1	石		-	-	-	-	全長 1.20	幅 3.70	-	-	硯	S-581

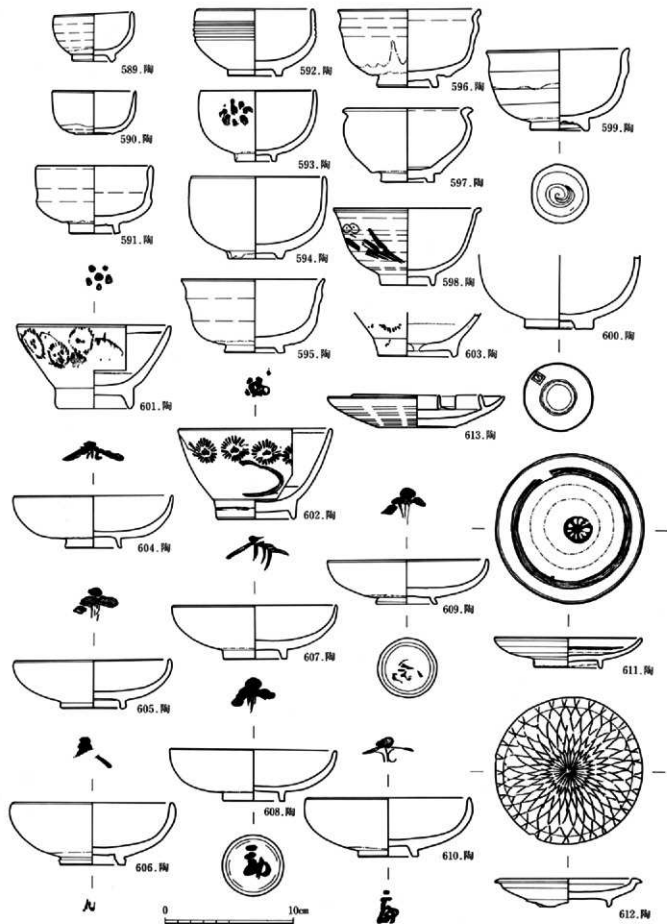
第27表 SK309出土遺物観察表② ※分類数値はV章3節参照



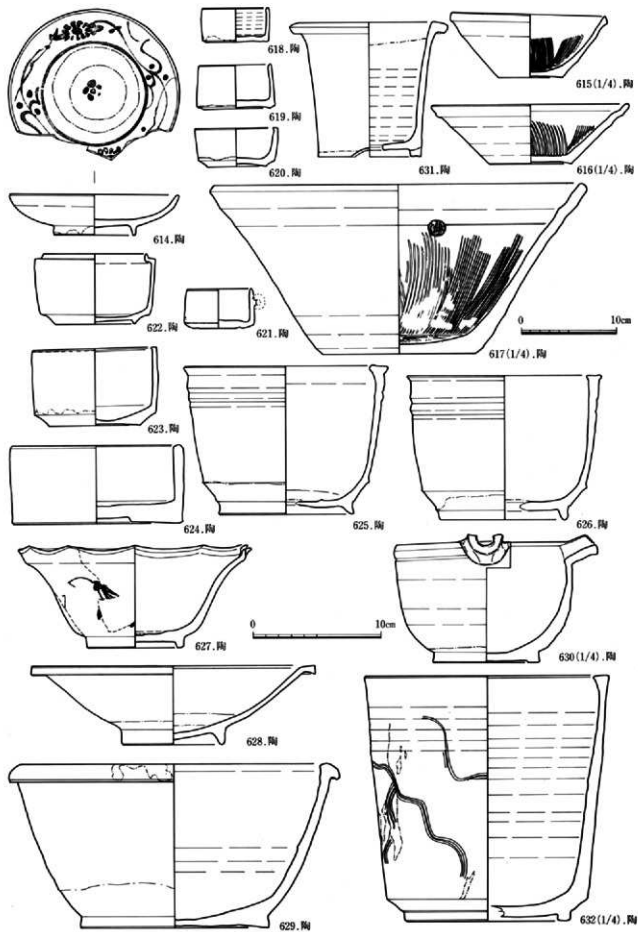
第28表 SK310出土遺物実測図 (586~588) 1/4、その他は1/3

図版No	遺構No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸差	使用数	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
72-582	SK310	1	美濃		1	3	1	-	6.00	(7.10)	3.40	-	片須絵, 18c後~19c中	E-582
72-583	SK310	1	瀬戸?		2	1	1	2	4.20	12.30	4.00	-	鉄絵, 18c後	E-583
72-584	SK310	1	瀬戸?		3	4	4	-	8.50	11.10	10.70	-		E-584
72-585	SK310	1	瀬戸(赤津)		3	4	2	-	12.40	17.30	11.40	-	18c後~19c中	E-585
72-586	SK310	1	土器		5	3	5	6	-	(40.40)	-	-		E-586
72-587	SK310	1	瓦		-	-	-	-	-	-	-	-	「二星一文字」紋文(内面刻書)	E-587
72-588	SK310	1	瓦		-	-	-	-	-	-	-	-	瓦	E-588

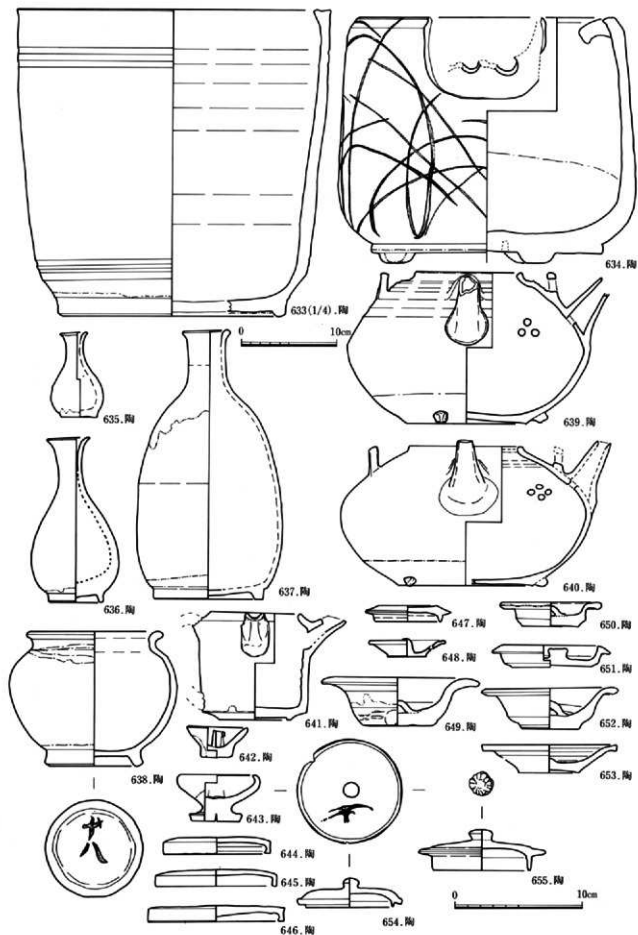
第28表 SK310出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



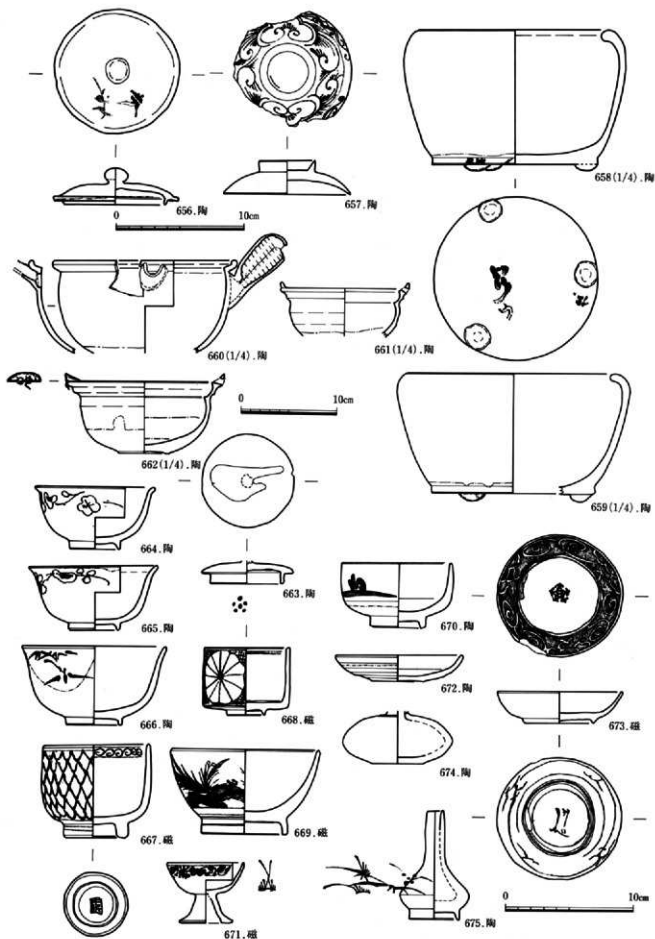
第73圖 SK312出土遺物実測図①



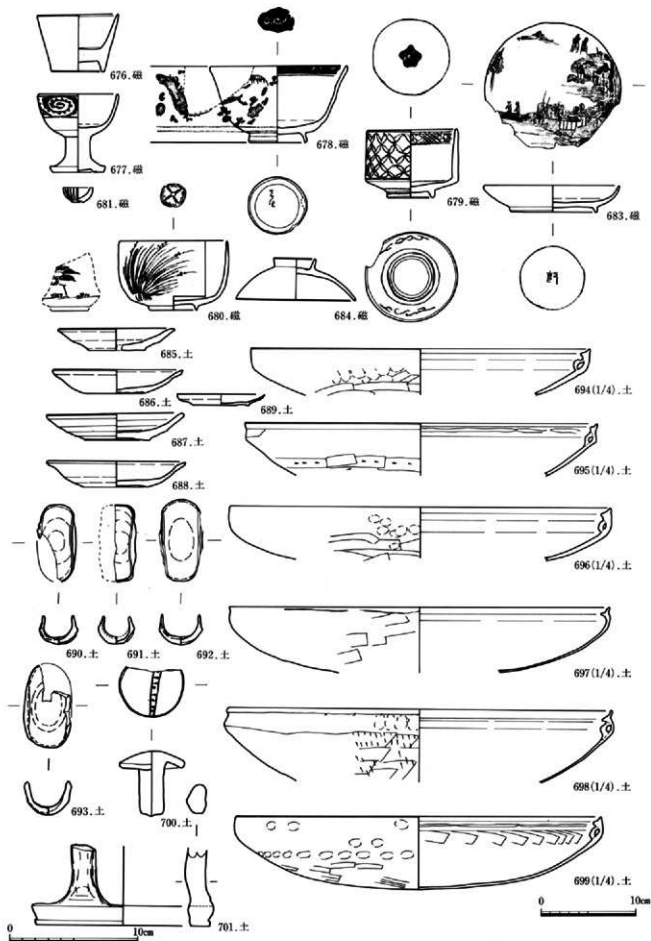
第74図 SK312出土遺物実測図② (615~617・630・632は1/4、その他は1/3)



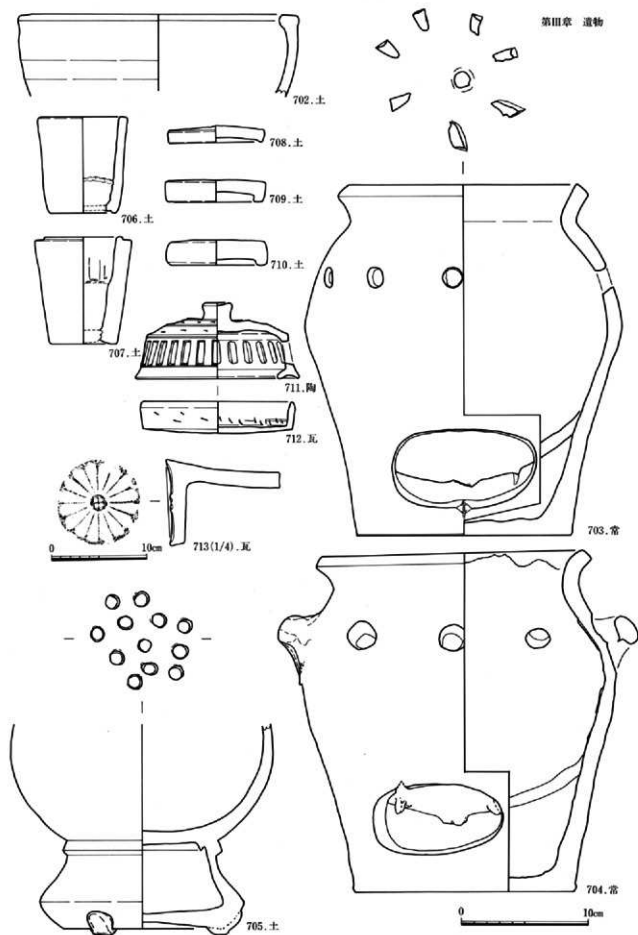
第75図 SK312出土遺物実測図② (633は1/4、その他は1/3)



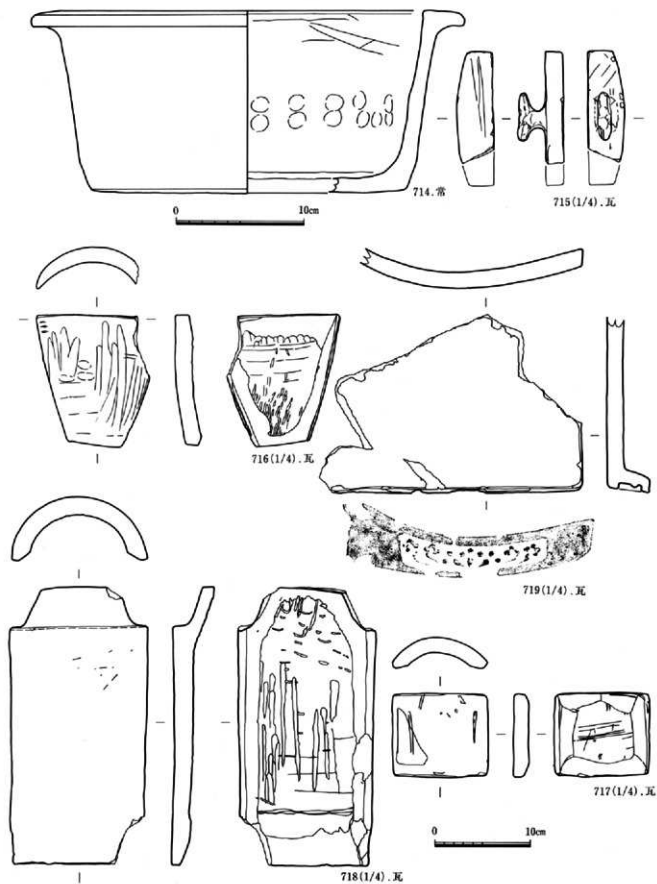
第76図 SK312出土遺物実測図④ (658-662は1/4、その他は1/3)



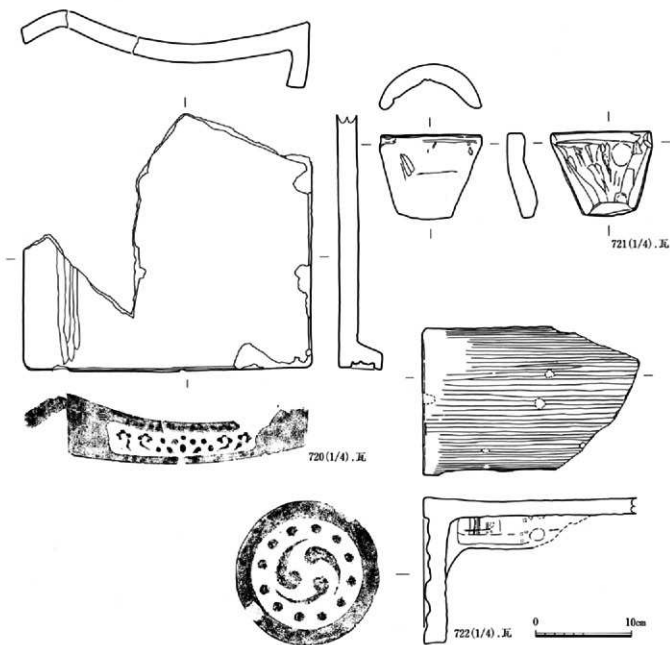
第77図 SK312出土遺物実測図⑤ (694-699は1/4、その他は1/3)



第78図 SK312出土遺物実測図(713は1/4、その他は1/3)



第79図 SK312出土遺物実測図⑦ (715~719は1/4、その他は1/3)



第80図 SK312出土遺物実測図④

図録No.	遺構No.	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸差	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No.
73-589	SK312	1	美濃		1	7	1	-	3.90	6.00	3.10			E-589
73-590	SK312	1	美濃		1	7	2	-	3.40	6.60	3.00		18c後~19c中	E-590
73-591	SK312	1	瀬戸・美濃?		1	2	1	-	5.30	(8.80)	4.20		18c後~19c中	E-591
73-592	SK312	1	瀬戸		1	2	1,2	-	5.30	9.00	4.20		18c後~19c中	E-592
73-593	SK312	1	瀬戸		1	2	1	-	5.60	8.90	3.20		引須給, 18c後~19c中	E-593
73-594	SK312	1	瀬戸		1	2	1	-	6.50	10.30	4.20		18cか	E-594
73-595	SK312	1	瀬戸		1	2	2	-	5.80	11.00	4.50		18c後	E-595
73-596	SK312	1	瀬戸		1	2	1,2	-	6.20	11.00	4.60		帯分付, 18c後~19c中	E-596
73-597	SK312	1	瀬戸・美濃		1	1	2	-	5.90	9.40	4.20		18c後~19c中	E-597
73-598	SK312	1	瀬戸		1	2	1	-	6.10	11.20	4.00		鉄絵, 18c後~19c中	E-598
73-599	SK312	1	瀬戸		1	2	1	-	6.50	11.10	4.40		灰釉流し, 19c	E-599
73-600	SK312	1	美濃		1	2	2	-	-	-	5.30		18c~19c中	E-600
73-601	SK312	1	瀬戸		1	5	1	-	6.60	11.80	5.70		鉄・引須給, 19c	E-601
73-602	SK312	1	瀬戸		1	5	1	-	7.15	12.20	6.00		引須給, 19c	E-602
73-603	SK312	1	瀬戸		1	5	1	3	-	-	5.90		引須給, 19c	E-603
73-604	SK312	1	不明		2	1	1	-	4.10	12.40	4.40		鉄絵	E-604

第29表 SK312出土遺物観察表① 東分類数値はV章3節参照

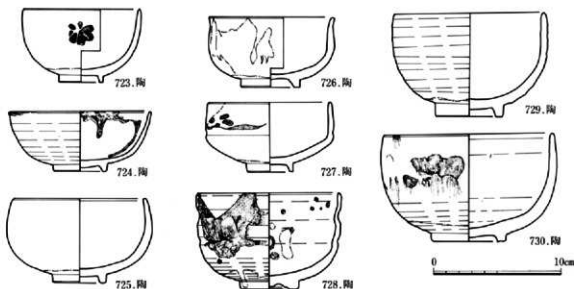
第3章 遺物

図録No.	遺物No.	層位	産地・材質	器種名	器形	器形2	輪蓋	使用順	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	資料No.	
73-605	SK312	1	瀬戸?		2	1	1	-	3.90	12.00	4.90		鉄絡, 18c後~19c中	E-605	
73-606	SK312	1	不明		2	1	1	9	4.90	(12.40)	5.10		鉄絡	E-606	
73-607	SK312	1	不明		2	1	1	6	4.25	12.70	4.80		鉄絡	E-607	
73-608	SK312	1	瀬戸?		2	1	1	9	4.00~4.10	13.00	4.80		鉄絡	E-608	
73-609	SK312	1	瀬戸?		2	1	1	9	3.55	12.40	4.60		鉄絡, 18c後~19c中	E-609	
73-610	SK312	1	不明		2	1	1	9	4.60	12.70	4.70		鉄絡	E-610	
73-611	SK312	1	美濃?		2	1	1	-	2.40	11.40	5.70		鉄絡, 18c後~19c中	E-611	
73-612	SK312	1	瀬戸		2	1	1	-	2.20	10.20	6.40		鉄絡, 18c後~19c中	E-612	
73-613	SK312	1	美濃?		2	4	2	-	2.60	13.90	6.00		18c後	E-613	
74-614	SK312	1	美濃?		2	1	1	-	3.20	13.20	6.20		呉須絡	E-614	
74-615	SK312	1	瀬戸(赤津)		3	3	4	2	-	6.70	16.20	6.60		18c後~19c中	E-615
74-616	SK312	1	瀬戸(赤津)		3	3	7	2	-	6.30	20.60	8.60		18c後~19c中	E-616
74-617	SK312	1	瀬戸?		3	3	8	2	4	17.95	(38.60)	16.00		19c後	E-617
74-618	SK312	1	美濃		3	9	1	-	2.70	5.10	4.85			E-618	
74-619	SK312	1	美濃		3	9	1	-	3.45	5.60	5.20		18c後~19c中	E-619	
74-620	SK312	1	瀬戸?		3	9	1	-	3.00	6.50	4.60		18c後~19c中	E-620	
74-621	SK312	1	美濃		3	9	1	-	3.10	4.90	3.60		18c後~19c中	E-621	
74-622	SK312	1	美濃?		3	4	1	-	5.50	8.10	6.30		18c後~19c中	E-622	
74-623	SK312	1	美濃?		3	4	1	3?	6.20	9.30	7.10		18c後~19c中	E-623	
74-624	SK312	1	美濃		3	4	1	-	6.20	(13.20)	13.40		18c後~19c中	E-624	
74-625	SK312	1	瀬戸(赤津)		3	4	2	3	11.70	(13.40)	10.30		瀬戸細木鉢, 18c後~19c中	E-625	
74-626	SK312	1	瀬戸(赤津)		3	4	2	3	11.40	15.00	9.10		瀬戸細木鉢, 18c後~19c中	E-626	
74-627	SK312	1	瀬戸?		3	1	1	-	8.05	(18.30)	7.20		口折, 鉄絡, 18c後~19c中	E-627	
74-628	SK312	1	美濃		3	2	1	-	6.70	22.20	8.00		18c後	E-628	
74-629	SK312	1	瀬戸?		3	1	1	-	12.90	24.00	14.70		18c後	E-629	
74-630	SK312	1	美濃		3	1	1	9	13.50	21.00	11.20		片口, 18c	E-630	
74-631	SK312	1	瀬戸・美濃		3	7	1	-	10.60	10.00	8.10		18c後~19c中	E-631	
74-632	SK312	1	瀬戸・美濃		3	4	1	-	25.90	(27.60)	16.80		除割, 鉄絡流し, 18c中	E-632	
75-633	SK312	1	瀬戸(赤津)		3	4	2	-	32.30	32.70	23.80		18c後~19c中	E-633	
75-634	SK312	1	瀬戸・美濃		7	7	1	2,6	19.40	19.80	18.00		鉄絡, 18c後~19c中	E-634	
75-635	SK312	1	美濃		4	9	1	-	6.70	1.95	2.80	4.10	18c後~19c中	E-635	
75-636	SK312	1	美濃		4	9	1	-	13.00	(3.10)	4.20	6.80	18c	E-636	
75-637	SK312	1	美濃		4	8	2	-	21.20	3.80	8.50	11.40	尾呂藤村, 鉄絡流し, 18c	E-637	
75-638	SK312	1	瀬戸?		4	2	2	9	10.50	11.80	7.80	13.20	18c後	E-638	
75-639	SK312	1	瀬戸?		4	6	2	-	11.90~13.00	8.20	9.40		18c後	E-639	
75-640	SK312	1	瀬戸・美濃?		4	6	1	6,7	10.00	8.80	10.40		18c後~19c中	E-640	
75-641	SK312	1	瀬戸?		4	7	1	-	8.40~8.50	7.00	5.60		18c後~19c中	E-641	
75-642	SK312	1	瀬戸?		7	4	1	-	2.40	4.60	2.40		18c後~19c中	E-642	
75-643	SK312	1	瀬戸?		7	4	2	-	3.70	5.80	3.75		18c後~19c中	E-643	
75-644	SK312	1	瀬戸?		7	10	1	-	1.30	8.30	-		18c後~19c中	E-644	
75-645	SK312	1	美濃		7	10	1	6,7	1.30	9.50	-		18c後~19c中	E-645	
75-646	SK312	1	美濃		7	10	1	-	1.30	10.80	-		18c後~19c中	E-646	
75-647	SK312	1	瀬戸?		7	10	1	-	1.25	5.10	-		18c後~19c中	E-647	
75-648	SK312	1	不明		7	10	2	-	1.40	6.00	3.00			E-648	
75-649	SK312	1	瀬戸?		7	10	1	-	3.70	12.40	6.00			E-649	
75-650	SK312	1	瀬戸?		7	10	1	-	1.90	7.90	4.40		18c後~19c中	E-650	
75-651	SK312	1	瀬戸?		7	10	1	-	1.70	9.40	6.20		18c後~19c中	E-651	
75-652	SK312	1	美濃		7	10	1	-	3.30	10.70	4.60		18c~19c中	E-652	
75-653	SK312	1	瀬戸(赤津?)		7	10	2	-	2.20	(10.40)	4.70		18c後~19c中	E-653	
75-654	SK312	1	瀬戸?		7	10	1	-	2.30	6.20	-	8.20	鉄絡, 18c後~19c中	E-654	
75-655	SK312	1	瀬戸?		7	10	1	-	3.20	7.50	-		18c後~19c中	E-655	
76-656	SK312	1	瀬戸?		7	10	1	-	2.90	9.80	-		鉄絡, 18c後~19c中	E-656	
76-657	SK312	1	瀬戸?		7	10	1	-	2.70	(10.60)	4.40		鉄絡, 18c後	E-657	
76-658	SK312	1	瀬戸?		7	7	2	2,9	14.90	(20.00)	17.60		18c後	E-658	
76-659	SK312	1	美濃		7	7	2	2	13.50	(22.00)	17.00		18c後~19c中	E-659	
76-660	SK312	1	不明		7	8	1	6	(9.80)	18.80	-			E-660	
76-661	SK312	1	美濃?		7	9	2	6	-	13.60	-		18c後~19c中	E-661	
76-662	SK312	1	美濃		7	9	2	6	8.40	16.40	5.30		銅網残存	E-662	
76-663	SK312	1	信楽?		7	10	1	-	-	7.20	-		銅網残存	E-663	
76-664	SK312	1	瀬戸?		1	2	1	-	4.90	(9.40)	4.00		鉄・灰粉絡, 18c後~19c中	E-664	
76-665	SK312	1	瀬戸?		1	2	1	-	5.10	10.00	3.80		鉄・灰粉絡, 19c中	E-665	
76-666	SK312	1	瀬戸?		1	2	1	-	6.20	(11.10)	4.10		鉄絡, 白泥, 18c後~19c中	E-666	
76-667	SK312	1	瀬戸?		1	2	3	-	7.40	8.10	4.50		1820~幕末	E-667	
76-668	SK312	1	美濃		1	7	1	-	5.30	6.65	2.90		呉須絡, 1780~19c前	E-668	
76-669	SK312	1	不明		1	5	3	1	6.70	(11.50)	6.60		1780~19c前	E-669	
76-670	SK312	1	瀬戸?		1	2	1	-	5.20	8.40	3.70		呉須絡, 18c後~19c中	E-670	
76-671	SK312	1	瀬戸?		1	6	3	-	4.80	(5.90)	3.70		1820~幕末	E-671	
76-672	SK312	1	不明		1	2	1	-	2.10	9.90	4.00		18c後~19c中	E-672	
76-673	SK312	1	肥前系		2	1	3	-	2.50	9.80	5.30		18c前~中	E-673	
76-674	SK312	1	不明		4	10	2	-	-	-	4.60		18c後~19c中	E-674	
76-675	SK312	1	美濃		4	9	3	-	8.60	1.20	3.80	5.70	18c後~19c中	E-675	

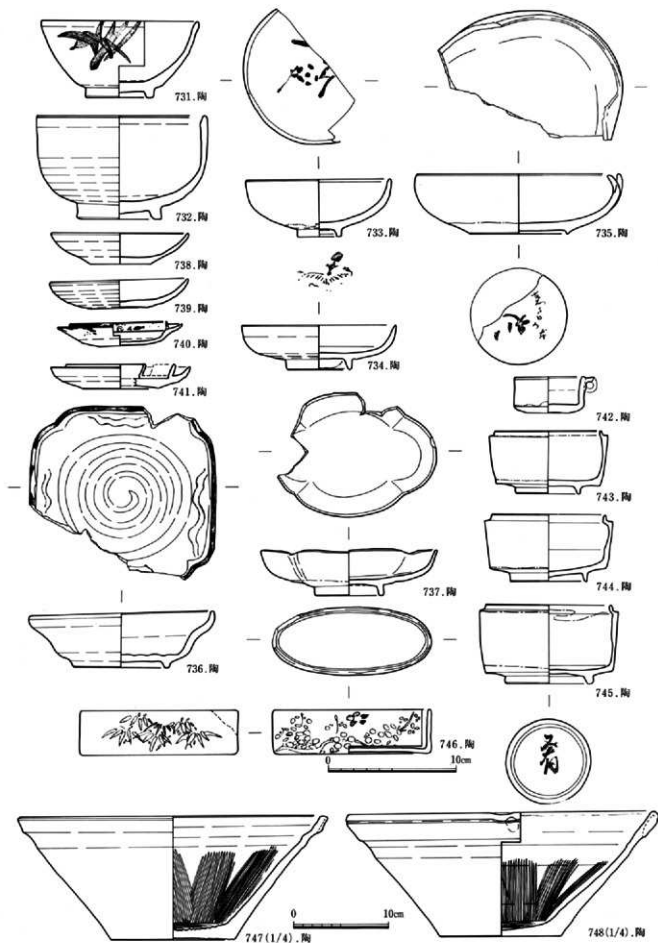
第30表 S K312出土遺物観察表② ※分類数値はV章3節参照

図版No.	遺構No.	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸差	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No.
77-676	SK312	1	肥前産	1	7	-	-	-	4.60	6.30	4.10	-	18c後-19c初	E-676
77-677	SK312	1	肥前産	1	6	3	-	-	6.20	(6.10)	4.00	-	18c後-19c前	E-677
77-678	SK312	1	肥前産	1	2	3	1	-	6.00	(10.60)	4.40	-	朱野産, 1820-1860	E-678
77-679	SK312	1	肥前産	1	7	3	-	-	5.45	6.90	3.55	-	1780-1810	E-679
77-680	SK312	1	肥前産	1	7	3	11	-	5.50	(8.80)	3.60	-	1780-1810	E-680
77-681	SK312	1	肥前	1	7	7	-	-	1.15	2.30	0.90	-	帆風	E-681
77-683	SK312	1	肥前	2	1	3	-	-	2.10	(10.60)	6.60	-	19c初-幕末	E-683
77-684	SK312	1	瀬戸or関西?	7	10	7	-	-	3.30	9.35	3.40	-	19c(幕末)	E-684
77-685	SK312	1	土器	2	1	5	-	-	1.75	(9.10)	4.50	-	-	E-685
77-686	SK312	1	土器	2	1	5	-	-	1.90	10.20	4.50	-	-	E-686
77-687	SK312	1	土器	2	1	5	6	-	2.10	10.50	5.05	-	-	E-687
77-688	SK312	1	土器	2	1	5	7	-	2.10	10.90	5.00	-	-	E-688
77-689	SK312	1	土器	2	1	5	2	-	0.90	6.90	4.40	-	-	E-689
77-690	SK312	1	土器	2	1	5	-	-	2.30	2.30-6.00	-	-	耳皿	E-690
77-691	SK312	1	土器	2	1	5	-	-	2.20	2.00-6.00	0.60	-	耳皿	E-691
77-692	SK312	1	土器	2	1	5	-	-	2.40	2.90-6.40	-	-	耳皿	E-692
77-693	SK312	1	土器	2	1	5	-	-	2.60	3.20-6.60	-	-	耳皿	E-693
77-694	SK312	1	土器	5	3	5	6	-	4.90	(35.50)	-	-	-	E-694
77-695	SK312	1	土器	5	3	5	5,6	-	-	(36.70)	-	-	-	E-695
77-696	SK312	1	土器	5	3	5	6	-	5.60	(38.80)	-	-	-	E-696
77-697	SK312	1	土器	5	3	5	6	-	-	(39.60)	-	-	-	E-697
77-698	SK312	1	土器	5	3	5	6	-	-	(40.10)	-	-	-	E-698
77-699	SK312	1	土器	5	3	5	5,6	-	7.70	(39.00)	-	-	-	E-699
77-700	SK312	1	土器	7	2	5	-	-	5.10	-	-	-	-	E-700
77-701	SK312	1	土器	7	1	5	-	-	6.80	-	13.60	-	-	E-701
78-702	SK312	1	土器	7	1	5	6	-	6.50	(19.60)	-	-	-	E-702
78-703	SK312	1	常滑	7		10	5,6	-	27.70	18.00	17.00	-	-	E-703
78-704	SK312	1	常滑	7		10	5,6	-	26.80	20.40	17.20	-	-	E-704
78-705	SK312	1	不明	7	11			-	16.60	-	12.40	-	-	E-705
78-706	SK312	1	土器	8	1	5	-	-	7.60	(5.80)	5.00	7.00	-	E-706
78-707	SK312	1	土器	8	1	5	-	-	8.40	(5.20)	5.20	7.60	-	E-707
78-708	SK312	1	土器	8	2	5	-	-	1.35	7.50	-	-	-	E-708
78-709	SK312	1	土器	8	2	5	-	-	1.75	7.90	-	-	-	E-709
78-710	SK312	1	土器	8	2	5	-	-	2.00	8.00	-	-	-	E-710
78-711	SK312	1	美濃	7	10	5	6,7	-	6.00	12.60	-	-	No712とセット	E-711
78-712	SK312	1	瓦	7	3	5	6	-	2.50	11.60	7.00	-	No711とセット	E-712
78-713	SK312	1	瓦					径 9.20	全長 11.80				押入瓦	E-713
79-714	SK312	1	常滑	7		9	-	14.40		(27.80)	(24.60)			E-714
79-715	SK312	1	瓦						全長 13.60	幅 3.80			道貝瓦	E-715
79-716	SK312	1	瓦						全長 13.60	幅 -			道貝瓦	E-716
79-717	SK312	1	瓦						全長 9.00	幅 10.00			道貝瓦	E-717
79-718	SK312	1	瓦						全長 29.20	幅 14.00			丸瓦	E-718
79-719	SK312	1	瓦						全長 -	幅 -			軒平瓦	E-719
79-720	SK312	1	瓦						全長 -	幅 30.00			枕瓦	E-720
79-721	SK312	1	瓦						全長 9.00	幅 10.80			道貝瓦	E-721
79-722	SK312	1	瓦					径 15.20	全長 -	幅 14.80			軒丸瓦	E-722

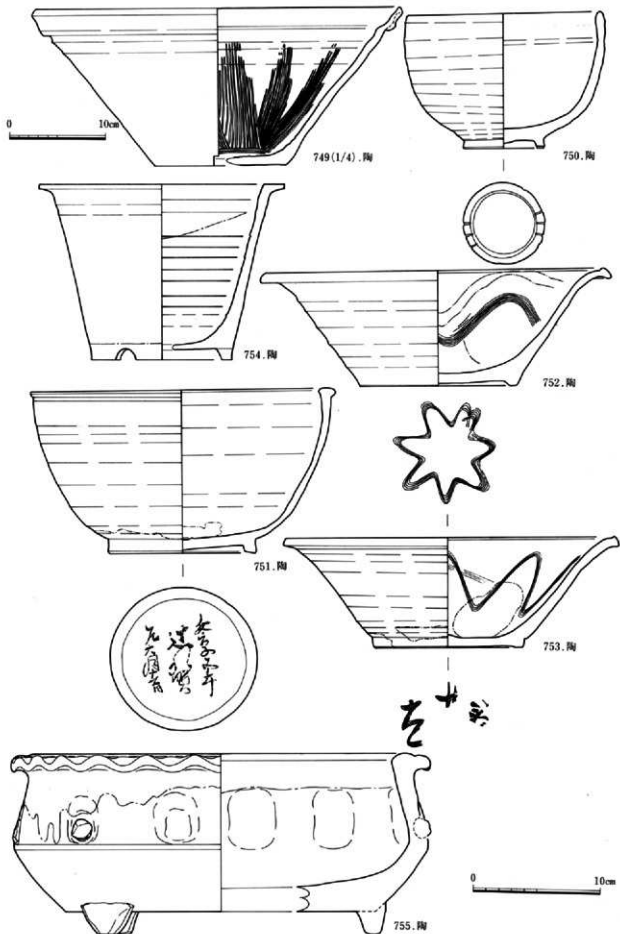
第31表 SK312出土遺物観察表③ ■分類数値はV章3節参照



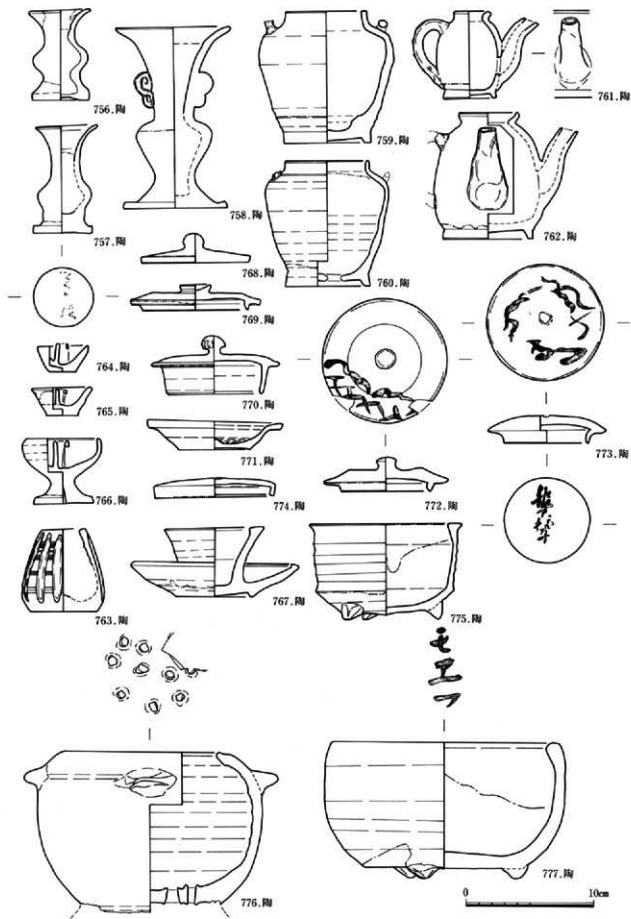
第81図 SK318出土遺物実測図①



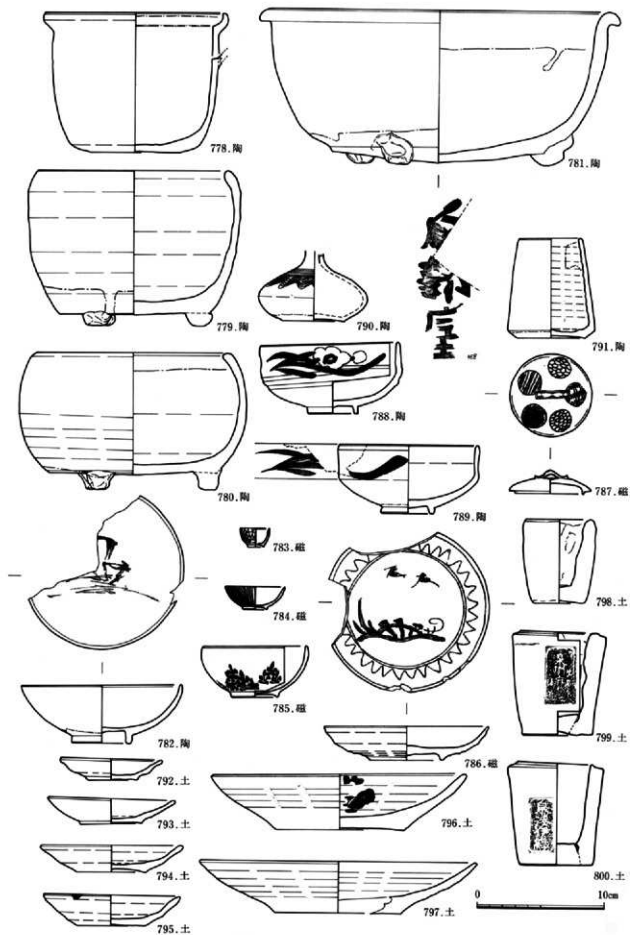
第82図 SK318出土遺物実測図② (747・748は1/4、その他は1/3)



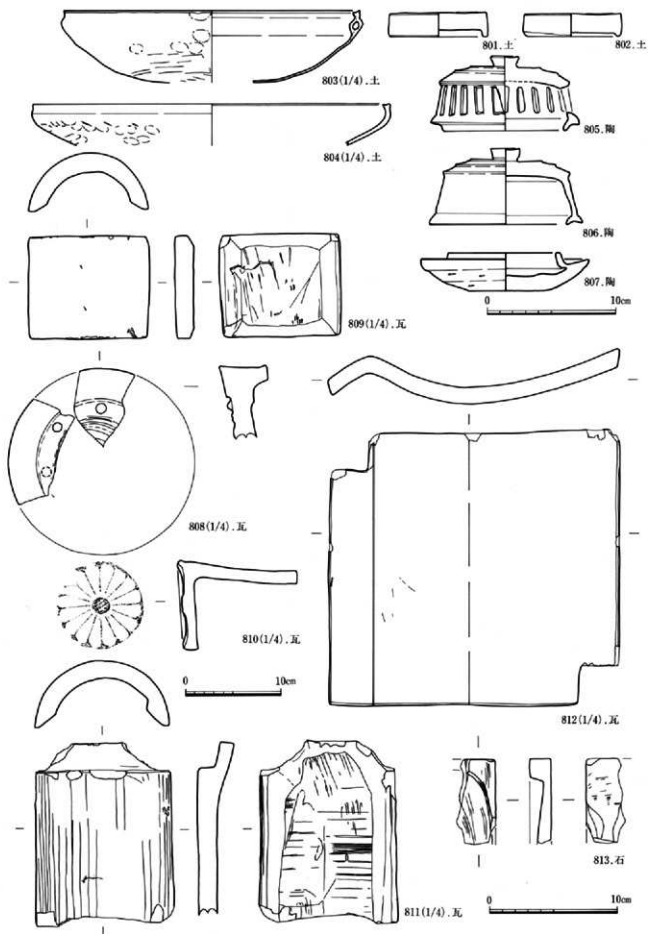
第83図 SK318出土遺物実測図③ (749は1/4、その他は1/3)



第84图 SK318出土文物实例图④



第85图 SK318出土文物实测图⑤



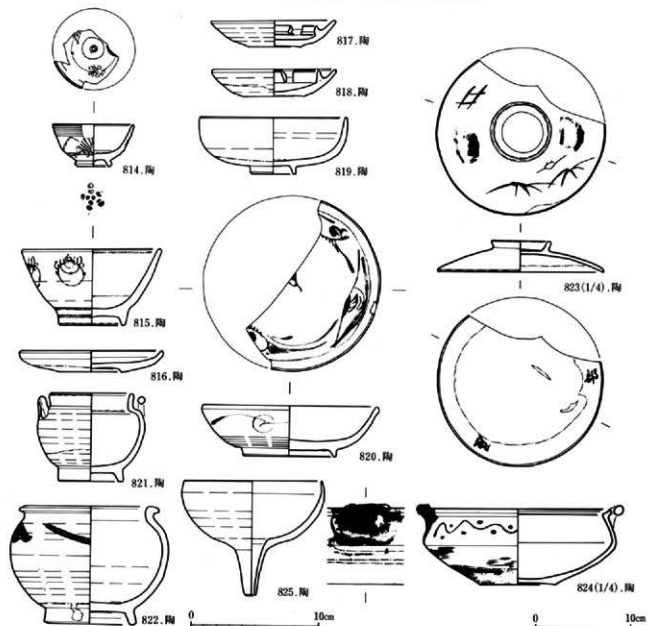
第86図 SK318出土遺物実測図④ (803・804・808～812は1/4、その他は1/3)

図録No.	遺物No.	原産地	高地・材質	器種名	器形1	器形2	輪軸	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No.	
E-723	SK318	1	瀬戸	1	2	1	-	-	5.60	9.20	3.40	-	呉須絵, 18c後	E-723	
E-724	SK318	1	瀬戸・美濃	1	2	1	-	-	4.70	11.00	4.10	-	口縁部鉄輪流し, 18c	E-724	
E-725	SK318	1	美濃	1	2	1	-	-	6.70	10.10	4.00	11.40	18c	E-725	
E-726	SK318	1	美濃	1	2	1	-	-	5.50	9.80	4.60	-	鉄輪・呉須絵文, 18c中～後	E-726	
E-727	SK318	1	瀬戸	1	3	1	-	-	5.50	(9.60)	3.60	-	鉄・呉須絵, 18c後	E-727	
E-728	SK318	1	美濃	1	2	1	-	-	7.60	11.10	4.20	-	鉄輪流し, 18c	E-728	
E-729	SK318	1	美濃	1	2	1	-	-	8.20	11.60	5.30	-	18c	E-729	
E-730	SK318	1	瀬戸	1	2	1	9	8.50	13.20	5.60	-	-	鉄輪流し, 18c	E-730	
E-731	SK318	1	瀬戸	1	2	1	-	-	6.10	12.40	5.20	-	18c後	E-731	
E-732	SK318	1	美濃	1	2	1	-	-	8.15	(13.00)	6.30	-	18c	E-732	
E-733	SK318	1	瀬戸	2	1	1	-	-	4.50	(11.20)	3.30	-	鉄・呉須絵, 18c後	E-733	
E-734	SK318	1	美濃	2	1	1	-	-	3.50	(11.90)	4.90	-	呉須絵, 18c中	E-734	
E-735	SK318	1	美濃	2	3	1	9	4.70	14.00	15.80	7.60	-	18c	E-735	
E-736	SK318	1	瀬戸	2	3	1	7	4.30	14.20	7.40	-	-	鉄絵, 18c～19c中	E-736	
E-737	SK318	1	美濃	2	3	1	-	-	3.65	(13.80)	9.80	5.20	-	18c	E-737
E-738	SK318	1	美濃	2	5	2	-	-	2.50	10.60	4.80	-	18c	E-738	
E-739	SK318	1	不明	2	5	2	6,7	2.35	10.70	4.50	-	-	-	E-739	
E-740	SK318	1	志戸呂?	2	4	2	7	1.80	7.30	3.20	9.70	-	-	E-740	
E-741	SK318	1	美濃	2	4	2	-	-	1.90	10.90	5.80	-	18c後	E-741	
E-742	SK318	1	美濃	3	9	1	-	-	2.90	5.40	3.40	-	18c後～19c中	E-742	
E-743	SK318	1	美濃	3	4	1	-	-	5.00	8.30	4.90	-	18c	E-743	
E-744	SK318	1	美濃	3	4	1	-	-	5.20	5.30	6.00	-	18c	E-744	
E-745	SK318	1	美濃	3	4	1	6,9	6.30	9.70	6.60	-	-	18c少	E-745	
E-746	SK318	1	関西?	3	5	1	-	-	3.50	12.50	12.30	-	上縁	E-746	
E-747	SK318	1	瀬戸(赤津)	3	3	6	2	-	13.10	31.50	12.90	-	18c後	E-747	
E-748	SK318	1	瀬戸(赤津)	3	3	10	2	-	13.20	32.00	12.70	-	18c	E-748	
E-749	SK318	1	瀬戸(赤津)	3	3	6	2	3,4	16.70	37.90	13.50	-	18c	E-749	
E-750	SK318	1	美濃	3	1	1	-	-	10.80	15.00	6.30	-	18c	E-750	
E-751	SK318	1	美濃	3	1	1	9	13.00	23.00	11.40	-	-	18c	E-751	
E-752	SK318	1	美濃	3	2	1	-	-	9.00	9.30	12.40	-	除刷, 銅線輪流し, 18c	E-752	
E-753	SK318	1	美濃	3	2	1	9	8.70	25.70	11.60	-	-	除刷, 18c中～19c後	E-753	
E-754	SK318	1	瀬戸<美濃	3	7	1	3	13.90	(19.20)	11.00	-	-	18c中～19c後	E-754	
E-755	SK318	1	瀬戸	3	6	1	2	14.25	29.00	24.40	-	-	石目込丸蓋・銅線輪流し, 18c後	E-755	
E-756	SK318	1	美濃	4	5	1	-	-	7.20	4.50	4.50	-	鉄輪流し, 18c少	E-756	
E-757	SK318	1	美濃	4	5	1	9	8.50	4.70	4.60	-	-	18c	E-757	
E-758	SK318	1	瀬戸	4	5	1,2	-	-	14.30	9.80	8.20	-	磨分付, 18c	E-758	
E-759	SK318	1	美濃	4	2	3	-	-	10.40	(6.40)	6.80	-	18c	E-759	
E-760	SK318	1	美濃	4	2	2	-	-	9.90	6.40	6.60	-	18c	E-760	
E-761	SK318	1	美濃	4	7	2	-	-	6.90	2.70	4.00	-	鉄輪流し, 18c	E-761	
E-762	SK318	1	美濃	4	7	2	-	-	10.00	4.70	7.00	-	18c	E-762	
E-763	SK318	1	瀬戸	7	2	1,2	2	6.60	3.30	5.20	-	-	磨分付, 18c	E-763	
E-764	SK318	1	瀬戸	7	4	1	-	-	2.20	3.90	2.10	-	18c後～19c中	E-764	
E-765	SK318	1	瀬戸	7	4	1	-	-	2.20	4.30	2.50	-	18c後～19c中	E-765	
E-766	SK318	1	瀬戸	7	4	2	-	-	5.20	5.40	4.70	-	18c	E-766	
E-767	SK318	1	美濃	7	4	2	-	-	5.50	12.20	6.00	13.20	18c	E-767	
E-768	SK318	1	瀬戸・美濃	7	10	1	-	-	2.30	8.40	-	-	18c	E-768	
E-769	SK318	1	美濃?	7	10	2	-	-	2.00	8.20	-	10.20	18c	E-769	
E-770	SK318	1	美濃?	7	10	2	-	-	4.60	7.40	-	10.00	18c後～19c中少	E-770	
E-771	SK318	1	瀬戸(赤津)	7	10	5	-	-	2.45	11.20	5.60	-	18c後～19c中少	E-771	
E-772	SK318	1	瀬戸	7	10	1	-	-	2.70	7.00	-	9.80	鉄・呉須絵, 18c後少	E-772	
E-773	SK318	1	瀬戸	7	10	1	9	2.20	6.60	-	9.20	9.50	鉄・呉須絵, 18c後～19c中	E-773	
E-774	SK318	1	美濃	7	10	1	-	-	1.50	9.30	-	9.50	18c～19c中	E-774	
E-775	SK318	1	瀬戸	7	1	2	-	-	7.55	(11.70)	7.20	-	18c	E-775	
E-776	SK318	1	不明	7	11	5	5,6,7	12.70	12.60	-	-	-	-	E-776	
E-777	SK318	1	瀬戸	7	7	2	2,9	10.75	17.80	12.60	-	-	18c中～18c後	E-777	
E-778	SK318	1	美濃	7	11	2	-	-	10.00	13.90	7.00	-	片口, 18c～19c中	E-778	
E-779	SK318	1	瀬戸	7	7	2	2	12.20	(15.00)	11.70	-	-	18c中～後	E-779	
E-780	SK318	1	瀬戸	7	7	2	-	-	10.80	15.00	13.20	-	18c中～後	E-780	
E-781	SK318	1	美濃	7	7	1	9	12.10	(26.80)	16.60	-	-	18c少	E-781	
E-782	SK318	1	肥前	2	1	1	-	-	4.60	12.50	4.60	12.60	宮崎風 鉄絵, 18c前頃	E-782	
E-783	SK318	1	肥前	1	7	3	-	-	1.50	2.30	1.20	-	紅龜	E-783	
E-784	SK318	1	肥前	1	7	7	-	-	1.80	(4.60)	1.80	-	紅龜	E-784	
E-785	SK318	1	肥前	1	2	3	-	-	4.00	(8.00)	3.80	-	18c前頃	E-785	
E-786	SK318	1	肥前	2	1	3	-	-	2.70	13.00	5.80	-	1640～1650	E-786	
E-787	SK318	1	肥前	7	10	3	-	-	1.85	5.50	-	6.40	18c第四半期～19c前	E-787	
E-788	SK318	1	京都	1	3	1	-	-	5.40	10.60	3.90	-	鉄絵	E-788	
E-789	SK318	1	京都	1	3	1	-	-	5.40	10.80	4.00	-	鉄絵	E-789	
E-790	SK318	1	美濃?	4	10	2	-	-	5.50	-	4.90	-	18c～19c中	E-790	
E-791	SK318	1	不明	7	1	1	2	7.90	5.80	5.40	-	-	-	E-791	

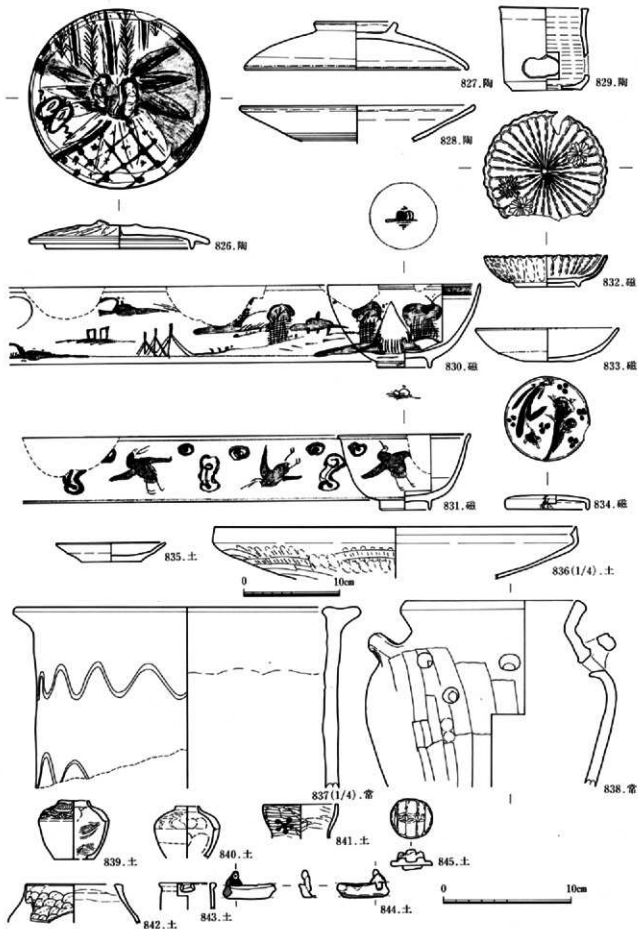
第32表 SK318出土遺物観察表① ※分類数値はV章3節参照

図版No	遺構No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	軸長	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No		
85-792	SK318	1	土器		2	1	5	-	1.70	(7.80)	3.80			E-792		
85-793	SK318	1	土器		2	1	5	-	1.90	(9.80)	4.70			E-793		
85-794	SK318	1	土器		2	1	5	7	2.10	(11.00)	5.40			E-794		
85-795	SK318	1	土器		2	1	5	7	2.50	10.60	5.20			E-795		
85-796	SK318	1	土器		2	1	5	6.7	4.40	19.70	10.00	20.00		E-796		
85-797	SK318	1	土器		2	1	5	7	4.10	(21.60)	(9.80)			E-797		
85-798	SK318	1	土器		8	1	5	2	6.60	(5.10)	4.00	5.70		E-798		
85-799	SK318	1	土器		8	1	5	-	8.20	6.20	5.50	7.40	期印「泉州野生 サカイ 御座所」	E-799		
85-800	SK318	1	土器		8	1	5	-	8.20	5.80	5.60	7.60	期印「泉康伊織」,18c中〜後	E-800		
86-801	SK318	1	土器		8	2	5	-	1.95	7.50	-	7.80		E-801		
86-802	SK318	1	土器		8	2	5	-	1.80	7.20	-	7.80		E-802		
86-803	SK318	1	土器		5	3	5	7		(38.60)	-		内耳	E-803		
86-804	SK318	1	土器		5	3	5	9	5.9	(37.20)	-			E-804		
86-805	SK318	1	美濃?		7	10	5	6.7	5.30	7.50	-	11.70	瓦器(大甬し用)	E-805		
86-806	SK318	1	美濃?		7	10	5	6.7	6.00	7.60	-	12.00	瓦器の受け皿に転用	E-806		
86-807	SK318	1	美濃?		7	11	5	6.7	3.50	8.60	-			E-807		
86-808	SK318	1	陶質瓦						径	-	全長	-	幅	軽丸瓦(緑釉)	E-808	
86-809	SK318	1	瓦						径	-	全長	10.80	幅	12.80	道具瓦	E-809
86-810	SK318	1	瓦						径	9.00	全長	12.60	幅	-	煉丸瓦	E-810
86-811	SK318	1	瓦						径	-	全長	-	幅	14.20	丸瓦	E-811
86-812	SK318	1	瓦						径	2.40	全長	28.60	幅	30.40	棧瓦	E-812
86-813	SK318	1	石							-	全長	-	幅	-	砥石	S-813

第33表 SK318出土遺物観察表② ※分類数値はV章3節参照



第37図 SK318出土遺物実測図① (823・824は1/4、その他は1/3)

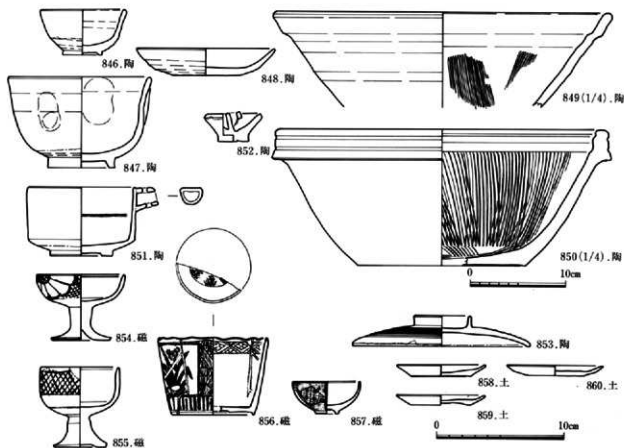


第88図 SK319出土遺物実測図② (836・837は1/4、その他は1/3)

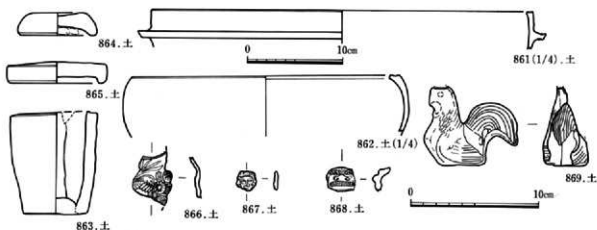
第11章 遺物

図版No	遺物No	周物	産地・材質	器種名	器口1	器口2	軸差	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No
87-814	SK319	2	不明	1	7	1	-	-	3.35	(6.20)	2.40	6.30	鉄鍍	E-814
87-815	SK319	2	美濃	1	5	1	-	-	6.10	10.60	5.00	10.90	呉須絵, 19c中	E-815
87-816	SK319	2	不明	2	1	2	-	-	1.70	11.00	4.90	11.30	-	E-816
87-817	SK319	2	美濃	2	4	2	-	-	2.10	6.80	4.00	9.80	18c後-19c中	E-817
87-818	SK319	2	美濃	2	4	1	-	-	2.10	7.00	4.70	9.30	18c後	E-818
87-819	SK319	2	不明	2	1	1	-	-	4.50	11.30	3.40	11.60	-	E-819
87-820	SK319	2	瀬戸	2	1	1	-	-	4.00	13.60	7.10	13.90	呉須絵, 19c中	E-820
87-821	SK319	2	瀬戸	4	2	1	-	-	7.00	6.20	5.00	8.40	19c	E-821
87-822	SK319	2	瀬戸	4	2	2	-	-	9.30	9.70	6.50	12.30	18c後-19c中	E-822
87-823	SK319	2	瀬戸・美濃	7	10	1,4	9	-	3.30	17.20	5.80	17.45	鐵部写し, 鉄絵, №824とセット, 幕末	E-823
87-824	SK319	2	瀬戸・美濃	7	9	1,4	6	-	8.40	18.70	7.90	(20.00)	鐵部写し, 鉄絵, №823とセット, 幕末	E-824
87-825	SK319	2	美濃	7	11	2	-	-	9.10	(10.00)	-	11.10	瀬戸, 18c後-19c中	E-825
88-826	SK319	2	瀬戸	7	10	1,4	-	-	-	11.40	-	14.20	鐵部写し, 鉄絵, 18c後-19c中	E-826
88-827	SK319	2	瀬戸	7	10	1	-	-	3.80	17.40	-	17.60	№828とセット, 18c後-19c中	E-827
88-828	SK319	2	瀬戸	3	8	1	-	-	-	(18.10)	-	18.50	№827とセット, 18c後-19c中	E-828
88-829	SK319	2	不明	3	4	5	-	-	6.65	6.80	5.40	-	-	E-829
88-830	SK319	2	瀬戸・美濃	1	2	3	-	-	6.90	11.90	4.20	-	1820-幕末, 19c中	E-830
88-831	SK319	2	関西系	2	1	7	-	-	6.90	10.30	3.80	-	編刺, 幕末-明治初, 19c中	E-831
88-832	SK319	2	関西系?	1	2	3	-	-	2.60	11.20	3.50	-	1820-1860	E-832
88-833	SK319	2	不明	2	5	7	7	-	2.50	9.60	4.90	-	灯明皿, 19c	E-833
88-834	SK319	2	肥前・関西系?	7	10	3	-	-	1.10	6.90	-	-	19c初-幕末	E-834
88-835	SK319	2	土器	2	1	5	-	-	1.50	(8.50)	4.60	-	-	E-835
88-836	SK319	2	土器	5	3	5	6	-	-	(37.90)	-	-	-	E-836
88-837	SK319	2	常滑	6		10	5,6	-	-	(35.80)	-	-	-	E-837
88-838	SK319	2	常滑	7		10	5,6	-	-	18.00	-	-	-	E-838
88-839	SK319	2											第39表参照	E-839
88-840	SK319	2											第39表参照	E-840
88-841	SK319	2											第39表参照	E-841
88-842	SK319	2											第39表参照	E-842
88-843	SK319	2											第39表参照	E-843
88-844	SK319	2											第39表参照	E-844
88-845	SK319	2											第39表参照	E-845

第34表 SK319出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照



第89図 SK11出土遺物実測図① (849・850は1/4, その他は1/3)



第90図 SK11出土遺物実測図② (861・862は1/4、その他は1/3)

図版No	遺構No	層数	産地・材質	器種名	器形1	器形2	輪高	使用痕	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	備考	登録No	
89-846	SX11	2	瀬戸		1	7		1	-	3.60	6.50	3.00	17cか	E-846	
89-847	SX11	2	瀬戸		1	2		1	-	7.20	11.00	5.30	舟形形碗, 18cか	E-847	
89-848	SX11	2	美濃		2	5		2	-	2.10	10.80	4.90	18c	E-848	
89-849	SX11	2	瀬戸		3	3	8	2	4	-	(35.00)	-		E-849	
89-850	SX11	2	堺		3	3	9	5	4	14.40	(34.00)	8.80	18c後～19c前	E-850	
89-851	SX11	2	美濃		7	3		1	3	5.40	(8.20)	4.80	18c～19c	E-851	
89-852	SX11	2	瀬戸		7	4		1	-	2.20	4.20	2.40	18c後～19c中	E-852	
89-853	SX11	2	美濃		7	10		1	-	2.40	13.80	4.40	18c後～19c中	E-853	
89-854	SX11	2	瀬戸		1	6		3	-	5.20	6.80	4.50	6.90	1780～19c前	E-854
89-855	SX11	2	肥前系		1	6		3	-	6.30	(6.00)	4.60	6.20	18c第四四半期～19c	E-855
89-856	SX11	2	肥前		1	8		3	1	6.10	8.40	6.40	8.60	ソノノ猪口, 18c後～19c初	E-856
89-857	SX11	2	肥前(有田)		1	7		7	-	2.60	5.20	1.70	5.30	上段, 18c後～19c前	E-857
89-858	SX11	2	土器		2	1		5	7	0.90	(7.00)	4.80		E-858	
89-859	SX11	2	土器		2	1		5	7	0.80	(7.00)	4.60		E-859	
89-860	SX11	2	土器		2	1		5	-	0.80	(7.60)	4.40		E-860	
90-861	SX11	2	土器		5	1		5	-	4.00	(40.00)	-		E-861	
90-862	SX11	2	土器		5	3		5	6	4.80	(21.00)	-		E-862	
90-863	SX11	2	土器		8	1		5	2	8.15	5.60	4.90	6.80	E-863	
90-864	SX11	2	土器		8	2		5	-	1.80	5.80	-	6.20	E-864	
90-865	SX11	2	土器		8	2		5	-	1.70	7.20	-	7.85	E-865	
90-866	SX11	2		人形									第39表参照	E-866	
90-867	SX11	2		人形									第39表参照	E-867	
90-868	SX11	2		人形									第39表参照	E-868	
90-869	SX11	2		人形									第39表参照	E-869	

第35表 SX11出土遺物観察表 ※分類数値はV章3節参照

2 その他の遺物

(1) 人形・玩具類（第92～94図及び各一括出土遺構遺物図版）

本調査地点で出土した人形・玩具類は、総数382（546）点である。数値は識別可能な個体数、()内は接合前破片数である（以下同じ）。その内遺構からの出土は105（142）点で全体の3割近くを占めている。材質は素焼及び鉛釉を施した土製品を主とするが、一部に陶製、磁製品も含まれる。種別は人形、ミニチュアの他、芥子面、首人形、面、鈴、碁石状土製品があった（第36表）。以下人形・玩具類の出土内容について種別毎に説明を加えることとする。

人形は272（401）点出土し、全体の7割以上を占めている。形状には神に類するもの、人物、動物の3種類がある。但し人形の4割は形状不明の破片であった。神に類するものとしては、天神、恵比須、大黒、福助があるが、天神の4点を最高として各1、2点ずつしかない。人物では各種の童子がもっとも多く、その他に唐子、子守、虚無僧、釣人、相撲組み、婦人などがあつた。動物では猿、馬、鹿、稲荷狐、犬、猫、鶏、鳩、雀、鷹、鴛鴦、木鳥、亀、魚、金魚、蛙などがある。この内鶏が22点で、全体的に鳥類が多い。鶏の次に多いのは12点の馬で、この内11点は912と同形のものである。但し馬は細片が多く、これ以外には同形のもの多数出土する傾向はない。なお、422・919・920・941は浮き人形、883は笛になっている。

ミニチュアには器物形と建造物形の2種類がある。器物形には碗、皿、鉢、摺鉢、土鍋、土瓶、鉄瓶、鉄釜、壺、徳利、壺、風炉、こんろ、くど、硯、太鼓などがあつた。947は楽茶碗である。口縁をやや波打たせ、高台裏に多数の刺突痕が付けられている。948は素焼の摺鉢で、瀬戸美濃製品を模倣したものと思われる。183は陶製の鍋であるが、錆釉を全面に施し、底部にへそ状の突起が表現してあることから鉄鍋を模した可能性が考えられる。建造物形には橋、舟、塔、家、灯籠があつたが、舟が4点、灯籠、橋が3点で量的に少ない。

芥子面（けしめん）とは、型成形で片面のみ立体的に抜き出した、極小型の土製品である。屋敷地2から3点出土している。形状は867・893が人面、894が大黒全身像である。両者とも「芥子面」と称されるものにあたるかどうかには問題があるが、他の人形とは区別してとりあえずこの名称を使用することとする。

首人形は939が1点のみ出土している。頭部のみを表裏とも表現し、棒の先に取り付けるための孔が開けられている。形状は剃髪の老人であることから、西行と思われる。

面は938の狐面が1点のみ出土した。前後の型で粘土をプレスして成形されている。裏側の土手状部分に穿孔しているが、孔は貫通していない。

鈴は3点出土しているが、その内1点は玉で、もう1点は近世の遺構から出土しているが形態上戦国時代に属する可能性があり、実質的には895の1点しかない。

碁石状土製品は3点出土した。いずれも425と胎土、形態、大きさとも同じで、表面に指圧痕等の調整痕は見られない。また、彩色の痕も認められない。

遺構の共伴遺物によると、本調査地点出土の人形・玩具類の出現時期は18世紀後半から

である。18世紀前半までの遺構からは、特殊な例外を除いて人形・玩具類は出土せず、18世紀後半の遺構から、まとまって出土できるようになることが確認される。18世紀前半以前の遺物としては、S K313出土の182の鉢？と183の鉄鍋のミニチュアがある。但しこれらは形状も特殊で、玩具かどうかということ自体問題があると思われる。他に17世紀前半のS D603からは941の陶製の魚が出土している。

大きさについては、多くが15cm以下の中・小型品である。大型のものでは872の福助らしき人物像と、881の猫、904の人物脚部、950の舟があるが、他には形状の判断できるものはない。なお、904はおそらく籠に掛けた童子の左足部分と思われる。

種別については、人形が圧倒的に多くミニチュアはその3分の1程度である。ただし施釉品についてはミニチュアが人形の3倍となっている。

遺構出土のものについては、最も出土数の多いのはS X11の23 (30) 点であり、以下S K320の18 (33) 点、S K62の11 (16) 点、S K319の7 (14) 点と続き、その他の遺構では4点以下の出土しかない。ただしS X11・S K320においては形状不明の人形の破片が多く、ある程度形の復元できるものは図示した限りである。従って、本調査地点では人形・玩具類を多量に出土する遺構は存在しない。注目されるのは上記の遺構がすべて屋敷地2に属するもので、屋敷地1・屋敷地3では人形・玩具類の遺構からの出土が更に少なくなるということである。また、陶磁器全体の出土量が大きければ人形・玩具類も一定量出土する、という関係は成り立たない。三の丸遺跡愛知県警本部地点でも指摘されたように、本調査地点でも人形・玩具類の出土には遺構による偏りがあることが確認できる。調査区西辺(屋敷地1)の、幕末期の遺物が出土する巨大な廃棄土坑S K312・318では、陶磁器カウント数がそれぞれ千点を越えているが、人形・玩具類は1、2点の細片以外殆ど出土していない。また、屋敷地2で隣接する、幕末期の遺物を出土する廃棄土坑S K316・319は、それぞれ104点と183点の陶磁器をカウントしており、器種の内容にも特に差は見られないが、人形・玩具類の出土はS K319が7 (14) 点であるのに対し、S K316はわずか1 (1) 点であった。このことを、遺構外出土遺物を含めて出土地点毎に見てみると、人形・玩具類出土の空間的偏りが明瞭に現れる(第37表・第91図)。屋敷地1における出土数は19 (22) 点で、全体のわずか5 (4) %である。人形は941の陶製の魚と図示しなかった磁製の稲荷狐以外、形状の復元できるものは殆ど出土せず、ミニチュアも9点で、しかも940の磯やススの付着した鉄釜など実用品の疑いがあるもの以外は、蓋と碗の2点のみである。これに対し、屋敷地2では163 (271) 点、屋敷地3では122 (154) 点が出土しており、それぞれ全体の43 (50) %・32 (28) %を占めている。特に出土が集中したのは屋敷地2の東辺(北側調査区)、及び屋敷地3の庭園遺構のある位置と南側の屋敷地付近であった。屋敷地1での人形・玩具類の空白については、調査区西辺において近代の擾乱が激しく、上面の遺構が殆ど破壊されてしまった可能性も考慮する必要があるが、屋敷地1が1700年前後にその南側の渡邊半蔵の屋敷地に添地として付け加えられ、調査地点が屋敷表の更に裏にあたる空間であった、という事情もある程度関係しているものと思われる。本調査地点に

見られる人形・玩具類の出土状況は、その場の空間利用、廃棄のあり方の一端を反映したものと推定される。

文字・記号のあるものは7点あった。墨書があるものは879の相撲取組み、907の釣人、437の鍋、928の鉢である。879の一方の人物の背中には「□川」、907の底部には「十四」と書かれている。刻印のあるものは949のこんろのほかに図示しなかった蓋がある。こんろの底部には「清水」の崩し字と判読不明のもう一種の刻印が押されている。また、886の鴛鴦の底部には亀甲枠に「亀」の字の浮印がある。この紋は欽古堂亀祐とその子孫が使用したことが知られている。欽古堂亀祐（1765～1837）は京焼の陶工であるが、伏見街道沿いの人形・焼物を売る店「丹波屋」に生まれ、伏見人形の原型も製作したと伝えられている。浮印であることから、丹波屋のものとするれば幕末期の3代目亀助以降のものと考えられる。

最後に本調査地点における人形・玩具類の特徴について簡単にまとめておく。

- ① 人形・玩具類の全体の出土数は、これまで本埋蔵文化財センターが調査した名古屋城三の丸遺跡の各調査地点と比較すると少ない(第38表)。人形・玩具類のカウントを行った家庭・簡易裁判所合同庁舎地点、愛知県警本部地点と比べると、本調査地点は単位面積当たりの出土量で3分の1である。ただし、近郊の宿場町であった清洲城下町遺跡との比較では、遺物出土量の最も多かった本町地区に対してもその4倍の出土量がある。
- ② 人形・玩具類出現の時期は18世紀後半からである。
- ③ 人形・玩具類の出土数には空間的な偏りが認められる。
- ④ 人形では、童子座像(875)、馬(912)、鳩(885)、鷹、雀(923・924)、鶏(946)、猫などこれまでの三の丸遺跡の調査で複数以上出土する傾向のある形のもの、本調査地点においても一通り出土しているが、同じ形のもの多数出土することは殆どなく、形状は様々である。
- ⑤ 円板状の「泥面子」は、名古屋城下の遺跡および清洲城下町遺跡においてはこれまで1点も出土していないが、本調査地点においてもまったく出土しない。

参考文献

- 松井かおる 1991 『型抜き遊びについて』 『江戸在地系土器の研究Ⅰ』 江戸在地系土器研究会
 広田長三郎 1972 『欽古堂亀祐』 限定出版(京都)
 金子健一編 1992 『名古屋城三の丸遺跡Ⅲ』 愛知県埋蔵文化財センター
 遠藤才文編 1993 『名古屋城三の丸遺跡Ⅳ』 愛知県埋蔵文化財センター
 鈴木正貴編 1995 『清洲城下町遺跡Ⅴ』 愛知県埋蔵文化財センター

	土製品 (無釉)		土製品 (施釉)		陶製品		磁製品		合	
	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数
人形	246	372	16	18	5	5	5	6	272	401
ミニチュア (器物)	32	51	32	38	8	13			72	102
ミニチュア (建造物)			14	17					14	17
芥子園	4	4							4	4
盲人形	1	1							1	1
面	1	1							1	1
鈴	3	3							3	3
礫石状土製品	3	3							3	3
不明	7	9	4	4	1	1			12	14
合計	297	444	66	77	14	19	5	6	382	546

第36表 人形・玩具類 種別・材質別出土数

	原形地1				原形地2				不明				合計			
	遺構内 個体数	遺構外 破片数	遺構内 個体数	遺構外 破片数	遺構内 個体数	遺構外 破片数	遺構内 個体数	遺構外 破片数	遺構内 個体数	遺構外 破片数	遺構内 個体数	遺構外 破片数	遺構内 個体数	遺構外 破片数	遺構内 個体数	遺構外 破片数
人形 ミニチュア(動物)	4	4	3	4	43	65	79	142	17	17	68	97	1	1	57	71
ミニチュア(構造物)			3	3	13	29	11	21	4	5	17	19			14	27
芥子虫					3	4	2	2			6	6			3	3
百人形					2	2	1	1			1	1			2	2
馬											1	1			1	1
馬石					2	2			1	1					3	3
粘土製品			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1
不明			3	4							2	2			3	4
小計	10	11	9	11	68	103	95	168	26	27	96	127	1	1	77	96
合計	個体数 19	破片数 22	個体数 163	破片数 271	個体数 122	破片数 154	個体数 78	破片数 99	個体数 367	破片数 505						

第37表 人形・玩具類 屋敷地別出土数

調査地点(報告書名)	人形・玩具類 出土個体数		調査面積 概数(m ²)		1㎡当り 出土数		人形・玩具類 出土個体数 比率		陶磁器 出土個体数 比率	
	A	B	A	B	A/B	A/B				
a. 名古屋城三の丸遺跡跡出	547	2800	0.82	0.338	626	5.96			32161	1.34
b. 名古屋城三の丸遺跡跡出	1065	3600	1.06	0.298	838	8.53			24026	1.00
c. 名古屋城三の丸遺跡跡出	382	3400	1.12	0.105	105	1.00				
d. a+b+c	1994	9800	0.244	1669						
清洲城下町遺跡V(本町地区)	234	6537	1.93	0.030	108	1.03	18707	0.78		

第38表 人形玩具類 調査地点別出土数の比較

*比率は本調査地点を1とした場合

%	遺構番号	グリッド	材質	種類	形状	成形法	物・彩色	加工色/釉薬/焼成	高	幅	奥行	備考
182	SK313	ⅡA19b	土製	ミニチュア	餅?	ろくろ?	白粉(透明/全面、緑/底)	白色	2.5	6.4	3.0	
183	SK313	ⅡA19b	陶製	ミニチュア	餅類?	ろくろ+手(両耳、3足)	白粉(全面)	黄色/黄	2.3	1.9	2.7	口縁欠損部に磨行着
229	SD101	ⅣB4	土製	人形?	馬	手捏?	白粉(透明、茶目、顔面部)	黄色/白	2.9	1.6	0.6	口縁欠損
420	SK200	ⅡB19de	陶製	ミニチュア	手組	ろくろ+手(両耳、3足)	白粉、黄粉	黄色/白	2.7	2.7	3.1	
421	SK200	ⅡB19de	土製	ミニチュア	餅類	型/上下	白粉(透明、緑)	黄色/白	2.7	2.4	1.8	口は貫通後遺る
422	SK200	ⅡB19de	土製	人形?	金魚	型/上下 中央 耳孔1.1 歯手	白粉	黄色/白	3.9	5.4	8.8	
423	SK200	ⅡB19de	土製	人形	菓子	型/前後 中央 内外面空母	白粉	淡黄色	2.8	2.3	1.3	裏面に残存
424	SK200	ⅡB19de	陶製	ミニチュア	蓋	ろくろ?	白粉/全面	黄色/白	0.7	2.0	2.0	
425	SK200	ⅡB19de	土製	蓋石?	手捏?		黄色	0.7	2.0	2.0	足形	
427	SK202	ⅡB19de	陶製	ミニチュア	手組	ろくろ+手(両耳、3足)	白粉	黄色/白	3.5	6.7	3.3	底部磨着?
428	SK202	ⅡB19de	土製	人形	馬	手捏?	白粉、黄粉	黄色/白	2.7	1.3	0.6	口縁欠損
809	SK319	ⅡA19e	土製	ミニチュア	土瓶	型/上下	白粉、黄粉	黄色/白	4.6	2.4	3.0	
810	SK319	ⅡA19e	土製	ミニチュア	土瓶	型/上下	白粉(透明)、白土	黄色/白	2.4	1.8	1.8	
841	SK319	ⅡA19e	土製	ミニチュア?	動物	ろくろ?+内面ヘラケツリ	白粉(透明、緑、黄、赤)	黄色/白	2.2	2.8	1.6	顔面部、口は白濁
842	SK319	ⅡA19e	土製	ミニチュア?	動物	型/半面(内面)?	白粉(透明)	黄色/白	2.7	5.6	2.8	
843	SK319	ⅡA19e	土製	ミニチュア	ころも	ろくろ+手(ツメケツリ)?	白粉	2.2	1.4	1.4		
844	SK319	ⅡA19e	土製	ミニチュア	舟+人	型/左右+手(人脚)	白粉(透明、黄、赤、黒、青、灰)	白色/黄	2.7	1.0	2.1	舟内面に無物?
845	SK319	ⅡA19e	土製	ミニチュア	舟	型/半面(手返し)?	白粉	1.6	3.2	1.9	足形	
886	SK11	ⅡB19d	土製	人形	人物/左手	型/前後 中央	淡黄色	2.8	2.3	1.1	2.1	
887	SK11	ⅡB19d	土製	人形	人物/左手	型/前後 中央	淡黄色	1.5	1.6	0.4	足形	
888	SK11	ⅡB19d	土製	人形	獅子頭?	型/前後 中央	淡黄色	2.9	3.2	1.4	1.4	
889	SK11	ⅡB19d	土製	人形	馬	型/左右 中央 赤目	白粉/全面	2.6	2.5	7.4	外周黒色付着物	
870	検出1-1	ⅡB19e	土製	人形	大神	型/前後 乳輪	白粉	2.9	3.1	2.0	2.0	
871	検出1-2	ⅡB19de	土製	人形	慈悲形	型/前後 中央	白粉(透明、緑、赤、灰、茶葉)	白色	2.3	2.3	2.3	
872	検出1-1	ⅡB19d	土製	人形	仏形?	型/前後 中央 赤目 歯手	白粉	2.2	2.4	1.1	1.5	
873	芝草トレンチ	ⅡB19e	土製	ミニチュア	馬	型/前後 中央 乳輪	白粉	5.1	4.5	7.6	足形	
874	芝草トレンチ	ⅡB19e	土製	人形	大神	型/前後 中央 乳輪	白粉	5.6	3.9	2.9	足形	
875	SK59	ⅡB19f	土製	ミニチュア	童子/座敷	型/前後(側面、顔面部作り) 中央	淡黄色/黄	2.4	2.0	2.3	1.3	
876	検出1-1	ⅡB19e	土製	人形	菓子	型/前後 中央 内外面空母	淡黄色	2.6	2.5	2.3	4.4	足形人形?右側残存
877	検出1-1	ⅡB19e	土製	人形	菓子	型/前後 中央	淡黄色	2.2	2.6	2.1	2.1	背周縁面に残存
878	検出1-1	ⅡB19e	土製	人形	慈悲形	型/前後 中央	白粉(透明、緑、赤、灰、茶葉)	白色	2.7	2.4	2.2	2.7
879	検出1-4	ⅣB5b	土製	人形	細形仏形	手捏?	白粉/全面	2.5	2.1	2.5	2.5	磨着(口)
880	検出1-1	ⅡB19e	土製	人形	馬	手捏?	白粉/全面	1.7	5.8	7.7	足形	
881	検出1-1	ⅡB19e	土製	ミニチュア	馬	型/前後 中央 赤目	白粉	5.5	4.4	3.9	足形	
882	検出1-2	ⅡA19e	土製	人形	馬	型/半面 裏面オエ	白粉(緑)	1.4	2.0	2.6	6.6	
883	芝草トレンチ	ⅡB19e	土製	人形	童子	手捏? 中央 耳孔0.3-0.15	白粉(透明/全面、緑)	黄色/白	2.0	2.2	6.2	足形
884	検出1-1	ⅡB19e	土製	人形	馬	型/左右 中央 赤目	白粉/全面	2.3	2.1	2.4	1.1	
885	検出1-3	ⅡB19e	土製	人形	馬	型/左右 中央	白色	7.4	2.2	2.7	7.7	
886	検出1-3	ⅡB19e	土製	人形	馬	型/左右 中央 赤目 歯手	黄色/白	5.7	2.1	2.7	1.1	背周縁面に「馬」字
887	芝草トレンチ	ⅡB19e	土製	ミニチュア	馬	型/半面 高台付 外面磨着?	彩色(淡黄、淡赤、淡青、淡紫)	黄色/白	1.7	5.8	7.7	足形
888	芝草トレンチ	ⅡB19e	土製	ミニチュア	馬	型/半面 高台付 外面磨着?	彩色(淡黄、淡赤、淡青、淡紫)	黄色/白	1.7	5.8	7.7	足形
889	芝草トレンチ	ⅡB19e	陶製	ミニチュア	馬	型/前後	透明、白土	黄色/白	3.6	0.7	2.7	足形
890	芝草トレンチ	ⅡB19e	陶製	ミニチュア	ころも	手捏?	透明	2.6	6.8	1.8	1.8	
891	検出1-1	ⅡB19e	土製	ミニチュア?	馬形?	ろくろ+手(ツメケツリ)? 乳孔6	彩色(赤紫)	白色/黄	0.5	3.1	1.1	
892	検出1-1	ⅡB19d	土製	ミニチュア?	動物	型/半面(顔部) 菓子?	白粉/全面	2.3	2.0	2.2	2.7	
893	検出1-1	ⅡB19e	土製	菓子	人物	型/半面 裏面オエ	黄色	1.1	1.6	0.6	足形	
894	SK62	ⅡB19eJde	土製	菓子類	天照	型/半面 顔部ヘラケツリ磨とし	淡黄色	1.3	1.1	0.4	足形	
895	SK112	ⅡB19e	土製	馬	手捏?	緑、赤、茶	黄赤-灰色	3.6	2.9	2.9		

第39表 人形・玩具類観察表①

- *成形面の「乳」の後には、乳直径×深さ(cm単位)を数字のみ記載する。
- *法量の単位はcmである。
- *器物形ミニチュアの法量は、「幅」欄に口徑を、「奥行」欄に底徑を記載する。



第91図 人形・ミニチュア出土分布 (格子は5×5mの小グリッド)

No.	遺物番号	グリッド	材質	種別	形状	成形法	釉・彩色	粘土色/胎色/焼成	高	幅	奥行	備考
896	輸出-II-4	IVB2n	土製	人形	天神	型/前後 長丸形 25×1.9		淡褐色	3.1	2.4	1.1	鉢口
897	輸出-I-3	IVB3	土製	人形	天神	型/前後 長丸形 25×1.8.6.5×2.8		黄白色	焼2.8	3.0	1.5	
898	SK301	IVB4	土製	人形	天神	型/前後 長丸形 3.5×2.1		黄白色	焼2.7	2.9	1.4	笠口
899	輸出-II-2	IVB11	土製	人形	扁鈴	型/前後 中央	彩色(白)	灰褐色	焼2.8	焼3.0	焼3.3	
900	輸出-I-2	IVB1	土製	人形	扁鈴	型/前後 中央 焼丸0.1 内面磨削	彩色(白/黒/赤/黄/青/紫/緑/赤/黒/灰/赤/黒/下灰)	褐色	2.4	2.1	1.7	
901	SK20	IVB1	土製	人形	童子	型/前後 中央	胎釉(透明/茶/黄/白)	黄白色	焼2.2	焼1.8	焼1.6	
902	輸出-I-3	IVB4	土製	人形	童子	型/前後 中央 長丸形 3.5×手 蓋手		黄白→淡褐色	焼9.9	焼5.3	5.3	
903	本堂トレンチ	IVB1	土製	人形	童子	型/前後 中央 布目		黄白色/赤	焼4.6	焼3.2	焼1.5	笠口
904	輸出-II-2	IVB11	土製	人形	人物/左足	型/前後 中央 内外面磨削		淡褐色	焼4.9	焼5.9	焼1.5	
905	輸出-II-6	IVB11	土製	人形	婦人	手+型/半面(胎)		褐色/黒	6.8	3.0	焼2.7	
906	輸出-II-2	IVB11	土製	人形	童子	型/前後 中央 胎線結		黄白色/黒/赤	焼3.3	焼2.0	焼2.0	
907	輸出-I-3	IVB4	土製	人形	人的	型/前後 中央 丸無	胎釉(白/赤/黒/黄/青/紫/緑/赤/黒/灰/赤/黒/下灰)	黄白色/緑/紫	5.5	5.6	3.6	足形、腰着「十圓」
908	輸出-I-2	IVB4	土製	人形	人的	型/前後 中央	彩色(黒/紫/赤)	白色	焼2.2	焼1.4	焼1.9	
909	輸出-I-1	IVB4g	磁製	人形	手風琴型	型/前後 中央	透明釉、上絵(赤/紫/黄/青/紫/緑/赤)	白色	焼3.3	焼1.6	焼2.3	
910	SK301	IVB4	土製	人形	(馬+人)	手+型/半面(胎)		黄白色/紫	焼6.4	焼3.1	焼3.9	
911	輸出-II-2	IVB11	土製	人形	童子	手+型/半面(胎)		黄白色	3.9	焼2.2	焼2.7	
912	輸出-II-6	IVB11	土製	人形	童子	型/前後 中央		黄白色/紫	焼3.2	焼1.1	焼1.7	
913	輸出-II-3	IVB3	土製	人形	童子	型/左右 長足長丸形 25×1.0		黄白色	2.9	1.8	焼1.4	
914	SK18	IVB4	土製	人形	狐or犬?	手捻り		淡褐色	焼2.7	焼2.2	焼1.5	
915	輸出-I-3	IVB4	土製	人形	狐?	手捻り		淡褐色	焼6.1	焼1.4	焼1.3	
916	SK219	IVB3	土製	人形	犬?	型/前後 中央 布目 蓋手		黄白色/赤	焼5.2	焼1.6	焼1.7	
917	輸出-II-3	IVB7	土製	人形	犬	手捻り		黄白色	焼2.3	焼3.3	焼1.2	
918	輸出-II-2	IVB11	土製	人形	童子	型/下 長脚長丸形 3×2.1		黄白色	1.2	2.8	4.8	足形、耳は中に貫通
919	輸出-II-1	IVB4g	磁製	人形/浮	金魚	型/上 中央	透明釉、上絵(赤/紫/黄/青/紫/緑/赤)	白色	焼3.5	焼2.9	焼2.7	
920	輸出-I-1	IVB4g	磁製	人形/浮	金魚	型/上 中央 胎丸0.65 布目 蓋手	透明釉、上絵(赤/紫)	白色	焼4.2	焼2.0	焼1.7	
921	輸出-I-1	IVB4	土製	人形	童子	型/前後 中央	透明釉/赤	淡褐色/赤	焼4.2	焼2.0	焼2.0	
922	輸出-II	IVB8	土製	人形	童子	型/左右 中央 蓋手		黄白色	焼6.7	焼2.1	焼2.2	
923	輸出-II-2	IVB11	土製	人形	童	手捻り 耳は突起		黄白色	3.9	2.1	4.9	
924	輸出-II-2	IVB11	土製	人形	童	手捻り 長丸形 6×1.5		淡褐色	5.0	焼2.9	焼2.2	
925	輸出-I-2	IVB4k	土製	人形	童子	型/左右 中央		淡褐色	焼4.3	焼2.0	焼2.5	
926	輸出-II-2	IVB10	土製	ミニチュア	馬	型/半面	胎釉(緑)	黄白/赤/紫	1.6	3.4	1.2	
927	輸出-II-4	IVB10	土製	ミニチュア	馬	型/半面	胎釉(透明/全釉/緑)	黄白/赤	1.7	6.0	3.9	
928	輸出-I-4	IVB4k	土製	ミニチュア	馬	型/半面	胎釉(緑)	黄白色	2.4	5.0	2.2	腰着腰着「口」
929	SK18	IVB4	土製	ミニチュア	馬	型/半面 高台張り	胎釉(透明/全釉/緑/紫/黄/青/紫/赤/黒)	黄白色	1.0	焼3.3	焼3.3	
930	輸出-I-3	IVB4	土製	ミニチュア	鹿	型/半面 裏ヘラケズリ	胎釉(透明/緑)	黄白色/赤	焼3.7			
931	SK301	IVB4	土製	ミニチュア	鹿	型/半面 裏ヘラケズリ	胎釉(緑)	黄白色	0.8	2.4		足形
932	輸出-I-3	IVB4	土製	ミニチュア	鹿	型/半面 裏ヘラケズリ	胎釉(透明/緑)	黄白色	0.8	2.8		足形
933	輸出-I-2	IVB10	土製	ミニチュア	鹿	型/半面 裏ヘラケズリ 外面磨削	胎釉(緑)	淡褐色	0.6	2.1	4.6	
934	輸出-II-4	IVB10	土製	ミニチュア	鹿	型/半面 裏ヘラケズリ	胎釉(透明/黄/緑)	黄白色/赤	焼3.4	焼3.3	焼4.7	
935	輸出-I-4	IVB1k	土製	ミニチュア	打鐘/鐘	型/前後 中央 胎線結	胎釉(透明/胎)	黄白色	焼3.5	焼2.2	焼1.9	
936	輸出-I-4	IVB1k	土製	ミニチュア	打鐘/鐘	型/前後 中央 胎線結	胎釉(透明/胎)	黄白色	焼3.0	焼2.2	焼1.5	
937	輸出-II	IVB3	土製	ミニチュア	童子	型/半面 裏部丸エ	胎釉(透明/胎/緑/紫/黄/青/紫/赤/黒)	黄白色	焼3.0	焼2.2	焼1.5	
938	輸出-II	IVB3	土製	ミニチュア	童子	型/内外面 長脚丸形 3×1.5		淡褐色/赤	焼4.9	焼1.3	焼1.1	
939	輸出-II-1	IVB3k	土製	面	風	型/前後 中央 胎丸形 2.3×1.1		褐色/黒	4.2	焼9.9	2.5	
940	輸出-II-6	IVB11	土製	人形	内行?	型/前後 中央 胎丸形 2×2.0		黄白色/赤	2.4	2.6	2.2	鉢口
941	輸出-I-2	IVASg	土製	ミニチュア	馬	型/半面	胎釉(緑)	黄白色	1.0	2.5	1.0	
942	SK603	IVASk	磁製	人形/浮	馬	型/左右+中央 丸無 蓋手	胎釉	黄白/赤/紫	1.9	焼1.1	6.8	下腹に黄土の垂り
943	輸出-I-4	IVB5	土製	ミニチュア	馬	型/左右 胎丸形 3×手 内外面磨削	胎釉(透明/赤)	黄白→黄褐色	焼3.5	焼2.2	焼1.9	
944	本堂トレンチ	IVASk	磁製	人形	馬	型/左右 胎丸形 3×手 内外面磨削	胎釉	灰色/黄/赤	3.6	2.0	焼1.0	
945	輸出-II-2	IVB10	土製	人形	童子	型/下 中央 内面磨削		淡褐色	焼0.0	4.7	焼5.6	
946	輸出-II	IVB3k	土製	人形	童子	型/左右 中央 蓋手 内外面磨削		黄白色	焼2.2	焼2.2	焼2.2	
947	輸出-I-4	IVB3g	土製	人形	童子	手捻り 長脚丸形		黄白色/赤	焼1.1	焼3.9	焼2.2	
947	トレンチ	IVB5	土製	ミニチュア	馬	型	胎釉(透明)	淡褐色	1.2	2.2	1.3	胎内新突起多数
948	輸出-I-4	IVB5	土製	ミニチュア	馬	型/半面	胎釉(透明)	黄白色/赤	3.1	8.4	2.4	
949	輸出-II-5	IVB10	土製	ミニチュア	馬	型/半面+胎丸形 3×手 胎丸形	胎釉(透明/全釉)	黄白色/赤	3.2	3.6	2.7	胎内新突起「方」(口)
950	輸出-II-1	IVB10	土製	ミニチュア	馬	型/半面 裏ナテ 蓋手	胎釉(透明/全釉)	黄白色/赤	焼3.5	焼4.0	焼1.1	

第40表 人形・玩具類観察表②

屋敷地 2

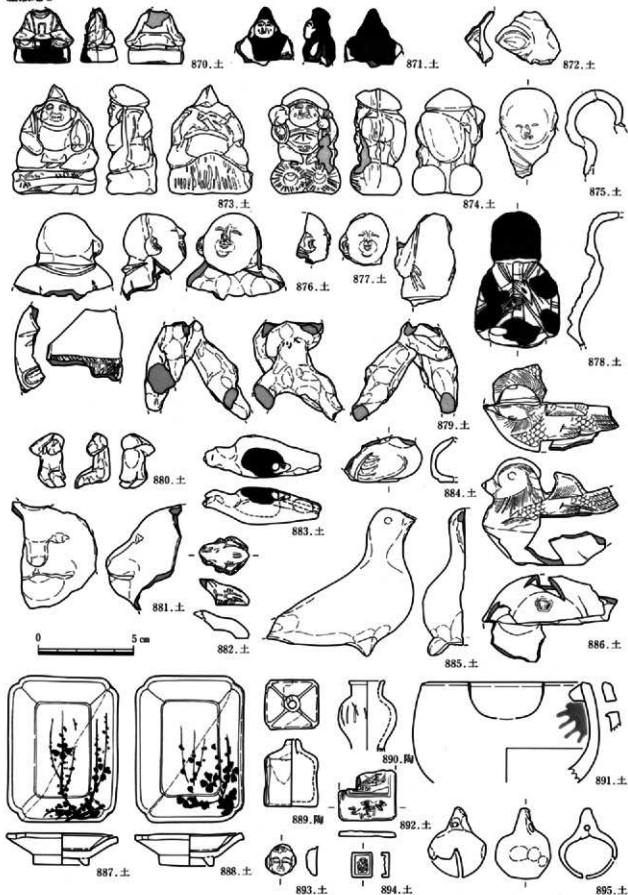
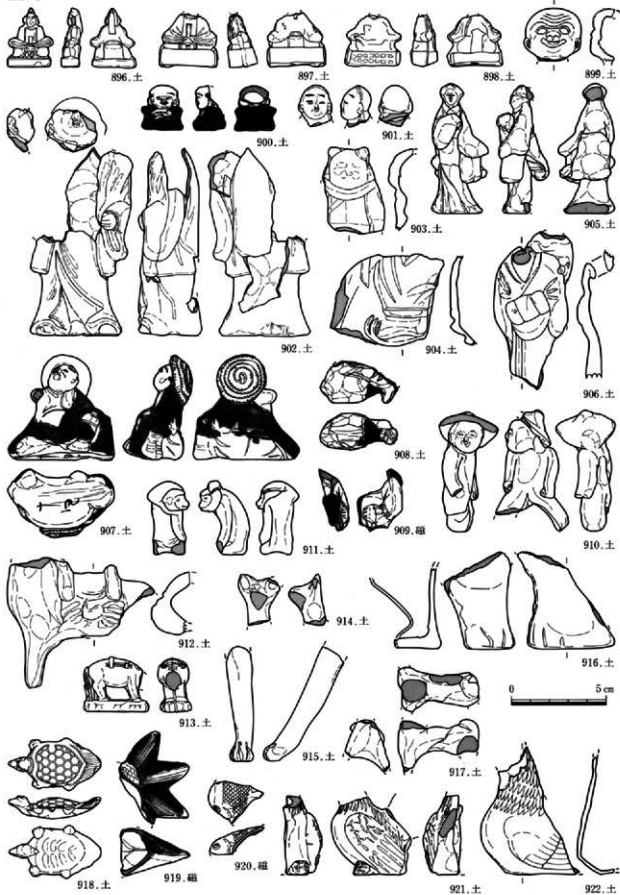


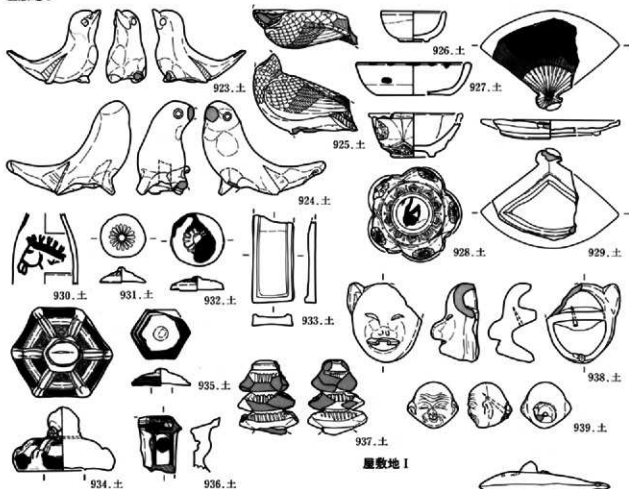
圖92 人形・玩具類実測図①

屋敷地 3

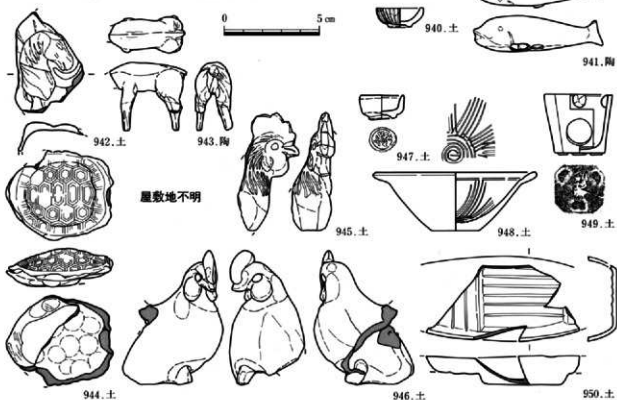


第93图 人形・玩具類実測图②

屋敷地 3



屋敷地 I



屋敷地不明

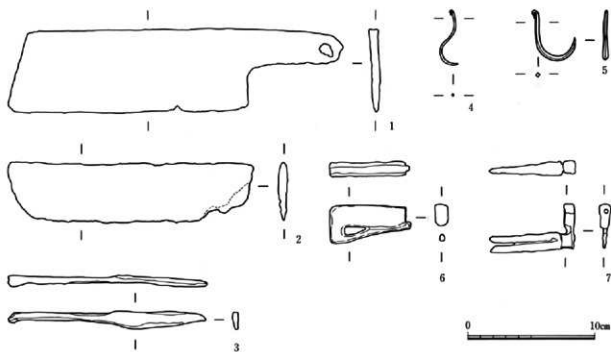
第94圖 人形・玩具類実測図③

(2) 金属製品

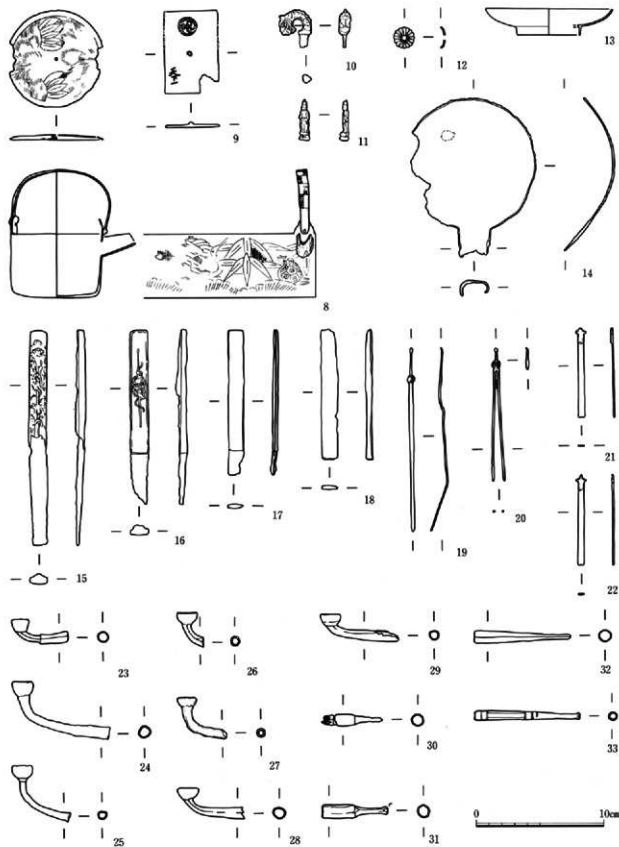
金属製品は、鉄、銅、真鍮、鉛等の材質のものが2971点出土したが、大部分が残存の悪い鉄製品であり、また遺構出土は943点のみである。S K 309・312・313・318・320などが金属製品を多く出土し、特にS K 318では216点を数え、中でも鉄釘が多くみられる。

1～7は鉄製品である。1・2は包丁と思われる刃物で、1の柄の先端には、持ち手を留めるためか両側に突起が出ている。3は用途不明の刀子状製品である。4・5は釣り針で、この他にも銅製のもの7点出土している。8以降は銅または真鍮製品であるが、緑青に覆われた状態での銅と真鍮の判別は困難であり、表面に金色の部分をもつもののみ真鍮製品とした。8は真鍮製の提で、蓋にも体部にも線刻で細かい文様が施されている。9も蓋で、「天下第一」の文字と巴紋が浮き彫りになっている。10は龍の首をモチーフとした飾り金具であるが、一部に赤色の付着物が残っており、元は赤色に塗られていたものと思われる。15～18は小柄で、柄の部分がいろいろな材質でつくられており、1点鍍金かと思われるもの(18)がある。23～33は煙管の雁首及び吸口で、17世紀前半から18世紀後半までの形のものが見られる。30には竹製のラウカ一部残っている。33は文様、形態から水口キセルと思われる。

銭貨は、鉄貨が7点、銅貨が200点、金貨が1点出土している。渡米銭は18点見られるが、模鑄銭の可能性もあり、34・43・47などは全く同じ残存形のものも1点出土していることから、切り加工されたものと思われる。48は文政一朱金である。これは文政7(1824)年に発行されたが、世評が悪く10年にも満たないうちに姿を消したとされるものである。金の質が悪く銀色に近い色である。49～53は古寛永、54～62は新寛永である。



第95図 金属製品実測図①



第96圖 金屬製品実例図②

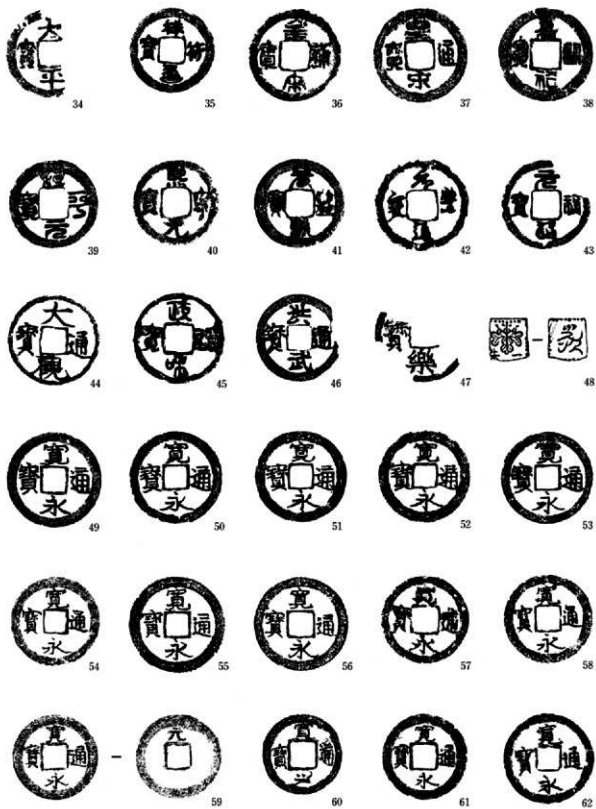


圖97 錢貨拓影圖(原寸)

図版No	遺構	種類	材質	法 量 (cm)			備 考	登録No
				法	量	径		
95-1	検出	包丁	鉄	全長(26.40)	刃長(19.00)	幅 6.50		M-1
95-2	SK701	包丁?	鉄	全長 -	刃長 -	幅 4.70		M-2
95-3	SK704	刀子状のもの	鉄	全長 15.60	刃長 5.65			M-3
95-4	検出	釣針	鋼	針高 4.35				M-4
95-5	検出	釣針	鋼	針高 4.80				M-5
95-6	SK702	鎌?	鉄	幅 6.00	横 3.00			M-6
95-7	SK702	伊金具?	鉄	幅 6.70	横 3.50			M-7
96-8	SD101	鏡	鋼	柄までの高さ 10.10	全長 9.70	口径 7.20		M-8
96-9	SK402	蓋	銅	蓋 高さ6.40	径 7.40			M-9
96-10	検出	御金具?	銅	幅 6.55	径 4.20	高さ 0.40	跡字 (「天ドー」)、家紋 (三ツ巴紋)	M-9
96-11	検出	御金具?	銅	全長 3.00	幅 2.60		赤色の付着物あり	M-10
96-12	SK309	建具金具	銅	全長1.60				M-11
96-13	SK744	銅皿	銅	径 1.10	孔径 0.35		飾り金具、中央に方形の穿孔あり	M-12
96-14	SK206	杓子	銅	器高 2.05	口径 9.95	底径 4.90		M-13
96-15	SD101	小柄	刃=鉄、柄=鉛合金?	全長(17.10)	柄長 9.45	幅 0.90		M-14
96-16	SK313	小柄	刃=鉄、柄=銅	全長(13.80)	柄長 9.75	幅 1.40		M-15
96-17	SK738	小柄	刃=鉄、柄=銅	全長(11.65)	柄長 6.95	幅 1.25		M-16
96-18	SK702	小柄	真鍮?	全長 -	柄長 10.30	幅 1.30	金鍍金?	M-17
96-19	SK011	かんざし	真鍮	全長 14.55	幅 0.30			M-18
96-20	検出	かんざし	真鍮	全長 10.55	幅 -			M-19
96-21	SK320	かんざし	真鍮	全長 -	幅 0.45			M-20
96-22	SK320	かんざし	真鍮	全長 -	幅 0.40			M-21
96-23	SK318	煙管(煙首)	真鍮	首長 -	大皿径 1.40	高さ 2.00		M-22
96-24	SD307	煙管(煙首)	銅	首長 7.70	大皿径 1.60	高さ 4.70		M-23
96-25	SD307	煙管(煙首)	銅	首長 4.60	大皿径 1.60	高さ 4.50		M-24
96-26	SK703	煙管(煙首)	銅	首長 -	大皿径 1.60	高さ 2.70		M-25
96-27	SD309	煙管(煙首)	銅	首長 3.90	大皿径 1.50	高さ 3.30		M-26
96-28	SK312	煙管(煙首)	銅	首長 -	大皿径 1.60	高さ 2.45		M-27
96-29	SK318	煙管(煙首)	銅	首長 6.10	大皿径 1.55	高さ 2.10		M-28
96-30	SK744	煙管(煙口)	銅	全長 -	最大径 0.95			M-29
96-31	SK318	煙管(煙口)	真鍮	全長 5.15	最大径 1.05			M-30
96-32	SK318	煙管(煙口)	真鍮	全長 7.60	最大径 0.90			M-31
96-33	検出	煙管(煙口)	真鍮	全長 8.40	最大径 0.75		水口キセル	M-32

第41表 金属製品観察表

図版No	遺構	種類	材質	法 量 (cm)			備 考	登録No
				法	量	径		
97-34	検出	大平通寶(銭貨)	銅	(2.30)	(0.60)	北宋銭 初鑄 976年 切り加工	M-34	
97-35	検出	祥符通寶(銭貨)	銅	2.25	0.60	北宋銭 初鑄 1008年	M-35	
97-36	検出	皇宋通寶(銭貨)	銅	2.55	0.70	北宋銭 初鑄 1039年	M-36	
97-37	検出	皇宋通寶(銭貨)	銅	2.50	0.65	北宋銭 初鑄 1039年	M-37	
97-38	SK702	嘉祐通寶(銭貨)	銅	2.50	0.70	北宋銭 初鑄 1056年	M-38	
97-39	検出	治平元泉(銭貨)	銅	2.35	0.70	北宋銭 初鑄 1064年	M-39	
97-40	検出	熙寧元泉(銭貨)	銅	2.25	0.75	北宋銭 初鑄 1068年	M-40	
97-41	SK702	元豊通寶(銭貨)	銅	2.35	0.70	北宋銭 初鑄 1078年	M-41	
97-42	SK370	元豊通寶(行書)	銅	2.50	0.70	北宋銭 初鑄 1078年	M-42	
97-43	SK290	元祐通寶(銭貨)	銅	2.35	0.65	北宋銭 初鑄 1086年 切り加工	M-43	
97-44	検出	大觀通寶(銭貨)	銅	2.40	0.60	北宋銭 初鑄 1107年	M-44	
97-45	検出	政和通寶(銭貨)	銅	2.40	0.70	北宋銭 初鑄 1111年	M-45	
97-46	SK316	洪武通寶(銭貨)	銅	2.30	0.60	明銭 初鑄 1368年 背「給」?	M-46	
97-47	検出	永樂通寶(銭貨)	銅	(2.40)	(0.50)	明銭 初鑄 1408年 切り加工	M-47	
97-48	SK102	文政一朱金	金	1.15	(1.05)	初鑄 1824年	M-48	
97-49	SK309	寛永通寶	銅	2.50	0.60	古寛水	M-49	
97-50	検出	寛永通寶	銅	2.45	0.50	古寛水	M-50	
97-51	検出	寛永通寶	銅	2.35	0.50	古寛水	M-51	
97-52	検出	寛永通寶	銅	2.40	0.55	古寛水	M-52	
97-53	検出	寛永通寶	銅	2.40	0.50	古寛水	M-53	
97-54	SK338	寛永通寶	銅	2.35	0.55	新寛水	M-54	
97-55	SK309	寛永通寶	銅	2.55	0.55	新寛水 背「文」	M-55	
97-56	SK309	寛永通寶	銅	2.50	0.60	新寛水	M-56	
97-57	SK318	寛永通寶	銅	2.60	0.60	新寛水	M-57	
97-58	検出	寛永通寶	銅	2.35	0.60	新寛水	M-58	
97-59	検出	寛永通寶	銅	2.25	0.65	新寛水 背「元」	M-59	
97-60	検出	寛永通寶	銅	2.15	0.60	新寛水	M-60	
97-61	検出	寛永通寶	銅	2.25	0.65	新寛水 背「元」	M-61	
97-62	検出	寛永通寶	銅	2.40	0.55	新寛水	M-62	

第42表 銭貨観察表

参考文献

- 古泉 弘 1987 『江戸の考古学』(考古学ライブラリー-48) ニュー・サイエンス社
 鈴木正貴 1994 『清洲城下町遺跡IV』 財団法人原福文化財センター
 郡司勇夫 1981 『日本貨幣図鑑』 東洋経済新報社

第IV章 自然科学的分析

1 はじめに

今回の発掘調査で検出された戦国期の堀（SD602）は、那古野城の堀の性格を考察する上で非常に重要な資料である。この堀の埋土は大きく2つに分類できる。1つは堀の下底部に認められる層状の堆積部分で、堀が機能していた当時の環境情報を蓄えた自然の堆積物で構成され、もう1つはこの上に重なる人為的に埋められた土（名古屋城形成時の土地整備の際に埋め立てられたもの）で構成される。

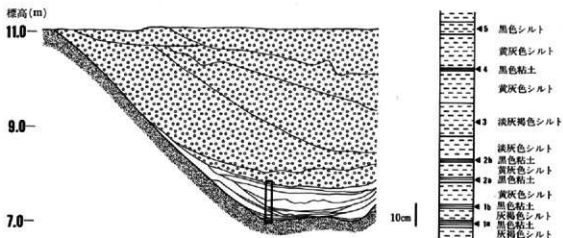
ここでは、堀の下層から得られた堆積物に含まれる花粉および珪藻の分析を行い、堀が機能していた当時の気候、継続年数、水の状況の解明を試みる。

2 試料

分析試料は第98図に示した7点である。試料を採取した堀の下層堆積物には、厚さ15cm程度の灰白色シルト層8層と、厚さ3cm程度の植物混じりの黒色粘土層6層が交互に堆積している。灰白色シルト層は堀の基盤となっている熟田層のシルト層が降水などで侵食・再堆積したもので、また、黒色粘土層は堀内に水が溜った際の堆積物であろうと考えられる。そのため、堀が機能していた時の環境をよりの確に反映していると考えられる黒色粘土層を分析試料に用いた。

3 珪藻分析

乾燥重量1gをトルピーカーにとり、過酸化水素水（35%）を加えて煮沸し、有機物の分解と粒子の分散を行った。岩片除去のち、水洗を4～5回繰り返しながら、同時に比重選別を行った。分離した試料を希釈し、マウントメディア（和光純薬製）にて封入した。検鏡は1000倍の光学顕微鏡を使用し、各試料とも200個の珪藻殻を同定するよう行った。



第98図 試料採取位置図・模式柱状図

しかし今回の試料については試料に含まれる珪藻殻が極端に少なく、200個まで同定することはできなかった。同定された珪藻は、*Pinnularia gibba* *Hantzshia amphioxys* などの底生種および *Achnanthes linearis*, *Cymbella minuta* などの付着生種であった。

4 花粉分析

約10gの試料を10% KOH溶液処理(1晩)→60メッシュの篩に通し粗粒物質を除去→水洗→10% KOH溶液を加え湯煎(4分間)→傾斜法により粗粒物質を除去→10% ZnCl₂溶液による比重分離(1500回転/分の遠心分離を2回繰り返す)→HF溶液処理(1晩)で鉱物片を除去→水洗→アセトリシス処理(40秒間)→水洗→グリセリン・セリールで封入。検鏡は400倍で、木本花粉が200個体以上に達するまで行った。また木本花粉が200個に達しない試料については、1プレパラートについて走査線の間隔を1.5mmとして全面検鏡を行った。出現率の算出は、木本花粉については木本花粉の総計を基数とし、草本花粉については総木本花粉と総草本花粉の和を基数とした。

	1a	1b	2a	2b	3	4	5
<i>Taxus</i>		2		3		2	2
<i>Pinus</i>		2	16				
<i>Pinus (Diplo.)</i>		1	39	15	6	1	42
<i>Tsuga</i>	1			1			
<i>Cryptomeria</i>				1	2		
<i>Salic</i>				5	3	1	
<i>Myrica</i>					1	1	1
<i>Juglans-Pterocarya</i>		1	4	24	15	3	9
<i>Alnus</i>	2	1	1	17	14		12
<i>Betula</i>				2	3	2	2
<i>Corylus</i>				4	15	19	3
<i>Corylus</i>				2	12	7	1
<i>Fagus</i>				2	2	9	1
<i>Lepidobalanus</i>	2		1	16	11	5	16
<i>Cyclobalanopsis</i>	2	1	1	10	1		9
<i>Castanea</i>							2
<i>Castanopsis-Panusia</i>					1	1	1
<i>Ulmus-Zelkova</i>				5	9	9	1
<i>Celtis-Aphananthe</i>				3	8	26	5
<i>Rhus</i>					2		3
<i>Ilex</i>	1			6	3		
<i>Acer</i>	1			1			1
<i>Acacia</i>					1	1	1
<i>Pathococcium</i>					1	4	
<i>Tilia</i>					2	1	
Ericaceae	1	1	1		2		1
<i>Syrax</i>							3
<i>Symphoricarpos</i>							3
Obacaeae	2	2	43	18	5	21	
<i>Vitis</i>					2	1	
<i>Lonicera</i>					2	3	
<i>Fagopyrum</i>	1		1	16	33		12
<i>Persicaria-Echinoc.</i>					1	34	3
Chenopodiaceae		5		60	32	1	10
Caryophyllaceae	1			9	4		3
<i>Sonchisorbis</i>							1
<i>Halimolobos</i>	6		4	62	66	12	82
<i>Cichorioidae</i>					1	2	
Carduoidae		1		7	7	1	5
<i>Artemisia</i>	3	3		33	10	1	9
<i>Typha</i>	15	15	10	112	114	15	152
<i>Sagittaria</i>					23	3	
Gramineae	8	30	26	571	440	57	275
Cyperaceae	2	2	2	3	3		1
<i>Iris</i>					1		
Spore	42	53	32	57	69	16	58
木本花粉	10	7	67	203	157	24	168
草本花粉	36	56	41	897	750	90	625
種子	42	53	32	57	69	16	58
総花粉数	88	116	140	1157	976	130	851

第43表 花粉数一覧表

今回の分析結果を第43表に示した。検鏡を行った試料のうち木本花粉の総数が200個をこしたものは1試料しか存在しなかったため、花粉ゲイアグラムを描くに至らなかった。全体に草本花粉数が多く、中でもガマ属やイネ科が多いことや堀の底部からアシ類の茎が出土したことから、堀の底部は湿地状であったと推測される。またイヌタデ属やアカザ科、ヨモギ属なども多くみられることから、堀の周囲は荒地の状態であったと推測される。

5 今後の課題

今回戦国期の堀の底にみられた堆積物から、堆積の時期差などを明らかにしようと、珪藻分析および花粉分析を行ったのだが、微化石の保存状態が非常に悪く目的を達成することはできなかった。今後はこのように花粉や珪藻殻の保存状態が不良な試料についても、その原因を追求してゆく必要があるのではないだろうか。

第V章 補論

第1節 名古屋台地における古代

本稿は、名古屋城三の丸遺跡の立地する名古屋台地上の古代における様相を、多少なりとも明らかにしようとしたものである。名古屋台地を形成する地層は、熱田層と呼ばれる洪積層である。台地は、北から西南西に緩やかに傾斜しており、台地西端は段丘崖となっている。このような台地上に先人はどのような足跡を残したのであろうか、以下その一端を見ていきたい。

なお、本稿で「名古屋台地」と表現する台地は、いわゆる熱田層によって成り立つ熱田台地のうち名古屋城や金山総合駅、熱田神宮などがのる象の鼻状に南北に延びた台地を指すものとする。(第99図参照)

1 律令制下の名古屋台地

古代の愛智郡

名古屋城三の丸遺跡の所在する地は、古代においては尾張国八郡のうちの一つ愛智郡に位置していた。郡名である「愛智」の名を史料上において確実に確認できるのは『続日本紀』和銅二(709)年五月庚申条に、「筑前国宗形郡大領外従五位下宗形朝臣等授外従五位上。尾張国愛知郡大領外従六位上尾張宿禰乎己志外従五位下」(下線筆者)とあるのが初見である(1)。和銅六(713)年五月には、畿内七道諸国に対して郡縣名に好字を用いるよう朝廷から指令が出されたが、愛智郡の場合はそれ以前から使われていたと思われる「吾湯市」や「年魚市」(『日本書紀』)等の表記をとらず、「愛智」・「愛知」に統一していったものと考えられる。

愛智郡は、北は山田郡、西は庄内川を境に海部郡、南は智多郡、東は国境である境川を隔てて三河国とそれぞれ接していたものと考えられている。その郡域は実はよくわからないのであるが、国境が地形を利用したのに対して、郡境は川などの自然地形と人為的な区割りで決められている場合が多いことはこれまでも指摘されている(2)。

愛智十郷

さて、愛智郡内には『和名抄』によれば「中村」「千竈」「日部」「太毛」「物部」「熱田(厚田)」「作良」「成海」「駅家」「神戸」の十郷のムラが記載されている。郷数からすれば、尾張国内では最も多いのが海部郡と丹羽郡の12郷、続いて愛智郡と同じ山田郡の10郷、国府の置かれた中嶋郡が9郷、春部郡が6郷、粟栗郡と智多郡の5郷の順となっている。律令

の規定によれば、郷数の関係から海部郡と丹羽郡は大郡、愛智郡と山田郡、中嶋郡は中郡、他の郡は小郡ということになる。ちなみに中部の場合、郡司は大領1人、少領1人、主政1人、主帳1人の4人体制となる。さらに各ムラの位置比定であるが、「中村郷」は庄内川左岸の現在の中村区内と考えられている。「千歳郷」は大きく二説あり、一説は「尾張志」などの推定する上・下知我麻神社のかつての鎮座地である名古屋市南区の旧本地村説であり、今ひとつは「大日本地名辞書」などの推す現在の上・下知我麻神社の鎮座地である熱田区近辺説である。「日部郷」「太毛郷」に関しては諸説あり、現在までのところ確実な比定は難しいのが現状である。「物部郷」は、式内社物部神社の所在から千種区内のかつての古井村に比定する説が有力である。「熱田郷」は、熱田神宮の所在する熱田区内の比定に諸説一致している。「作良郷」は、南区北部の旧板村近辺でこれも諸説一致している。「成海郷」は、緑区・昭和区内の旧鳴海村に比定されているが、海岸線が南へ後退するまで本地区は古代・中世を通じて潟を形成しており、交通の要所でもあり、難所でもあった。「駅家郷」は古代東海道の駅家である「新溝駅」とその駅戸を含めたムラが想定され、その位置を中区古渡周辺に置く説が有力であるが、西区南駅・北駅町に置く説もある。「神戸郷」は、伊勢神宮あるいは熱田神宮の神戸を中心にしたムラであろうが、その位置比定は不明である。

このように「和名抄」記載の郷の位置比定を見た時、比定地が不明な郷を除いて、名古屋台地上にムラが営まれたと考えられるのは、「熱田郷」と「駅家郷」であることがわかる(3)。

熱田郷周辺

名古屋台地南端に鎮座する熱田神宮は、紀記神話で知られた草薙剣を御神体として奉る大社である。古代豪族尾張氏の社であり、熱田神宮から北西に100mほどの距離にある断夫山古墳は、その尾張氏が被葬者にもつ古墳と考えられている。東海地方最大規模を誇る断夫山古墳は、6世紀前葉に位置づけられており、それに関連するかのよう台地上南部には弥生時代から続く高森遺跡をはじめに正木町遺跡や伊勢山中学校遺跡などの古墳時代の遺跡が見られる。なかでも正木町周辺の名古屋台地西縁辺部に5世紀中葉から6世紀にかけての竪穴住居が集中していることがわかってきており(4)、古代豪族尾張氏を中心にした集落の想定が考えられる。

尾張元興寺

さらに、7世紀中ごろになって現在の中区正木町地内に尾張元興寺が建立される(5)。尾張元興寺は、奈良元興寺の道照の弟子である道場法師によって創建されたという伝承が残るが、その立地からも尾張氏の氏寺としての機能を果たしたものと思われる。尾張元興寺跡の発掘調査は5次におよび、その成果から7世紀中ごろの建立時期が割り出されたのであるが、そこから『日本霊異記』上巻第三「雷のむかしびを得て生まれし子、強き力あ

る縁」の主人公である道場法師に関する説話の史実性も浮かび上がってきた。

この説話は、敏達天皇の御世に尾張国阿智郡片葩里(6)の一人の農夫が、雷を助けたことで農夫の子が力人として生まれ、数々の働きをした結果、得度出家を許されて奈良元興寺の道場法師としてその名が広く知られるようになったという内容である。そして、その道場法師が故郷に帰って尾張元興寺を建立したという伝承が残っているのである。道場法師の史実性は、かつて和田萃氏が飛鳥の地における道場法師の水争いの史実を明らかにしたが(7)、註(5)の報告書の中で服部哲也氏は、「道場法師個人の实在性はともかく、その内容は和田氏の説かれた「水争い」の段だけでなく、全体が史実にもついたもので、それが脚色され説話化したもの」ととらえている。

いずれにしても奈良元興寺の強い影響を受けた古代寺院が、名古屋台地上に7世紀中ごろの段階で存在していたわけで、中央との結びつきを考えるうえで重要な遺跡である。

奈良時代に入っている名古屋地周辺を記した史料に、同じ『日本霊異記』の説話の中に中巻第四「力女、力くらべし試みる縁」と第二十七「力女、強力を示す縁」の二段がある。実はこの二段は、上巻第三「雷のむかしびを得て生まれし子、強き力ある縁」の後日譚のようなものである。どちらも道場法師の孫である力女が主人公であり、彼女はやはり尾張国片輪里に住んでいる。話の時期設定は8世紀第2四半期の聖武天皇の時代である。前段は彼女が、三野国片泉郡少川の市(現在の岐阜県本巣郡本巣町あたり)で商人に危害を加える悪い力女をこらしめる話であるが、少川の市へ船で乗り付ける下りは、当時の河川を利用した流通機能が垣間みられて興味深い。

また後段は、第四段に登場した道場法師の孫である力女が結婚してからの話である。彼女が嫁いだ先は当時尾張國中嶋郡の大領であった尾張宿嗣久玖利であり、彼女は郡司の長に嫁ぐだけの階層に生まれたことがわかる。ここでもやはり怪力でもって非道の国司をこらしめてしまうのであるが、国司の恨みを恐れた大領一族から離縁され、実家の愛知郡片葩里に帰されてしまう。その後、実家の近くを流れる草津川の「河津」で衣を洗っている時、大船に荷物を乗せた船長にからかわれた彼女は、再び怪力でもって荷物の載った船を1町ほど陸に引き上げてしまう。このようなことはもちろん史実とは言えないが、在地に根をはる郡司一族との婚姻の実態や愛知郡片葩里(中区古渡付近)において「河津」があり、商船が行き交う様子が見られる。これらの点は、史実でないことを積極的に示す史料もないことから、8世紀段階の実態を反映しているものと思われる。実は、中区古渡付近に比定されている片葩里のあたりは、10世紀前半に編纂された『延喜式』の「兵部省諸国駅伝馬条」に記載された「新溝駅」の比定地でもある。同じ10世紀前半に編纂された『和名抄』には「片葩・片輪郷」の記載はないことから、「駅家郷」は「片葩・片輪」のムラを实体としている可能性もある。いずれにしても古代において、現中区古渡周辺は交通面・流通面での拠点であったように思われる。

2 王朝国家体制下の名古屋台地

古代豪族尾張氏の変容

王朝国家体制が進むにつれ、いわゆる古代豪族が衰退していく傾向が見られるが、尾張氏もその例外でなかった。それは、尾張氏がその大官司職をつとめる熱田神社の退転に見られてくる。それは「宇治拾遺物語」の説話「伏見修理大夫俊綱ノ事」などに端的に見られるように、かつての大官司の威勢は見られなくなったのである。この説話の主人公の橘俊綱は、11世紀中ごろ尾張守に任じられており、その時期には尾張氏の没落が始まっていたと考えられている。

このような状況の中で尾張氏の選んだ道は、藤原氏と外戚関係をもつことであった。尾張貝職の女と婚姻関係を結んだ藤原季兼は、父に文章博士大学頭である藤原実範をもつ儒者の家系であった。しかし、季兼はその道を進まず「尊卑分脈」が「参川四郎大夫」と記すごとく三河に活動拠点を置き、所領の開発等を進めていたらしい。季兼が三河に活動の拠点を置いたわけは、異母兄弟の季綱が1070年代後半に三河守を務めていたことに起因するものと考えられ(8)、三河の高橋荘・高橋新荘の開発領主も彼であるとされている(9)。季兼は、その後承暦四(1080)年ころには尾張国目代となっており(10)、そこで熱田大官司家と結びつきをもつことになったのである。寛治三(1089)年には季兼が生まれ、大官司職が藤原流となっていく。源頼朝の母は、季兼の女であることはあまりにも有名である。

那古野荘の成立

11世紀中ごろから12世紀にかけて全国に寄進による荘園や御厨等が乱立するようになるが、名古屋台地上にも荘園が成立してくる。那古野荘がそれである。那古野荘の荘域は、貞治三(1364)年の奥書をもつ写本に「於尾張国那古野荘安養寺壇所 忍寒気書写了」とあることから、中世に安養寺が所在した現在の名古屋城域を含むものと考えられている。しかし、はっきりした荘域はわからないのが現状である。また本荘園の沿革についても史料が少なく、わずかに1点「江家次第表書」に記された「建春門院法花堂領尾張国那古野庄領家職相伝系図」によって領家職の変遷が知られるのみである。(第101図参照)そのため那古野荘の研究自体も、この系図史料を発見した小嶋証作氏が昭和8年に発表した論文以降(11)、深化が見られないうえに状況である。そこで、ここではその成立過程に絞って考えてみたいと思う。

先の系図によれば、開発領主は、「九條民部卿頼朝□男」である小野法印顯恵であるとす。九條民部卿藤原顯頼は、白河院の近臣として「夜の関白」(『今鏡』)ともいわれた藤原顯隆を父に、藤原季綱の女で鳥羽天皇の乳母を務めた悦子を母にもち嫡男として生まれた。また、同母弟に顯能、異母兄弟には三河守として鎌美の大アラコ窟を開き、自らの銘の入った陶器を焼成させたことで有名な顯長がいる。その顯頼の子、顯恵が開発領主となったわけである。顯恵の祖父顯隆は、白河院の腹心、父顯頼はこれまた鳥羽院の腹心であり、院に非常に近い存在であったことは留意する必要がある。さらに、ここで注目したいのは、

顕頼の母である悦子の父、藤原季綱である。この人物は実は先述した尾張氏に婿入りした藤原季兼と兄弟なのである。尾張氏が狙ったのは、このつながりであったのかもしれない。また、顕隆一族に三河守の経験者が多いのは三河守であった季兼との何らかのつながりが考えられる可能性を指摘しておきたい。

三河国守藤原顕長

ここで顕恵にとって叔父にあたる藤原顕長について少し述べてみたい。顕長は「公卿補任」によれば9歳にして紀伊守に任じられたのを振り出しに、三河守を保延二(1136)年から久安元(1145)年と久安五(1149)年から久壽二(1155)年の計17年間の長きにわたって務めている。彼はその後、中央政界で昇進を重ね、権中納言従二位にまで昇りつめたのである。「尊卑分脈」では仁安二(1167)年に50歳で亡くなったとすることから、彼の人生の中で20代から30代後半までの長期にわたり三河国と深い関係をもっていたことになる。この間、彼は大アラコ窟の開窟や大般若経の書写事業(12)を行ったり、伊勢神宮の神官層と一体となり蘇美御厨の立券に関わったりした(13)。このように院制期の受領国司は、院や諸権門と巧みに結びつきその実をあげていったのである。

小野法印顕恵

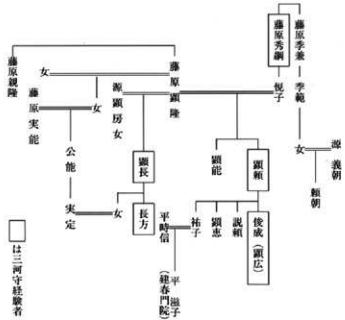
さて、那古野荘の開発領主である小野法印顕恵であるが、「若くして仏道に志し、累進して法印権大僧都となり、永萬二(1166)年七月には東大寺別當に補せられ、御白河法皇には長くも東大寺に於て顕恵に就いて御受戒あらせられたこともあり、安元元(1175)年二月に示寂するまで、九箇年間寺務を執行した当時の宗教界に於ける重鎮」(14)とされている。しかし、東大寺の寺僧であった顕恵がなぜ尾張国の荘園を開発できたのであろうか。この点は謎であるが、それを解く鍵は同じ顕頼の子で、顕恵と兄弟にあたる説頼にあるかもしれない(第100回参照)。藤原説頼は、「本朝世紀」の記事から久安三(1147)年に尾張守であったことが知られる人物である。この説頼が尾張守であった時期に、名古屋台地周辺の開発に取り組んだ可能性が考えられる(15)。

また本荘園は建春門院法花堂領であるが、寄進時期が建春門院(1142～76年)の生前かその後かの判断は荘園の成立時期とも重なり重要であるが、判然としない。しかし、ここで従来見落とされてきた点をあげておきたい。それは、顕恵の兄弟姉妹の中に建春門院の母となった女子がいることである。その名は、祐子。平時信の妻で、その実子が平滋子、つまり建春門院である。つまり顕恵は、姪にあたる建春門院に開発した土地を寄進したわけである。一族のなかで所領の安定を計る妻がそこに見られるのである。その意味において、寄進時期は建春門院の生前であったとしておきたい。

「建春門院法花堂領尾張国那古野庄領家職相伝系図」は、さらに南北朝期における領家職の相継争いを記しているが、その後の那古野庄の動向は知る術がない。やがて名古屋台地上にも動乱の戦国期がやってくるのである。

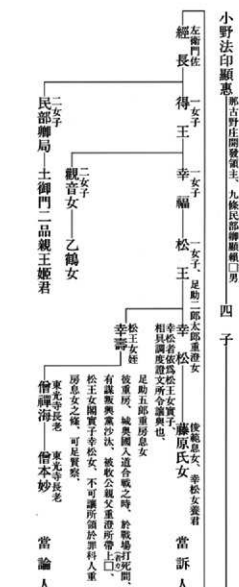


第99図 名古屋市の地質概略図
(井岡弘太郎「車窓の風景科学」より転載)



第100図 藤原顯隆をめぐる系譜

- 10 『東野』の表記文字は、『新撰式』『新名式』で使われているが、『東野』も同時代史料で数見されるため、区別なく使用されるらしい。
- 11 本野村二 『鳥害防除の歴史地理学』 大明堂 1971
- 12 ただし古代を通じて、ムラの再編成が行われたこともまた事実である。
- 13 森田大嗣 石野光司 『日本の古代遺跡』 東洋館 1994
- 14 『近世史学』 藤田鳴鶴編 『日本』 名古屋大学教育会 1994
- 15 『香林九十九之集』 などから名古屋を中心とする地域に限定されている。
- 16 細田 実 『飛田川』 『日本研究』 第130号 1973
- 17 『新編熱田志』 第1巻 第7章第4節 1992
- 18 『熱田志』 第1巻 1994
- 19 2006年報告
- 20 『尾張国名古屋市の発見と伝説』 『歴史地理』 第10巻第2号 1973
- 21 『尾張国』 藤田鳴鶴編 『日本』 名古屋大学教育会 1994
- 22 『尾ノ松』 尾張知事藤田鳴鶴文庫センター 1995
- 23 2010年報告
- 24 細野 (『源朝の政史』) が説くのを引き、久定三 (1847) 年から久寿 (1855) 年の間、尾張守となっている。あるいは頼朝も尾張に関わっているのかも知れない。



第101図 建春門院花堂領
尾張國郡古野庄領家職相伝系図

第2節 三の丸に居住した人々

この節では、「三の丸に居住した人々」の表題で三の丸内の屋敷地ごとの居住者の変遷表を掲載するが、まず表作成に関する概説を行う。

ここでいう「三の丸」とは、外堀内の狭義の三の丸の屋敷地のみでなく、外堀の南及び東側に展開した屋敷地をも含むものとする。この屋敷地も表に組み込んだ理由は以下のとおりである。

- ・狭義の三の丸内に住む武士と禄高・役職のほとんど変わらない万石以上年寄りと呼ばれた石河家以下の上級武士達が住んでいた。
- ・三の丸を描いた絵図にこの屋敷地を描いているものも多く、文献でも三の丸を扱うものにここに記述が及んでいるものがあり、ここが「準」三の丸ともいうべき地域だと考えられる。
- ・技術的な面として、今回利用した史料のほとんどがこの屋敷地の居住者の変遷を記録しており、狭義の三の丸内のものとはほぼ同様の扱いで史料を押さえていくことが可能である。また、両屋敷地の範囲内での屋敷替えが比較的多く、屋敷の範囲をあまり広げずに表の完成度を高めることができる。

次に、今回表を作成する際に利用した文献の特徴を述べよう。

・『尾州郡護屋御城郭内諸士宅地草創已來転換問書』（鶴舞中央図書館蔵）

宝永4年(1707)改正の書き付けがあるが、正徳5年(1715)まで下る記述も見られる。宝永・正徳期までのものとは形式の違う書き方で単に名前を羅列しただけでそれ以降を補筆してある屋敷も数軒ある。また、一軒ずつ朱で、朱を入れた際の屋敷の居住者と思われる苗字が書き加えられている。内容としては、屋敷ごとの居住者の姓と仮名と屋敷替えの時期。実名の書かれたものもあるが、朱書きの補筆である。時期の記述は以下にあげる文献と比べ圧倒的に多い。

・『御郭内外邸記』（鶴舞中央図書館蔵）

文化末年(1810)訂正の作事役所本に水野正信が嘉永3年(1850)に諸書で補遺を行ったもの。居住者は嘉永3年のものまで記述してあるものもあるがすべてではなく、文化年間までの記述しかないと思われるものもある。内容は、屋敷ごとの居住者の苗字と仮名・実名。千石以上の屋敷については邸宅の間数を入れる。屋敷替えの時期の記述はわずか。

・『金城温古録』『御郭内士第転換』（『名古屋叢書続編』16巻所収）

奥村得義がこの本を完成させたのは安政5年(1858)だが、居住者の記述は『御郭内外邸記』と同じかそれ以前のものまでしかされておらず、外堀外の屋敷も記述がない。内容は、屋敷ごとの居住者の苗字と仮名。屋敷替えの時期の記述はわずか。ただし、三の丸東北角の屋敷地の変遷を6時期に分け詳述。

・『旧邸礎跡略』（鶴舞中央図書館蔵）

明治7年(1874)に小寺玉胤が三の丸の終焉までの居住者の変遷を記述したもの。一部終焉時期までの居住者の記述がないと思われる屋敷もある。内容は、屋敷ごとの居住者の苗字と仮名・実名。屋敷替えの時期の記述が少しある。その他に終焉時期の屋敷の様子を詳述。ただし、三の丸東北角の築城当時から元禄ごろまで続く屋敷地の記述はない。

・『丸之内・片端屋敷之記』（鶴舞中央図書館蔵）

『旧邸礎跡略』と同じ著者であるが、居住者名等に違いが見られる。居住者の変遷については『旧邸礎跡略』と同様である。内容は、居住者の苗字と仮名・実名及び屋敷替えの時期。後二者に関する記述は『旧邸礎跡略』より豊富。三の丸東北角の屋敷地の記述も全時期にわたる。ただし、屋敷の様子は書かれていない。

実際の表作成は以下の手順で行った。

- ① 屋敷ごとの居住者は終焉時期までの記述がなされている『旧邸礎跡略』・『丸之内・片端屋敷之記』の記述を基準とする。ただし、上記のものが『尾州郡護国御城郭内諸士宅地草創已来転換問書』（以下『転換問書』と略す）の記述と相違するときは『転換問書』の記述をとる。
- ② 屋敷替えの時期は諸史料に載るものをすべてとる。「寛政」などと元号のみ記述されていて、「士林浜洞」で「何年断絶」などと具体的な年とその人物が勤仕をやめたことわかる記述があれば、その年を屋敷に住んでいた最後の年とする。承譜上相続が行われたと考えられる人物が同一屋敷内に続いて居住しているときは相続がその屋敷で行われたと考え、「隠居」の記述がある場合はその年を、ない場合は死没年を屋敷替えの時期とする。この年号は、「士林浜洞」及び「藩士名寄」等を利用して確認を行った。また、この調査の過程、その屋敷に居住したと推定される人数と①で考えられた居住者数が違う場合は、前者のほうをとる。
- ③ 実名のないものは「士林浜洞」・諸家譜を利用して、前後の実名のあるものや屋敷替え時期などから推定する。「士林浜洞」を利用して推定したものと諸史料に記述されたものが相違するときは「士林浜洞」からの推定をとる。
- ④ 同一姓名のものを拾い上げて屋敷の変更を推定する。同じ年号を持つものはそのあいだで屋敷替えが行われたと考える。ある屋敷でAからBに居住者が変わり他の屋敷でBからAに変わったときは二つの屋敷の間で屋敷の交換があったと考える。②の後半ようなときには父親が他の屋敷から来てそこで相続を行い、その後子どもが他の屋敷に移る場合と、子どもがあらかじめ他の屋敷を与えられており相続の際に屋敷を移る場合とが想定されるが、前後の年号からどちらかに確定できるものは確定する。
- ⑤ ある人物の屋敷の移動がわかり、その屋敷を出た時期・他の屋敷にはいった時期のどちらかがわかったときは、もう一方も同年に行われたとする。

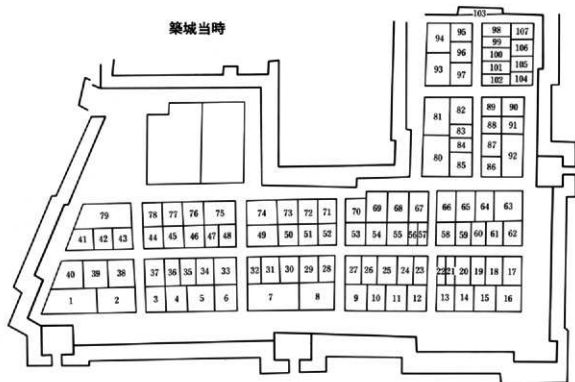
最後に図と変遷表・索引について説明する。図は『金城温古録』の「三之丸内邸宅古図」と「三之丸内邸宅近休」を修正した後に模式化したものである。「築城時」と書かれた図は名古屋城築城当時の様子を描いたもので、これには外堀外の屋敷が描かれていないが、ここが江戸時代を通じて大きく変化していないので省略しただけであり、ここも築城時から成立していた。「幕末」と書かれた図の中で外堀内の番号が入っている屋敷が築城時にはなくてその後つくられていった屋敷を示す。左側と外堀内右側から下に降り左に続いていく屋敷は寛永初年(1620)に成立した。右上の6軒の屋敷は、「築城時」の図の同位置にある屋敷が元禄ころ(1700年頃)までに一端「御屋形郭」と呼ばれる空間になった後100年以上経過した文化年間から次第に武家屋敷となっていったところである。それぞれの屋敷の成立年代については、表の中で見ていただきたい。「幕末」と書かれた図の番号の入っていない屋敷は大きな変化はなかったものの、いくつかの屋敷で分割・合併等が行われている。この点についても、表と「築城時」の図を比較することからその変遷を読みとっていただきたい。また、「幕末」の図の中に点線の入っている屋敷があるが、これは、その屋敷がつけられたときには点線の入っているところで屋敷が分かれていたものが、合併等が行われて幕末時には実線の屋敷のようになっていたことを示している。

屋敷の変遷表は以下のものである。5桁の番号の内、上3桁が屋敷の番号を下2桁がその屋敷での居住の順を示し、屋敷の番号は三の丸の図中の番号に対応する。「武家屋敷の居住者の変遷」を目的としたため、その場所が家臣の居住空間でなくなった時点で各表は終わっている。「いつまで」はその居住者がその屋敷にいた最終時点を示すものであるが、同一家系内での相続の場合は隠居の年を示し、実際にはその屋敷に居住し続けた可能性はある。「どこから」「どこへ」の項目はその人物が三の丸内のどの屋敷から来てどの屋敷にいったかを示すものである。

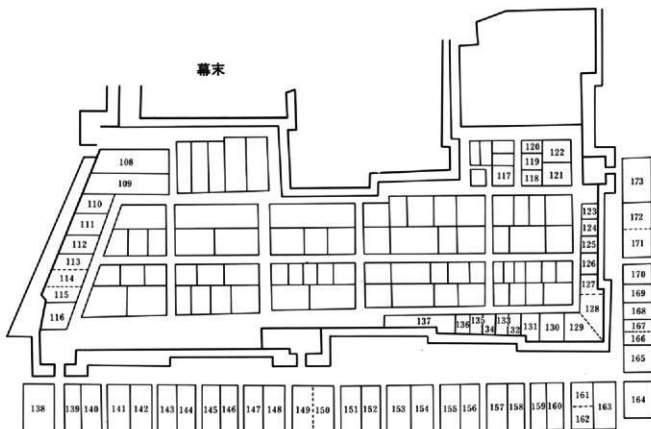
索引については、苗字のみを五十音順に並べたもので実名や仮名の部分はア・ランダムになっている。実名の確定ないし推定できた人物については実名を、実名のわからないものや確定・推定できなかった人物は仮名をあげてある。同じ実名ないし仮名のあるものは同名異人か同一人物と確定できなかったものである。下に括弧でくくられた苗字が書かれているものは、変遷表の中でその両方の苗字ででてくるが同一人物であることを示す。

先行の参照すべき研究もなく手探りで考察のため粗雑な表になってしまったが、今後各種の『分限帳』等の史料を使いよりよいものとしていきたい。なお、表作成中に山本祐子氏の「名古屋城下図の年代比定と編年について」(『名古屋博物館研究紀要』第17巻)が出版された。山本氏の研究目的は筆者と違うものであったが裨益するところがあった。最後に、尾張藩の文獻にくらかったわたしを指導してくださった元蓬左文庫職員の新江和子氏に感謝の意を表す。

築城当時



幕末



第102図 名古屋城三の丸屋敷割図

第V章 補論

番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	
00101	山下平三郎氏	寛永19(1642)			00908	大野丹次郎	享保19(1734)			01001	水野全藏吉守				
00102	山下市正武			×改修	00909	津田新十郎忠昌				01002	水野吉左衛門	寛永7(1630)			
00103	志木寛物忠長	寛文3(1663)			00910	江田左平信家				01003	水野主馬吉興	寛文5(1665)			
00104	志木寛物忠長	寛文3(1673)			00911	高橋富吉権衛				01004	水野内藏崎信信	延宝7(1629)			
00105	大道寺支藤直秀	享保1(1685)	005		00912	河井幸三左衛門品秀				01005	水野辰九郎興典	寛永6(1630)		169	
00106	大道寺兵衛直秀	享保10(1725)			00913	河井幸三左衛門元景				01006	水野辰九郎忠興	享保9(1724)		080	
00107	大道寺主水直秀	宝曆8(1758)			00914	河井幸三左衛門元景				01007	水野辰九郎忠興	天明3(1783)			
00108	大道寺九郎直秀				00915	河井幸三左衛門元景				01008	水野辰九郎忠興	文政1(1818)			
00109	大道寺兵衛直秀	文化13(1836)			00916	河井幸三左衛門元景				01009	水野辰九郎忠興	寛政3(1856)			
00110	大道寺兵衛直秀	文久2(1862)			00917	河井幸三左衛門元景				01010	水野辰九郎忠興	明治3(1870)			
00111	大道寺九郎直秀	慶応4(1868)			00918	大野一雲				01101	藤島隆雄				
00112	大道寺兵衛直秀	明治4(1871)								01102	藤島忠兵衛	寛永8(1630)			
00201	稲葉七之丞正定	寛永3(1626)			00601	沢井清右衛門元重	天保2(1645)			01103	小笠原三郎右衛門正吉	寛永8(1631)			
00202	稲葉七郎右衛門正定	万治1(1658)			00602	沢井平左衛門元重	元禄8(1695)			01104	小笠原三郎右衛門正吉	寛文3(1663)			
00203	稲葉七郎右衛門正定	延宝2(1674)			00603	沢井与三右衛門元智	元禄13(1707)	030		01105	小笠原三郎右衛門正吉	正徳1(1711)			
00204	志木寛物忠長	天和2(1682)	001	×新地	00604	沢井共右衛門元重	享保16(1731)			01106	小笠原三郎右衛門正吉	正徳4(1714)	140	054	
00205	石川七郎右衛門正朝	延宝3(1713)			00605	沢井共右衛門元重	元禄2(1645)			01107	小笠原三郎右衛門正吉	享保13(1733)			
00206	石川梅平興助	享保6(1721)			00606	沢井平左衛門元重	宝曆3(1753)			01108	上野小左衛門伊賀	享保16(1734)			
00207	石川千次郎正茂	享保18(1733)			00607	沢井徳次郎元重		009		01109	上野内藏吉興	享保13(1733)			
00208	石河新内伴昌	宝曆5(1755)			00608	滝川清左衛門忠次	宝曆9(1759)	068		01110	上野内藏吉興	文化3(1866)			
00209	石河民部伴久	安永3(1774)			00609	滝川小重郎				01111	上野千太郎景温	文政8(1825)			
00210	石河辰三郎尚厚	文化5(1808)			00610	滝川長門忠厚	安永2(1773)			01112	上野千太郎景温	文政12(1841)			
00211	石河式三郎尚厚	文政6(1823)			00611	滝川清左衛門忠次	文政6(1823)			01113	上野久松景温	慶応4(1868)			
00212	石河申之丞尚厚	嘉永4(1851)			00612	滝川清左衛門忠次	文政9(1826)			01114	上野久松景温				
00213	石河竹治郎正基				00613	滝川清左衛門忠次	文久3(1863)			01115	上野隆				
					00614	滝川忠兵衛				01201	藤島隆雄	寛永4(1627)			
00301	福富十佐吉明	正徳4(1647)			00701	渡辺平藏守綱	元和6(1620)			01202	藤島忠兵衛	寛永17(1640)			
00302	福富十郎勝秀	慶安3(1650)			00702	渡辺平藏守綱	寛永20(1643)			01203	藤島忠兵衛正安	寛文4(1664)			
00303	福富源五郎門時元	寛文2(1662)	134	×新地	00703	渡辺平藏守綱	明暦3(1657)			01204	藤島久正明	元禄2(1689)			
00304	小瀬井右衛門時英	寛文3(1663)		116	00704	渡辺平藏守綱	明暦3(1657)	022		01205	藤島辰三正武	正徳3(1713)			
00305	小瀬井右衛門忠次	享保2(1685)	072		00705	渡辺平藏守綱	享保1(1725)			01206	藤島辰三正武	享保16(1734)			
00306	小瀬井三郎忠智	宝永4(1707)		156	00706	渡辺平藏守綱	享保1(1725)	022		01207	藤島辰三正武	享保13(1733)			
00307	五城昌高直秀	正徳1(1711)	133		00707	渡辺平藏守綱	享保1(1725)			01208	藤島辰三正武	安永8(1779)			
00308	若田兵右衛門成元				00708	渡辺平五郎源盛	寛政12(1800)			01209	藤島辰三正武	天明5(1785)		039	
00309	生駒村次郎勝	寛政2(1742)	054		00709	渡辺平五郎源盛	寛政12(1800)			01210	藤島辰三正武	寛政7(1795)			
00310	生駒村次郎勝	延享4(1747)		016	00710	渡辺平五郎源盛	文化1(1804)			01211	藤島辰三正武	寛政11(1840)			
00311	加賀野上左衛門正基	宝曆7(1757)		039	00711	渡辺平五郎源盛	天保1(1860)			01212	藤島辰三正武	慶応4(1868)			
00312	筑島小兵衛正英	安永7(1778)			00712	渡辺平五郎源盛	元治1(1864)			01213	藤島辰三正武				
00313	筑島清太郎直長	天明5(1785)			00801	津金修理景久	元和8(1622)			01301	成瀬内膳吉吉	元和5(1619)			
00314	筑島村吉直正	天保6(1835)			00802	津金三郎左衛門	寛永3(1626)			01302	成瀬主馬			×新地	
00315	筑島新藏正吉	嘉永2(1849)			00803	上田忠左衛門			085	01303	成瀬宮内				
00316	筑島小兵衛正英				00804	上田正五郎正勝	万治3(1660)			01304	成瀬兵右衛門武忠	慶安2(1649)		095	
00401	伊奈左門吉善				00805	上田忠左衛門	寛文2(1662)			01305	成瀬竹右衛門	慶安3(1660)			
00402	伊奈左門吉次				00806	鈴木大藏景重	享保1(1725)			01306	村上六郎右衛門	万治3(1669)			
00403	伊奈源五郎門時定次	元禄3(1680)		×自叙	00807	鈴木金四郎明性	享保1(1725)	040	01307	若田兵右衛門品風	寛文4(1664)				
00404	伊奈左衛門定次	元禄10(1697)			00808	堀野隆勝忠	享保1(1725)	128	138	01308	若田兵右衛門品風	元禄6(1693)			
00405	伊奈左衛門正春	宝永2(1705)	088		00809	鈴木清守明性	寛保3(1743)			01309	高木源五左衛門吉興	元禄12(1699)			
00406	下条新内孝正	正徳1(1711)			00810	鈴木龜太郎直章	延享4(1747)			01310	高木源五左衛門吉興	元禄14(1701)			
00407	成瀬村之助正基			056	00811	鈴木木重	明和2(1765)			01311	高木源五左衛門吉興	安永2(1705)			
00408	成瀬大膳正基			085	00812	鈴木明性				01312	高木源五左衛門吉興	宝永2(1705)			
00409	津田兵衛直秀	享保19(1734)	005		00813	松平千七郎重朝			070	01313	高木源五左衛門吉興	宝永2(1705)			
00410	津田幸次郎直秀			085	00814	藤井丹後守時中	天明6(1786)	070							
00411	藤井伊藤時中			070	00815	藤井徳助有時	文化9(1812)								
00412	遠山右左衛門景徳			069	00816	藤井伊藤時宜	天明7(1836)								
00413	成瀬左左衛門正基	安永3(1774)	079		00817	藤井兵右衛門	明治2(1869)								
00414	成瀬左内藏直長	文化11(1814)			00818	藤井兵右衛門									
00415	成瀬右左衛門尚治	天保4(1833)			00901	八嶋左和昌	元和1(1615)								
00416	成瀬右五郎直教	慶応4(1868)			00902	高力七左衛門直康	万治2(1656)								
00417	成瀬右太正平				00903	高力七右衛門直康	元禄11(1698)								
00501	大道寺支藤直重	寛永5(1629)			00904	高力七左衛門直康	安永3(1706)			038	00905	福富源五郎門時	正徳2(1712)		
00502	大道寺密直直時	寛文2(1662)			00906	福富源五郎門時	正徳2(1712)				00906	福富源五郎門時	正徳2(1712)		
00503	大道寺守十郎直治	延宝3(1675)		001	00907	福富源五郎門時	享保16(1739)								
00504	寺尾内蔵直実	宝永1(1704)		024											
00505	寺尾経直好実	宝永3(1706)													
00506	寺尾経直好実	宝永6(1790)		027											

第44表 居住者屋敷地別一覧表①

番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	
01314	川邊一郎右衛門次長	宝永6(1709)	156		01703	伊達平平	延宝4(1676)	001	×改易	02110	天野地之丞			006	
01315	川邊八郎保久	正徳1(1711)	045		01704	加藤伴左衛門正長				02111	天野地之丞兼忠				
01316	解部藤原宗昌	元文1(1726)	064		01705	小堀五六次大夫				02112	吉田主水	寛政6(1794)	006		
01317	解部藤原宗綱	延享4(1747)	039		01706	小堀善太夫武藏				02113	吉田求高	天保9(1838)			
	寺社奉行所	安永6(1727)			01707	水野平大夫				02114	吉田元藏				
01318	人見右衛門	天明5(1785)	124		01708	水井仲大夫				02115	増田一				
01319	人見松之丞	天明9(1828)			01709	成田御五左衛門次北	宝永2(1705)	135		02201	小畑豊共衛正重				
01320	人見松八郎	天明14(1843)			01710	成田玄之丞氏章	正徳4(1714)			02202	小畑重太夫久広	寛永11(1634)			
01321	人見松右衛門				01711	長野八平衛松木	享保3(1718)			02203	藤政主親正重			062	
01322	人見景福				01712	長野八之丞重松				02204	阿部豊共衛正重	寛永16(1639)		065	
					01713	中山由利貞昌			021	02205	小畑重太夫正重				
01401	成瀬新太郎	元和5(1619)	×新編		01714	中根勘六奉行			021	02206	小畑重太夫正男	元禄6(1693)			
01402	藤田一徳忠次		067		01715	川邊善共衛保久	元文5(1740)	133		02207	高木大野芳雄				
01403	藤田九郎左衛門忠房				01716	川邊三右衛門定常				02208	長野久貞衛保永	宝永7(1710)			
01404	鈴木与三右衛門景之	承応3(1654)	024		01717	大崎七郎右衛門貞貞	享保6(1766)	162		02209	徳山島左衛門景隆	正徳5(1715)			
01405	鈴木玄之助景茂	延宝5(1677)			01718	大崎仲之丞昌長	天明15(1844)			02210	田島全左衛門正為				
01406	鈴木玄之助景忠	宝永5(1708)			01719	大崎政隆	文久1(1861)			02211	吉田昌三郎	宝暦8(1788)			
01407	鈴木武化之丞正重		067		01720	大崎七郎昌隆	慶応2(1866)			02212	吉田平次平	寛政9(1797)			
01408	小笠原清宮長兵衛	享保20(1735)			01721	大崎義次郎				02213	吉田三九郎	天明10(1828)			
01409	小笠原栗入長成				01801	本多勲助親信	慶長17(1642)		×殉死	02214	吉田孫三郎	文久3(1863)			
01410	加藤伴左衛門正景				01802	太田百助正勝	正保3(1662)			02215	吉田善共衛				
01411	小笠原三郎右衛門長成	安永5(1720)			01803	太田藤左衛門貞貞				02301	徳山平兵衛	元治(1629年)			
01412	小笠原三九郎辰兵衛	文化7(1810)			01804	藤原武右衛門貞貞				02302	横田三郎右衛門				
01413	小笠原三九郎辰兵衛	天明14(1843)			01805	石川求馬昭信	宝永4(1707)			02303	横田徳助				
01414	小笠原三郎辰兵衛	宝永4(1853)			01806	石川金助昭安				02304	寺田三左衛門正親			101	
01415	小笠原駒次郎長春	明治2(1869)			01807	藤井孫三郎時興	宝暦6(1766)			02305	志本八郎左衛門徳信	慶安3(1698)	102		
01416	小笠原辰之丞長清				01808	藤井宗次郎時若	天明4(1784)			02306	志本玄馬兼忠	正徳6(1715)	067		
					01809	藤井宗次郎時有	文化10(1827)			02307	寺西九平兼忠	享保8(1723)			
01501	藤井存左衛門時久	寛永20(1643)			01810	藤井宗次郎時解	宝永2(1682)			02308	寺西藤左衛門昌徳			041	
01502	藤井小兵衛	正徳2(1655)			01811	藤井孫三郎	慶応2(1866)			02309	高橋可善兼忠			009	
01503	藤井宗三郎時賢	寛文12(1673)			01812	藤井孫三郎				02310	高橋可善兼忠				
01504	藤井宗右衛門時賢	文禄6(1629)			01901	本多平次右衛門昌信	寛永10(1633)			02311	津田平兵衛兼忠	宝暦11(1761)	009		
01505	藤井宗右衛門時賢	文禄6(1629)			01902	福生藤助	正保3(1664)			02312	津田吉左衛門				
01506	藤井宗右衛門時方	宝永1(1704)	109		01903	福生藤八郎徳政	元禄14(1701)			02313	津田由之助盛高	文化10(1813)			
01507	藤井藤之丞方雄	正徳2(1712)			01904	福生伊右衛門時誠				02314	津田由之助盛高	天明7(1826)			
01508	藤井藤之丞方吉	文禄3(1623)			01905	福生新七郎				02315	津田由之助	宝永6(1636)			
01509	堀野平左衛門忠	正徳4(1714)	138		01906	福生由九郎	文化5(1688)			02316	津田邦吉信幸	文久2(1862)			
01510	堀野内左衛門謙孝	享保7(1722)	143		01907	福生兼兵衛政春	天明9(1826)			02317	津田正之助	元治1(1864)			
01511	堀本高次郎兼白				01908	福生吉次郎	宝永1(1684)			02318	津田正之助				
01512	小山市兵衛政直	享保20(1735)			01909	福生方郎	万暦1(1669)			02401	天野金治	寛永(1630年)			
01513	堀田宮内兵衛		033		01910	福生印七正通	明治3(1870)			02402	野平兵衛兼忠			014	
01514	高橋可善兼忠	宝永5(1705)			01911	福生兼太郎隆光				02403	野平兵衛兼忠	万治1(1698)	004		
01515	高橋弁次郎武勝	明和8(1771)	129							02404	野平内院兼忠	延宝3(1675)		005	
01516	高橋河津武勝	安永3(1724)	016	016						02405	福家石平屋屋通				
01517	高橋河津武勝	天明8(1788)	139							02406	岡田左衛門正等	元禄5(1789)			
01518	高橋弁次郎長清	文化14(1817)	121		02001	星野石右衛門時勝	寛永3(1626)		×改易	02407	岡田左衛門正等	享保18(1733)			
01519	大道寺保重直道	文政6(1823)			02002	内藤定春				02408	岡田左衛門正等	明和3(1766)			
01520	大道寺保重直道	宝永6(1853)			02003	野崎土佐兼忠			059	02409	岡田左衛門正等				
01521	大道寺保重直道	安政5(1858)			02004	春日左衛門兼忠				02410	野崎左之丞兼忠				
01522	大道寺貞次郎直道				02005	土屋左衛門兼忠	宝永1(1704)	090		02411	野崎弁次郎時賢	文化14(1817)	064		
					02007	土屋平三右衛門伴春	宝永4(1707)			02412	野崎善吉時定	文政4(1821)			
01601	生駒半人利貞	正保4(1647)			02008	土屋十郎徳弘			026	02413	野崎善吉時定	明治2(1869)			
01602	生駒八右衛門時勝	貞享5(1708)			02009	伊東兼房									
01603	生駒藤原宗勝	元禄13(1709)			02010	富永高次郎兼白			015	146					
01604	生駒大膳次長	正徳5(1715)	005		02011	井野口玄之丞玄学	文化8(1841)								
01605	生駒主殿長直		005	049	02012	井野口六郎兼直	宝永2(1689)			02501	青山赤兵衛兼忠	寛永(1630年)			
01606	生駒阿彌次長	元文6(1741)			02013	井野口六郎兼直				02502	横井忠時信			043	
01607	生駒六次郎次郎	延享4(1747)								02503	横井伊右衛門時貞	元禄6(1693)			
01608	生駒六次郎次郎	明和2(1765)	003		02101	鈴木稔監				02504	横井伊右衛門時貞	享保15(1730)			
01609	生駒藤太郎直也	明和8(1771)			02102	鈴木三左衛門	寛永(1630年)			02505	横井伊右衛門時誠	宝暦11(1761)			
01610	生駒藤太郎直也	安永3(1724)			02103	藤原兼忠				02506	横井登太郎時貞	寛政12(1800)			
01611	生駒阿彌次長	寛政5(1793)	015		02104	吉田加右衛門				02507	横井玄太郎時良	宝永6(1853)			
01612	生駒阿彌次長	文政3(1820)			02105	河野村右治長秀	宝永6(1709)			02508	横井定之助	安政3(1856)			
01613	生駒藤太郎直也	安政2(1855)			02106	中根勘六奉行			017	02509	横井定之丞	慶応1(1865)			
01614	生駒藤太郎直也				02107	中山由利貞昌				02510	横井直茂				
01701	石原勘右衛門				02108	横井政久									
01702	石原勘右衛門直道	寛文(1670年)	169		02109	天野貞共衛兼忠	享保21(1736)	009		02601	園田善太夫	慶安1(1648)			

第45表 居住者屋敷地別一覧表②

第V章 補論

番号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人 名	いつまで	どこから	どこへ
02502	國田天太夫	寛文8(1668)		×改稿	02003	山平太夫秀世	寛文3(1663)	098	145	03001	鈴木五郎左衛門			
02503	寺尾孫右衛門政親				02004	横井内子時貞				03002	鈴木清右衛門	寛永1(1620年)		024
02504	中倉上水津清		068	068	02005	穴内清隆元智	元禄8(1695)		006	03003	飯谷十郎三左衛門			
02505	千村數馬春治		069	055	02006	松井千兵衛允昭				03004	榎七九郎三左衛門	033と合併		
02506	藤原藤吉吉世				02007	臼井丹兵衛春春	宝永1(1704)							
02508	土屋平之右衛門徳弘		029		02008	井丹藤野清美								
02509	石岡一守治治	宝永4(1707)		142	02009	山本弘成貞昌	正徳5(1715)			03501	石黒左三郎左衛門重立	元和5(1819)		×過去
02510	今泉孫右衛門定尚				02010	山本孫忠成之				03502	榎十郎正徳	寛永10(1630)		
02511	小嶋定左衛門田賢			126	02011	桜井宗治治定	享保18(1723)		147	03503	榎外記点高			141
02512	藤井右衛門時久				02012	千賀与八郎恒尉								
02513	芝山平右衛門宣崎				02013	佐藤孫左衛門忠益	寛保1(1741)	147	147					
02514	中岡武左衛門典高				02014	佐藤平治恒忠			147	03601	石黒市十郎	元和5(1819)		
02515	中岡龍左衛門典興				02015	成瀬平太夫正明	宝暦7(1757)	056		03602	飯島土佐光重	寛永10(1633)		
02516	赤林孫十郎	寛政10(1798)			02016	松井清代之助吉貞				03603	飯島左衛門北貞			
02517	赤林新十郎	文政10(1827)			02017	横井吉平去時	寛政4(1792)	043		03604	田沼忠房隆光直			
02518	赤林武平	嘉永2(1849)			02018	横井源五郎左衛門時昌	文政3(1820)			03605	寺西藤八郎門助辰			082
02519	赤林孫七郎信敏				02019	横井隆吉時邦	弘化4(1847)			03606	藤田徳貞合弁	嘉永8(1865)	031	067
02701	平右衛門左衛門				02020	横井全次郎	嘉永3(1850)			03607	津田清一郎昭明	正徳3(1713)	029	
02702	平右清春	寛永(1630年)			02021	横井万二助				03608	津田全十郎昭昌			009
02703	鈴木土蔵重三				02101	浪水兵衛忠政				03609	島沢武之助仕往	元文4(1720)	111	
02704	志木友之介徳信		101		02102	浪水兵衛助	寛永(1620)			03610	島沢一之右衛門徳高			
02705	梅岡幸左衛門忠尚	貞享4(1687)	101		02103	佐佐木兵衛徳定		049	03611	尾崎兵衛規忠	寛保2(1742)			
02706	梅岡三郎左衛門忠尚				02104	渡野六右衛門時政	寛文2(1662)	060		03612	尾崎孫左衛門忠志			
02707	津田九郎左衛門高寛	宝永6(1709)		049	02105	伊達平平	元禄7(1697)	050	017	03613	尾崎左左衛門貞直	宝暦6(1756)	062	062
02708	寺尾俊之助実経	延享4(1747)	005		02106	渡野源五郎左衛門奉綱	延享5(1677)			03614	尾崎孫左衛門貞直			
02709	寺尾六郎左衛門時隆	天明1(1781)			02107	渡野九郎藤綱				03615	尾崎源五郎左衛門貞直			
02710	寺尾庄九郎実孝	文化13(1814)			02108	吉田平右衛門				03616	吉田土太			
02711	寺尾藤太郎実徳	嘉永2(1849)			02109	福井源五郎左衛門合幹			036	03617	吉田武之進			021
02712	寺尾藤太郎実徳				02110	山内平三郎知重	元禄9(1696)	040	036	03618	天野野郎兵衛善忠			021
02713	寺尾玄馬之助実方	明治2(1869)			02111	山内平三郎知重	107と合併			03619	天野野郎兵衛武	文化10(1813)		
02714	寺尾孫十郎				02201	本多主親	寛永(1620)		×概説	03620	天野野郎兵衛善昌	嘉永3(1850)		
02801	平右兵衛時				02202	渡辺忠右衛門治綱	寛永20(1643)	033	007	03701	石黒清兵衛康成	元和2(1616)		
02802	平右孫五左衛門	寛永(1620年)			02203	渡辺次郎三郎藤綱	慶安1(1646)	007		03702	石黒清三郎康文	寛文12(1625)		
02803	藤原寺十郎忠志	明暦3(1657)			02204	渡辺藤原長綱	寛文8(1666)			03703	石黒清三郎康文	元禄3(1663)		
02804	藤原仁兵衛正徳				02205	渡辺平之助基綱				03704	石黒清三郎康文	元禄6(1683)		
02805	藤原平之助忠成	正徳1(1711)		143	02206	渡辺平平定綱	元禄2(1685)		007	03705	石黒平右衛門	宝永6(1709)		155
02806	小笠原平次直恒	享保4(1719)			02207	野崎源五右衛門兼時	享保7(1722)	168		03706	長尾松右衛門忠秀	貞享2(1745)		
02807	小笠原可成直行	享保8(1723)			02208	野崎一守兼永	享保8(1726)			03707	中西真九郎藤範			
02808	山崎又兵衛元武				02209	野崎源五右衛門兼統				03708	中西眞太郎辰見			
02809	山崎上水光明				02210	野崎源五右衛門兼興	文化12(1815)			03709	中西主親辰之	文化14(1817)		
02810	小笠原可成直行	享保12(1727)		045	02211	野崎一守兼統	嘉永4(1851)			03710	中西主親辰成	嘉永7(1854)		
02811	小笠原仁左衛門直志				02212	野崎源九郎兼貞	明治4(1871)			03711	中西主親辰新	文化2(1862)		
02812	藤原孫太郎				02311	野崎国松兼清				03712	中西眞太郎辰成			
02813	藤原左衛門直政	享保29(1735)	150		02301	平右清春	元和9(1623)			03801	河野行助	元和9(1823)		
02814	国道藤原直治			043	02302	河野治部三郎治綱			032	03802	藤原治部正直	寛永9(1632)		
02815	藤原孫五郎時政				02303	河野平九郎				03803	藤原左衛門正武	寛永6(1666)		
02816	藤原孫五郎時政	明和8(1771)		126	02304	藤原孫右衛門長冬	寛永20(1643)	167	×改稿	03804	藤原孫左衛門正信	元禄3(1690)		
02817	上田藤母享	寛政7(1795)		053	02305	成瀬吉兵衛正直		062	062	03805	藤原孫十郎藤通	宝永3(1706)		009
02818	上田与右衛門	文政3(1820)			02306	成瀬新助正英	寛文9(1669)	062		03806	石川龍平貞則	正徳3(1713)	002	
02819	上田誓乃衛藏	文化3(1863)			02307	成瀬四左衛門正時	寛文10(1670)	150	007	03807	石川龍平貞則			002
02820	上田大兵衛				02308	竹腰豊良正英	宝永3(1706)	101		03808	藤原太郎正治			160
02901	三七治平治				02309	竹腰徳正武	宝永6(1709)		071	03809	鈴木兵右衛門理重	享保8(1723)		
02902	三七治平治	慶安1(1648)			02310	岡川第一右衛門時令	享保6(1721)	109		03810	鈴木兵右衛門			
02903	三七三之丞重貞	寛文(1679年)			02311	岡川友之助善成	享保15(1730)			03811	藤原太郎正治	明和3(1766)		
02904	津田二十餘信明	元禄8(1695)		036	02312	岡川友左衛門忠宗			067	03812	藤原十郎	明和4(1767)		
02905	松井右衛門文吉	宝永1(1704)		148	02313	岡川周助長恒				03813	藤原小重郎			
02906	松井藤兵衛又吉	宝暦7(1757)			02314	川村孫兵衛貞彦			171	03814	藤原孫十郎	明和7(1770)		
02907	松井要人一徳	寛政2(1790)			02315	河井宇左衛門水秀	寛保3(1743)			03815	藤原治右衛門			
02908	松井友次男	文政5(1822)			02316	河井具兵衛秀			009	03816	藤原太郎			
02909	松井要人	文政7(1824)			02317	岡田内兵衛辰	明和9(1772)	015		03817	吉澤竹次郎	寛政1(1789)	044	
02910	松井要之助	慶応4(1868)			02318	藤原藤四郎信伝	文化8(1811)			03818	吉澤守門	文化1(1804)		
02911	松井要之助				02319	藤原藤四郎信重	安政2(1855)			03819	吉澤六郎	文化1(1804)		
03001	山本内藏時				02320	藤原時吉信徳	元治1(1864)			03820	吉澤六郎	明治2(1869)		
03002	山本宗兵衛				02321	藤原万松兵衛				03821	吉澤孫三郎			

第46表 居住者屋敷地別一覧表③

番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ
0390	河野孫兵衛				0422	山政清忠忠請	享保 2 (1849)			0490	佐枝平兵衛確定	万治 4 (1661)	031	166
0392	河野孫兵衛				0423	山政安次郎	享保 7 (1860)			0493	山澤野狐集	寛文12(1672)	072	
0393	堀田貞門			×道法	0424	山政清之助				0494	山澤野狐集	元禄12(1699)		
0394	白村宗左衛門正次				0430	武藤孫吉				0495	山澤野狐集	享保 8 (1799)	065	
0395	福富八郎左衛門貞次				0431	武藤保吉				0496	山澤野狐集	享保 8 (1799)	027	065
0396	野崎節齋	元禄 7 (1694)		069	0432	武藤保吉				0497	津浦又六郎寛吉	享保 16 (1805)		
0397	野崎節齋			059	0433	武藤保吉	寛永 (1620)c			0498	山澤野狐集	享保 17 (1732)	016	
0398	大橋幾左衛門政規	宝永 2 (1705)			0434	藤井重郎左衛門時信		129	025	0499	山澤野狐集	享保 6 (1769)		
0399	大橋新次郎				0435	藤井口六郎左衛門時信	宝永 5 (1708)			04910	山澤野狐集	享保 7 (1802)		
0310	山崎土左衛門	享保 8 (1723)		028	0436	藤井口治大賀	享保 6 (1721)			04911	山澤野狐集	享保 4 (1843)		
0311	恒川五右衛門正政				0437	藤井大直宜五				04912	山澤野狐集	慶応 1 (1865)		
0312	加賀甚七郎左衛門正信	延享 4 (1747)		083	0438	藤井重郎左衛門時信	宝暦 3 (1753)			04913	山澤野狐集	慶応 2 (1866)		
0313	藤原兵衛宗綱			012	0439	藤井國清時辰	宝暦 8 (1758)			04914	山澤野狐集			
0314	中村清太郎元祖	文政 4 (1821)		012	0440	藤井吉平定時				05001	小笠原大膳石衛門			
0315	中村勝三郎元祖	天保 9 (1838)		156	0441	千賀忠孝信賢				05002	小笠原平兵衛	万治 (1660)H		×戦後
0316	藤原藤之丞貞利	大保 12 (1841)		156	0442	田沼新典興隆治	天明 7 (1770)	028		05003	鈴木外記			
0317	藤原三郎忠實	弘化 3 (1842)			0443	田沼三太郎寛方	安永 3 (1774)			05004	伊藤平平	寛文 2 (1662)		031
0318	藤原三郎忠實	文久 2 (1860)			0444	田沼三太郎寛方	安永 3 (1774)		151	04919	04919 合併			
0319	藤原三郎忠實	慶応 3 (1867)			0445	寺社奉行所	天保 9 (1838)			05101	平野圭水	元禄 (1620)H		071
0320	藤原三郎				0446	寺社奉行所	天保 11 (1840)	151		05102	高木潤香			
04001	石川石見正重	慶安 2 (1649)		110	0447	石川重次郎四郎	慶応 4 (1868)		×改易	05103	久島左京			
04002	水牛平左衛門忠康	承応 2 (1653)		108	0448	藤田治右衛門之重				05104	岡田勝右衛門重正	承応 3 (1654)		
04003	鈴木五郎重長	文政 2 (1662)		074	0449	藤田三郎左衛門武明	寛文 8 (1668)			05105	岡田三郎左衛門重正	貞享 2 (1685)		
04004	山内治太知直	元禄 6 (1693)			0450	藤田治右衛門方政	元禄 9 (1696)		×道法	05106	岡田三郎左衛門重正			
04005	山内治太知直	元禄 9 (1696)			0451	吉原甚太郎侍治	享保 10 (1753)			05107	菅野三郎忠実	宝永 7 (1710)		147
04006	山内平三郎忠重			031	0452	吉原甚太郎侍治	05108	0 (1767)		05108	菅野三郎忠実			180
04007	渡辺忠物綱綱				0453	吉原甚太郎侍治	0454	0 (1779)		05109	菅野三郎忠実時評			
04008	水野惣右衛門寛寛	享保 16 (1731)			0456	吉原甚太郎侍治	安永 8 (1779)			05110	河村三左衛門忠実	宝暦 9 (1759)		
04009	水野内膳村	延享 3 (1746)			0457	吉原甚太郎侍治		038		05111	河村三左衛門忠実			054
04010	水野内膳村	天明 8 (1798)			0458	馬場三右衛門	寛政 4 (1792)			05112	菅野三郎忠実時評	寛政 6 (1794)		
04011	水野惣之進	寛政 2 (1780)			0459	馬場惣之丞	文化 13 (1814)			05113	菅野三郎忠実時評	文化 3 (1806)		
04012	水野内膳村	天保 9 (1838)			0460	馬場三右衛門	安政 2 (1855)			05114	菅野三郎忠実時評	寛永 6 (1652)		
04013	水野惣右衛門忠功	安政 6 (1859)			0461	馬場常吉信久				05115	菅野三郎忠実時評			
04014	水野内膳村				0461	高木外記吉任	寛永 1 (1624)		076	05201	平田石右衛門重勝			
04101	野村治右直	元和 1 (1615)		×戦死	0462	高木内膳吉任	寛文 4 (1664)			05202	平田石右衛門重勝	寛永 (1620)H		
04102	下方五郎忠貞	承応 2 (1653)			0463	高木八郎左衛門時信	元禄 10 (1697)	111	150	05203	石川孝左衛門宗直	延享 2 (1674)		
04103	下方五郎忠貞			085	0464	寺尾徳之丞宗純	元禄 15 (1702)		152	05204	石川孝左衛門宗直	天明 3 (1682)		
04104	二ツ河宗貞				0465	寺尾右三郎左衛門正景	宝永 1 (1704)			05205	石川宗直宗直	元禄 5 (1692)		
04105	久崎十兵衛宗金			085	0466	津山重隆左衛門時快	宝永 4 (1707)			05206	石川宗直宗直	享保 4 (1719)		
04106	下方五郎忠貞	寛永 1 (1673)		085	0467	河村兵衛方秀	正暦 1 (1711)			05207	石川宗直宗直	安永 6 (1777)		
04107	下方五郎忠貞				0468	河原九郎保久				05208	石川宗直宗直	寛政 6 (1794)		
04108	藤原重五郎時春			119	0469	成瀬藤太左衛門	享保 16 (1731)	068		05210	石川宗直宗直	文政 9 (1826)		
04109	野野島貞門				0470	成瀬藤太左衛門				05211	石川宗直宗直	寛永 4 (1651)		
04110	内藤新左衛門正勝			132	0471	山崎又右衛門元明	元文 6 (1741)	028		05211	石川宗直宗直			
04111	成瀬藤太左衛門	享保 18 (1733)			0472	山崎右太郎元英				05212	石川宗直宗直			
04112	成瀬藤太左衛門	享保 20 (1735)			0473	山崎要人	文化 14 (1817)			05213	石川宗直宗直			
04113	成瀬藤太左衛門				0474	松平又兵衛	弘化 4 (1847)			05214	石川宗直宗直			
04114	寺西藤太左衛門貞貴	享保 12 (1727)		023	0475	松平貞之	安政 6 (1859)			05215	石川宗直宗直			
04115	寺西七郎左衛門貞貴	天明 9 (1773)			0476	松平貞之				05216	石川宗直宗直			
04116	寺西忠貞			134	0477	松平謙太夫				05217	石川宗直宗直			
04117	野村佐太夫貞武	寛政 12 (1800)			0478	松平謙太夫	寛永 17 (1640)		×改易	05218	石川宗直宗直			
04118	野村八郎左衛門貞成	天明 10 (1827)			0479	松平謙太夫	慶安 3 (1650)		079	05219	石川宗直宗直			
04119	野村治之丞	文久 2 (1862)			0480	寺尾左兵衛直隆	延享 3 (1675)		×變狂	05220	石川宗直宗直			
04120	野村佐太夫				0481	松平謙太夫				05221	石川宗直宗直			
04201	津田新十郎正盛				0482	松平謙太夫				05222	石川宗直宗直			
04202	津田新十郎正盛				0483	大津庄兵衛直江				05223	石川宗直宗直			
04203	松本修理正親	宝永 4 (1707)			0484	大津庄兵衛直江				05224	石川宗直宗直			
04204	大野五郎貞直	正徳 3 (1713)			0485	大津庄兵衛直江				05225	石川宗直宗直			
04205	大野五郎貞直	正徳 4 (1714)			0486	大津庄兵衛直江				05226	石川宗直宗直			
04206	馬杉藤右衛門貞直	享保 2 (1717)			0487	大津庄兵衛直江				05227	石川宗直宗直			
04207	馬杉藤右衛門貞直	享保 20 (1750)			0488	大津庄兵衛直江				05228	石川宗直宗直			
04208	馬杉藤右衛門貞直	寛保 2 (1742)			0489	大津庄兵衛直江				05229	石川宗直宗直			
04209	馬杉藤右衛門貞直	寛政 2 (1740)			0490	佐枝平兵衛				05230	石川宗直宗直			
04210	馬杉藤右衛門貞直	文政 9 (1826)		137						05231	石川宗直宗直			
04211	山澤藤右衛門貞直									05232	石川宗直宗直			

第47表 居住者屋敷地別一覧表④

第V章 補録

番 号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番 号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番 号	人 名	いつまで	どこから	どこへ
05404	野崎宮内兼純			168	06001	平吉彦	元禄(1620頃)		164	06082	阿部善兵衛忠房		022	022
05405	沼田伊織				06002	渡辺重左衛門秀綱			164	06084	石原内膳			
05406	上野市之助安房	宝永1(1704)			06003	津田重郎兵衛直信		089	127	06205	水野三郎政勝			
05407	上野市之助安房				06004	長野又右衛門直政	天明2(1682)	031		06206	内藤頼時忠孝			
05408	生駒三左衛門隆周			003	06005	長野秋右衛門重時	天和3(1683)	150		06207	野崎下津兼尚			
05409	藤谷与兵衛次実	享保11(1744)	011		06006	083と合併				06208	島貞右衛門住長	064と066に分割	068	
05410	藤谷門太郎実房			051	06101	岡田八兵衛	寛永10(1633)			06601	阿部河内正興	寛永17(1640)		
05411	河村松三郎秀雄	文化4(1807)			06102	岡田六郎兵衛				06602	阿部河内正政	承応4(1655)	065	
05412	河村多門	天保8(1837)			06103	完合左近				06603	阿部七三郎正治	延宝4(1676)		
05413	河村小三郎				06104	木村一学				06604	阿部良三郎正寛	享保5(1720)		
05414	河村潤吉重夫				06105	大竹金吾				06605	阿部右京正徳	享保12(1727)		
05501	酒井源左衛門忠忍	寛永8(1631)			06106	徳次次右衛門		018		06606	阿部善右衛門正茂	明和4(1762)		
05502	酒井源十郎					080と082に分割				06607	阿部五郎正基			
05503	松井右右衛門				06201	酒井金兵衛忠安	寛永2(1625)			06608	阿部石屋正長	文化3(1806)		
05504	松井源兵衛玄吉			148	06202	酒井全兵衛正興	寛永1(1624頃)			06609	阿部石屋正信	天保3(1832)		
05505	高木源五左衛門謙忠	享保9(1724)	026		06203	成瀬四郎左衛門正典	元禄5(1692)	022	033	06610	阿部石屋右京正直	文化3(1803)		
05506	水野数馬治	享保9(1724)			06204	成瀬吉兵衛正藤	元禄7(1692)	033		06611	阿部主膳正昌			
05507	千村小舟重雄	享保11(1748)	147		06205	成瀬勝部一信	宝永7(1690)		068	06701	森田民部忠大			014
05508	千村多門郎秀尚				06206	藤井重左衛門時彦			012	06702	森田大学忠景			→退去
	056と合併				06207	妻杉利次郎武則	延享4(1747)	012		06703	森田徳忠常	寛文3(1663)		
06601	大野勘大夫重春	寛永(1620頃)			06208	妻杉重兵衛正頼	宝暦6(1746)		036	06704	寺尾三左衛門正能	延宝2(1672)	181	
06602	岡田藤太夫之等	万治1(1620)	082		06209	妻杉多喜重直				06705	寺尾龜之助正徳	元禄7(1694)	152	
06603	岡田正馬正徳	寛文3(1663)		×改易	06210	徳原金左衛門直寿			036	06706	長野修徳治忠		138	
06604	横井伊織時雄	延宝4(1676)			06211	竹中泰之助重忠				06707	長野源太郎時久		130	130
06605	横井織部時盛	元禄8(1695)			06212	竹中徳和良	文化7(1810)			06708	寺西徳左衛門雅吉	正徳3(1713)	130	023
06606	横井織部之丞時真	宝永4(1676)			06213	竹中徳和良	文化11(1840)			06709	徳田太郎右衛門貞幹	享保3(1718)	036	
06607	中島圭本謙清	享保19(1725)	079		06214	竹中内膳重則	明治1(1868)			06710	徳田源四郎兵衛			
06608	中島信謙康夫				06215	竹中泰之助重忠				06711	滝川源左衛門忠常		033	068
06609	成瀬大和守正雄	宝暦7(1727)	004							06712	成瀬内膳正直			
06610	成瀬幸太夫正明	明和8(1721)	030		06301	玉置小平大	延宝4(1676)			06713	成瀬幸太夫正明		065	079
06611	成瀬幸太夫正想	文化3(1663)			06302	玉置小平大				06714	遠山源太郎正徳	明和8(1771)	004	
06612	成瀬幸太夫正邦	天保9(1838)			06303	玉置長左衛門次	延宝4(1676)			06715	遠山源三郎正徳	文化7(1818)		
06613	成瀬幸太夫正武	安政2(1856)			06304	玉置小平大直永	元禄10(1697)			06716	遠山太郎登雄	天保14(1843)		
06614	成瀬幸太夫正直	安政2(1856)			06305	玉置中郎兵衛直	元禄10(1697)			06717	遠山太郎登道	元治1(1864)		
					06306	玉置小平直永	宝永1(1704)			06718	遠山十郎登英			
06701	甲野直女	慶長17(1642)			06307	玉置重二郎直貞	正徳2(1712)							
06702	休隠院				06308	玉置右衛門直	享保4(1719)		157					
	056と合併				06309	玉置左衛門直之	享保6(1721)			06801	大野野左重夫			
					06310	玉置卜之右通	寛保2(1742)			06802	大野野左重春	寛永14(1637)	056	
05801	荒川三郎太郎秋秋	慶長18(1643)			06311	玉置小平大直會	宝暦9(1759)			06803	大野小左衛門重治	延宝3(1673)		
05802	荒川竹香吉政	正保1(1644)			06312	玉置長左衛門直	明和1(1764)			06804	天野勘助重雄	延宝7(1679)	165	
05803	荒川次郎九郎吉任	寛文4(1664)			06313	玉置源次郎直	文化11(1814)			06805	鈴木源太郎重好			
05804	荒川三郎頼隆	元禄8(1692)			06314	玉置新十郎直	宝永2(1849)			06806	中島圭本謙清		026	
05805	荒川小判頼隆資	享保15(1740)			06315	玉置徳助直典	文化3(1863)			06807	横井十左衛門時彦	宝永7(1730)	082	
05806	荒川小判頼隆	宝暦9(1729)			06316	玉置大左衛門直				06808	成瀬藤太夫一信	享保1(1746)	062	
05807	荒川源三郎頼忠				06401	岡田右右衛門				06809	成瀬藤太夫一信			
05808	荒川金次郎頼賢	文化7(1818)			06402	岡田八兵衛	寛永(1620頃)			06810	成瀬藤太夫一信		045	
05809	荒川源三郎頼重	安政5(1858)			06403	小沢右衛門	承応3(1654)			06811	島貞次大左衛長		065	
05810	荒川源三郎頼和	文化2(1662)			06404	藤原孫助宗俊	寛文12(1672)	100		06812	荒川太郎右衛門貞幹	享保3(1718)		
05811	荒川源三郎頼隆	文化2(1662)			06405	藤原孫助宗式	元禄16(1703)			06813	藤田四郎兵衛辰			
05901	平吉野負				06406	藤原藤太門宗令	元禄16(1703)			06814	長野右衛門重常			
05902	平吉野負	寛永(1620頃)			06407	藤原左衛門宗昌	正徳1(1711)		013	06815	滝川源左衛門忠常		067	006
05903	上藤源				06408	河村右藏方秀	正徳4(1714)	045		06816	滝川北兵衛	宝暦11(1761)		
05904	松平次右衛門久広	元禄7(1694)	020	039	06409	奥村太郎重賢	享保5(1720)		160	06817	滝川上馬平綱	寛政6(1794)		
05905	野崎主税兼清	元禄14(1701)	039		06410	藤井春右衛門時房	享保15(1740)	133		06818	荒川三郎頼隆	寛永7(1854)		
05906	野崎織部重明	元禄14(1701)	039		06411	藤井三太夫時芳	元文5(1740)			06819	荒川三郎頼隆			
05907	野崎清左衛門康林	享保14(1729)			06412	藤井織部之丞時式				06820	荒川三郎頼隆			
05908	野崎主税兼光	享保6(1709)			06413	藤井三太夫時英			024					
05909	野崎河内兼盛	寛政7(1795)			06414	岡野外伝之徳	文化3(1806)	024		06901	小笠原士政政元	寛永14(1637)		
05910	野崎三郎兼盛	寛政10(1798)			06415	岡野宮八郎正重	文政7(1824)			06902	小笠原一右衛門直武	寛文2(1662)		
05911	野崎主税兼茂	文化5(1808)			06416	岡野祐太郎正統	天保13(1842)			06903	遠山右左衛門正	元禄6(1695)		
05912	野崎主税兼寛	天保11(1840)			06417	岡野金之丞正興				06904	遠山源太郎正興	宝永4(1707)		
05913	野崎主税兼記	明治1(1868)			06501	天野金太夫直	寛永(1620)			06905	遠山源太郎正興	享保15(1730)	045	
05914	野崎一徳兼吉				06502	阿部五郎正茂	寛永17(1640)	066		06906	遠山右左衛門直武		004	005
05915	野崎右衛門兼貞									06907	下津右衛門正興			
										06908	津田徳三郎	文化1(1804)	065	

第48表 居住者屋敷地別一覧表⑤

番号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人 名	いつまで	どこから	どこへ
0909	津田又六郎	文化5(1868)			0703	高木久丈大友吉和 0704と合併	寛文3(1863)	112	140	0850	矢崎十右衛門金			041
0910	津田五郎助寛吉	文政2(1819)								0850	津金次郎四郎辰 御用屋敷	元禄6(1693)		
0911	津田太郎左衛門寛興	明治2(1869)			0701	伊藤謙助	元和1(1615)		×過去	0861	菅田辰吉			
0912	津田兵十郎信教				0702	横井伊藤時安	正保4(1647)			0862	渡辺山清源三郎	寛永12(1635)		
0701	松平勘左衛門秀勝	寛永6(1629)			0703	横井伊藤時時	寛文3(1863)		056	0863	岩間長右衛門昌成			
0702	松平左衛門貞則	寛永17(1640)		×改易						0864	石田兵六			
0703	鈴木重康之				0701	竹中内膳春長	元和8(1622)			0865	松井与兵衛宗海	貞享2(1685)		
0704	古屋鉄五左衛門辰成	寛文8(1668)		×過去	0702	竹中重助春昌	寛永19(1642)			0866	松井朝尚元四郎 御用屋敷	元禄6(1693)		
0705	久野半太夫長道	天和2(1662)			0703	竹中左太夫重政	寛文12(1872)			0870	豊田七右衛門			124
0706	久野半太夫定直	元禄6(1693)		164						0870	矢崎佐左衛門 66と884と合併			
0707	成瀬半太夫正信	元禄13(1700)	169		0701	富永大学直次				0880	肥田清三郎忠重	寛永1(1624)		
0708	成瀬竹之助正信				0702	寺尾左馬直政				0880	舟木八郎平助			
0709	中兼主太康綱	宝永4(1707)		056	0703	竹越山守信良	寛永14(1637)			0881	舟山左衛門正明	寛文5(1665)		
0710	横井頼時時真			056	0704	成瀬吉右衛門正則	寛文11(1671)			0882	下島左衛門正則	寛文7(1674)		
0711	河村良馬永秀				0705	成瀬古太夫長利	元禄7(1694)			0883	下島左衛門正明	寛文7(1674)		
0712	阪田主馬当綱				0706	成瀬内記法徳	寛明1(1741)			0884	下島平宗正春	元禄10(1703)		
0713	横井豊時中三	寛政9(1797)		004	0707	成瀬右左衛門長貞	延享4(1747)			0885	御用屋敷			004
0714	鈴木千七郎春期	寛政5(1794)		008	0708	成瀬山正清	天和8(1771)		067	0890	河手十郎兵衛	正保16(1643)		
0715	鈴木重十郎春道	天保15(1844)			0709	成瀬比左之丞正綱	天保2(1831)			0892	津田龍藏直信			060
0716	鈴木重三郎	慶応4(1868)			0710	成瀬大膳正元	嘉永6(1853)			0893	井野川五郎左衛門直監			
0717	平岩宮内				0711	成瀬水次郎正心	元治1(1864)			0894	水野三九郎政勝			
0718	平岩主水	寛永(1630頃)		051	0712	成瀬山守守正綱				0895	京原半左衛門高貞			
0719	久野七郎右衛門宗信	寛文3(1663)		167	0713	成瀬山守守正心				0896	千村敬直 御用屋敷	元禄5(1692)		026
0720	久野久太夫長道	寛文8(1668)		070	0801	豊田春馬	元和1(1615)			0900	土屋清之丞	慶安3(1650)		
0721	竹越山城守正綱	延宝5(1677)			0802	松井兵衛				0901	土屋太郎右衛門	寛文3(1663)		×過去
0722	竹越山藤次郎正信	宝永3(1706)			0803	肥田清三郎忠重	慶安2(1649)		088	0902	土屋五郎左衛門			
0723	竹越山藤次郎正信	宝永6(1709)			0804	肥田清三郎忠重	元和3(1683)			0903	御用屋敷			
0724	竹越山藤次郎正信	宝曆9(1729)		033	0805	肥田清三郎忠重	元禄6(1693)			0904	津田半之右衛門			157
0725	竹越山心次郎正信	文化1(1804)			0806	肥田清三郎忠重			010	0905	土屋辰左衛門春泰	元禄5(1692)		030
0726	竹越山城守正定	文化8(1807)			0807	春沼清之助正好	寛永18(1641)			0910	山城宮内少輔			
0727	竹越山城守正守	文化2(1802)			0808	春沼正五郎藤吉	万治(1690)			0912	山城兵衛	元禄(1616)		×断絶
0728	竹越山若正田				0809	松平知康永	延宝3(1675)			0913	柳生兵庫政幸	慶安3(1646)		
0729	村山太郎太夫				0810	松平知康久				0914	柳生茂左衛門利方 892と合併	寛文2(1662)		
0730	村山太郎太夫武式	寛永(1620)		186	0811	松平知康久				0920	佐久間河内守			
0731	山原新兵衛海蔵			049	0812	松平知康久				0922	佐久間平兵衛	元和2(1616)		×断絶
0732	小瀬新右衛門忠次 071と合併	寛文3(1663)		063	0813	松平知康久				0923	吉田水忠孝	寛文2(1646)		
0733	三木左京	寛永(1620)			0814	松平知康久				0924	石河伊賀正光	寛文11(1671)		
0734	小野沢五郎兵衛吉清	正保2(1645)			0815	松平知康久				0925	石河七郎右衛門忠長 御用屋敷	元禄6(1693)		
0735	小野沢五郎兵衛吉正	明暦4(1668)			0816	松平知康久				0930	石河正光忠	寛永5(1628)		
0736	山下左衛門氏綱 071と合併	寛文3(1663)		196	0817	松平知康久				0932	石河太郎元正光 御屋敷	慶安2(1649)		082
0737	豊田大膳忠元	寛永1(1624)			0818	關右大膳四郎之守	寛永(1620)			0940	寺西藤左衛門吉吉			
0738	鈴木重康之	慶安3(1650)			0819	寺西三五郎召勝	明暦1(1665)		066	0942	寺西三五郎兵衛	寛永10(1633)		
0739	鈴木五郎春康兵	寛文3(1663)		040	0820	寺西此之秀性辰				0943	寺西三五郎召勝			
0740	評定所				0821	松木太夫	元禄(1690)			0944	御用屋敷			
0741	中村春藏元勝	慶長15(1610)			0822	伊藤忠元				0945	御用屋敷			
0742	中村春藏元規				0823	志迎忠元	寛永13(1636)			0950	津田太郎左衛門知信			082
0743	中村春藏元興	寛文3(1663)			0824	志迎伊藤成政	慶安(1650)			0952	松井主殿			
0744	成瀬半人正正興	元禄16(1703)			0825	伊藤元勝				0960	藤上秀 御屋敷			
0745	成瀬小方正理	享保17(1732)			0826	伊藤元勝				0961	萬生君監			
0746	成瀬半人正正典	天和5(1768)			0827	志迎忠元								
0747	成瀬半人正正典	文化6(1809)			0828	志迎伊藤成政								
0748	成瀬小方正寿	天保9(1838)			0829	伊藤元勝								
0749	成瀬主殿信正	安永4(1837)			0830	伊藤元勝								
0750	成瀬主殿信正				0831	上田忠三郎	寛永3(1626)							
0751	高木忠孝一言	寛永1(1624)			0832	津金重隆								
0752	高木總理吉任	慶安3(1650)	045		0833	下方太郎兵衛貞名								
					0834	津金左衛門辰景								
					0835	津金左衛門辰景								
					0836	深沢兵衛利忠								
					0837	藤原頼朝宗俊								
					0838	藤原五左衛門宗廣 083と合併								
					0839	上田忠三郎	寛永3(1626)							
					0840	津金重隆								
					0841	下方太郎兵衛貞名								
					0842	藤原頼朝宗俊								
					0843	藤原五左衛門宗廣 083と合併								
					0844	上田忠三郎	寛永3(1626)							
					0845	津金重隆								
					0846	下方太郎兵衛貞名								
					0847	藤原頼朝宗俊								
					0848	藤原五左衛門宗廣 083と合併								
					0849	上田忠三郎	寛永3(1626)							
					0850	津金重隆								
					0851	下方太郎兵衛貞名								

第49表 居住者屋敷地別一覧表⑥

第V章 補論

番号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人 名	いつまで	どこから	どこへ
09602	高木源右衛門				10601	道山石江景豊				11206	小笠原九郎次郎宗正	寛文9 (1677)	112	×断絶
09603	佐治阿彌兵衛				10602	道山伊藤景吉	寛永12 (1635)			11207	内藤内記忠孝			
09604	兼生清賢				10603	道山荒之助兼				11208	大井平左衛門	貞享2 (1685)		
09605	守屋伊兵衛氏盛 頼房教	慶安4 (1651)			10604	山下佐左衛門氏朝 頼房教	万治2 (1659)		073	11209	湯島			
09701	一色藤吉某		127		10701	道山掃部景吉	寛永12 (1635)			11210	朝倉伊左衛門道賢	元禄14 (1701)		
09702	内藤富太郎				10702	内藤伊藤景何				11211	朝倉三郎景忠			158
09703	細野一空成定 頼房教	慶安4 (1651)	094		10703	百田長右衛門氏風 頼房教	万治2 (1659)			11212	寺西左衛門景昌	正徳3 (1713)		
09801	兼松丹三郎正安				10801	志水甲斐忠政	承応2 (1653)			11213	福田七郎左衛門之春			
09802	武野安斎知信				10802	志水甲斐忠綱	寛文5 (1665)		040	11214	福田九郎兵衛之長			
09803	守屋伊兵衛氏盛				10803	志水光之助忠秀	宝永7 (1710)			11215	山内朝時貞			
09804	山本兵衛大秀熊				10804	志水石門忠栄	享保9 (1724)			11216	鈴木忠太郎右衛門唯重	享和1 (1801)		
09805	鈴木兵衛季重		030		10805	志水甲斐忠治	宝暦8 (1758)			11217	鈴木要人	文政7 (1824)		
09806	三ツ沢立五郎		142		10806	志水吉直忠吉	天明3 (1766)			11218	鈴木伊三郎道貞	弘化2 (1845)		
09807	中西五七郎從				10807	志水甲斐忠珍	天明5 (1765)			11219	鈴木宇右衛門			
09808	中畑清右衛門 頼房教				10808	志水甲斐忠尚	文化14 (1817)			11301	大橋長右衛門	寛永 (1630頃)		
09901	浅野住蔵長治	明暦2 (1656)			10809	志水八郎忠受	天保3 (1832)			11302	高野院			
09902	浅野文右衛門治基				10810	志水八郎忠受	天保4 (1833)			11303	役御膳場			
09903	水野三九郎政雄				10811	志水甲斐忠厚	天保9 (1838)			11304	安達文長	宝永6 (1709)		
09904	原藤五右衛門				10812	志水八郎忠受	安政5 (1858)			11305	渡辺祐一郎	享保9 (1724)		
09905	深沢清助貞忠 頼房教				10813	志水三郎忠賢	文久2 (1862)			11306	渡辺忠一	享保9 (1724)		
10001	村田権右衛門				10814	志水録次郎忠平				11307	渡辺忠一	文化7 (1818)		
10002	村田藤藤次	元和6 (1620)			10901	武庫半左衛門正成	寛永2 (1625)			11308	水野藤兵衛忠常	天保2 (1831)		
10003	滝川北門時成				10902	滝川豊守法忠				11309	水野藤三郎忠賢	天保11 (1840)		
10004	志水宗次忠良				10903	滝川豊助時成	寛永12 (1635)		101	11310	水野藤馬	慶応2 (1866)		
10005	藤原藤次郎從				10904	滝川十郎忠成	元禄6 (1693)			11401	岩瀬惣左衛門			
10006	天野太郎左衛門忠正		084	064	10905	滝川一右衛門恒成	宝永2 (1705)			11402	岩瀬左衛門 113と合併	寛永 (1630頃)		
10007	丹野六郎左衛門宣重				10906	滝川右左衛門時令 頼房教	宝永6 (1709)		033	11501	大橋七平伊倉	寛永18 (1641)		
10008	鈴木定太夫 頼房教				11001	吉田平内	元和 (1620頃)			11502	大橋藤太伊尉			×退去
10101	滝川豊尚守法忠				11002	豊田徳兵衛				11503	山下忠太郎兵衛氏	寛文3 (1663)		
10102	滝川長十郎時成	寛永12 (1635)	100	309	11003	阿地光之助				11504	福岡右衛門	貞享2 (1685)		
10103	滝川又右衛門忠尚		027	027	11004	石川勘助由正重			40	11505	橋本正親	貞享2 (1685)		
10104	志水八郎左衛門徳信		017	023	11005	岩河方某	万治2 (1659)			11506	橋本正親	貞享2 (1685)		
10105	尾三左衛門正龍		023	067	11006	岩河重十郎	元禄11 (1694)			11507	岩河自海	宝永7 (1710)		
10106	竹澤丹成正長 頼房教			033	11007	岩河治兵衛	宝永2 (1705)			11508	山田朝庵宗信	寛文2 (1727)	125	
10201	中島真兵衛				11008	若林治左衛門尚通	正徳2 (1712)			11509	谷田西地宗康	寛文2 (1727)		
10202	中島真綱定良				11009	若林治左衛門尚吉				11510	谷田西地宗康	寛保2 (1742)		
10203	浅香右衛門宣成 頼房教			147	11010	吉見左衛門大夫幸朝	享保13 (1728)			11511	谷田喜右衛門村秀	寛政3 (1791)		
10301	小笠原源右衛門勝忠			170	11011	吉見石右衛門幸朝	宝暦12 (1762)			11512	谷田喜右衛門 113と合併	文化14 (1817)		
10302	長野権右衛門				11012	吉見藤守幸孝	寛政9 (1797)			11601	藤沢左衛門正重	寛永14 (1637)		
10303	長野右衛門				11013	吉見藤守幸茂	天保8 (1837)			11602	藤沢民部正長			×退去
10304	新井左衛門				11014	吉見謙助守幸純	文久3 (1863)			11603	山下八郎右衛門氏輝	寛文3 (1663)		
10305	新野八左衛門定次				11015	吉見克右衛門				11604	横井源右衛門時英	元禄6 (1693)	003	
10306	横井大守時良 頼房教				11101	下方弥左衛門	明暦2 (1656)			11605	横井源右衛門時英	享保12 (1727)		
10401	大野八郎政成			138	11102	下方弥三郎貞真	寛文2 (1662)			11606	横井源右衛門時英	寛永12 (1635)		
10402	高木丹波重雄	寛永9 (1632)			11103	高木平十郎芳繁	寛永4 (1664)		045	11607	横井源右衛門時英	寛永12 (1635)		
10403	高木丹波重吉 頼房教	万治3 (1660)			11104	山田南庵玄祐	寛文3 (1663)			11608	横井源右衛門時英	寛永12 (1635)		
10501	玄益				11105	山田南庵玄哲	宝永3 (1695)			11609	中島多郎康徳	寛政2 (1745)	140	
10502	玄隆				11106	山田南庵玄重	宝永3 (1695)			11610	中島多郎康徳	文政7 (1824)		
10503	玄 頼房教	万治3 (1660)			11107	河村政門兼秀				11611	中島輝吉康徳	文政9 (1826)		
					11108	島沢忠右衛門往住				11612	中島輝吉康徳	文保14 (1843)		
					11109	野呂宗九郎右衛門			036	11613	中島輝吉康徳	慶応2 (1866)		
					11110	岡宮小幡	天保8 (1837)			11701	下島右衛門正吉	天保9 (1838)	005	
					11111	岡宮式太郎	慶応2 (1866)			11702	下島義馬正親	慶応2 (1866)		
					11112	岡宮富太郎				11703	下島義馬正親			
					11201	寺尾今兵衛正徳				11801	横井源右衛門正重	天保14 (1843)		
					11202	寺尾三左衛門正龍	寛永13 (1636)		023	11802	横井源右衛門正重			
					11203	高木太夫大和	慶安3 (1650)		076	11803	横井源右衛門正重			
					11204	三沢内江立昌								
					11205	浅野文右衛門治基			099					

第50表 居住者屋敷地別一覧表(7)

番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ
11901	田舎中兵衛			168	12607	小坂平八郎	安永3(1724)			13206	坂田五郎兵衛	延享1(1744)		
11902	小菅重之助正政	天保3(1832)	168		12608	小坂平八郎定賢				13207	坂田之進辰吉	寛政9(1798)		
11903	小菅吉右衛門正盛	嘉永1(1848)			12609	藤井五郎時海	享和1(1801)	028		13208	坂下十郎	天保2(1821)		
11904	小菅重之助	安政6(1850)			12610	藤井平一久時	享政2(1850)			13209	坂金五郎兵衛	慶応4(1868)		
11905	小菅金太郎				12611	藤井平太時春	明治3(1870)			13210	坂久之進辰仁			
					12612	藤井富雄								
12001	中根清五郎				12701	一色国吉	寛永6(1629)	087		13301	藤井三郎時寛			
12002	中根清吉				12702	一色山内水治治	寛文4(1664)			13302	石原玄右衛門重富	貞享3(1686)		
12101	高橋河内守長隆	文政3(1820)	015		12703	津田重郎右衛門直信	延宝6(1678)	060		13303	石原謙藏重田			
12102	高橋河内守長隆	安政4(1857)			12704	津田徳之丞長信	宝永3(1706)			13304	奥田頼時忠雄	宝永3(1706)		
12103	高橋河内守長隆	元治1(1864)			12705	津田九郎左衛門重文	享保29(1735)			13305	五味平馬勇	宝永4(1707)		003
12104	高橋河内守長隆	明治4(1871)			12706	津田源吉伝蔵	元文5(1740)			13306	中根右衛門宗房	正徳4(1714)		
12105	高橋宮次郎				12707	津田松之助信伊	寛政3(1750)			13307	藤井右衛門時房			064
					12708	津田九郎右衛門信宗	寛政10(1798)			13308	川原九郎頼久			017
					12709	津田藤藏信任	弘化3(1846)			13309	林久左衛門美典			
12201	嶋野五右衛門		168		12710	津田藤藏信好	安政2(1855)			13310	肥田貞内久忠	132・134に分類		
					12711	津田武治信敏								
12301	岡子昇永安	寛永(1620c)			12801	坂井半九郎	明暦2(1656)			13401	藤井孫右衛門時孝	寛永15(1638)		
12302	岡本文雄				12802	坂井久左衛門	寛文4(1664)			13402	藤井右衛門時光	慶安3(1650)		
12303	大田十郎									13403	福富徳之丞秀勝	貞享4(1687)		
12304	坂本重	元禄(1690c)								13404	福富大平大祐清	享保2(1717)		
										13405	福富次郎秀安	明和4(1767)		
										13406	福富次郎秀邦	寛政3(1791)		
12401	木倉吉次夫				12901	藤井伊右衛門時右	寛永(1630d)			13407	福富平左衛門	文政5(1822)		
12402	矢崎作左衛門				12902	藤井左衛門時信				13408	福富平左衛門	天保11(1840)		
12403	松村新兵衛		087		12903	武野安知信昌				13409	福富四郎	文久3(1883)		
12404	天野太郎左衛門志正				12904	守屋伊右衛門				13410	福富善太郎			
12405	市辺清兵衛正明				12905	守屋清助								
12406	水野八郎				12906	一色頼房								
12407	松井与兵衛光房				12907	津金左衛門胤景	元禄13(1700)			13501	武野新右衛門時定	寛永17(1640)		
12408	津田重郎右衛門信信	寛政3(1743)			12908	津金太郎胤景広	元禄13(1700)			13502	武野新右衛門信定	元禄8(1695)		
12409	津田内侍梅太郎				12909	津金太郎胤景	元禄13(1700)			13503	武野新右衛門時房			
12410	近藤平右衛門朝公	寛政3(1743)			12910	津金三郎胤景	宝永2(1705)			13504	成田新左衛門大光			
12411	近藤三郎朝徳				12911	津金左衛門胤忠				13505	五味新右衛門貞伊	宝永2(1705)		017
12412	人見坂右衛門	安永6(1777)			12912	津金左衛門胤忠	享保16(1731)			13506	五味徳太郎			
12413	岡田富三郎			013			127と合併			13507	下島貞兵衛正明	享保2(1717)		
12414	木多									13508	下島半右衛門貞貞	文化9(1812)		
12415	寺西忠兵衛昌隆	寛政2(1790)		041	13001	石原作兵衛時勝				13509	下島吉正兵衛	安政5(1858)		
12416	寺西九平	天保1(1843)			13002	石原作兵衛時長	寛文1(1661)			13510	下島半右衛門	慶応2(1866)		
12417	寺西徳之丞昌隆	安政6(1850)			13003	石原久之助時全				13511	下島新之丞			
12418	寺西三五郎昌貞				13004	山原清治兵衛経英	宝永7(1710)							
					13005	山原清治兵衛英	延享1(1744)			13601	山本道弘政之	元禄2(1686)		
12501	南部十之助宗清	寛永(1630d)		152	13006	山原善兵衛	延享2(1745)			13602	山本政之進政機	正徳5(1715)		
12502	丸丸				13007	山原清左衛門義清	安永2(1723)			13603	山本政之進政機	元文1(1790)		
12503	山本彦彦				13008	小笠原三郎主忠			137	137				
12504	小野沢七郎兵衛吉行	貞享2(1685)			13009	小笠原九郎兵衛				13605	山本政之進			
12505	谷田茂徳安信				13010	小笠原三郎				13606	山本政之進			
12506	谷田茂徳安信			115	13011	小笠原八右衛門	文化3(1805)			13607	山本道弘	安永8(1779)		
12507	坂木宮内				13012	小笠原一風忠彦	天保14(1843)			13608	山本道八郎	文政6(1823)		
12508	石川内記時久				13013	小笠原謙太郎				13609	山本五郎	文政6(1823)		
12509	千村平兵衛	正徳5(1715)								13610	山本勝太郎	安政7(1860)		
12510	水野新右衛門時海	享保19(1734)			13101	藤井十右衛門	寛永(1630d)			13811	山本八兵衛			
12511	水野治兵衛時伊				13102	藤下七右衛門	慶安4(1651)							
12512	藤野常光宗就				13103	藤下七右衛門								
12513	吉田元祐				13104	富永重郎右衛門重俊	宝永6(1709)			13701	水野三三四郎	寛永(1630d)		
12514	宮貫平九郎				13105	藤原八郎兵衛宗種				13702	津金妙雲			
12515	高木平七一貫	天明8(1788)			13106	藤野新右衛門良何				13703	津金善七			
12516	高木徳三郎	天保5(1834)			13107	五味藤江高徳	延享1(1744)			13704	津金七右衛門			
12517	高木平七	明治3(1870)			13108	高木安次郎	文化1(1804)		143	13705	小川玄智			
12518	高木寛之丞				13109	高木基五右衛門	文政10(1827)			13706	小川五了			
					13110	高木金吾	天保2(1831)			13707	坂田宗盛			
					13111	高木基五右衛門				13708	高橋昌軒	宝永6(1709)		
12601	藤松四郎	寛永1(1624)			13201	藤井三太夫	天保2(1831)			13709	寺尾兵部正重			
12602	藤松太郎兵衛正以	慶安4(1651)			13202	藤井栄女實時	享保4(1719)			13710	伊藤孫右衛門			
12603	藤松四郎	寛文7(1667)			13203	藤井貞右衛門時向	享保15(1730)			13711	小笠原三郎忠志			130
12604	渡辺七九郎久綱	元禄13(1700)			13204	藤井貞右衛門時向				13712	津田清左衛門義清	豊島地		042
12605	渡辺七九郎成綱				13205	藤原兵衛直紀	享保16(1731)	148						
12606	藤井十右衛門時久		026											
12607	小坂安左衛門時賢	宝暦5(1755)	026							13801	藤田右衛門盛次	寛永6(1629)		

第51表 居住者屋敷地別一覧表③

第V章 補論

番 号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番 号	人 名	いつまで	どこから	どこへ	番 号	人 名	いつまで	どこから	どこへ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
13802	長野五右衛門政武	正保1(1644)	104		14206	鈴木兵衛重吉	貞享4(1687)	054		14601	松井舟山門	寛永1(1624)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13803	長野敷丸政武	天明1(1801)			14207	鈴木政左衛門重		098		14602	松井三左衛門																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
13804	長野丸之助祐重			067	14208	足野三郎四郎貞	元禄30(1697)			14603	杉山次郎大次郎武	正保4(1647)	072																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
13805	長野武左衛門				14209	足野昌十郎御前	元禄38(1697)			14604	高尾藤左衛門	享保2(1681)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13806	寺西西善庵重	元禄13(1700)	144		14210	高坂次兵衛	元禄11(1696)	145		14605	大野三左衛門	寛文2(1682)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13807	奥田主馬忠雄	正徳1(1711)	133		14211	高坂次兵衛御信	宝永4(1707)			14606	小山右兵衛清政	寛文3(1683)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13808	奥田主馬仲重	正徳3(1713)	143		14212	高坂三左衛門本武	宝永6(1709)			14607	小山権左衛門政輝	元禄7(1694)		053																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
13809	奥原平左衛門志		015	008	14213	石川一守卓忠	享保18(1733)	026		14608	水谷九左衛門志知	元禄12(1699)	147																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
13810	鈴木丹後忠雄		008	015	14214	石河定次郎卓純	寛延1(1748)			14609	水谷九右衛門勝明	元禄13(1700)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13811	奥原内膳志	享保5(1730)	008		14215	石河康次郎光秀	明和5(1768)			14610	足野七右衛門重誠																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
13812	奥原久之守平承	享保11(1736)			14216	石河三郎卓信			14611	上田平右衛門重誠					關原春行平代承				14217	長野八助祐清	文化1(1804)			14612	河村兵馬永芳			053						14218	長野七右衛門祐吉	文政6(1823)			14613	足野八左衛門剛益	寛延2(1779)				13901	奥平求馬貞典				14219	長野鎮吉祐吉	弘化4(1847)			14614	足野武之助朝臣					13902	奥平源兵衛貞利	慶安1(1640)			14220	長野鎮吉祐吉			14615	高木内左衛門重船	安永6(1787)	020			13903	田辺四郎右衛門兼之				14301	安部藤兵衛貞長	寛永20(1643)			14616	高木内膳	天明5(1785)				13904	田辺春四郎重宣				14302	安部六左衛門貞昌									13905	寺西藤左衛門清宣			067	14303	安部六左衛門剛平	延宝5(1677)								13906	長野藤右衛門祐久	享保14(1729)		067	14304	安部藤太夫重綱	貞享1(1684)			14701	平賀九郎左衛門元正				13907	長野丸之助祐執	享保15(1730)			14305	富永内左衛門貞重	元禄13(1706)			14702	平賀又右衛門					13908	長野善次郎祐正	宝暦4(1754)			14306	富永貞之丞孝孝	宝永4(1707)	015		14703	渡辺平十郎景綱	寛文5(1665)		150	13909	長野善四郎祐正	明和8(1771)			14307	奥田兵衛仲重	宝永6(1709)			14704	渡辺清十郎景綱	寛文7(1667)	148	144	13910	長野又次郎祐石				14308	奥田兵衛正茂	延享1(1744)			14705	大野善信守	貞享1(1684)			13911	大久保平太夫	天明3(1783)			14309	五味平馬貞典	文化7(1816)			14706	平島善正兵衛	元禄6(1693)		144	13912	富永内左衛門兼氏	文化1(1804)			14310	五味藤江貞典	文化7(1816)			14707	水谷九左衛門志知	元禄7(1694)	102		13913	富永内膳兼多	文化5(1808)			14311	五味平馬貞典	文化7(1816)			14708	水谷九左衛門志知	元禄7(1694)	146		13914	富永兼吉兼美	文政2(1819)			14312	五味平馬貞典	文政2(1855)			14709	岩崎小次郎政隆	元禄13(1700)	145		13915	富永兼吉兼文	天保14(1843)			14313	五味政次郎貞典			14710	岩崎小次郎政隆	正徳2(1712)				13916	富永内膳兼忠	文久2(1862)			14314	五味藤江守貞			14711	岩崎三右衛門兼重	享保8(1723)				13917	富永二進忠重				14314	五味藤江守貞			14712	福澤五左衛門	享保11(1736)									14401	伊田右馬允			14713	佐藤藤左衛門忠雄	享保18(1733)	051	020		14001	新田五左衛門			161	14402	水野弥左衛門守政			14714	千原重隆出典		050	043	14002	新田作左衛門				14403	中野権五郎貞典	寛文5(1665)	157		14715	千原多助貞典		055		14003	山下彌之助氏忠	寛文3(1663)	161		14404	中野権平太夫	寛文7(1667)		145	14716	佐藤藤左衛門忠	安永7(1789)	030		14004	高木忠孝吉和	延宝3(1675)	076		14405	遠山十郎	延宝1(1673)	147		14717	佐藤藤左衛門忠	文政2(1779)			14005	高木三郎兵衛清長	宝永5(1708)			14406	高橋九郎左衛門正徳	元禄7(1694)			14718	佐藤三安忠兵	宝永5(1832)			14006	高木政次郎孝保	宝永6(1709)			14407	高橋五右衛門重寛	元禄7(1694)			14719	佐藤兼之助忠忠	慶応4(1868)			14007	熊谷守兵衛政美	正徳3(1713)		051	14408	長沢次左衛門貞典	元禄13(1706)	036	138	14720	佐藤善吉忠兵				14008	熊谷鎮之助政美	正徳4(1714)			14409	寺西西善庵重	元禄13(1706)								14009	小笠原三九郎長綱				14410	近藤兼五大夫祐房	元禄36(1763)								14010	中島主水兼家	享保19(1734)			14411	富永七重兼	正徳4(1714)			14801	島尻九兵衛正勝	寛永(1630頃)			14011	高木八郎左衛門秀綱			116	14412	平谷七大夫元雅	寛政6(1721)	148		14802	小笠原五左衛門	正保3(1646)		149	14012	高木貞翁源兵衛	宝暦7(1757)			14413	小山重郎兵衛政純		053		14803	河野平五郎正吉	万治2(1659)		156	14013	高木貞翁源兵衛	寛政9(1797)			14414	水野作左衛門				14804	渡辺公十郎	寛文5(1665)		147	14014	高木文太郎秀典	天保14(1843)			14415	渡辺上馬吉綱				14805	土橋善右衛門綱要	寛永6(1686)			14015	高木内膳秀典	福永3(1850)			14416	渡辺藤左衛門時枝	宝暦4(1754)	116		14806	林忠右衛門正勝	延宝1(1673)	145		14016	高木作十郎秀林				14417	渡辺吉吉善時	天明7(1787)			14807	河野善右衛門武吉	天和3(1683)								14418	渡辺藤左衛門時善	文化14(1817)			14808	藤次兵衛	元禄2(1689)			145	14101	吉原五左衛門				14419	渡辺藤右衛門時成	文政3(1820)			14809	松井右衛門武吉	元禄8(1695)	055	029	14102	吉原敷丸				14420	渡辺藤右衛門時成	安永5(1858)			14810	千村作左衛門芳宗	元禄12(1699)			14103	吉原助太夫祐綱	寛文5(1665)			14421	渡辺藤志郎時是	慶応2(1866)			14811	平賀三郎兵衛貞宗	元禄17(1704)		145	14104	藤藤山貞貞	元禄6(1683)	034		14422	渡辺藤志郎時是	慶応4(1868)			14812	平賀七次夫元雅	正保4(1714)	144		14105	藤次郎右衛門貞貞				14423	渡辺藤三郎			14813	福崎兵衛貞記	享保8(1723)	132		14106	伊山右衛門重忠								14814	武野治兵衛御信	享保11(1736)			14107	松井平兵衛光房				14501	田代伝印綱重	寛永10(1633)								14108	野呂藤内定直盛	元文2(1737)			14502	田代伝記公綱	寛永21(1644)			14901	長谷川元門	寛永(1630頃)			14109	野呂藤内定直亮	明和8(1775)			14503	田代武兵衛伊綱	寛文4(1664)			14902	坂浦吉左衛門正則	寛永14(1637)	079		14110	野呂藤六太郎直典	寛政6(1794)			14504	山本平太夫秀典			020	14903	小笠原五左衛門			148	14111	野呂藤六太郎直典	享和2(1802)			14505	本多久兵衛正	寛文8(1668)			14904	小笠原安左衛門	寛文3(1663)			14112	野呂藤吉十郎直典	文政12(1820)			14506	安藤平太夫	寛文11(1671)	144							14113	野呂藤善之助直典	明治3(1870)			14507	西尾藤右衛門正房	延宝1(1673)								14114	野呂藤直一貞直典				14508	林忠右衛門正勝	元禄2(1689)	148												14509	藤次兵衛	元禄30(1697)	148	142	15001	高田平兵衛	寛永(1630頃)				14201	岩瀬藤左衛門	寛永6(1629)			14510	五味右衛門兼貞	元禄13(1706)			15002	高田平兵衛	寛永17(1640)			14202	左右衛平重次	慶安15(1680)			14511	堀川小次郎景徳	元禄36(1763)	147		15003	岩崎五左衛門正等	寛文10(1630)		024	14203	左右衛平重徳	慶安1(1640)			14512	西尾三郎兵衛富吉	正徳2(1712)	148		15004	高田平兵衛				14204	左右衛平重徳	万治2(1659)			14513	奥原善右衛門忠政	享保11(1736)			15005	成瀬藤左衛門正時	延宝5(1677)	033	
	關原春行平代承				14217	長野八助祐清	文化1(1804)			14612	河村兵馬永芳			053																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
					14218	長野七右衛門祐吉	文政6(1823)			14613	足野八左衛門剛益	寛延2(1779)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13901	奥平求馬貞典				14219	長野鎮吉祐吉	弘化4(1847)			14614	足野武之助朝臣																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
13902	奥平源兵衛貞利	慶安1(1640)			14220	長野鎮吉祐吉			14615	高木内左衛門重船	安永6(1787)	020																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13903	田辺四郎右衛門兼之				14301	安部藤兵衛貞長	寛永20(1643)			14616	高木内膳	天明5(1785)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13904	田辺春四郎重宣				14302	安部六左衛門貞昌																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
13905	寺西藤左衛門清宣			067	14303	安部六左衛門剛平	延宝5(1677)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
13906	長野藤右衛門祐久	享保14(1729)		067	14304	安部藤太夫重綱	貞享1(1684)			14701	平賀九郎左衛門元正																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
13907	長野丸之助祐執	享保15(1730)			14305	富永内左衛門貞重	元禄13(1706)			14702	平賀又右衛門																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
13908	長野善次郎祐正	宝暦4(1754)			14306	富永貞之丞孝孝	宝永4(1707)	015		14703	渡辺平十郎景綱	寛文5(1665)		150																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
13909	長野善四郎祐正	明和8(1771)			14307	奥田兵衛仲重	宝永6(1709)			14704	渡辺清十郎景綱	寛文7(1667)	148	144																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
13910	長野又次郎祐石				14308	奥田兵衛正茂	延享1(1744)			14705	大野善信守	貞享1(1684)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
13911	大久保平太夫	天明3(1783)			14309	五味平馬貞典	文化7(1816)			14706	平島善正兵衛	元禄6(1693)		144																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
13912	富永内左衛門兼氏	文化1(1804)			14310	五味藤江貞典	文化7(1816)			14707	水谷九左衛門志知	元禄7(1694)	102																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
13913	富永内膳兼多	文化5(1808)			14311	五味平馬貞典	文化7(1816)			14708	水谷九左衛門志知	元禄7(1694)	146																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
13914	富永兼吉兼美	文政2(1819)			14312	五味平馬貞典	文政2(1855)			14709	岩崎小次郎政隆	元禄13(1700)	145																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
13915	富永兼吉兼文	天保14(1843)			14313	五味政次郎貞典			14710	岩崎小次郎政隆	正徳2(1712)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
13916	富永内膳兼忠	文久2(1862)			14314	五味藤江守貞			14711	岩崎三右衛門兼重	享保8(1723)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
13917	富永二進忠重				14314	五味藤江守貞			14712	福澤五左衛門	享保11(1736)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
					14401	伊田右馬允			14713	佐藤藤左衛門忠雄	享保18(1733)	051	020																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
14001	新田五左衛門			161	14402	水野弥左衛門守政			14714	千原重隆出典		050	043																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
14002	新田作左衛門				14403	中野権五郎貞典	寛文5(1665)	157		14715	千原多助貞典		055																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
14003	山下彌之助氏忠	寛文3(1663)	161		14404	中野権平太夫	寛文7(1667)		145	14716	佐藤藤左衛門忠	安永7(1789)	030																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
14004	高木忠孝吉和	延宝3(1675)	076		14405	遠山十郎	延宝1(1673)	147		14717	佐藤藤左衛門忠	文政2(1779)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14005	高木三郎兵衛清長	宝永5(1708)			14406	高橋九郎左衛門正徳	元禄7(1694)			14718	佐藤三安忠兵	宝永5(1832)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14006	高木政次郎孝保	宝永6(1709)			14407	高橋五右衛門重寛	元禄7(1694)			14719	佐藤兼之助忠忠	慶応4(1868)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14007	熊谷守兵衛政美	正徳3(1713)		051	14408	長沢次左衛門貞典	元禄13(1706)	036	138	14720	佐藤善吉忠兵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
14008	熊谷鎮之助政美	正徳4(1714)			14409	寺西西善庵重	元禄13(1706)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
14009	小笠原三九郎長綱				14410	近藤兼五大夫祐房	元禄36(1763)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
14010	中島主水兼家	享保19(1734)			14411	富永七重兼	正徳4(1714)			14801	島尻九兵衛正勝	寛永(1630頃)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14011	高木八郎左衛門秀綱			116	14412	平谷七大夫元雅	寛政6(1721)	148		14802	小笠原五左衛門	正保3(1646)		149																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
14012	高木貞翁源兵衛	宝暦7(1757)			14413	小山重郎兵衛政純		053		14803	河野平五郎正吉	万治2(1659)		156																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
14013	高木貞翁源兵衛	寛政9(1797)			14414	水野作左衛門				14804	渡辺公十郎	寛文5(1665)		147																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
14014	高木文太郎秀典	天保14(1843)			14415	渡辺上馬吉綱				14805	土橋善右衛門綱要	寛永6(1686)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14015	高木内膳秀典	福永3(1850)			14416	渡辺藤左衛門時枝	宝暦4(1754)	116		14806	林忠右衛門正勝	延宝1(1673)	145																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
14016	高木作十郎秀林				14417	渡辺吉吉善時	天明7(1787)			14807	河野善右衛門武吉	天和3(1683)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
					14418	渡辺藤左衛門時善	文化14(1817)			14808	藤次兵衛	元禄2(1689)			145																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
14101	吉原五左衛門				14419	渡辺藤右衛門時成	文政3(1820)			14809	松井右衛門武吉	元禄8(1695)	055	029																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
14102	吉原敷丸				14420	渡辺藤右衛門時成	安永5(1858)			14810	千村作左衛門芳宗	元禄12(1699)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14103	吉原助太夫祐綱	寛文5(1665)			14421	渡辺藤志郎時是	慶応2(1866)			14811	平賀三郎兵衛貞宗	元禄17(1704)		145																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
14104	藤藤山貞貞	元禄6(1683)	034		14422	渡辺藤志郎時是	慶応4(1868)			14812	平賀七次夫元雅	正保4(1714)	144																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
14105	藤次郎右衛門貞貞				14423	渡辺藤三郎			14813	福崎兵衛貞記	享保8(1723)	132																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14106	伊山右衛門重忠								14814	武野治兵衛御信	享保11(1736)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
14107	松井平兵衛光房				14501	田代伝印綱重	寛永10(1633)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
14108	野呂藤内定直盛	元文2(1737)			14502	田代伝記公綱	寛永21(1644)			14901	長谷川元門	寛永(1630頃)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14109	野呂藤内定直亮	明和8(1775)			14503	田代武兵衛伊綱	寛文4(1664)			14902	坂浦吉左衛門正則	寛永14(1637)	079																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
14110	野呂藤六太郎直典	寛政6(1794)			14504	山本平太夫秀典			020	14903	小笠原五左衛門			148																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
14111	野呂藤六太郎直典	享和2(1802)			14505	本多久兵衛正	寛文8(1668)			14904	小笠原安左衛門	寛文3(1663)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14112	野呂藤吉十郎直典	文政12(1820)			14506	安藤平太夫	寛文11(1671)	144																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
14113	野呂藤善之助直典	明治3(1870)			14507	西尾藤右衛門正房	延宝1(1673)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
14114	野呂藤直一貞直典				14508	林忠右衛門正勝	元禄2(1689)	148																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
					14509	藤次兵衛	元禄30(1697)	148	142	15001	高田平兵衛	寛永(1630頃)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14201	岩瀬藤左衛門	寛永6(1629)			14510	五味右衛門兼貞	元禄13(1706)			15002	高田平兵衛	寛永17(1640)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
14202	左右衛平重次	慶安15(1680)			14511	堀川小次郎景徳	元禄36(1763)	147		15003	岩崎五左衛門正等	寛文10(1630)		024																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
14203	左右衛平重徳	慶安1(1640)			14512	西尾三郎兵衛富吉	正徳2(1712)	148		15004	高田平兵衛																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
14204	左右衛平重徳	万治2(1659)			14513	奥原善右衛門忠政	享保11(1736)			15005	成瀬藤左衛門正時	延宝5(1677)	033																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

第2表 居住者屋敷地輿一覽表②

番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ
15006	渡辺十雄彦綱		147		15505	富永多十郎兼住	宝永6(1709)			15809	若田左門斯玄	宝曆9(1759)		
15007	長野松左衛門重時		160		15506	富永多兵衛兼住	宝永6(1709)	131		15910	若田多喜彦辰	明和8(1771)		053
15008	浪辺大左衛門常政			152	15507	富永左衛門長志	享保19(1734)	107		15911	若田金吉元寿	明和8(1771)		
15009	高木左衛門門守松評定所	元禄11(1698)	045	013	15508	富永左衛門正忠	明和3(1766)			15912	高橋町南庵	安永3(1774)	015	015
15101	石川重四郎成信				15509	富永善之助兼敏	安永5(1778)			15913	岡野八左衛門			
15102	石川八郎兵衛成成	延宝4(1676)			15510	富永左門忠孝	文化14(1817)			15914	松井小重徳康尚	文政8(1825)		
15103	石川兵衛氏成	元禄15(1702)			15511	富永徳四郎忠純	安政4(1857)			15915	松井南三郎重尚	寛永4(1851)		
15104	石川参十郎成成	享保9(1724)			15512	富永徳治兼保				15916	松井南三郎重尚			
15105	石川右衛門八郎基	天明3(1783)			15601	小川庄右衛門	寛永7(1630)			16001	服部次郎右衛門正長			
15106	石川伊藤朝臣	享保9(1724)			15602	小川庄右衛門生政				16002	服部小十郎正吉	慶安4(1651)		
15107	石川勘之次朝綱	文政1(1804)			15603	小川寛兵衛	万治2(1659)			16003	服部小左衛門正勝	天和3(1683)		
15108	寺社奉行所	文政8(1837)		043	15604	川原平左衛門正吉	寛永5(1665)	148		16004	服部平正真	元禄15(1702)		
15201	戸田加賀	寛永17(1640)			15605	川原平助源成	元禄10(1673)			16005	服部鶴之進正長	正徳5(1715)		
15202	南平牛之助宗清	明暦2(1656)	125		15606	川原豊左衛門辰長			013	16006	服部新五郎正治			038
15203	南平兵衛宗清	貞享4(1687)			15607	上田藤助兼重	宝永4(1707)			16007	奥田千太郎智胤	宝暦2(1752)	064	
15204	南平五郎左衛門宗忠	元禄2(1689)			15608	小南新右衛門忠智	延享3(1796)	003		16008	奥田昌右衛門	安永1(1722)		
15205	渡辺五右衛門朝綱	元禄2(1689)			15609	小南左衛門持高	安永4(1725)			16009	奥田朝経春雄	文化6(1809)		
15206	寺尾三左衛門正勝	元禄7(1694)	067		15610	小南正方	文政7(1824)			16010	奥田朝経貞直	天明5(1844)		
15207	寺尾牛之助正誠			045	15611	小南新太郎				16011	奥田朝経春雄	文久2(1862)		
15208	浪辺大左衛門常政		150	028	15612	堀野金左衛門自健	天明6(1786)			16012	奥田武彦基隆	明治2(1869)		
15209	内藤五左衛門正勝	享保11(1736)	041		15613	堀野金十郎自明	文政12(1829)			16101	平野恒	寛永(1630)前		
15210	内藤新一郎正延	享保4(1747)			15614	堀野誠之次貞利	天明6(1786)	039		16102	水野善七左衛門			
15211	内藤五左衛門正勝	天明2(1782)			15615	中村又藏元政	慶応1(1865)	039		16103	水野善七左衛門			140
15212	内藤新一郎正延				15616	中村一吉兼礼				16104	山下徳之助氏忠			
15213	浪辺三太郎	天明5(1785)			15701	寺西中左衛門				16105	服井内記善胤	寛永7(1667)		
15214	朝岡奉行所	寛政6(1794)			15702	寺西内記宗清				16106	服井三郎宗綱	享保18(1733)		
15214	林正十郎	明治2(1869)			15703	寺西十六大				16107	服井内記定次	宝暦9(1759)	030	
15301	加藤吉				15704	寺西直造			144	16108	服井久之助宗定	天明6(1786)		
15302	加藤忠八				15705	寺西理行左衛門貞直	寛永6(1668)	144		16109	服井内記宗定	文化13(1846)		
15303	上田平平				15706	水野権左衛門守政	元禄1(1688)			16110	服井内記定次	寛永5(1852)		
15304	鈴木右京重成	万治1(1658)	047		15707	津田正直兼通	元禄13(1699)	090		16111	服井右左衛門民興			
15305	鈴木武右衛門重方	元禄6(1658)			15708	玉置安之次右衛門	正徳2(1712)		067	16201	大崎七郎右衛門昌好	元和6(1620)		
15306	鈴木七郎左衛門重教	元禄14(1701)			15709	毛利治左衛門頼房	享保16(1731)			16202	大崎七郎右衛門昌純	寛永11(1634)		
15307	鈴木武右衛門重教	安永4(1754)			15710	毛利頼房宗直	享保20(1735)			16203	大崎七郎右衛門昌武	延宝3(1673)		
15308	鈴木四郎左衛門重直	明和1(1764)			15711	毛利頼房内膳由				16204	大崎七郎右衛門昌武	享保3(1718)		
15309	鈴木兼定所重	明和8(1771)			15712	毛利頼房左衛門頼忠				16205	大崎伸之助貞直			017
15310	鈴木平之助重角	寛政2(1790)			15713	毛利頼房左衛門頼忠	文化4(1807)							
15311	鈴木重四郎兼建	享和1(1801)			15714	毛利頼房左衛門吉	文政11(1828)							
15312	鈴木必重左衛門重直	文化4(1847)			15715	毛利頼房左衛門吉	文政11(1828)							
15313	鈴木亀太郎兼忠	安政6(1849)			15716	毛利左衛門隆賢	弘化3(1846)							
15314	鈴木亀太郎兼安	明治3(1870)			15717	毛利頼房左衛門吉	明治4(1871)							
15315	鈴木亀彦兼住				15718	中川直三郎兼光								
15401	中川江藤政隆	寛永9(1632)			15801	法藏寺				16301	千村平右衛門貞重	寛永7(1630)		
15402	中川藤藤政直	寛永18(1641)			15802	安藤平六				16302	千村新平重長	寛文1(1661)		
15403	中川江藤政直	元禄15(1702)			15803	安藤十郎左衛門				16303	千村吉之助兼定	享永3(1686)		
15404	中川江藤政直	宝永2(1705)			15804	安藤平六				16304	千村平六重好	享永5(1688)		
15405	大橋松右衛門政方				15805	石黒三郎左衛門重直				16305	千村平六重好	享永3(1706)		
15406	大橋善隆				15806	石黒三郎左衛門重直	正徳2(1712)	154		16306	千村主税政成	寛永6(1756)		
15407	堀田五右衛門之成	宝永6(1709)		158	15807	堀田七郎左衛門之善	成徳2(1712)	112		16307	千村平右衛門政武	明和1(1754)		
15408	石黒左衛門重直	享保2(1717)			15808	高木忠孝兼住	正徳3(1713)	112		16308	千村平右衛門頼房			
15409	石黒善左衛門重直	享保11(1726)			15809	高木徳之助兼昌	宝暦5(1755)			16309	千村平右衛門神冬	文政11(1828)		
15410	石黒丹下利吉	享保4(1747)			15810	高木三郎兵衛	寛政12(1800)			16310	千村平右衛門神冬	寛永6(1853)		
15411	石黒丹下利政	天明5(1785)			15811	高木大郎左衛門	文政3(1820)			16311	千村平右衛門神冬			
15412	石黒勘三郎兼時	文政6(1823)			15812	高木大郎左衛門	天明6(1835)			16401	組屋内元正兼			
15413	石黒善十郎兼重	天保11(1840)			15813	高木善理				16402	組屋七郎兵衛			
15414	石黒勘三郎兼重	明治2(1869)			15901	平谷七兵衛元吉	元和6(1620)			16403	渡辺新左衛門秀綱			060
15415	石黒善之丞重直				15902	平谷善右衛門元利	正保4(1647)			16404	渡辺新左衛門秀綱			
15501	彦坂上清政勝				15903	平谷善右衛門元利	延宝1(1762)			16405	渡辺新左衛門秀綱			
15502	富永大守兼直	慶安3(1650)	079		15904	平谷善右衛門元利	元禄8(1695)			16406	小笠原友左衛門某	万治2(1620)		
15503	富永善四郎兼直	享保3(1654)			15905	平谷善右衛門元利	享保2(1717)	041		16407	小笠原善太郎兼			
15504	富永善左衛門兼直	元禄4(1689)			15906	平谷善右衛門元利	文元3(1728)			16408	島島清隆兼直	元禄14(1701)		
					15907	横井徳時兼直				16409	島島清隆兼直			
					15908	横井善徳兼直				16410	久野善左衛門某	安永5(1790)	070	
										16411	久野友之丞宗直	享保19(1734)		
										16412	久野友左衛門	天明1(1781)		
										16413	久野友左衛門	寛政10(1798)		
										16414	久野千之丞	天明3(1822)		

第53表 居住者屋敷地別一覧表⑧

第V章 補論

番号	人名	いつまで	どこから	どこへ	番号	人名	いつまで	どこから	どこへ
16415	久野七之丞				17003	小笠原九郎太郎宗正			112
16416	小笠原惣左衛門成徳	天保9 (1838)			17004	西郷主水正雄			
16417	小笠原三郎成徳	天保13 (1842)			17005	野崎金五左衛門昌兼	正徳5 (1715)		
16418	小笠原惣太郎成徳	寛永4 (1851)			17006	野崎宗兵衛兼重	寛延3 (1748)		
16419	小笠原寛四郎成徳				17007	野崎宇兵衛兼重			
16501	平岩録部吉範	元和5 (1619)			17008	野崎利兵衛兼重	文化5 (1808)		
16502	平岩左吉範	寛永7 (1630)			17009	野崎新九郎兼寛	文政9 (1826)		
16503	平岩三郎左衛門吉忠				17010	野崎徳三郎			
16504	小野沢七郎兵衛吉行				17011	林三郎右衛門都富	文政4 (1821)		
16505	三沢内匠直昌				17012	林勘兵衛	天保8 (1837)		
16506	天野小左衛門重徳	享保15 (1730)	08		17013	林久右衛門			
16507	天野内左衛門重美	寛延2 (1749)			17101	山村甚兵衛貞徳	寛永6 (1629)		
16508	天野小雨左衛門	宝暦11 (1761)			17102	山村三郎九郎貞徳	延宝8 (1698)		
16509	天野亀之丞	天明4 (1784)			17103	山村修記貞忠	宝永2 (1705)		
16510	天野重孝	文化13 (1816)			17104	山村修記貞景	宝永7 (1710)		
16511	天野新太郎宜重	文久3 (1863)			17105	山村三太夫貞及	延享3 (1746)		
16512	天野藤四郎重明				17106	星野藤部利吉			
16601	釈部十右衛門氏継				17107	山村甚兵衛貞徳	宝暦9 (1759)	033	
16602	久松弥右衛門	寛文1 (1661)	049		17108	山村甚兵衛貞由	天明8 (1788)		
16603	佐枝平右衛門種定	延宝6 (1678)			17109	山村甚兵衛貞由	文政10 (1827)		
16604	佐枝源藏種丈	貞享2 (1685)			17110	山村三郎九郎貞然	弘化1 (1844)		
16605	佐枝平右衛門種興	元禄9 (1696)			17111	山村三郎九郎貞経	明治2 (1869)		
16606	佐枝平右衛門種嗣	寛延1 (1748)			17112	山村三郎九郎貞徳			
16607	佐枝平右衛門種輝	明和1 (1764)			17201	加藤四郎貞徳			
16608	佐枝土馬之助寛雄	天明4 (1784)			17202	加藤勘右衛門	寛文6 (1666)		
16609	佐枝益治種直	文化15 (1818)			17203	山村九郎兼貞政	元禄6 (1683)		
16610	佐枝新十郎種直	万延1 (1860)			171	と合併			
16611	佐枝新十郎種直				17201	成瀬藤九郎	元和5 (1619)		
16612	佐枝安次郎				17202	福徳強右衛門元因			
16701	蟹川藤右衛門長冬			033	17203	福徳小次郎元壽			
16702	平岩主水 166と合併	寛文1 (1661)	071		17204	成瀬大膳貞景	貞享3 (1686)		
16801	天野四郎右衛門頼綱				17205	石川大和守卓長	宝永3 (1706)	002	
16802	小笠原九郎兵衛宗重				17206	石川頼貞正康	享保17 (1732)		
16803	小菅六郎左衛門正有	元禄6 (1693)			17207	石河輝規孝善	享保18 (1733)		
16804	小菅正盛正純				17208	石河輝康光尚	安永2 (1773)		
16805	野崎内兼純			032	17209	石河太八郎光尚	文化6 (1689)		
16806	小菅春郎左衛門正綱	享保16 (1731)			17310	石河太八郎光茂	寛永6 (1833)		
16807	小菅正盛正寿	宝暦8 (1756)			17311	石河太八郎光茂			
16808	小菅定之助	文化3 (1806)							
16809	小菅正盛	文政2 (1819)							
16810	小菅家之助正政			119					
16811	田宮平兵衛興	天保3 (1832)	119						
16812	田宮隆太郎惟實	宝政6 (1850)							
16813	體野松五兵衛	文久2 (1862)		122					
16814	田宮隆太郎惟實								
16815	田宮兵治頼武								
16901	天野四郎兵衛貞貞	正保1 (1644)							
16902	天野四郎兵衛貞徳	寛文 (1679/8)							
16903	石黒勘右衛門貞通		017						
16904	石黒伝太夫貞通								
16905	成瀬平大夫正信			020					
16906	本野権太夫綱興	元禄13 (1700)							
16907	本野安之助忠知								
16908	荒川上馬頼久	正徳3 (1713)							
16909	荒川外記頼綱	寛保1 (1741)							
16910	荒川上馬頼忠	寛政4 (1792)							
16911	荒川三郎次郎頼時	天保12 (1841)							
16912	荒川代太郎頼利	元治1 (1864)							
16913	荒川代太郎頼孝								
17001	小笠原春右衛門勝忠	寛文7 (1667)	103						
17002	小笠原九郎兵衛宗重	寛文8 (1668)							

氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号
天行		坂田頼利	14912	石河忠善	17207	藤生忠徳	01899	氏名	番号
朝原七郎兵衛	16402	坂田頼利	05810	石河興四郎	00206;03007	藤生由九郎	01906	大田少休	12303
朝原広藏	16401	坂田吉任	05803	石河吉長	17305;09205	藤生佐九郎	01903	大田金吾	06105
青山忠次	02501	坂田義康	05811	石河正朝	03006;00205	藤生義之助	01905	大津忠次	04802
赤林新十郎	02517	坂田弘秋	05801	石河興四郎	14211;02509	藤生忠之	01904	大野直江	04205
赤林武平	02518	坂田頼時	14911	石河正幸	17206	藤生元吉	01911	大野直和	04204
赤林基七郎	02516	養生将監藤	09904;56011	石河正光	05211	井野口宣清	02013	大野直興	11502
赤林信藏	02519	安藤平六	15804	石河正基	00213	井野口宣武	02012	大野直和	11301
浅香玄次	10203;10007	安藤十郎左衛門	15803	石河正英	14215	井野口宣吉	02011	大野政芳	02006
(井野口)	06002;04205	安藤太郎兵衛	15801	石河公武	05209	井野口宣兵衛	04207	大野新吾	15406
折倉道長	11210	安藤平六	15802	石河正光	09302;09204	井野口宣武	04206	大野政芳	02009;15405
折倉宗信	11211	飯島光重	02002	石河幸時	14214	井野口宣秋	10007;09003	大野伊吉	11501
浅野長治	09901	飯島光重	16409	石河光重	17209	(浅野)	04205;10203	阿田八右衛門	06101
浅野治兵衛	09902;11205	飯島隆康	16408	石河吉雄	00211	堀田守承	13012	阿田六郎兵衛	06102
浅田玄民	11303	飯島光光	02003	石河幸信	14216	堀原忠	00608;13609	阿田八兵衛	06102
阿部正吉	06610	生田徳忠	08604	石河光吉	17208	今定次	02610	阿田春右衛門	06610
阿部正盛	06611	生駒光久	01613	石河光忠	09301	吉瀬藤左衛門	14201	阿田五郎門	12413
阿部正盛	06605	生駒利登	01601	石河好吉	00208	吉田重太郎	05315	阿田八兵衛	12413
阿部正信	06609	生駒好行	01614	石河利平	00209	吉田重次	01309	阿田文太	12302
阿部正直	06503;02204	生駒政長	00508;01606	石河正幸	05206	吉田重吉	05319	小笠原忠興	16417
阿部正長	06608	生駒光尚	01604	石河正吉	05207	吉田重武	05313;15911	小笠原安次衛門	14904;16406
阿部正盛	06604	生駒勝興	01612	石河正全	05204	吉田昌武	01308;06603	小笠原長吉	01105
阿部正盛	06607	生駒勝興	00309;05408	石河好生	05210	吉田昌之丞	05316	小笠原忠右衛門	14903;14802
阿部正茂	06606	生駒政興	01607	石河直道	05205;05205	吉田昌茂	08603;01307	小笠原長武	01411;01409
阿部正興	06601	生駒利勝	01602	石原内膳	06504	吉田昌茂	10703	小笠原八右衛門	13012
阿部正政	06502;06602	生駒宗勝	01603	石原重基	13302	吉田重隆	15910	小笠原治通	17002
阿部正治	06603	生駒昌也	10009;01811	石原重田	13303	吉田重元	15909	小笠原善忠	10301;17001
安倍昌長	14301	石川直道	01516	赤沼正明	12405	吉田重成	00308	小笠原直信	02806
安倍季季	14303	生駒房房	00310;01810	赤沼登勝	02206	吉田重忠之丞	15314	小笠原与三郎	13011
安倍盛隆	14304	石川正重	11004;04001	赤沼正好	08101	吉田忠左衛門	11401	小笠原忠三郎	13009;13711
安倍昌信	14302	石川利久	12508	赤沼政成	08301	吉田重忠	11402	小笠原長綱	01106
大野重綱	15508	石川利久	11004;04001	赤沼政成	08302	吉田朝公	12410	小笠原半平衛	05002
大野隆之丞	02110	石川昭信	01805	赤沼隆成	08102	吉田朝雄	12411	小笠原友成	02810;02807
大野重光	16507	石川正重	15106	一色隆信	12701;09701	上田半平	15303	小笠原正立	01103
大野頼藏	16801	石川昭信	15105	一色平治	12702	上田重勝	00804	小笠原政成	06901
大野景忠	02618;02111	石川昭信	15106	一色頼隆	12906	上田忠左衛門	14611;05311	小笠原政武	16416
大野景徳	02621	石川氏明	15103	伊藤兵右衛門	13710	上田忠左衛門	00805	小笠原善忠	11701
大野三右衛門	14605	石川昭綱	04315;15107	伊藤兵右衛門	02009	上田清	02818	小笠原善忠	12004
大野景隆	16802	石川昭信	01806	伊藤健次	07701	上田頼重	15607	小笠原玄武	06902
大野景美	02109;09003	石川成信	15101	伊藤玄定	00402	上田忠左衛門	00803;06501	小笠原長綱	10009;01306
大野重春	05601;06802	石川昭男	04316	伊藤玄定	00404;14106	上田忠兵衛	02820	小笠原太郎	13014
大野正正	10006;12404	石川昭男	15104	伊藤吉勝	00401	上田玄	02817;05312	小笠原治通	16802
大野重治	06803	石川昭成	15102	伊藤玄次	00403	上田敏敏	02819	小笠原宗正	11206;17003
大野重明	16512	石原重文	02702	相田右衛門	11504	上野守吉	01114	小笠原太郎右衛門	05001
大野重武	03619	石原重寛	15409	相富清邦	13406	上野源四	05406	小笠原長良	01412
大野一雲	08918	石原時全	13003	相富清隆	13404	上野源三	01111	小笠原長盛	01408
大野重幸	10506;06804	石原重政	15411	相富清勝	13403	上野源時	05407	小笠原忠忠	01413
大野龜之丞	16509	石原重富	15413	相富清安	13405	上野源興	01110	小笠原忠志	02811
大野宜重	03820	石原重吉	15410	相富平左衛門	13407	上野頼興	01109	小笠原長清	01414
大野宜重	16511	石原重成	03701	相富清成	13408	上野頼實	01108	小笠原長吉	01416
大野重吉	14901	石原重弘	03501	相富重太郎	13410	上野源房	01112	小笠原長春	01415
大野金治	02401	石原重弘	15415	相富清隆	13409	上野源	01115	小笠原成隆	16418
大野重次	06801	石原重方	15414	相富清明	00301	上野源忠	01113	小笠原忠忠	13013
大野信幸	14705	石原重頼	15408;15805	相富清徳	00302	白井謙作重義	03008	小笠原忠成	16407
大野景林	12404	石原重道	14904	相富正徳	00906	白井重春	02007	小笠原九郎兵衛	13010
大野吉貞	06501	石原吉十郎	02601	相富正次	14106	白井重武	02004	小笠原成隆	16419
大野重季	16510	石原時勝	13001	相富正辰	00201	大井半左衛門	11208	小川玄吉	12705
船川長生	03304;16701	石原時長	13002	相富重通	03805;00905	大久保平太夫	13911	小川玄武	15701
船川吉政	02802	石原重正	02704	相富正武	03803	大嶋貞綱	16302	小川往右衛門	13906
船川頼盛	16910	石原時右衛門	01701	相富重通	02405	大嶋重太郎	01721	小川寛兵衛	15903
船川頼久	16908	石原時持	15412	相富一守	16405	大嶋貞吉	01720	小川重政	15902
船川頼吉	02805	石原貞通	16903;01702	相富正吉	03802	大嶋貞次	16303	奥田智徳	06007;06409
船川頼孝	02804	石原重時	02703	相富正吉	03804	大嶋貞長	01718	奥田吉徳	16310
船川頼賢	02808	石河吉信	09212	相富正安	00204	大嶋貞義	01719	奥田善徳	16012
船川頼誠	16909	石河重政	02508	相富正立	00205	大嶋貞貞	16304	奥田伸徳	13808;14307
船川頼徳	02806	石河正茂	02507	相富正吉	01907	大嶋貞吉	16205;01717	奥田春徳	16009
船川頼重	02804	石河光光	17311	相生隆徳	01902	大嶋貞好	16201	奥田重徳	16011
船川頼忠	02807	石河吉厚	02210	相生吉太郎	01906	太田寛良	01803	奥田重武	08001
船川頼重	02809	石河光光	17310	相生正道	01910	太田正徳	01802	奥田忠盛	13304;13607

第55表 居住者索引①

氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号
奥田昌雄	16068	川邊光常	01716	五味越貞	14510	沢井武藏	00916	鈴木清右衛門	03402
奥平吉貞	13902	河野政比	01314:15606	五味真吉	14309:20207	沢井元龍	00904	鈴木重真	15308
奥平直実	13901	河野十郎兵衛	08901	13305	沢井元龍	00901	鈴木重俊	15306	
奥山藤兵衛	11002	河野旭之助	11003	五味吉尹	13305	沢井元太郎	00917	鈴木重内	15310
奥山忠元	07401	河野野島	03902	14311	沢井元忠	00902	鈴木重内	07616	
朝原辰雄	16601	河野野島	03901	五味真典	14310:13107	沢井元忠	14701	鈴木重好	06805
朝原忠志	03612	河野重勝	11107	五味信房	14312	四子半左衛門	12301	鈴木重成	15304
14511:14709		河野重勝	05412	五味武茂	14313	芝山晴晴	02613	鈴木明徳	00812:12810
小沢兵部	06403	河村才秀	07011:14612	五味守典	14314	島沢信住	03609:11108	00807:00809	
小塩定實	12608	03335		守守		島沢信長	06811:00508	鈴木重三郎	07617
小塩昭賢	12095:02611	河村永典	05414	西郷正雄	17004	島沢信高	03610	鈴木重正	07482:04003
小塩照賢	12607	河村方秀	06408:04507	依杖精定	04902:16603	島沢信勝	14601	鈴木重正	01407:06712
小塩正方	15610	河村方秀	05111:04511	03103		清水兵助	03102	(流産)	
小塩忠智	15608:00306	河村小三郎	05413	依杖精次	16604	志木忠孝	10811	鈴木忠孝	01406
小塩隆高	15609	河村長秀	02105	依杖精三	16610	志木忠孝	10801	鈴木重孝	03809
小塩源太郎	15611	河村長秀	05110	依杖精四	16608	志木忠良	10804	鈴木重孝	03401
小塩忠次	07304:20205	河村品秀	09112:00316	依杖精五	16609	志木忠良	10804	鈴木重孝	11216
藤田昭信	03318	福谷左衛門	06103	依杖精六	16609	志木忠孝	10805	鈴木重人	11217
藤田重忠	03321	福谷左衛門	14712	依杖精七	16606	志木忠孝	10809	鈴木重之丞	00811
藤田昭信	03319	木村一守	06104	依杖精八	16607	志木忠孝	10802:04002	鈴木八郎右衛門	08802
藤田昭信	03320	京極高直	08905	依杖精九	16611	志木忠孝	10812	鈴木子右衛門	11219
藤田昭信	06710:03313	福正徳	11506	依杖精十	16612	志木忠吉	10806	鈴木重吉	15307
06813		福正徳	11505	依杖精十一	16611	志木忠吉	10810	鈴木重次夫	10008:08204
藤田自幹	06812:03309	久野七之丞	16415	酒井忠彦	08202	志木安忠	02306	鈴木重信	02101
03606:06709		久野定直	16410:07006	酒井忠十郎	05502	志木安忠	10813	鈴木重信	15315
藤田自辰	01513:03317	久野千之丞	16411	瓶井久左衛門	12802	志木徳助	02305:02704	鈴木重之	01404:02402
小野武吉忠	07303	久野宗直	16414	16414	06201	16104		07003:07402	
小野武吉直	07302	久野宗直	16412	熊井忠彦	05501	10808		02703	
小野武吉直	12504:16304	16413		酒井平九郎	03303	00104:00204		鈴木重孝	00810
小塩政高	01512	久野長兵衛	07005:07104	瓶井平九郎	12801	志木忠芳	10803	鈴木重孝	04613:07014
小塩政教	14606	久野宗信	07103	藤原幸如	01212	志木忠芳	10814	鈴木重太郎	09803
小塩政隆	14607:06305	熊谷善実	05113	藤原宗隆	13105	志木忠芳	10810	鈴木三左衛門	02102
小塩政純	05306:14413	熊谷善実	03403:02403	熊谷宗隆	01317:01210	志木忠孝	10807	鈴木重孝	15312
力持		熊谷善実	05112:05410	02913		下方貞実	11102	鈴木重孝	05402:14206
熊谷正実	00312	熊谷宗実	05107:14007	熊谷宗全	06406	下方貞実	04102	鈴木重孝	15310
熊谷茂正	00314	熊谷方真	05115	藤原宗隆	08402	下方貞左衛門	11101	鈴木重孝	07015
熊谷正善	00315	熊谷武実	14008:05409	藤原正邦	01213	下方貞吉	04106:04105	鈴木重孝	15314
熊谷正昌	00316	01107		熊谷宗実	18005:06404	08500		鈴木清左衛門	04701
熊谷忠兵	00313	熊谷徳実	05114	08401		下方貞吉	04107	千賀信吉	03012:14714
加藤昌正信	00311:02912	熊谷徳実	02404:30504	藤原宗昌	06407:01316	下方貞吉	13511	04311	
片桐重直	14407:14706	(寺尾)		藤原宗昌	01211	下方貞吉	13510	左右田徳実	14203
藤野孝叔	12512	玄益	10501	熊谷宗氏	06405	下方貞徳	11702	左右田徳実	14202
藤野貞何	13106	玄礼	12502	依久間河内守	09201	下方貞徳	08803	左右田徳実	14204
加藤伊藤兵衛	17201	玄隆	10502	依久間幸兵衛	09202	下方貞徳	11705	左右田徳武	14205
加藤伊藤繁信	10702	玄隆	10503	坂井定実	16110	下方貞善	00516:11701	圓田善太郎	02602
加藤正長	01704	高力忠興	09904	坂井定定	16109	下方貞正	06902:00514	圓田実次夫	02601
加藤正吉	15301	高力信安	09903	坂井善興	16105	下方貞正	13507	夕野	
加藤忠八	15302	高力信重	09902	坂井邦定	16108	下方貞吉	13508	高木秀良	14013
加藤正盛	01410	小菅正純	16806:16804	坂井邦定	16106	下方貞純	13509	高木秀良	15808:13212
加藤祐右衛門	17202	小菅正政	16810:11902	坂井邦興	16111	下方貞實	00515	(寺尾)	
藤原正明	01204	小菅正盛	13903	坂井尚定	16107:03011	下方貞正	00405:08805	高木吉清	01310
藤原正成	01202	小菅正善	16807	坂井尚内	12507	下方善正	00406	高木秀興	02307
藤原正義	12601	小菅忠之助	11904	佐治四郎兵衛	09003	下方善正	08804	高木善五左衛門	13111
藤原正義	04203	小菅金太郎	11905	佐藤忠世	14720	須賀善正	11801	高木秀忠	04503:11143
藤原武祐	01206:06207	小菅正康	16809	佐藤忠盛	02013:05108	須賀善正次	11801	01312:15009	
藤原彦四郎	12603	小取定之助	16808	14713		須賀善正何	11802	高木善五左衛門	13109
藤原正治	01203	小取正吉	16803	佐藤忠志	14718	杉山宗武次夫	07210	14004:11203	
藤原吉貴	02607	小取宗吉	13707	佐藤忠志	03014:14716	杉山宗武	07202:14603	07603	
藤原正吉	01201	小取正重	02206	佐藤中大夫	14404:14506	鈴木重長	01405	高木吉清	04502
藤原正武	02605:06209	小取正重	02201	依藤正勝	08205	鈴木重孝	15309	高木吉清	14006
藤原正武	12802	小嶋武康	01706	依藤忠盛	14719	鈴木重孝	14207:09805	高木吉清	13108
藤原正輝	01205	小嶋武政	01705	依藤忠志	14717	鈴木重孝	15313	高木秀良	14012
藤原正輝	06208	小嶋大次	02202:02205	沢井元智	00603:03005	鈴木重吉	04401	高木秀良	14015
藤原正安	09901	新井注左衛門	13004	沢井元智	00605	鈴木重信	11810	高木秀良	14014
川原保久	01715:13308	近藤頼朝	14410	沢井元忠	00915	鈴木重信	05003	高木秀良	12518
川原保久	04508:01315	頼藤方教	01508	沢井元龍	00606	鈴木重信	04602	高木秀良	14016
川原正成	14808:15604	頼藤方教	01506	沢井元忠	00913:00807	鈴木重康	03810	高木吉七	12517
川原正成	15605	頼藤方教	01507	沢井元智	00914	鈴木重方	15305	高木吉七	07602:04501

氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号
高木金弥	13110	田代広綱	14502	中島徳綱	06807:05607	郡部武武	14212	高木兼輝	10402
高木秀保	01311	田島正為	02210	中島徳綱	02094:07099	郡部隆信	14211	高木兼俊	13104:13506
高木徳三郎	12516	田沼常之	13003	中島徳綱	11611	郡部英美	02203:03306	高木直次	15502:07901
高木修理	15813	田沼常治	02814:04312	中島徳綱	11613	(成綱)		高木兼氏	13012
高木清忠	05505	田沼常方	04315	中島徳綱	11608	郡部忠共綱	01102:06203	高木兼文	12015
高木次郎右衛門	15811	田沼常為	04314	中島徳綱	11612	相川政政	03011	高木兼美	12014
高木一貫	12515	田沼常政	15208:15508	中島徳綱	11609	寺尾政成	02710	高木兼長	15505
高木清昌	15809		02813	中島徳綱	11610	寺尾政勝	15206:06705	高木兼勝	12016
高木春右衛門	09602	田沼常徳	12004:02004	中島徳綱	14011:11607	寺尾正勝	02304:11302	高木兼江	15504
高木建隆	05102	田沼三太郎	15213	津金景武	12907:06502		06704:10105	高木貞重	14305
高木清長	14005	田沼善治治	11512		06304	寺尾正長	04505	高木直吉	12017
高木三郎兵衛	15810	田沼江藤	12506:11509	津金妙宗	13700	寺尾正長	02711	高木兼保	15512
高木綱太郎	15812	田沼益村	11511	津金伴七	13701	寺尾武十郎	02714	高木兼多	10313
高木一吉	07901	田沼安住	12505	津金景広	12908:08305	寺尾武成	02708:05506	高木兼純	13511
高木秀久	01313	田沼村芳	11519		06505	寺尾武政	07902:04603	高木兼隆	15509
高橋兼盛	02310:01514	玉置善香	06311	津金景美	06805	寺尾好実	06505	高木兼隆	16609
	09911	玉置直虎	06315	津金三郎左衛門	06802	寺尾純実	06604:02404	高木直重	15503
高橋武雄	12103	玉置直教	06308:15709	津金景輝	12909	(兼右)		高木直忠	15508
高橋宮次郎	12105	玉置直本	06306:06304	津金景忠	12911	02709		高木兼茂	14411
高橋長隆	01518:12101	玉置小字大	06301	津金景忠	12912	寺尾武成	06503	高木兼治	14615:02010
高橋武為	12104	玉置小字大	06302	津金七右衛門	13704	寺尾正勝	04504:13207		10311
高橋武部	12102	玉置直之	06309	津金景久	06801	寺尾政成	02712	高木兼吉	10403
高橋武繁	01517:01515	玉置直順	06316	津田田任	12709	寺尾正成	11201	豊田小作	08601
	15912	玉置直大	06310	津田博文	12705	寺尾実方	02713	豊田七右衛門	08201
滝川小重郎	06609	玉置直方	06314	津田直信	06902:12703	寺尾徳勝	04604	島田勝則	14609
滝川善成	03311	玉置直達	06310:09004		06603	寺尾正重	13709	島田藤五郎門	14604
滝川忠雄	06612	(津田)	15708	津田信宗	12706	寺尾直勝	12417	才行	
滝川宗安	06711:03312	玉置直和	06313	津田信明	03607:02304	寺西平左衛門	15701	内藤忠孝	11207
	06068:06815	玉置直順	06305	津田信吉	12408	寺西昌茂	04115	内藤忠志	06506
滝川忠孝	06614	06207	06307	津田三郎	06908:00513	寺西藤兵衛	15702	内藤忠志	07702:02003
滝川忠興	06517:06611	玉置直辰	06312	津田徳三郎	03608:00909	寺西賢吉	02307:06708	内藤正長	13210
滝川忠実	00518	田沼信繁	14612:14614	津田信繁	02316	13095		内藤正勝	15209:04130
滝川之成	13094	田沼武武	14615	津田信尹	12707	寺西十六大	15703	内藤正善	15212
滝川忠厚	06610	田沼真	14611:11901	津田寛吉	06910	寺西九平	12416	内藤正善	15211
滝川長成	02706	大道時直道	01519	津田信綱	00410:00511	寺西善勝	08202:09403	内藤寛隆	02003
滝川忠明	10905	大道中直重	06601	津田寛方	04907:04409	寺西昌勝	04116:12115	内藤寛隆	15718
滝川時成	10903:10003	大道中直時	06602		06609	寺西昌吉	09401	内藤武文	15403
	10102	大道寺直方	00109	津田信勝	02318	寺西昌昌	12418	内藤高男	02614
滝川法忠	10902:10101	大道寺直長	00108	津田信綱	00512	寺西秀昌	09402	内川政清	15404
滝川忠雄	06613	大道寺直良	00111	津田正方	02312	寺西忠實	15704	内川政清	15402
滝川忠尚	02705:10103	大道寺直秀	00106	津田正方	04202	寺西賢吉	11222:15808	内川典隆	02615
滝川時令	03310:10906	大道寺直俊	00107	津田義之助	02315	(高次)		内川政清	15401
(横井)	01505	大道寺直藤	01520	津田信都	12409	寺西昌豊	04114:02309	中島貞良	14707
竹中重頼	06214	大道寺直武	00112	津田信高	02313	寺西賢勝	02308:13806	中島貞良	10101
竹中重長	07801	大道寺直治	00105:00503	津田信教	06912	08203:14409		中島定良	10202:14707
竹中頼朝	06212	大道寺直方	01521	津田信高	02314	03605		中西勝徳	09807
竹中頼良	06213	大道寺直道	01522	津田信好	12710	遠山眞正	06903	中西勝純	03707
竹中重政	07802	大道寺直重	00119	津田信誠	12711	遠山信明	06904	中西長茂	03712
竹中重政	07803	伊達平平	01703:06504	津田信宗	09910:02311	遠山信成	02209	中西長茂	03710
竹中伊左衛門	06211		03105	津田正盛	04205	遠山直道	06717	中西長茂	03708
竹中重之	06215	千村頼幸	16208	津田実勝	06911	遠山直吉	10602:10701	中西長之	03709
武野野信	14614	千村武式	16207	津田定之助	02317	遠山英	06718	中西長行	03711
武野知信	12903:08902	千村成治	16206	津田直道	09906:15708	遠山重隆	10601	中嶋清右衛門	09808
武野仲定	13581	千村治成	02905:08906	(玉置)	06310	遠山信十郎	14405:14704	中嶋重隆	03512
武野信実	13582	(本野)	05506	津田寛實	02707:04906	14804		中嶋清五郎	12001
武野仲治	13583	千村仲忠	16205	津田信信	06501	遠山信忠	06715	中嶋清行	02106:05308
竹藤正晴	07105	千村良重	16201	津田英信	12704	遠山長之助	10603	01714	
竹藤勝巳	07109	千村重好	16204	津田信高	12706	遠山源太	06716	中嶋宗司	12306
竹藤正長	03308:10106	千村重長	16202	津田又六郎	06909	遠山道景	09510	中野綱兵	14403:15705
竹藤政隆	07110	千村仲平	16210	土屋大石右衛門	09902	遠山資房	04506:06905	中村元政	03915:15615
竹藤貞良	07903	千村平兵衛	16209	土屋徳之丞	09901	遠山資隆	06714:06906	中村元光	07502
竹藤正徳	07107	千村伯吉	05608:14715	土屋徳兵	03608:02008	09412		中村元信	02909:03914
竹藤正良	07106	千村秀信	14810	土屋徳弘	02007	土岐頼実	14805	中村勝義	07903
竹藤正定	07111	千村重定	16203	土屋重孝	09005:02006	徳山中兵衛	02201	中村勝時	01207
竹藤正武	03309:07108	千村仲泰	16209	徳重次右衛門	01804:06106	04301		中村元勝	07501
竹藤正守	07112	千村仲景	16211		15004	戸田加實	15201	中村頼丸	15616
竹藤正以	07113	中島重隆	05507	徳重修理	01104	高木貞長	03705:15507	中村頼長	02108
田代尹綱	14500	中島兼盛	14610	徳重宗兵衛	14806:14210	高木兼孝	01510:14306	中山貞福	02707:01713
田代兼重	14501	中島康美	05608		14509	高木正忠	15510	永岸伴大夫	01708

第57表 居住者索引③

氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号
長坂忠典	14488	城藤正太	07506	堀部正茂	02805,14308	平岩正成	15902	松井藩之助	02911
長坂善祐	01712	城藤正明	03108,06610	堀部正善	02804	平岩忠女	05702	松井善尚	15915
長坂時武	12888	城藤正忠	10901	堀部正孝	02812	深沢内忠	06306,09905	松井善高	03016
長坂時武	13883	城藤正典	07507	堀部正小重部	02813	福澤次国	17302	松井善之助	02910
長坂時時	15007,06605	城藤正規	07504	堀部正重	18003	福澤次国	17303	松井善之助	08802
長坂祐吉	14219	城藤正一	04111	堀部正治	16006,02811	福澤次大	03905	松井善之助	15916
長坂祐吉	14218	城藤正守	12501,13202	堀部正吉	02808	福澤次長	11602	松井善之助	02908
長坂祐清	14217	城藤正忠	15204	堀部正吉	02803	福澤次長	11601	松井善之助	08605
長坂祐重	12804,06706	城藤正忠	15203	堀部正吉	16002	福澤次長	01403	松井善之助	01305
長坂祐執	12907	城藤正言	14811,14512	堀部正吉	02814	福澤次長	06702	松井善之助	06210
長坂祐忠	14220	城藤正正	14507	堀部正真	16004	福澤次長	06703	松井三左衛門	14602
長坂祐永	01711,02208	城藤正典	14807	堀部正長	16001	福澤次大	01402,06701	松井善之助	14601
長坂政若	12910	冷羽北市郎	04317	堀部正長	16005	土屋政成	07004	松井善之助	05802,01204
長坂善政	03104,06004	野崎善亮	05911	堀部正長	05405	土屋政成	05203	松井善之助	02905,14009
長坂祐正	13909	野崎善清	03210	堀部正長	17012	足野村田	14614	松井善之助	05502
長坂祐久	06707,13906	野崎善直	17006	林藤石衛門	30303	足野村幸	14610	松井善之助	05502
長坂祐右衛門	10302	野崎善純	16605,03207	林藤善	17011	足野村幸	06814,17105	松井善之助	15914
長坂政成	13802,10401	野崎善重	17005	林善典	13309	足野村幸	14613	松井善之助	02907
(天守)		野崎善重	17006	林正忠	14508,14806	足野村幸	02901	松井善之助	06105,06107
長坂忠秀	03706	野崎善重	17005	林久右衛門	17013	足野村幸	03902	松井善之助	08103
老河方庵	11005	野崎善重	17007	林正十郎	15214	足野村幸	14209	松井善之助	05401
老河方共衛	11007	野崎善隆	06403	堀部五右衛門	09904	足野村幸	14208	松井善之助	04516
意河重卜	11006	野崎善太	05508	堀部左衛門	14002,14104	堀野成定	09405	松平又兵衛	04514
意河自梅	11507	野崎善当	05914	堀田松次	13801	堀野成定	09404,09703	松平尚貞	05302
成田次光	01209,13504	野崎善敏	03209	堀田五右衛門	14001	堀野次大	10305,09603	松平尚貞	07602
成田氏直	01210	野崎善明	03906,05906	堀田三右衛門	04110	堀野次大	11214	松平尚貞	07601
成藤正信	07007,16905	野崎善清	03213	堀田三右衛門	04111	堀田三右衛門	03816	松平兼之	04515
成藤善吉	01301	野崎善林	05907	堀田三右衛門	04108	堀田三右衛門	04403	松平兼之	05304
成藤正心	07915	野崎善雄	04911	堀田三右衛門	04409	堀田三右衛門	03903	松平兼之	08104
成藤正心	07913	野崎善富	16710	堀田三右衛門	12304	堀田三右衛門	03815	松平兼之	08106
成藤正継	03305,06204	野崎善三郎	12010	源政隆勝	15501	堀田三右衛門	15806,15407	松平正広	05304,08303
成藤正寿	07508	野崎善貞	07312	源政隆石衛門	16602	堀田三右衛門	04402	松平正広	05901
成藤正善	07909,00408	野崎善典	06915	肥田忠典	08005,01005	堀田三右衛門	04401	松村新兵衛	12403
成藤正一	06512	野崎善永	03208	肥田忠誠	01010	堀田三右衛門	15807,11213	岡宮之政	02407
成藤正一	06205,06809	野崎善誠	03211	肥田忠実	08801,08003	堀田三右衛門	12307	岡宮之政	02408
成藤正仕	07509	野崎善誠	03211	肥田忠実	01006	堀田三右衛門	12308	岡宮之政	06416
成藤正性	05609,07008	野崎善清	02804,05905	肥田忠実	01006	堀田三右衛門	12306	岡宮正統	06416
	04007	野崎善寛	06912	肥田忠実	01009	堀田三右衛門	12309	岡宮正太郎	11111
成藤正時	04112	野崎善寛	17009	肥田忠実	01007	堀田三右衛門	13205,14813	岡宮正太郎	11112
成藤善長	00414	野崎善成	06913	肥田忠実	13310	堀田三右衛門	03404	岡宮正太郎	05603
成藤正肥	07510	野崎善成	06909	肥田忠三郎	01011	堀田三右衛門	14105	岡宮正太郎	02409,06414
成藤正助	05613	野村昌武	04117	肥田忠勝	06004	堀田三右衛門	03502	岡宮正勝	11110
成藤正則	07904,14902	野村昌武	04118	肥田忠勝	01319	堀田三右衛門	13210	岡宮正勝	15003,02406
成藤正英	04113	野村昌之丞	04119	肥田忠勝	01318,12412	堀田三右衛門	03503,14104	岡宮正勝	06417
成藤新太郎	00510,06712	野村昌之丞	04120	肥田忠勝	01322	本多義信	12414	岡宮正勝	06415
成藤長則	07905	野村昌吉	04101	肥田忠勝	06001	本多義信	01801	三木友京	07301
成藤善九郎	07912	野村昌吉	04101	肥田忠勝	01320	本多義信	01901	三武次郎	09805,01404
成藤長勝	07906	野村昌吉	14114	平岩元則	15903	本多義信	03201	葛西元忠	16505,11204
成藤長勝	07907	野村昌吉	14112	平岩元則	16502	本多義信	14505	水谷忠知	14608,14708
成藤長勝	07906	野村昌吉	14113	平岩元則	16503	宇行		水野忠知	12510
成藤長勝	07905	野村昌吉	14110	平岩元吉	15901	前田三郎兵衛	15902	水野忠知	18907
成藤長貞	07907	野村昌吉	14108	平岩元吉	16503	前田三郎兵衛	15901	水野忠知	04013
成藤俊則	17204	小野		平岩元吉	16702	牧野平大夫	01300	水野忠知	01707
成藤正元	07911	堀原合健	02919	平岩元吉	07102,05101	牧野忠男	01300	水野忠知	04008
成藤正美	03306,06303	堀原合健	15612	平岩元吉	06201	岡田正重	05105	水野忠知	16101
(都賀)	02203	堀原合健	15613	平岩元吉	02702	岡田正重	05104	水野忠知	16906,01904
成藤正貞	06614	堀原合健	03613	平岩元吉	02802	岡田正重	05106	水野忠知	04012
成藤正貞	06613,07906	堀原合貞	03614,06210	平岩元吉	05202	堀村直吉	04206	水野忠知	14414
成藤正次	03307,15905	堀原合貞	15614,03016	平岩元吉	14701	堀村直吉	04207	水野忠知	16102
成藤正次	06416	堀原合貞	03918	平岩元吉	14412,14812	堀村直吉	04210	水野忠知	04010
成藤正健	07910	堀原合貞	03917	平岩元吉	02801	堀村直吉	04208	水野忠知	01604
成藤善治	06415	堀原合貞	03920	平岩元吉	02801	堀村直吉	04209	水野忠知	15707
成藤善貞	04589,06810	長谷川左門	14901	平岩元吉	06901	堀村直吉	02115	水野忠知	01601
成藤正貞	04510	藤野五右衛門	16813,12201	平岩元吉	16501	町野助左衛門	04109	水野忠知	11308
成藤正平	00417	藤野忠徳	15907	平岩元吉	07101	松井大友	02906	水野忠知	11311
成藤正忠	05611	藤野忠徳	15908	平岩元吉	02701	松井大友	14107,08606	水野忠知	01602
		藤野忠徳	15908	平岩元吉	14702	松井大友	12407,05309	水野忠知	01603
							03006	水野忠知	12511

第58表 居住者索引④

氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名	番号
水野雄年	84014	山原美輝	13005	横井崎忠	08018	吉原竹太郎	03017
水野鶴之丞	84011	山原経夫	13004	横井崎貞	02503	吉原昌三郎	03021
水野八郎	12406	山原豊功	04913	横井崎金	01503	吉原兵衛	04406
水野政勝	09903・09504	山原意清	04212	横井崎育	02413	吉原幸輔	14103
	06505	山原豊尚	04911	横井崎大郎	01811	吉原哲四	04404
水野三四郎	13701	山原義清	04211・13007	横井崎行	02411	吉原幸昌	04405
水野謙村	04009			横井崎小兵太	01502	吉原一吉	03018
水野重治	05506・02505	山田宗信	11508	横井崎安	07702	吉原竹太郎	04407・03017
(千村)	08906	山田玄哲	11105	横井崎清	15906	吉原龜馬	14102
水野忠真	11309	山田重英	11106	横井崎邦	03019	吉原藤六郎	03019
水野守政	14402・15706	山田玄祐	11104	横井崎邦	14420	吉原藤六郎	03020
真村忠典	14513	山内時高	12125	横井崎久	01501	吉原五左衛門	14101
三宅重貞	02903	山内明貞	04005	横井崎三郎	11423	吉原幸雄	11914
三宅重平治	02902	山内如高	04004	横井崎高	02510	吉原幸孝	11911
三宅重平治	02901	山内如重	03118・04006	横井崎是	14421	吉原幸孝	11912
武藤藤郎	04301	山村貞豊	17104	横井崎中	09411・09814	吉原幸和	11913
武藤兵次夫	04303	山村貞夫	17106		07913	吉原幸和	11910
武藤住吉	04302	山村貞典	17110	横井登美四郎	02506	吉原北守平	11915
村上六郎右衛門	01306	山村貞忠	17103	横井崎春	15905・04108	春谷松市太夫	12401
村田善藤太	10902	山村貞高	17109	横井崎禎	14422	7行	
村田権右衛門	10901	山村貞親	17111	横井崎貞	03004・10306	若林尚徳	13008
宮岡千九郎	12514	山村貞政	17203	横井崎重	14419	若林尚吉	13009
毛利貞貞	15717	山村貞勝	17181	横井崎之丞	02509	渡辺右衛門	16404
毛利広吉	15714	山村貞山	17188	横井崎家	13301	渡辺藤綱	13805・04007
毛利頼春	15710	山村貞勝	17112	横井重英	12612		03107・15205
毛利広吉	15715	山村貞豊	17182	横井崎五	00304・11604	渡辺藤綱	00702・05203
毛利頼忠	15713	山村貞吉	17187・03314	横井崎吉	12611	渡辺藤綱	00712
毛利広吉	15716	山本成之	03010	横井崎盛	05605	渡辺藤綱	06818
毛利広吉	15711	山本政之	13061	横井崎今	01505・05310	渡辺藤綱	00713
毛利藤山	15712	山本秀熊	09804・03003	(徳川)	10906	渡辺昌軒	13708
守屋氏盛	09605・09803	14504		横井貞汎	13204	渡辺藤綱	00707
守屋伊右衛門	12904	山本勝太郎	13610	横井時尚	13201	渡辺藤綱	06819
守屋善助	12905	山本成昌	03009	横井時尚	02504	渡辺藤綱	03202・00703
宇行		山本宗兵衛	03002	横井十右衛門	13101		03202
衛生利方	09104	山本吉五郎	13009	横井方之助	03021	渡辺藤綱	15006・14703
衛生教幸	09103	山本吉八郎	13008	横井賢時	13202	渡辺藤綱	12604
天崎佐左衛門	08702	山本政之丞	13005	横井時武	07010・05606	渡辺藤綱	06002・16403
天崎作左衛門	12402	山本政之丞	13006	横井福太郎	02812	渡辺藤綱	00710
天崎利全	04105・09504	山本道伝	13007	横井三太夫	13201	渡辺住一郎	11304
天島左京	05103	山本政寛	13004	横井時孝	13401	渡辺藤綱	03205
八幡信昌	09901	山本久兵衛	13011	横井源吉	01812	渡辺住一郎	11305
柳下仁右衛門	13103	山本政儀	13002	横井永吉	00817	渡辺年綱	06817
柳下仁右衛門	13102	山本政房	13003	横井時信	02502・12901	渡辺藤綱	00709
天野政成	10401・13802	山本春助	12503		04304	渡辺藤綱	00706
(長野)		山本内藏助	03001	横井定四郎	02508	渡辺藤綱	11306
山崎要人	04513	横井時夫	02418・06413	横井時彦	06206・05307	渡辺藤綱	00708
山崎元昭	04511・02909	横井時定	02412		06808・04308	渡辺守綱	00701
	03910	横井有時	01809		05109	渡辺長綱	03204
山崎元英	04512	横井有時	00815	横井時辰	04309	渡辺藤綱	05206・00705
山崎元武	02808	横井時有	12901	横井時輔	11605	渡辺元綱	00704
山下正経	10604・07304	横井時石	01808	横井久時	12610	渡辺住一郎	11307
山下氏政	00102	横井時時	01810	横井時杖	03018	渡辺久綱	12604
山下氏勝	00101	横井時望	01807	横井時岳	03018	渡辺藤綱	06820
山下秀氏	11503	横井時成	14419	横井時貞	02507	渡辺藤綱	00711
山下氏忠	16103・14003	横井時式	06412	横田三郎兵衛	02302	渡辺藤綱	03106
山下氏輝	11603	横井時立	00816	横田徳之助	02303	渡辺藤綱	06816・07012
山城丸兵衛	00102	横井時芳	06411	吉田平馬	01113		14415
山城宮内少輔	00101	横井時久	02109・02512	吉田孫三郎	02214		
山原美盛	04902・07203	12805		吉田元徳	12513		
山原龍造	04909	横井時元	12402・06303	吉田圭太	02616		
山原龍明	04910	横井善時	14417	吉田平内	11091		
山原美貞	04905・05507	横井時房	06419・13307	吉田加右衛門	02104		
	04908・06605	横井時房	12809・02016	吉田圭太	02112・03617		
山原善兵衛	13006	横井時峰	07703・05604	吉田元藏	03114		
山原龍興	04912	横井時敏	02505	吉田善兵衛	02215		
山原豊利	04914	横井時時	01504	吉田英平次	02212		
山原安次郎	04913	横井志時	03017・04310	吉田政幸	02211		
山原美重	04904	横井時敏	11606・14416	吉田三兵衛	02213		
山原清之助	04214	横井金次郎	03020	吉田右衛門	03108		

第59表 居住者索引⑤

第3節 調査地点の空間的・時間的位置付け

1 はじめに

今回の調査では、古墳・戦国・江戸時代の遺構、遺物が検出できた。このうち古墳時代は、情報量が少ないことから、いくつかの視点で捉えることは無理であった。戦国・江戸時代については、遺構、遺物量ともに豊富で、特に江戸時代の遺物については出土数は膨大な量にのぼった。こうした検出遺構、出土遺物に対して、調査結果からどのような情報を引き出すかが、調査報告書を作成する作業において第一の課題となった。

ここでは戦国・江戸時代の検出遺構が、当該期にどのような目的を持ってつくられたのか、そして膨大な出土遺物はどのような組成を示すのかについて、いくつかの視点から考えてみたい。

2 遺構からみた空間的特質

(1) 戦国時代

戦国時代の遺構は、第II章において3期に区分した。第103図にみられるように時期別に各遺構を比較してみると、I・II期では南北方向の溝が、N-6~9-Eの方位を示すのに対して、III期では南北方向の溝がN-1-E~N-2-Wの方位を示す。言い換えれば、I・II期の南北溝は北を向いてわずかに東側に振るが、III期の南北溝はほぼ真北を向く。III期の東西溝SD601も、当該期の南北溝に対応する方位を示す。従って、瀬戸・美濃産陶器の編年上大原III期に位置付けられる時期（16世紀後葉）に、なんらかの空間的改編が行われたことが、本調査地点の戦国時代各時期における遺構の変化から読みとれる。

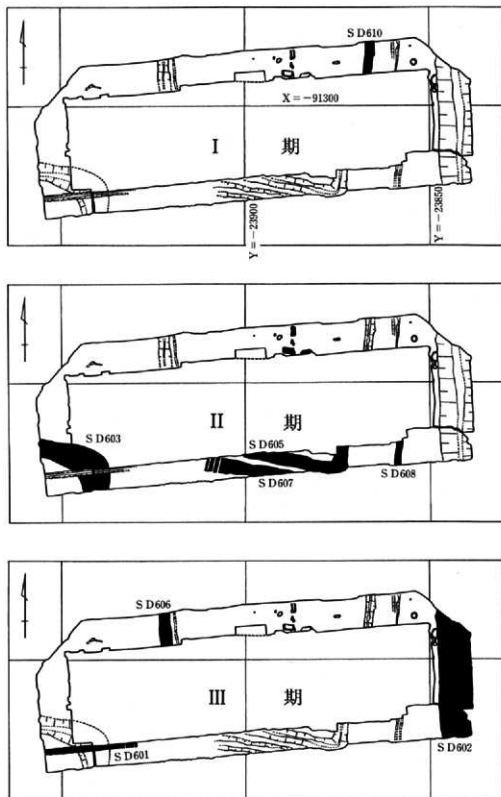
第105図は、周辺で現在までに戦国時代の遺構が検出された調査地点と、主要遺構である。本センターで調査した5地点では、どの地点においてもこの時期の遺構が検出されており、これに名古屋市教育委員会の第4・5次発掘調査地点が加わる。これまでの調査で戦国時代とされたこれらの遺構は、出土遺物が少なく、その時期的判断が明確にできなかったものが多い。しかしながらこれらの遺構を概観すると、今回の調査地点で確認できた溝の方位が、ほかの調査地点の戦国時代溝にも概ね当てはまることが見て取れる。すなわち、北を向いて東側に6~25°振る南北溝及びこれに対応する方位の東西溝の一群（準方位溝）と、南北、東西の方位にはほぼの一群（正方位溝）である。

・準方位溝群（道路側溝含む）

第105図の調査地点I・IV・V及び4・5地点などで確認できる、東西軸・南北軸からやや右回転に振る（6°以上）方向を示すものである。特に4・5地点では方形区画の中の屋敷溝も含めて、東西・南北の方位から20~25°振る。

・正方位溝群

第105図の調査地点I~Vで確認できる、主軸が東西・南北軸から大きく振らない（6°未満）方向を示す溝で、調査地点4・5の戦国時代溝では、該当するものがみられない。



第103圖 戰國時代遺構位置圖

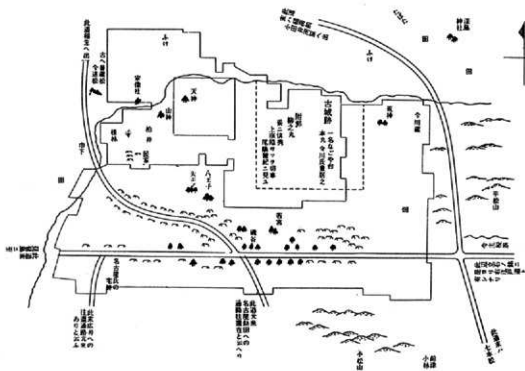
今回の調査区（調査地点V）では、戦国時代の溝をその方向性において2群に大別したが、それが時期差につながることは先述した。すなわち準方位溝は概ね15世紀後葉～16世紀中葉に、正方位溝は16世紀後葉に位置付けられる。そこで、この方位と時期の関係について、そのほかの調査地点にもこの法則性がみられるか比較してみる。

調査地点Iでは、当分類による準方位溝は15世紀末～16世紀前葉のもので、正方位溝は16世紀中葉～後葉に位置付けられており、調査地点Vの方位と時期の関係に照応する。

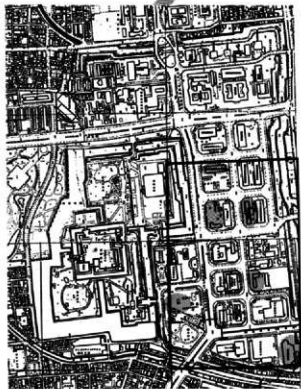
調査地点IIでは、準方位溝に該当するものはみられず、正方位溝は城郭の堀と考えられる東西方向の大溝があり、15世紀末から16世紀初頭に薬研堀で開削され、16世紀中葉に箱堀に改修されたとされており、方位と時期の関係は調査地点Vとは照応しない。

調査地点IIIでは、準方位溝は遺存度や検出位置などの点で図示していないが、中世II-1・2期（15世紀後半～16世紀前半）とされるものが、E-8-10°-Sである。正方位溝は城郭の堀の規模の大溝が逆L字形で検出され、E-5°-N-N-3°-Wという方向を示し、中世III期（16世紀後半以降）に位置付けられており、調査地点Vの方位と時期の関係に照応する。

調査地点IVでは、戦国時代をI期（古瀬戸後様式～大窩期）、II期（大窩II期主体）に分類しており、当分類における正方位溝の時期は存在しない。このI・II期を比較すると、I期ではほとんどの溝が準方位を示し、II期になると欄列も含めたほとんどが正方位を示している。方位と時期との関係は、時期において調査地点Vより先行するが、戦国時代の古段階において準方位を示したものが、新段階では正方位に変わる点は同様である。



第104図 築城当時の名古屋古園（『名古屋城史』より）



新古野城主要部埋藏地



Y = -23900

Y = -24100

X = -91100

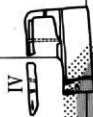
Y = -91400



4.5



II



IV

初宮八幡
埋藏地



V

備前へ至る道

備前へ出る道

琵琶島に至る道 (江戸期三の丸中小路)



III



調査地点4・5では、検出されている戦国時代の溝（道路側溝含む）はすべて準方位溝で、正方位溝はみられない。この地点の戦国時代溝の方位は、N-20°-25°-Wを示しており、各調査地点の中では振る角度がもっとも大きい。これらの遺構の時期は、15世紀後半～16世紀後半に位置付けられており、掘削時期を16世紀中頃以前とすれば、方位と時期の関係は、調査地点Vと照応する。

各調査地点における戦国時代の溝について比較した結果、本調査地点の検出状況と時期・方向において照応関係が認められるのは調査地点I・III及び4・5で、時期的にずれが古段階から新段階で本調査地点と同方向の変化が認められるのが調査地点IV、方向と時期が照応しないのが調査地点IIである。換言すれば、溝の示す方位は地点に関わらず2元的に捉えることができる。しかし、今回の調査地点周辺の戦国時代溝は、調査地点によっては時期的に対応しないものがあるため、マクロ的には方位=時期として捉えきれないことになる。

第104図は、徳川氏による名古屋城築城当時、城の縄張り地域の旧態がどのようなものであったかを、江戸時代後半の時点で復元を試みたものである。この図（以下築前図）は「金城温古録」で試みられたものであるが、さらにこれとは別に、名古屋市鶴舞中央図書館の所蔵する「尾張國名古屋古図」（以下古図）には、徳川氏名古屋城築城以前に存在した寺社などの位置が、江戸時代の三の丸のどの屋敷近くであったか、部分的に書き添えてある。これらの史料を参考にして、徳川氏名古屋城築城以前の旧態を概観してみる。

第104図にみられるように、郡古野城の存在したと思われる場所は、その主要部分が名古屋城における二の丸付近とされる。この古城跡の南側には「若宮」という記載があるが、この地点は古図の添え書きによれば「今山澄近所」とあり、山澄邸付近であったことがわかる。築前図において東西を直線で貫く道に対しては、古図には「今中小路」の添え書きがあり、名古屋城三の丸内の屋敷地を区画する中小路にあたることが示されている。さらに築前図において「八王子」・「天王」の記載が並んでいるが、この地点は、名古屋城三の丸の御霊屋にも天王社が残り、築前図に当てはめられた名古屋城の割り付け位置からも、名古屋城三の丸御霊屋東側付近と思われる。

第105図の推定案は、少ないながらもこうした材料から各地点を検討した結果である。稲生（現在の岩倉）へ出る道は、各神社推定地と築前図の位置関係から割り出しているため、あくまでも推察位置にすぎない。しかし、若宮八幡の推定地西側から巾下方面に抜けるためには、北西に向かう以外に方向はなく、この推定位置からの極端な位置・方向的ずれはないものとする。古図に示したA地点から巾下の方角に向かって北西に進む道は、S字状に蛇行して書かれている。名古屋台地北西端にあたるこの地域は、各調査地点のベース面を比較すれば明らかなように、比較的起伏のあった場所であるため、この部分の蛇行は自然地形に影響された可能性が考えられる。この稲生へ向かう道（以下稲生道）に対して、琵琶島に至る道（以下琵琶島道）は起伏のあったであろう台地上に、ほぼ東西軸にのる方向で直線に通っている。このような方向性をもつ両道を本調査地点の溝分類に当てはめる

と、稻生道は準方位、琵琶島道は正方位を想起させる。

戦国城館としての那古野城は、名古屋城の二の丸付近に主要部があったと推定される。この那古野城は、関連する少ない文献資料などによれば、大永4（1524）年頃に今川氏親によって築かれ、天文7（1538）年～弘治元（1555）年頃まで織田信秀～信長親子の居城となり、この後天正10（1582）年まで織田信光～林 通勝が居城して廃城を迎えたとされる。こうした年代的な流れの中で、那古野城の主要部分に関しては、現在まで旧態を想定できる材料がなく、地点が推定できる程度にとどまる。したがって主要部分の城館配置などは一切判明しておらず、現時点での把握は不可能である。このような状況にもかかわらず、主要部分を含む城館とその周辺の空間的な構成をイメージするため、現在までに把握できた材料から仮説を立てることにする。

各調査地点の戦国期溝について、その方位と時期について比較したが、調査地点IIにおける大溝は、今回の調査地点で行った分類とは、方位と時期の関係が照応しないものであった。つまり大窩I期の時点で、ほぼ東西軸にのる方向を示す唯一の溝である。そのほかの地点で確認できた同時期の溝は、すべて東西・南北軸から振る方位を示しており、戦国期の新しい段階にはいるほど、ほぼ東西・南北軸にのる方位を示すようになる。したがって、古い時期に軸線にのる方向を示す調査地点IIの大溝を、古式様相の溝として捉え、ほかの地点ではどの時期にこの方向に変化するかを整理してみる。

調査地点II

瀬戸・美濃産陶器編年上、大窩I期の段階で正方位を示す空間。

調査地点IV

大窩II期の段階で、正方位を示す空間。

調査地点I・III・V

大窩III期の段階で、正方位を示す空間。

調査地点4・5

戦国時代を通じて正方位を示さず、準方位を示し続ける空間。

以上のような結果から、調査地点IIにおける大溝を、方位と時期の関係から古式様相として捉えると、最初から正方位であった空間が時間を経て、南西方向にある準方位の空間を取り込んで行く様相がみとれる。これによって戦国時代において、調査地点II付近から南西方向に向かって方位に影響を与えた存在が、調査地点IIより北東方向に中心をもっていた可能性が見出せる。戦国期のこの地点において、この正方位の中心的存在を見出すならば、那古野城主要部に比定されるであろう。したがってこのような仮説に立てば、正方位をもつ那古野城は、16世紀前葉の築城当時、その南端を調査地点II付近においたが、南西方向は準方位を示す地域が存在しており、16世紀前葉～中葉の時期に城館城の拡張をまず西側にとり、16世紀中葉～後葉の時期にさらに南側に拡張したことが推察できる。このうち最後に拡張した時点では、影響下に入る範囲が琵琶島に至る道の南側に広く認められるが、これは正方位の琵琶島道の成立を、この16世紀中～後葉の拡張に伴うものと考え、

その影響下で調査地点Ⅰなどの正方位の溝が成立するものと推察したい。したがって準方位の溝をもつ名古屋台地北西端の地域は、初めに稲生へ出る道の方位のもとに成立し、那古野城の拡張などに伴って順次正方位に変わってゆく地域と、名古屋城築城まで準方位を継承する地域とが、それぞれ存在したと思われる。さらに準方位の振る角度に差があり、北西端に向かうほど大きくなるのは、稲生へ出る道が蛇行していたことに伴うものと思われる。

今回の調査区周辺が戦国時代にどのような空間的变化をみせたのか、当該期の溝を中心として考えてみた。この中で材料として扱った個々の溝が、どのような性格のものであるかということにまで視点が届かなかったが、これらの溝は、軍事、区画、排水などそれぞれの目的を持って掘削されたものである。個々の溝のこうした目的をそれぞれ明らかにして行くためには、出土遺物の検討、資料の増加などを積み重ねて行く必要がある。こうしたミクロ的な復元が、今回試みたマクロ的な復元の再検討、具体化につながるものと思われるため、今後の検討課題としたい。

参考文献

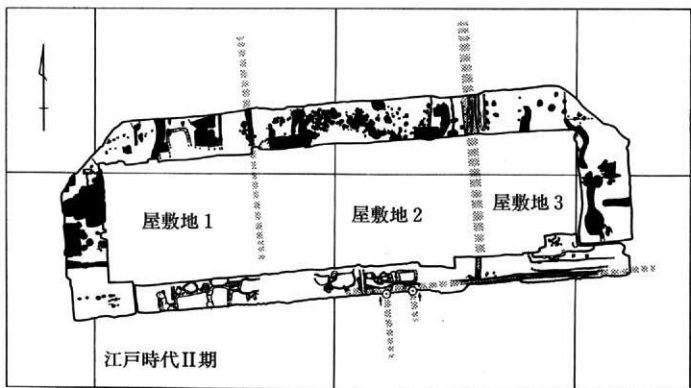
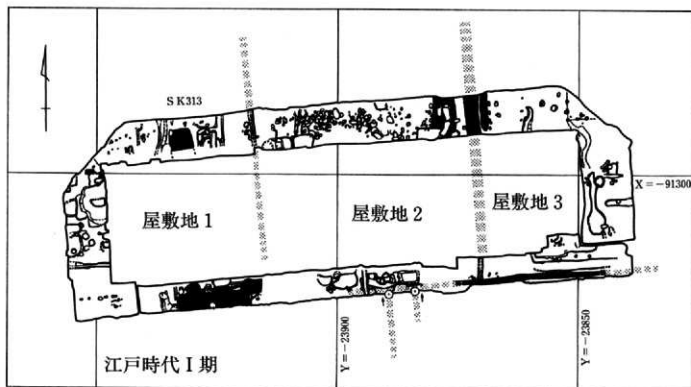
- 佐藤公保ほか 1990 『名古屋城三の丸遺跡Ⅰ』 柳愛知県埋蔵文化財センター
 梅本博志ほか 1990 『名古屋城三の丸遺跡Ⅱ』 柳愛知県埋蔵文化財センター
 金子健一ほか 1992 『名古屋城三の丸遺跡Ⅲ』 柳愛知県埋蔵文化財センター
 遠藤才文ほか 1993 『名古屋城三の丸遺跡Ⅳ』 柳愛知県埋蔵文化財センター
 服部哲也・水野裕之 1994 『名古屋城三の丸遺跡第4・5次発掘調査—遺構編—』 名古屋市教育委員会
 高木元繁ほか 1959 『名古屋城史』 名古屋市
 奥村得義 1860 『金城温古録』(名古屋叢書別巻13~16) 名古屋市

(2) 江戸時代

江戸時代の遺構は、第2章において2期に区分した。この時代については、多くの絵図、文献資料などによって、名古屋城三の丸内の屋敷割とその変化、各居住者の変遷などが既に確認できるため、今回の調査地点が、屋敷内のどのような空間に当たるのかを考えてみる。

本調査地点は第Ⅰ章でも述べたように、南北軸の方が長い方形の屋敷地が東西に並ぶ地点である。このうち調査区にかかるのは3軒分の屋敷地で、B区の南端で東西方向の屋敷境がみつまっているため、A・B両調査区は、この3軒の屋敷地の南側を東西に「口」の字形に抜いたことになる。

時期別に遺構を比較してみると、第106図にみられるように、Ⅰ期の遺構は数が少なく比較的大型で、検出される場所がいくつかに限定できる。Ⅱ期の遺構は、数も多く大きさは大小さまざま、集中化する傾向はみられるものの、調査区全般にわたって検出すること



第106図 江戸時代遺構変遷図

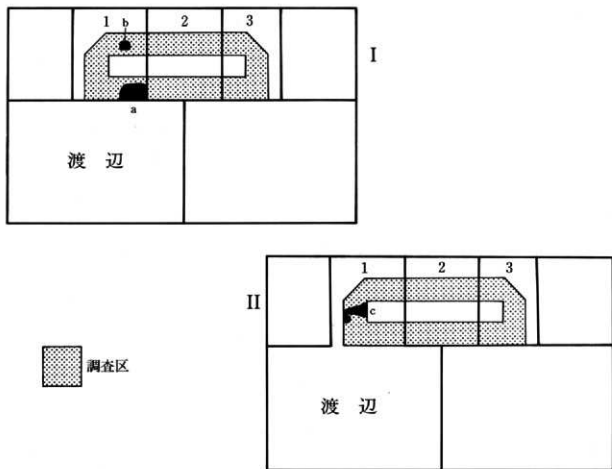
ができる。

I期の遺構は、検出された場所が屋敷地1の南側と北側、屋敷地2・3の境付近にみられ、そのほかの場所ではほとんど検出されない。屋敷地1の南側では、17世紀中頃～18世紀初頭の廃棄を目的に掘削されたと思われる遺構が集中している。屋敷地1の北側では、18世紀前半に機能を停止したと思われる地下室から、大量の遺物が出土している。屋敷地2・3の境付近では、屋敷境の溝を含み、南北方向の溝状遺構が併走する。

II期の遺構は、調査区全般にわたって検出されたが、大量に遺物が出土する遺構は、調査区西側の地点に集中する。また、小土坑に関しては、屋敷地2の北側で集中して検出される。

江戸時代のI・II期遺構では、いくつかの特徴をもつものが検出されたが、この中でも大量に遺物が出土した遺構は限られる。このような最終的に廃棄を目的に埋伏行為が行われた遺構を取り上げ、その変遷状況を考えてみたい。

第107図は、調査区に関連する名古屋城三の丸内のブロックに調査区位置を示し、その中で大型廃棄土坑の位置する地点を、黒塗りで示したものである。I・II期ともに屋敷地1に集中しており、3地点(a～c)に分かれる。



第107図 調査区廃棄地点位置図

廃棄地点a 屋敷地1の南端に位置する。17世紀中頃から18世紀初頭の時期の大型遺構が、切り合い関係をもって検出される。

廃棄地点b 屋敷地1の北側に位置する。18世紀前半に機能を停止した地下室に、大量投棄されたと思われるS K313が検出される。

廃棄地点c 屋敷地1の中央よりやや南西に位置する。18世紀後半～19世紀前半までの大型遺構が、複雑に切り合って検出される。

屋敷地1に関しては、第1章でも述べたように、三の丸が成立した17世紀前半から1700年前後まで、ここに居住した当主は10人に上る。それが1700年前後に、南側に居を構える波辺半藏邸の添え屋敷として取り込まれる。したがって、屋敷地1は1700年前後までは独立した屋敷地として機能し、その出入口を設けた位置は、区画設定上、当時の中小路に面した屋敷地北側以外には不可能である。こうしたことから、1700年前後までの屋敷地1内の空間構成は、その北側が屋敷表に、南側が屋敷裏として機能していたことがわかる。

廃棄地点aは、17世紀中頃から18世紀初頭にかけての遺構が集中しているが、この地点は当該期に空間構成上、屋敷裏に当たることが確認できるため、10人にも上る居住者が交代する際に、この地点を廃棄する空間として利用したことが考えられる。

廃棄地点bは、屋敷地1の中では中央よりやや北東側に位置するが、この地点の遺構であるS K313からは、18世紀前半の遺物とともに、渡辺家の家紋である「三星一文字」入りの瓦が出土している。したがって、S K313は地下室として掘られ、渡辺家がこの屋敷地を拝領した後に、埋伏行為が行われたと考えられる。なぜならば、最初は渡辺家の屋敷外であった地点に、屋敷を拝領する前の時点で、渡辺家の家紋瓦が廃棄される可能性は低いと思われるからである。したがって、S K313の出土遺物から判断すると、遅くとも18世紀前半の時点で、この区画は渡辺家が拝領していたことが推定でき、絵図・文献史料等の記述が発掘調査の成果とも照合することになる。

廃棄地点cは、屋敷地1の中では中央よりやや南西側に位置するが、この地点は18世紀後半～19世紀前半までの遺構が多く検出され、出土遺物から判断すると幕末までには至らないものと思われる。調査区内で、この時期の大量投棄を想起させる遺構は他にみられず、この地点が、当該期における屋敷地1の廃棄行為に利用された空間と考えられる。

調査区内で検出した、江戸時代における屋敷地1内の廃棄地点は、17世紀代には屋敷裏に当たる南端のa地点が利用された。しかしa地点は、渡辺家に取り込まれて以後は合体屋敷地となるため、このa地点に対する屋敷裏という概念が変化し、その後は大量投棄に利用する空間が、c地点へと移っていったことが考えられる。

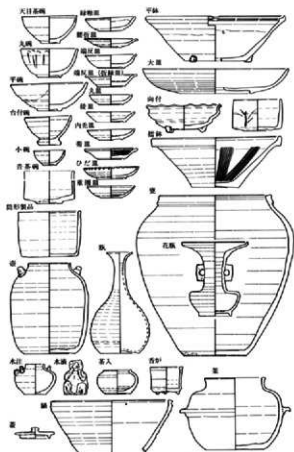
屋敷地1の居住者は、渡辺家が拝領した1700年前後より後は、代々相続され屋敷替えは行われていない。にもかかわらず、屋敷地1内検出の大量投棄が行われたと思われる土坑は、江戸時代初期より19世紀前半までの各時期で確認できる。こうした事實は、従来から大量投棄の理由として第一に考えられてきた屋敷替え以外にも、相続期、被災などの理由で、大量投棄という行為が行われた可能性を考えさせる。

3 出土遺物の考察

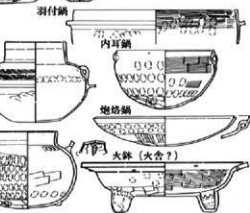
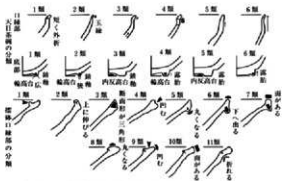
(1) 戦国時代出土遺物の分類と計測法

本調査地点で出土した戦国時代の遺物は、遺構の稿で述べたように3期に大別した。この時期の遺物の出土量は、調査面積、遺構の規模、量などから考えると少量である。しかしの中には、那古野城関連の資料も含まれていると思われ、周辺の当該期遺跡との比較資料として提示することが必要と判断した。

戦国時代の尾張地域は、特に後半の段階を考えると、織田氏を抜きにしては語れない。愛知県埋蔵文化財センターでは、この織田氏関連遺跡の発掘調査をすでに数地点で行っており、岩倉城、清須城下町や、上記の那古野城などがすでに報告されている。この中で戦国時代の出土遺物に関しては、本センターの鈴木正貴が『清洲城下町遺跡Ⅳ』（1994）において詳細な分類と計測を行っている。本遺跡においても、当該期の織田氏関連遺跡としてデータを共通化するため、この分類・計測に依拠することとし、その方法を用いることとする。したがって分類・計測法についての説明は鈴木報告（部分）を縮小転載するが、詳細については『清洲城下町遺跡Ⅳ』第IV章第1節（P.120～）を参考とされたい。



第108図 戦国時代瀬戸美濃窯産陶器器種分類 (S=1/8)



第110図 戦国時代土師器器種分類 (S=1/8)

底面3部——指り出し高台、高台内外を覆り取って高台とするもの。

底面4部——底面高、高台内外を覆り取って高台の形跡とするもの。

脚付美濃焼陶器鉢 (1: 3)

1 平縁——縁部が溝への凹みに開きや中凹し縁。

2 大足——縁部が溝への凹みに開き、底面が大きい浅い鉢。

3 向付——縁部が直立し平縁、平縁部が円形にならない、小形の鉢を輪轉する。

上記の順・平縁・大足に当てはまらない口を開く小形器部。

脚付美濃焼陶器鉢 (1: 4)

器種の区分は存在しない。

口縁部1部——口縁部の内側に尖突が現れるもの。

口縁部2部——口縁部を内側に傾かせ、上方に傾けたもの。

口縁部3部——口縁部を内側を持ち、断面が三角形になるもの。

口縁部4部——口縁部に凹縁状のへこみがあるもの。

口縁部5部——口縁部を内側に折り返し、五稜状に丸くなるもの。

口縁部6部——口縁部を内側に折り返し縁部を内側、上縁部が丸くなるもの。

口縁部7部——口縁部を内側に折り返し縁部を内側、その平直面が丸くなるもの。

口縁部8部——口縁部に内側するやや幅広な平直面を持ち、その平直面が丸くなるもの。

口縁部9部——口縁部に内側するやや幅広な平直面を持ち、その平直面がへこむもの。

口縁部10部——口縁部の内側する平直面直下に段を持ち、縁部が丸くなるもの。

口縁部11部——口縁部の内側する平直面直下に段を持ち、縁部が直立したもの。

脚付美濃焼陶器鉢 (1: 5)

器種の区分は存在しない。

口縁部1部——口縁部が丸くなるもの。

口縁部2部——口縁部が平らになるもの。

口縁部3部——口縁部の内側にやや内凹するもの。

口縁部4部——縁部が溝にアタの文様を模した突起がつくもの。

口縁部5部——縁部が外に折れるもの。

口縁部6部——口縁部の内側にやや内凹するもの。

2 足——縁部が凹状の形跡をなし、口縁がやや大きい大形製品。

口縁部1部——口縁部が外側に丸く突出するもの。通常凹状の、逆さ足取と交差。

口縁部2部——口縁部が外側に折り出し口縁上縁部が平らなもの。通常足取と交差。

口縁部3部——口縁部が直立し平縁。通常足取と交差。

口縁部4部——口縁部が直立する面を持つもの。通常足取と交差。

3 取——縁部が凹状の形跡をなし、口縁が大きい大形製品。帯付。

口縁部1部——口縁部が外側にフリップ状になるもの。

口縁部2部——口縁部が受け口状になるもの。

口縁部3部——口縁部が受け口状になり、縁部が直立して帯付のもの。

口縁部4部——足取と交差するもの。

4 丸取——縁部が凹状の形跡をなし、口縁部がフリップ状に大きく開くもの。

5 取——縁部が凹状の形跡をなし、口縁が大きい大形製品。

脚付美濃焼陶器鉢小形製品 (1: 6)

1 水取——縁部が凹状の形跡をなし、注口と足取を持つ小形製品。

2 水取——縁部が凹状の形跡をなし、注口を持つ小形製品。取は存在しない。

3 水入——縁部が凹状の形跡をなし、注口と足取を持たない小形製品。

脚付美濃焼陶器鉢 (1: 7)

器種の区分は存在しない。

口縁部1部——縁部が一旦内側に傾斜するもの。いわゆる輪轉型。

口縁部2部——縁部が直立し口縁部が内側に張り、外側に丸縁による文様がないもの。

口縁部3部——縁部が直立し口縁部が内側に張り、外側に丸縁による文様があるもの。

脚付美濃焼陶器鉢・重 (1: 8)

1 重——縁部が凹状の形跡をなすもの。

2 脚——縁部が単に丸くなるもの。

土器形類 (2: 2)

1 コロ成形——底面に凹状赤銅の痕跡が残存するもの。コロサ (凹成) 成形。

口縁部1部——口縁部が外反するもの。

口縁部2部——口縁部が直線的に帯付のもの。

口縁部3部——口縁部が内凹するもの。

2 ホコ成形——底面に凹状赤銅の痕跡が残存しないもの。手づくね・内凹成形。

口縁部1部——口縁部の外側にコナチを施して縁部を作るもの。

口縁部2部——口縁部の外側にコナチを施して縁部を作るもの。

口縁部3部——縁部が直立し口縁部が内側に張り、外側に丸縁による文様があるもの。

土器形類・重 (2: 8)

1 形付脚——半球形の脚で脚があるもの。

2 内凹脚——半球形の脚で脚がなく、内反が付くもの。

3 地輪脚——脚の形が丸くなるもの。

4 重——口が狭いふたの縁部が凹状の形跡をなすもの。

重は耳の形跡と脚の有無で脚分が異なる。これらの要素を底面の形跡に要素する形で記入したが、通常記入方法ではないと思われる。

底面1部——縁部の縁を縦方向に折り付けた耳を持つもの。

底面2部——丸内形の縁上縁を縦方向に折り付けた耳を持つもの。

底面3部——耳を持つもの。

底面4部——耳を持たないもの。

瓦器大形製品 (3: 5)

1 取付——縁部に凹を有する大形製品。

2 大縁——縁部を凹を持たない大形製品。

常滑焼陶器大形製品 (4: 3)

1 取付——縁部が凹状の形跡をなし、口縁が大きい大形製品。

2 取付——縁部が凹状の形跡をなし、口縁がやや大きい大形製品。

細器

1 丸取

2 取付

3 取付脚

4 脚付脚

5 丸取——縁部が丸くなる大形製品や土器部・瓦器もこれに該当する。

6 脚付

7 取付脚——縁部のフリップが存在するものとし、脚は丸取と取り換える。

8 その他

この他にこの項目には中国製磁器について3分類、常滑焼陶器に2分類を追加した。

9 取付

10 丸取

11 取付

12 脚付——常滑焼陶器の内、縁部に丸くまった凹形の取付と取付脚の製品。

13 丸取——常滑焼陶器の内、丸取が若干つ赤銅色の取付を持つ製品。

細器類

1 足取——縁部が凹状の形跡をなし、口縁が丸くなるものと思われ。

2 口取——口縁部のみが丸くなるものとして整理されているもの。

3 取付——縁部の取付を行っているもの。

4 取付脚——取付の形跡を有しているもの。通常取付の形跡を有しているもの。

5 取付脚——取付の形跡を有しているもの。通常取付の形跡を有しているもの。

6 取付脚——取付の形跡を有しているもの。通常取付の形跡を有しているもの。

7 フリップ付——口縁部にフリップが付いているもの。丸取としての形跡を有しているもの。

8 取付脚——縁部が丸くなるもの。通常取付の形跡を有しているもの。

9 取付脚——縁部が丸くなるもの。通常取付の形跡を有しているもの。

10 取付脚——縁部が丸くなるもの。通常取付の形跡を有しているもの。

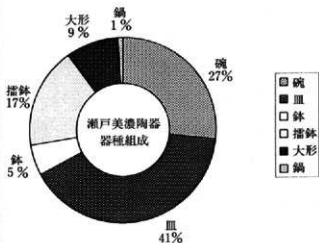
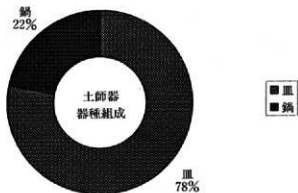
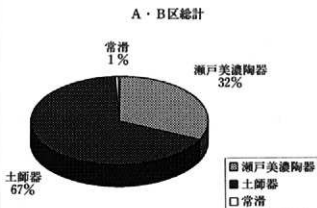
11 取付脚——縁部が丸くなるもの。通常取付の形跡を有しているもの。

12 取付脚——縁部が丸くなるもの。通常取付の形跡を有しているもの。

13 取付脚——縁部が丸くなるもの。通常取付の形跡を有しているもの。

産地・材質	器種	器種・器形	A区	B区	A・B区総計	
瀬戸美濃陶器	碗	大目茶碗	67	15	82	
		方碗	16	0	16	
		平碗	1	0	1	
		台付碗	3	0	3	
		小碗	15	0	15	
		香客碗	0	0	0	
		緑釉皿	15	12	27	
		黒折皿	1	0	1	
		端区皿	灰釉	33	19	52
			鉄釉	8	1	9
		粉緑	0	0	0	
		志野	0	0	0	
	皿	丸皿	灰釉	19	2	21
			鉄釉	1	3	4
			志野	3	0	3
		楕圓皿	0	2	2	
		内美皿	0	0	0	
		菊皿	1	0	1	
		桜花皿	0	0	0	
		ひだり皿	2	0	2	
		重圓皿	I類	15	19	34
			II類	4	2	6
		III類	0	5	5	
		IV類	4	7	11	
		V類	0	0	0	
		狭み皿	3	0	3	
	浅鉢	平鉢	23	1	24	
		大皿	1	0	1	
	楕圓鉢	肉付	0	0	0	
		1類	5	0	5	
		2類	7	8	15	
		3類	5	4	9	
		4類	5	0	5	
5類		1	1	2		
6類		16	3	19		
7類		3	2	5		
8類		1	0	1		
9類		2	0	2		
10類		1	0	1		
大形製品	筒形鉢	17	4	21		
	壺類	0	4	4		
	歌瓶	11	4	15		
	花瓶類	4	0	4		
小形製品	燗瓶	0	0	0		
	水注類	0	0	0		
香炉	水盥類	0	0	0		
	茶入類	0	0	0		
	1類	0	0	0		
土師器	碗	2類	0	0	0	
		3類	0	0	0	
		0	0	0		
	皿	ロクロ成形	1類	15	34	49
			2類	184	64	248
			3類	40	8	48
		非ロクロ成形	1類	67	8	75
			2類	0	36	36
			3類	101	16	117
	鍋・釜	羽付鍋	9	1	10	
内耳鍋		116	55	171		
焙烙鍋		17	3	20		
壺形鍋		14	0	14		
瓦器	常滑	瓦物	0	0	0	
		漆物	4	2	6	
唐津	碗	1類	0	0	0	
		皿	0	0	0	
中国	その他	青磁	2	0	2	
		白磁	2	0	2	
その他		染付	2	0	2	
			0	0	0	

第60表 戦国時代出土遺物残存率集計表



第111図 遺物組成グラフ

(2) 江戸時代出土遺物の分類と計測法

A 分類・計測作業の諸問題

本調査地点で出土した江戸時代の遺物は、遺構の稿で述べたように2期に大別した。当該期における遺物の出土量は膨大であり、器種は戦国時代以前とは比較にならないほど多様化する。こうした出土遺物に対しては、個々のもたらすミクロ的な情報を、マクロ的な情報としてまとめることが必要と判断した。このため出土遺物に分類基準を設定し、これを情報として整理し、統計処理を行うことにする。分析に先立ち、今回の調査で出土した遺物を、マクロ的な情報としてまとめるために生じた問題点を述べる。

・分類基準設定上の問題

個々の遺物もたらす情報は、視点によって様々であるが、その中で各情報をどのように取捨選択するかが問題となる。換言すれば、なにを目的に分類するかあらかじめテーマ設定し、それに応じた基準を設定する必要がある。

現在まで江戸時代を主要とする発掘調査報告では、出土遺物の分類にあたって、大別すると2種類の方法が採用されている。すなわち、器形を基準にしたもの・用途を基準としたものである。

一般的に分類基準を選択する場合は、考古学的手法をとる以上、各時代を通じて伝統的に行われてきた器形を基準に分類する方法が、多く採用されている。しかし、器種・器形が極端に多様化する江戸時代では、この方法は様々な困難を伴う。先述したように、この時代の遺物はあまりにも種類が多いため、全体を統括しながらすべての器形をカバーして分類することに無理が生じる。また、1器形=1用途といったように、形によって用途が限定される特殊品目も多くみられ、これらは、統一した項目に組み込みにくい。したがって、器形を基準に分類する方法では、その名称などに俗称を使用したままのもの、俗称はつけられていても器形により機械的に分類した名称を用いているもの、などが混在する結果となる場合が、多くみられる。

用途を基準にした分類は、器形を基準にした分類に比べると採用される例が相対的に少ない。この方法は、器形を基準にした方法に対して、視点を変えた一つの解決策であるが、新たな問題点も指摘できる。それは使用痕を、用途分類において優先させる方法である。報告者は消費遺跡を調査する以上、出土遺物の用途を考えて行く必要がある。こうした用途を追う場合、器形から想定できるもの以外に、使用痕の観察からも想定される。しかし、器形から想定できる用途と、使用痕から想定できる用途が異なった場合、その遺物自体の使用期間の中で、どちらの使われ方がより長期間採られたかは、証明に困難を伴う。たとえば、すでにいくつかの指摘があるように、陶器の皿などにタールが付着している場合の扱え方がある。この場合、使用痕を優先して分析していれば、ここで想定し得る「灯明具」として扱われることになる。しかしこの分類方法では、極端に考えれば長年供膳具として使用してきた皿が、なんらかの理由でごく短期間灯明具として使用されたものであっても、

扱いは供膳具には入らない。これと同じく、焼壺壺の口縁部に数カ所人為的な敲打痕や、擦れが観察できるものは、「喫煙具」と扱われるかもしれない。したがって、使用痕などから用途を判断しても、あくまでもその遺物の最終的な使われ方が判明するだけである。換言するならば、使用痕に偏った分析は、その遺物自体の使用期間の中で、どちらの使われ方がより中心であったか証明できない以上、一時的な現象を捉えることになりかねないと言える。使用痕を優先させて遺物の用途を分類する方法は、一時的な現象も含み、遺物の最終的な使用状況を明らかにしたい場合以外、こうした問題をもつ点において、限界が感じられる。

・情報処理事業の限界

今回の調査報告書を作成する作業期間は、洗浄、注記作業を除いて、10ヶ月間である。この中で分類・計測に費やす期間は、消化可能な処理量をあらかじめ算定し、分類方法の選択、作業の進行法決定まで含み、設定しなければならない。したがって、本来全出土遺物の処理が理想ではあるが、現実的な対応策として、限られた期間の中で限定した遺物の分類・計測作業にあたることになる。

分類・計測作業を始めるにあたり諸処の問題点を考慮したが、実際に作業を進める上では直面する壁を実感するのみであった。理想とするものは、なるべく単純に階層化された分類であるが、器形を基準とすれば、用途が二次的な扱いになり、用途を基準とすれば器形が二次的になりやすくなる。こうした矛盾をなくするために器形と用途を盛り込もうとすれば、果てしなく細分化を進めてしまうことになる。器形と用途を考慮しながら、多岐にわたらない分類は前例もなく、限られた時間の中で解決することは不可能と判断し、産地・材質別の組成を、遺構出土遺物に限って時期別に明らかにすることを第一の目的とした。また、今回の調査地点では屋敷地が3区画検出されたが、各屋敷地別の組成比較なども検討の対象とした。

B 分類試案・計測の方法

分類・計測の対象遺物は、江戸時代各遺構より出土した遺物の内で、口縁部の残存する陶磁器・土器類で行い、その他の破片は割愛した。分類は当初単純に階層化できるように考慮したが、器形を基本としつつ用途を加味せざるを得なかったため、より複雑化する結果となった。当初の目的に逆行する結果は本意ではなかったが、さらに新たな矛盾を生ずることとなり、江戸時代遺物の分類に伴う難題を痛感した。したがって本分類は、あくまでも試案である

情報の収集は、各遺構ごとに接合作業を行った後に口縁部片を選び出し、設定した項目別に、その破片についての情報を記録した。この各口縁部片の情報は、パーソナルコンピューターで表計算ソフトを用いて入力し、これを集計した。この集計の際には、江戸時

代I・II期毎に、屋敷地1～3毎に値を求めた。

各破片の記録用紙は、まず記録用紙毎に調査区・グリッド・遺構名・コンテナ番号を枠外に記入し、情報項目としては①計測番号（遺構別）、②産地・材質、③器種、④器形、⑤釉等、⑥使用痕、⑦口縁残存率、⑧時期、⑨屋敷地、⑩備考を設定した。各項目への記入にあたっては、⑩備考を除いたその他すべての欄にあらかじめ番号別に内容を設定しておき、その番号数字のみを記入することにした。各項目の内容は以下の通りである。

①計測番号

本項目の番号は、分類・計測後に対象遺物と情報が照合できるように、各計測破片に色付きシールを貼り、各遺構毎に1から順にシール内に記入した番号がこの数字にあたる。

②産地・材質

本項目は、対象遺物を胎土の特徴、焼成技法などから11類に分けた。

- 1 瀬戸・美濃産陶器…胎土・釉薬などの特徴から瀬戸・美濃地域産と思われる陶器
- 2 瀬戸・美濃産磁器…胎土・釉薬などの特徴から瀬戸・美濃地域産と思われる磁器
- 3 肥前産陶器……………胎土・釉薬などの特徴から肥前周辺で作られたと思われる陶器
- 4 肥前産磁器……………胎土・釉薬などの特徴から肥前周辺で作られたと思われる磁器
- 5 常滑産製品……………胎土の特徴などから常滑周辺で作られたと思われる製品
- 6 土器……………素焼きの製品
- 7 瓦質製品……………胎土・焼成技法の特徴が瓦質の製品
- 8 その他陶器……………1・3以外の産地（備前・信楽等）が推測できる陶器
- 9 その他磁器……………2・4以外の産地（海外・関西等）が推測できる磁器
- 10 産地不明陶器……………産地が特定できない陶器
- 11 産地不明磁器……………産地が特定できない磁器

③器種④器形

陶磁器（1～4・8～11）に関しては、共通する器種・器形の分類項目に当てはめ、常滑産製品（5）・土器（6）・瓦質製品（7）に関しては、個別の器種・器形分類項目を設定した。なお、各名称については、俗称をそのまま使用したもの、本分類のため便宜上名付けたものが混在している。これらは適正な名称でないことを自戒しつつ、試案用に使用した。

・陶磁器

- 1 碗…器高対口径の比率が近似し、口径15cm未満のもの
 - 1 天目茶碗…稜をもつ高台臨から直線的に開き、口縁部が屈曲するもの
 - 2 丸碗…腰部が丸みをもつもの

- 3 腰折碗…腰部が屈曲するもの
- 4 平碗…腰部をほとんどもたないもの
- 5 広東碗…巾広でやや高めの高台から、口縁部にかけて直線的に開くもの
- 6 仏器具…高杯状のもの
- 7 小型碗…口径が8.5cm未満の碗
- 8 その他…1～7に該当しないもの
- 2 皿…器高に比して口径の方がかなり大きく、口径15cm未満のもの
 - 1 丸皿…腰部が丸みをもつもの
 - 2 腰折皿…腰部が屈曲するもの
 - 3 非円形皿…有高台で、平面形態が円形でないもの
 - 4 灯さん…内面に受部を有するもの
 - 5 無高台皿…高台をもたないもの
 - 6 小型皿…口径5cm未満のもの
 - 7 その他…1～6に該当しないもの
- 3 鉢…形態的には碗・皿に近似し、口径15cm以上のもの（特殊・小型品除く）
 - 1 丸鉢…腰部が丸みをもつもの
 - 2 平鉢…腰部をほとんどもたないもの
 - 3 播鉢…内面に摺目を有するもの
 - 4 筒形鉢…体部が直立し、平面形態が円形のもの
 - 5 びん水入れ…体部が直立し、平面形態が楕円形のもの
 - 6 腰折鉢…腰部が屈曲するもの
 - 7 植木鉢…製作時に底部穿孔が行われたもの
 - 8 大型皿…口径が15cm以上の皿
 - 9 小型鉢…餌鉢などの小型製品
 - 10 その他…1～9に該当しないもの
- 4 壺・瓶…断面形態が袋状を呈するもの
 - 1 筒形壺…体部の径が大きく変化しないもの
 - 2 肩壺…最大径が体部上方にあるもの
 - 3 口壺…口径が最大径となるもの
 - 4 小型壺…小型の壺
 - 5 花瓶…ラック状口縁で、頸部に双耳状の飾りを有するもの
 - 6 土瓶類…平面形において注口の延長線上に吊り手を2つ有するか、注口からは左回転90°の位置に把手を有するもの
 - 7 汁つぎ…平面形において注口の延長に環状把手を有するもの
 - 8 徳利…全体の形状が細長く、頸部の細いもの
 - 9 小型徳利…8の小型製品

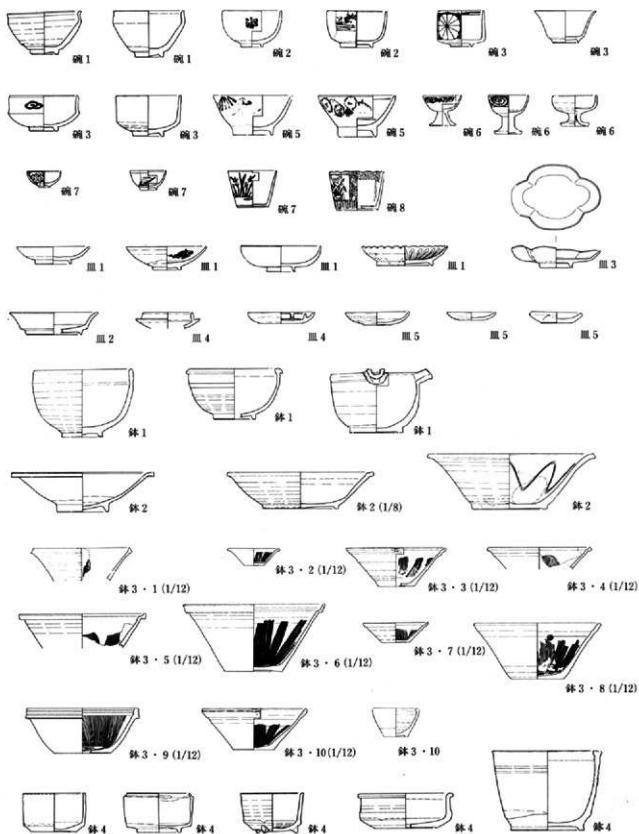
- 10 油壺…頸部が細く体部が算盤玉形を呈するもの
- 11 その他…1～10に該当しないもの
- 7 その他…1～4に該当しないもの
 - 1 筒形…口縁部から体部にかけて断面形態が筒形を呈するもの
 - 2 灰落とし…体部が底部から大きく屈曲せずそのまますばむもの
 - 3 ひしゃく…柄の連結部を有する筒形のもの
 - 4 ひょうそく類…内側に極端に大きな受け台か灯心立てを有するもの
 - 5 燭台…蠟燭立てをもつか装着できるもの
 - 6 盤…口径に比して器高が極端に低く、断面形態が直線的に開かないもの
 - 7 火鉢…体部の断面形態が丸みを帯び、口縁部が内彎し内面が全面施釉されないもの
 - 8 行平…丸形の鉢に注口と把手を有するもの
 - 9 鍋…断面形態が鉢形を呈し、外面が全面施釉されない吊り手を有するもの
 - 10 蓋…陶磁器製の蓋
 - 11 その他…上記のいずれにも該当しないもの

・常滑産製品

- 6 甕…口径が広く、ほとんどくびれない頸部を有するかこれに近似するもの
- 7 その他…甕以外の常滑産製品を一括する

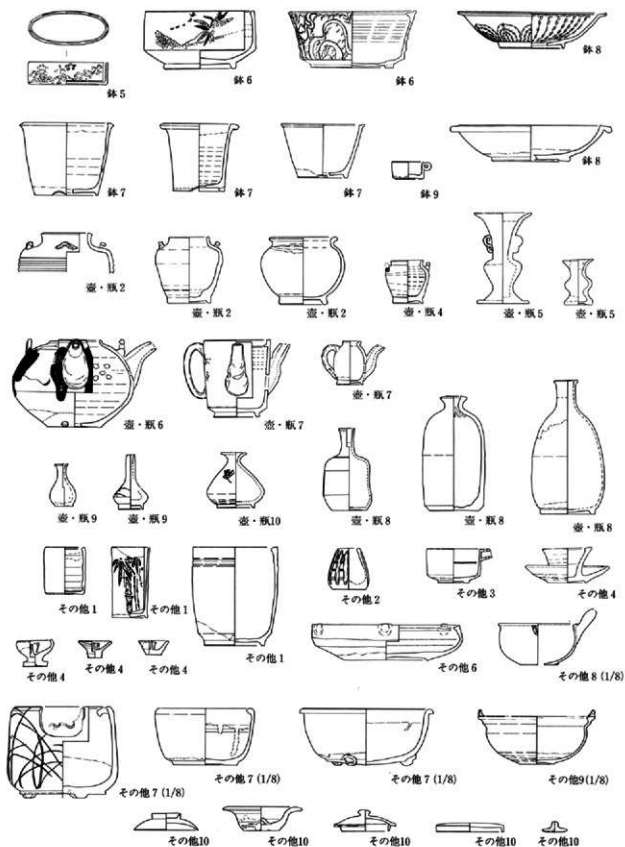
・土器

- 1 皿…浅い容器を一括する
 - 1 ロクロ成形
 - 2 非ロクロ成形
- 5 鍋・釜…火にかけられる器壁の薄い大型製品を一括する
 - 1 羽釜…体部上方に鈎が設けられたもの
 - 2 釜…壺形で吊り手・三足などを有するもの
 - 3 焙烙・鍋…鉢形のもの
 - ※本来、焙烙・鍋は使用目的が別（炒る・煮る）であるが、いずれも器壁が極端に薄いため、口縁部片は大半が小破片であった。こうした遺存度の低いものは、器形判断が難しく使用目的も鍋が兼用した可能性も考慮し、本誌案では一括した。
- 7 その他…1・5・8に該当しないもの
 - 1 その他土製品
 - 2 蓋
 - 8 焼塩壺…コップ形で蓋を伴うもの
 - 1 壺
 - 2 蓋

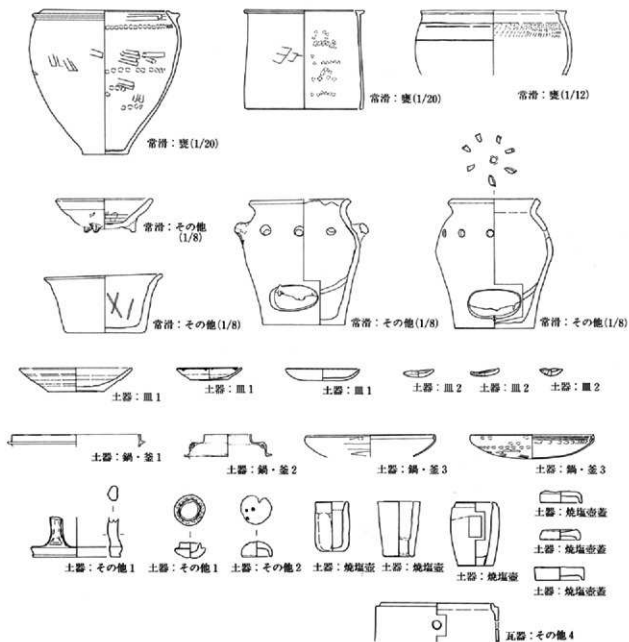


第112図 江戸時代主要遺物分類概念図①(原則として1/6)

第V章 補論



第113図 江戸時代主要遺物分類概念図②(原則として1/6)



第114図 江戸時代主要遺物分類概念図③ (原則として1/6)

・瓦質製品

- 5 鍋…断面形態が鉢形を呈し、吊り手を有するもの
- 7 その他…5以外のもの

⑤釉等

江戸時代の陶磁器は、器種だけでなく釉薬も多様化する。この項目は遺物の主体となる釉薬等を示し、掛け分けの場合は複数記入した。さらに、存在するものをすべて項目化することは不可能と判断し、代表名を設定しこのもとに統合した。したがって代表名と内容は、必ずしも一致しない。

- 1 灰釉など…灰釉・透明釉・黄釉・白釉・長石釉等
- 2 鉄釉など…鉄釉・鉄錆釉・鉛釉・柿釉等
- 3 染付…呉須による施文に透明釉を施したもの
- 4 銅緑釉など…銅緑釉・上野釉等
- 5 無釉…釉薬を施さないもの（常滑産製品除く）
- 6 青磁…磁器で、胎土・釉薬・焼成温度などにより緑色系の発色を示すもの
- 7 白磁…磁器で、素地に透明釉のみ施されたもの（染付除く）
- 8 その他…1～7・9・10に該当しないもの
- 9 真焼…常滑産製品の中で堅緻に焼き締まり暗赤褐色の胎土をもつもの
- 10 赤物…常滑産製品の中で9に比して焼きが甘く淡赤褐色の胎土をもつもの

⑥使用痕

この項目では14例の使用痕を取り上げる。

- 1 ガラス継ぎ…割れ口に鉛ガラスで焼き継いだ痕跡が認められるもの
- 2 口欠け…口縁端部に敲打痕や磨減が認められるもの
- 3 穿孔…焼成後に孔を穿っているもの
- 4 磨減…器面が擦れているもの
- 5 焦げ…内容物などが焦げ付いているもの
- 6 スス付着…器面にススが付着するもので、火の利用が考えられるもの
- 7 タール付着…口縁部付近に黒色・褐色の油状物が付着するもの
- 8 鋳物付着…溶解した金属等が付着するもの
- 9 墨書…墨を用いて筆で文字等が記されたもの
- 10 刻書…刻み記されたもの
- 11 漆継ぎ…割れ口に漆で接合した痕跡が認められるもの
- 12 朱等付着…赤色付着物が認められるもの
- 13 漆塗り…漆が塗布されたもの
- 14 その他の付着…付着物で上記に該当しないもの

⑦口縁残存率

口縁部残存率を12分の1単位で計測した数値で、12分の1以下を切り上げて算出しており、 $0/12 \sim 1/12$ を1とし、 $11/12$ より多く残存しているものは12として記入した。したがって、同一種の残存率項目の合計を12で割れば、概ねの個体数を算定できることになる。しかしこの数値は同一個体の合計数とはなり得ないため、表記する数値はすべて12分割残存率の合計とする。

⑧時期

本調査区の江戸時代遺構・遺物は、2時期に大別したため、江戸時代Ⅰ期（17世紀前半～18世紀中頃）をⅠ、江戸時代Ⅱ期（18世紀後半～19世紀中頃）をⅡとして記入した。

⑨屋敷地

本調査区では、江戸時代の武家屋敷地が3区画検出されている。これらを屋敷地1～3としたが、本項目ではこの屋敷番号を記入した。

⑩備考

分類・計測項目に該当しない特記事項を記入した。

C 分類・計測の結果

今回分類・計測したデータ数（口縁部破片数）の総計は、遺構出土遺物に限定したが、10,620点にのぼった。分類・計測の作業期間中は、担当者が全点の確認にあたり、この後にデータの入力、再確認・修正、集計・処理の手順をとった。基礎データの集計は、まず時期別にそれぞれのデータを集め、これを産地・材質、器種、器形ごとに屋敷地別に振り分けた。こうした江戸時代Ⅰ・Ⅱ期の表を基礎分類表として、目的に応じた各データ処理を行った。なお、今回の集計では産地・材質、器種などの組成を求めることに主眼をおいたため、この集計にはB-⑤・⑥・⑨の項目については割愛した。

①屋敷地別集計

第61表は江戸時代Ⅰ期、第62・63表は江戸時代Ⅱ期の器形別残存率計を屋敷地別に振り分けたものである。これらの量を屋敷地別に比較すると、ほとんどの項目について屋敷地1が圧倒的に多く、屋敷地3が相対的に少ないことが見て取れる。この中で江戸時代Ⅱ期の土器皿については、屋敷地2が1を上回っているが、江戸時代Ⅱ期のこの区画では内面にまじない的文言が墨で書かれた土製の皿が出土し、器壁の極端に薄い土製の皿が集中して検出されている。屋敷地2において、数量的に土製の皿が他の区画を上回るの、こうした遺物の検出状況と考え合わせると興味深い。

第V章 補論

産地・材質	器種名	器形	残存率計				
			1	2	3	総計	
瀬戸・美濃陶器	碗	天目茶碗	116	45	13	174	
		丸碗	772	102	12	886	
		腰折碗	56	8	2	66	
		平碗	9	0	0	9	
		仏飯具	7	0	0	7	
		小型碗	113	9	5	137	
		その他	2	0	0	2	
		碗計	1675	164	32	1871	
		皿	丸皿	633	51	29	713
			腰折皿	22	7	0	29
	非円形皿		162	2	0	164	
	灯臺入		11	0	0	11	
	無高白皿		13	0	0	13	
	小型皿	2	0	0	2		
	皿計	843	60	29	932		
	鉢	丸鉢	236	12	10	258	
		平鉢	62	6	0	68	
		楕鉢	221	29	1	251	
		筒形鉢	102	4	2	108	
		びん水入れ	5	0	0	5	
腰折鉢		2	0	0	2		
根木鉢		5	0	0	5		
大型皿		49	4	2	56		
小型鉢		14	0	0	14		
その他		9	3	0	12		
鉢計	687	58	15	760			
壺・瓶	筒形壺	8	0	0	8		
	肘壺	11	3	0	14		
	小型壺	3	0	0	3		
	花瓶	12	4	0	16		
	土瓶壺	8	1	0	9		
	汁つゞ	12	0	0	12		
	徳利	68	0	0	68		
	小型徳利	9	12	0	21		
	油壺	20	0	0	20		
	その他	142	20	0	162		
壺・瓶計	筒形	13	1	0	14		
	灰蓋とし	5	0	0	5		
	ひょうそく瓶	13	0	0	13		
	壺	6	0	0	6		
	火鉢	9	0	0	9		
	鍋	6	0	0	6		
	蓋	103	8	3	114		
	その他計	155	9	3	167		
	瀬戸・美濃陶器計	2902	311	79	3292		
	瀬戸・美濃磁器	碗	丸碗	4	0	4	
碗計		4	0	0	4		
瀬戸・美濃磁器計	碗	丸碗	35	0	0	35	
		小型碗	5	0	0	5	
		碗計	40	0	0	40	
		皿	丸皿	9	2	0	11
		皿計	9	2	0	11	
		鉢	丸鉢	3	0	0	3
		鉢	その他	8	0	0	8
		鉢計	11	0	0	11	
		肥前陶器計	51	2	0	53	
		肥前磁器	碗	天目茶碗	15	0	0
丸碗	312			22	7	341	
腰折碗	17			0	0	17	
仏飯具	4			0	0	4	
小型碗	184			15	2	201	
碗計	532		37	9	578		
皿	丸皿		46	0	0	46	
	非円形皿		1	0	0	1	
皿計	47		0	0	47		
鉢	丸鉢		2	0	0	2	
	平鉢	1	0	0	1		
	筒形鉢	21	0	0	21		
	大型皿	35	0	0	35		
鉢計	59	0	0	59			
壺・瓶	小型徳利	12	0	0	12		
	油壺	12	0	0	12		
壺・瓶計	24	0	0	24			
その他	壺	1	0	0	1		

産地材質	器種名	器形	残存率計			
			1	2	3	総計
		蓋	8	1	0	9
		その他計	9	1	0	10
肥前磁器計			671	38	9	718
常滑	壺	(空白)	100	2	0	102
		蓋計	100	2	0	102
		その他 (空白)	93	2	0	95
		その他計	93	2	0	95
常滑計			193	4	0	197
土器	皿	口クロ成形	1466	0	0	1466
		非口クロ成形	165	0	0	165
		皿計	1631	0	0	1631
		鍋・釜	24	0	0	24
		燈物・鍋	239	0	1	240
	鍋・釜計	263	0	1	264	
	その他	その他	16	0	0	16
	その他	蓋	1	0	0	1
	その他計	11	0	0	11	
	地塚壺	壺	180	0	0	180
地塚壺	蓋	88	0	0	88	
地塚壺・蓋計	257	0	0	257		
土器計			2182	0	1	2183
瓦質製品	鍋・釜	(空白)	5	0	0	5
		蓋計	5	0	0	5
		その他	8	0	0	8
		その他計	8	0	0	8
瓦質製品計			13	0	0	13
その他陶器	碗	丸碗	14	0	1	15
		腰折碗	5	0	0	5
	碗計	19	0	1	20	
	鉢	大型皿	1	0	0	1
鉢計	1	0	0	1		
その他陶器計			20	0	1	21
その他磁器	碗	丸碗	2	4	0	6
		小型碗	0	2	4	6
	碗計	2	6	4	12	
	鉢	丸鉢	0	2	0	2
鉢	大型皿	0	3	0	3	
鉢計	0	5	0	5		
その他磁器計			2	11	4	17
不明陶器	碗	丸碗	2	4	1	7
		腰折碗	14	0	0	14
	碗計	16	4	1	21	
	皿	丸皿	6	0	2	8
		腰折皿	1	0	0	1
		非円形皿	0	0	0	0
	皿計	7	0	2	9	
	鉢	筒形鉢	1	0	0	1
		腰折鉢	6	0	0	6
	鉢計	7	0	0	7	
壺・瓶	徳利	1	0	0	1	
	壺・瓶計	1	0	0	1	
その他	蓋	0	0	0	0	
	その他計	0	0	0	0	
不明陶器計			31	4	3	38
不明磁器	碗	丸碗	4	0	0	4
		小型碗	1	0	0	1
	碗計	5	0	0	5	
	皿	丸皿	1	0	0	1
非円形皿		1	0	0	1	
皿計	2	0	0	2		
不明磁器計			7	0	0	7
総計			6056	370	97	6523

第61表 江戸時代I期屋敷地別集計表

産地・材質	器種名	器形	残存率計			
			1	2	3	総計
瀬戸・美濃陶器	碗	天目茶碗	87	15	14	116
		丸碗	994	260	243	1497
		腰折碗	192	20	22	234
		平碗	12	0	16	28
		広東碗	97	11	3	111
		仏飯具	0	24	0	24
	小型碗	106	79	48	233	
	碗計		1488	409	346	2243
	皿	丸皿	895	168	171	1234
		腰折皿	8	3	5	16
		赤円形皿	60	17	22	99
		灯さん	119	23	29	171
		無高台皿	85	26	29	140
		小型皿	3	3	0	6
	その他	3	0	0	3	
	皿計		1173	240	256	1669
	鉢	丸鉢	350	68	110	528
		平鉢	27	2	5	44
		腰鉢	373	67	92	532
		筒形鉢	643	119	147	909
		腰折鉢	59	11	27	97
		楕円鉢	165	48	89	242
		大型鉢	46	23	14	83
小型鉢		161	64	18	243	
その他		2	0	10	12	
鉢計			1776	482	512	2690
壺・瓶		筒形壺	27	19	33	79
		罇壺	55	36	21	112
	口壺	0	3	0	3	
	小型壺	10	0	17	27	
	花瓶	29	0	0	29	
	土瓶類	106	76	44	226	
	汁つぼ	87	17	0	104	
	徳利	95	37	20	152	
	小型徳利	13	1	0	14	
	油壺	48	8	0	56	
その他	2	0	0	2		
壺・瓶計		472	197	135	804	
その他	筒形	52	8	1	61	
	灰蓋とし	19	0	3	22	
	ひしゃく	10	2	0	12	
	ひょうそく類	154	13	23	190	
	蓋	20	2	1	23	
	大鉢	129	7	17	153	
	行平	15	3	17	35	
	鍋	125	105	56	286	
	蓋	914	245	189	1348	
	その他	89	3	14	106	
	その他計		1527	388	321	2236
	—		0	1	0	1
	一計		0	1	0	1
瀬戸・美濃陶器計		6436	1637	1570	9643	

産地・材質	器種名	器形	残存率計			
			1	2	3	総計
瀬戸・美濃陶器	碗	丸碗	125	89	62	276
		腰折碗	51	0	0	51
		平碗	0	5	0	5
		広東碗	43	11	7	61
		仏飯具	7	17	0	24
		小型碗	69	17	23	109
	碗計		295	139	92	526
	皿	丸皿	20	17	24	61
		赤円形皿	2	0	9	11
		灯さん	5	0	0	5
		無高台皿	0	9	0	9
		小型皿	5	6	1	12
	皿計		32	32	34	98
	鉢	筒形鉢	2	2	0	4
		腰折鉢	0	0	2	2
		楕円鉢	0	0	2	2
		大型鉢	1	0	1	2
		その他	0	0	4	4
	鉢計		3	2	9	14
	壺・瓶	土瓶類	0	1	0	1
		徳利	0	5	0	5
	壺・瓶計		12	6	0	18
	その他	蓋	30	2	21	53
その他		0	0	3	3	
その他計		30	2	24	56	
瀬戸・美濃陶器計		372	181	159	712	
肥前陶器	碗	丸碗	2	8	4	14
		小型碗	5	0	0	5
	碗計		7	8	4	19
	皿	丸皿	8	0	0	8
		皿計		8	0	8
	鉢	丸鉢	3	2	0	5
		大型鉢	0	1	1	2
	鉢計		3	3	1	7
	肥前陶器計		18	11	5	34
	肥前磁器	碗	天目茶碗	4	0	0
丸碗			230	167	94	491
腰折碗			87	16	4	107
広東碗			4	0	2	6
仏飯具			9	28	3	50
小型碗			141	81	63	285
その他			4	7	1	12
碗計				479	389	167
皿		丸皿	107	34	29	170
		腰折皿	7	0	0	7
		赤円形皿	13	1	4	18
		無高台皿	0	0	1	1
		小型皿	7	18	0	25
皿計			0	1	0	1
皿計			134	54	34	222

第2表 江戸時代II期類数地別集計表①

第V章 補論

産地・材質		器種名		残存率計			
				1	2	3	總計
	鉢	丸鉢 平鉢 筒形鉢 大型皿		22	0	5	27
				0	0	4	4
				40	9	7	56
				22	5	3	30
	鉢計			84	14	19	117
	壺・瓶	小型徳利 湯壺		0	0	7	7
				12	0	0	12
	壺・瓶計			12	0	7	19
	その他	筒形 盤 蓋 その他		15	0	0	15
				0	0	1	1
				61	23	20	104
			1	0	1	2	
その他計			77	23	22	122	
肥前磁器計			786	400	249	1435	
香炉	鍋・釜		1	0	0	1	
			1	0	0	1	
	甕		249	45	30	324	
			249	45	30	324	
	その他		182	53	72	307	
			182	53	72	307	
香炉計			432	98	102	632	
土器	碗	丸碗		0	0	6	6
				0	0	6	6
	皿	ロクロ成形 非ロクロ成形		867	1099	186	2152
				33	51	0	84
	皿計			900	1150	186	2236
	鍋・釜	羽釜 釜 焙烙・鍋		1	1	0	2
				12	4	2	18
			477	84	53	614	
	鍋・釜計			490	89	55	634
	その他	その他 蓋		72	5	83	140
				16	0	0	16
	その他計			88	5	83	156
	焼塚壺	壺 蓋		99	83	41	223
				104	196	44	344
焼塚壺・蓋計			203	279	85	567	
土器計			1681	1523	395	3599	
瓦器	鍋・釜		0	1	0	1	
			0	1	0	1	
	その他	瓦盤 その他		8	0	0	8
				4	1	0	5
	その他計			12	1	0	13
	瓦器計			12	2	0	14
その他陶器	碗	丸碗 腰折碗 小型碗		0	1	8	9
				14	0	0	14
				1	0	0	1
	碗計			15	1	8	24
	皿	腰打皿		10	0	0	10
				10	0	0	10
	鉢	楕形鉢		2	3	0	5
				2	3	0	5
	鉢計			2	3	0	5
	その他	筒形 蓋		0	1	0	1
				11	0	0	11
その他計			11	1	0	12	
その他陶器計			38	5	8	51	

産地・材質		器種名		残存率計			
				1	2	3	總計
その他磁器	碗	丸碗 腰折碗 小型碗		4	9	2	15
				12	0	0	12
				0	0	3	3
碗計			16	9	5	30	
その他磁器計			16	9	5	30	
不明陶器	碗	丸碗 腰折碗		44	7	5	56
				0	0	3	3
	碗計			44	7	8	59
	皿	丸皿 非円形皿		50	2	2	54
				0	0	0	0
	皿計			50	2	2	54
	鉢	丸鉢 楕形鉢 筒形鉢 びん木入鉢 楕形鉢 大型皿		0	1	0	1
				10	2	0	12
				0	10	1	11
				11	0	0	11
				3	0	0	3
鉢計			27	14	1	42	
壺・瓶	筒形壺 肩壺 土瓶類		0	2	0	2	
			3	0	0	3	
			23	4	9	36	
壺・瓶計			26	6	9	41	
その他	筒形 盤 行平 鍋 蓋 その他		12	0	0	12	
			0	1	0	1	
			8	0	0	8	
			6	0	0	6	
			12	11	36	59	
その他計			44	12	41	97	
—			1	1	0	2	
一計			1	1	0	2	
不明陶器計			192	42	61	295	
不明磁器	碗	丸碗 腰折碗 広底碗 仏飯具 小型碗		21	10	13	44
				0	1	0	1
				5	0	0	5
				0	11	0	11
				5	17	21	43
	碗計			31	39	34	104
	皿	丸皿 非円形皿		7	5	0	12
				12	0	0	12
	皿計			19	5	0	24
	鉢	平鉢 大型皿		3	0	0	3
				1	1	0	2
鉢計			4	1	0	5	
その他	蓋		16	0	1	17	
			16	0	1	17	
その他計			16	0	1	17	
不明磁器計			70	45	35	150	
總計			10053	3953	2589	16695	

第63表 江戸時代II期屋敷地別集計表②

②時期別器種集計

第64表は第61～63表をさらにまとめ、各器種別の残存率集計を、江戸時代Ⅰ・Ⅱ期別に振り分けたものとその総計である。全体的に時期の総計を比較してみると、江戸時代Ⅰ期に比べて、Ⅱ期の遺物量の方がかなり多い。調査した場所による偏りも考慮しなければならないが、江戸時代Ⅰ期は17世紀前半～18世紀中頃（100年強）、Ⅱ期は18世紀後半～19世紀中頃（100年弱）という期間的な比較からすると、Ⅱ期の方に出土量が偏る傾向がみられる。こうした比率の中で特異な傾向をみせるものは、肥前の陶器、土器の皿・焼塩壺身、瓦質製品である。肥前陶器は、Ⅰ期に比べⅡ期になると減少する唯一の産地・材質である。土器皿は焼塩壺身・瓦質製品とともに、Ⅰ・Ⅱ期間に大きな数値の隔たりがなく、全体的な比率とは異なった傾向をみせる。瀬戸・美濃産磁器、不明磁器については、Ⅱ期の方が数値的に大きい点では共通するが、この比率が極端な傾向をみせる。本来瀬戸・美濃産の磁器は、Ⅰ期の段階では生産体制がなく存在しないものであるため、当然の傾向である。しかし、Ⅰ期に計測されたわずかな残存率は、混入品の可能性を自戒しつつ、計測データとしてそのまま掲載した。産地が不明である磁器に関しては、同一の傾向を示す瀬戸・美濃産磁器の可能性も有するが、この時期には肥前、瀬戸・美濃といった地域以外にも生産地が出現するため、数値にはこの時期の生産体制が反映している可能性も考えられる。以上のような数値表を元に、目的別にグラフ化を行う。

③産地・材質組成グラフ

第115～118図は、産地・材質、器種の組成をグラフ化したものである。数値が極端に小さいものや、目的にそぐわないもの、自明の理となるものなどは非表示・割愛した。

第115図は、本調査地点の江戸時代遺物を総計及び各時期別に、産地・材質組成としてグラフ化したものである。全体的には、瀬戸・美濃産の陶器が圧倒的量を示し、地場産業の影響が色濃く反映されている。時期別で比較すると、大きな変化を示すのは瀬戸・美濃産陶器、土器である。瀬戸・美濃産陶器は、Ⅰ期に比較するとⅡ期では8%増える。逆に土器では、Ⅰ期に比較するとⅡ期では12%減る。用途の差などもあるため一概には判断できないが、Ⅱ期になると瀬戸・美濃産製品は併せて全体の64%を占めるようになり、その他の産地・材質は大きな変化がなく、土器がかなり減少傾向を示すのは、特定の用途品における材質変化の可能性がうかがえる。

④器種組成グラフ

第116図は、江戸時代遺物を総計及び各時期別に、器種組成としてグラフ化したものである。注目されるのは江戸時代Ⅰ・Ⅱ期で、器種の組成がかなり異なる点である。碗、鉢に関しては、増減はみられるものの極端な変化ではない。しかし、皿に関してはⅠ期に比べるとⅡ期では16%減少しており、皿の占める組成に大きな変化が認められる。さらに各時期の全体的な組成を碗・皿の占める割合で比較してみると、Ⅰ期では碗・皿併せて全体の

産地・材質	器種	江戸時代Ⅰ期残存率計	江戸時代Ⅱ期残存率計	江戸時代残存率総計
瀬戸・美濃陶器	碗	1271	2243	3514
	皿	932	1669	2601
	鉢	760	2690	3450
	壺・瓶	162	804	966
	その他	167	2236	2403
瀬戸・美濃陶器計		3292	9643	12935
瀬戸・美濃磁器	碗	4	526	530
	皿	0	98	98
	鉢	0	14	14
	壺・瓶	0	18	18
	その他	0	56	56
瀬戸・美濃磁器計		4	712	716
肥前陶器	碗	40	19	59
	皿	2	8	10
	鉢	11	7	18
肥前陶器計		53	34	87
肥前磁器	碗	578	955	1533
	皿	47	222	269
	鉢	59	117	176
	壺・瓶	24	19	43
	その他	10	122	132
肥前磁器計		718	1435	2153
常滑	壺	102	324	426
	その他	95	307	402
常滑計		197	632	829
土器	碗	0	6	6
	皿	1631	2236	3867
	鉢・釜	264	634	898
	その他	11	156	167
	焼塚壺身	169	223	392
土器計		2163	3599	5762
瓦質製品	鉢・釜	5	1	6
	その他	8	13	21
瓦質製品計		13	14	27
その他陶器	碗	20	24	44
	皿	0	10	10
	鉢	1	5	6
	その他	0	12	12
その他陶器計		21	51	72
その他磁器	碗	12	30	42
	鉢	5	0	5
その他磁器計		17	30	47
不明陶器	碗	21	59	80
	皿	9	54	63
	鉢	7	42	49
	壺・瓶	1	41	42
	その他	0	97	97
不明陶器計		38	295	333
不明磁器	碗	5	104	109
	皿	2	24	26
	鉢	0	5	5
	その他	0	17	17
不明磁器計		7	157	157
総計		6523	16595	23118

第64表 器種別残存率集計表

73%を占めているのに対して、II期では51%に減少する。そして、その他としてまとめた器形的に碗、皿、鉢、壺・瓶などに該当しない器種が、I期ではわずか5%であるのに対して、II期では19%を占める。こうした組成の変化は、江戸時代II期に至った時、I期に比べて器種における多様化がかなり進んだことをうかがわせる。

⑤主要産地・材質別器種組成グラフ

第116図は、江戸時代遺物を代表的な産地・質別に、器種組成としてグラフ化したものである。瀬戸・美濃産の陶器では、各器種が極端に偏ることのない組成を示すが、磁器においては、肥前産、瀬戸・美濃産ともに碗が70%以上を占める。調査地点における趣味・嗜好からか、生産体制によるものか、または供給体制によるものか、本調査地点では磁器を使用する際に、器種として碗がもっとも多く用いられたことが見て取れる。また土器では、皿の占める割合が70%を超えており、鍋・釜と併せると90%以上を占め、土器の器種の上でこの2種が代表的な組成を示すことが見て取れる。なお、常滑産製品は器種がある程度限定され、肥前産陶器や瓦質製品、その他の産地や産地不明の陶磁器は、データ数が少ないため割愛した。

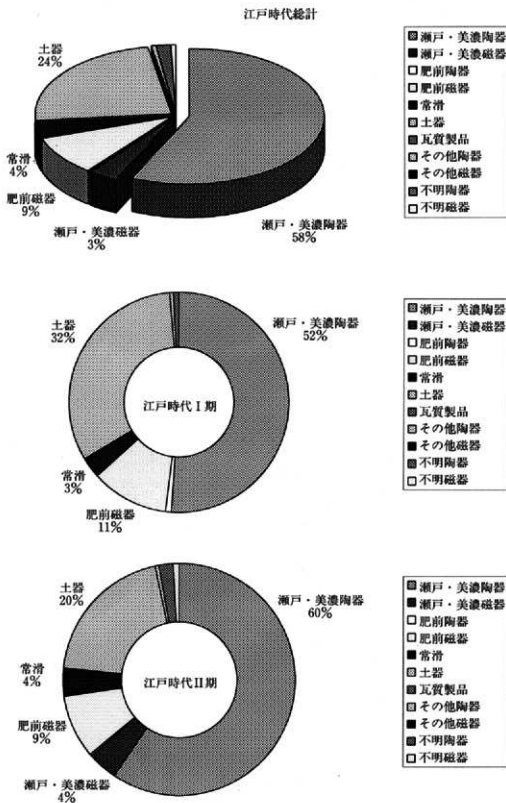
⑥主要器種別産地・材質組成グラフ

第117図は、江戸時代遺物を主要な器種別に、産地・材質組成としてグラフ化したものである。瀬戸・美濃産の陶器は地場産業であり、全体的にどの器種においても占める割合が圧倒的に多い。そうした傾向の中で肥前産の磁器は、碗に限っては30%近くを占める。肥前磁器は、出土総量の中で10%前後の組成しか占めないが、碗という器種に関しては肥前産の磁器がより求められたことがうかがえる。

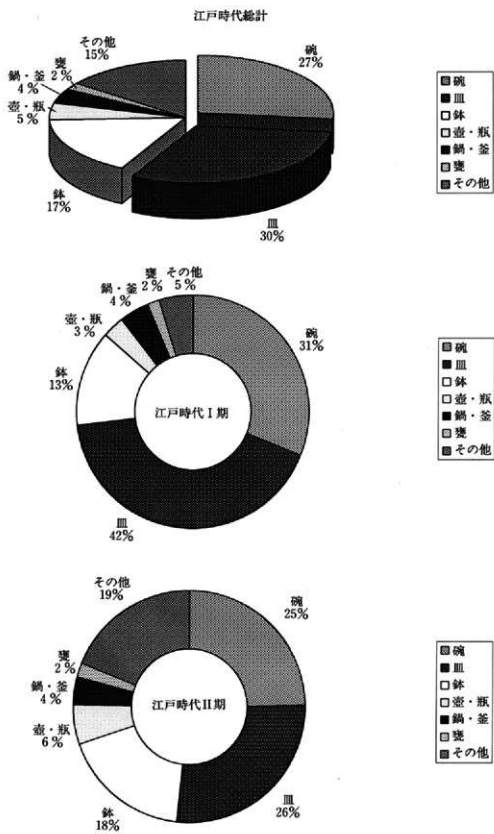
ここでは産地・材質、器種について、いくつかの視点で集計し、各組成を求めた。その中で各組成に、特異な傾向を示したのは、土器または土器皿である。ここでその傾向について若干の考察を行う。

土器全体の出土量を産地・材質別組成でみると、I期に比べてII期ではかなり減少する傾向が認められる。そして、器種組成においては、皿がI期に比してII期でかなり減少する。総出土量における土器皿の時期別変化では、今回出土している他の産地・材質、器種に比べ、I期に比べてII期で大きく増えるはずが、土器皿には数値的に大きな差が認められない。以上のような傾向から考えると、今回の調査地点では土器皿の使用頻度が、I期に比べてII期でかなり低くなったと考えられる。このことは、土器皿の主要な用途の一つとして考えられてきた、灯明皿としての機能を考え併せると興味深い。

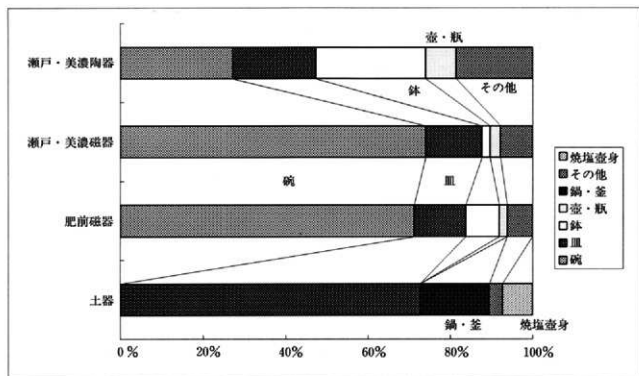
今回の調査地点で、II期になると土器皿の使用頻度がかなり減ったことは、各組成を求めた結果が示している。土器皿の主要用途の一つが灯明皿であったとすれば、必然的に土製の灯明皿の使用頻度が、II期に至ると減少した可能性が考えられる。ここで考えあわせ



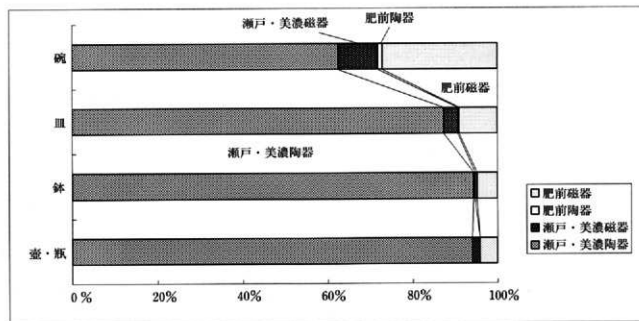
第115図 産地・材質組成グラフ



第116図 器種組成グラフ



第117図 主要産地・材質別器種組成グラフ



第118図 主要器種別産地・材質組成グラフ

たいのは、陶器の灯明皿・灯明皿受台・灯明皿受（灯さん）・ひょうそくなどの灯明具は、瀬戸・美濃産陶器の生産地における編年では、いずれも生産の開始が18世紀中頃か後半に位置付けられていることである。この時期は、本調査地点の江戸時代Ⅰ期末かⅡ期初頃に当たる。陶器の灯明具は土器皿に比べて、材質面から考えると継続使用の期間が比較的長期であったことが推察できる。短期使用型であった土製の皿は、江戸時代Ⅱ期に至り、瀬戸・美濃地域で生産された陶器灯明具が普及することによって、灯明具としての機能が徐々に求められなくなっていったのではないだろうか。こうした推察は、陶器皿における使用痕（タール付着等）の時期別変化、燭台など他の灯明具の組成や蠟燭の使用頻度などを考慮した上で、さらに考えて行かねばならないであろう。しかし、今回行った分類・計測の結果、土器または土器皿の示した特異な傾向は、現時点ではその減少理由を陶器の灯明具普及に求めたい。

4 おわりに

調査の結果得られたデータを、遺構・遺物別に視点を定め、その位置づけを試みた。その中で特に今回の分類・計測作業は、理想として客観的なものを心がけたにもかかわらず、主として分類において、主観的な部分が入ってしまったことは否めない。分類において、まず産地・材質別の組成を求めることに主眼をおいたのは、この項目が精度を上げる努力をすれば、より客観性をもたせた組成が求められると判断したからである。器種・器形分類については、器形に用途を加味したため不統一で、複雑化したことを反省している。結果として示したデータは、あくまでも今回の調査地点における一現象面として捉える必要があり、この結果から当該期の総合的な判断を下すつもりはない。しかし、現時点で理想的な分類方法が提示できない以上、主観的な部分も含めてこうした分類・計測・統計処理を各調査担当者が行い、その積み重ねの中に見出でて、それぞれ比較検討して行くことが必要と思われる。

最後に、今回の分類・計測作業では、産地・時期の判断において瀬戸市歴史文化財センターの藤澤良祐氏及び、佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二氏に多くのご教示を得、本センターの古橋佳子がデータ入力に労をとり、分類方法では同・鈴木正貴、統計処理では同・原田 幹に助言を得た。記して感謝する次第である。

参考文献

- 藤澤良祐 1986-1989 『研究紀要V-VIII』 瀬戸市歴史民俗資料館
- 田口昭二 1993 『美濃窯の発物』 多治見市教育委員会
- 大橋康二 1993 『肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社
- 鈴木正貴 1994 『清洲城下町遺跡Ⅳ』 勸愛知県歴史文化財センター
- 遠藤才文 1994 『名古屋城三の丸遺跡Ⅳ』 勸愛知県歴史文化財センター

図版

遺物写真は原則として1/3、別縮小は（ ）で表示

☆印は墓埋文・○印は市教委調査地点





①表土剥ぎ風景



④A区上層北東隅（南より）



②A区調査前風景（西より）



③B区調査前風景（西より）



⑤A区上層全景（西より）



①A区SK165セクション (南西より)



②A区SK201遺物出土状況 (東より)



③A区上層溝群 (南より)



④A区SD04セクション (南より)



⑤A区SX11 (南より)



① A区下層全景 (南西より)



② A区SK312周辺 (東より)



③ A区SK313セクション (南より)



④ A区SK315・316周辺 (南より)



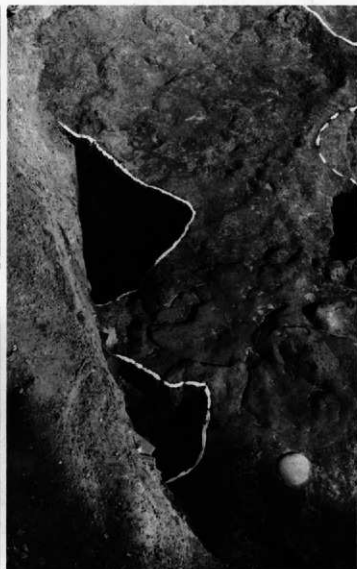
①A区SK313 (南より)



②A区SK315セクション (北より)



③A区SK316セクション (北より)



④A区SK458・459 (南西より)



① A区 S D 602セクション (南より)



② A区 S D 602 (南より)



③ A区 S D 603セクション (東より)



④ A区 S D 604セクション (北より)



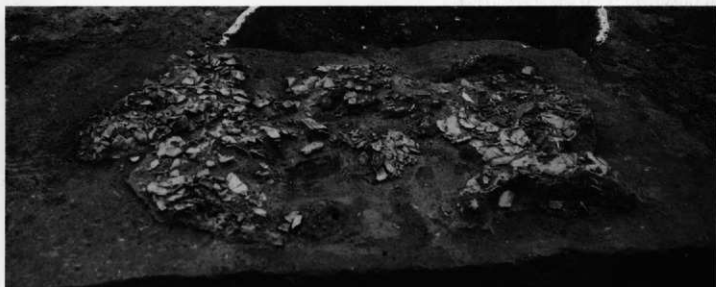
①A区SD308・309・610・611 (南より)



②A区SD606セクション (南より)



③A区SD804セクション (南より)



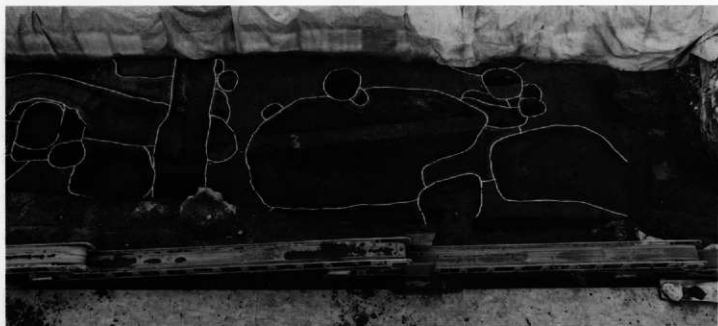
④A区土師皿出土状態 (南より)



①B区上層全景（東より）



②B区上層東側（北より）



③B区上層中央土坑群（北より）



①B区下層全景（東より）



②B区下層東側（北より）



③B区SK702周辺（北より）



④B区SK703・704周辺（北より）



①B区SD401セクション (西より)



②B区SD601セクション (東より)



④B区SD607 (北東より)



③B区SD603周辺 (北より)



⑤B区SD607 (北西より)



①B区SD605コーナー（北より）



②B区SD605セクション（東より）



③B区SD605セクション（南より）

④B区屋敷境溝セクション（北より）





11



105



278



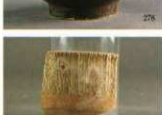
409



60



158



279



442



81



160



385



423



127



162



350



475



131



164



352



477



132



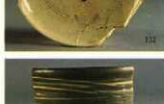
166



397



483



153



216



398



480



154



222



400

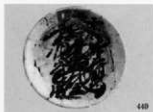
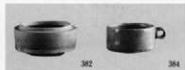


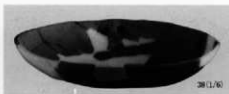
514

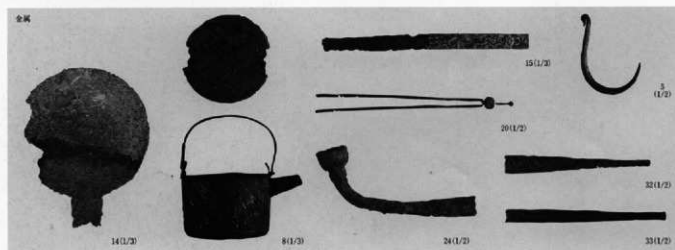












報告書抄録

フリガナ	ナゴヤジョウサンノマルイセキ							
書名	名古屋城三の丸遺跡 (V)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第60集							
編著者名	松田 訓, 杉浦 茂, 伊藤秀紀, 堀木真美子, 服部俊之, 古橋佳子, 織田眞弓, 八木佳素実							
編集機関	財団法人 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 T E L 0567-67-4163							
発行年	西暦1995年3月31日							
フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		m ²	
名古屋城 三の丸	名古屋市中区	23106	—	35°2′40″	136°54′16″	19930405 ↓ 19940323	3404	建物建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
名古屋城 三の丸	中・近世 城館跡	中世	堀・溝	9	中世陶磁器		戦国郡古野城関連の 遺構	
		近世	屋敷地	3	近世陶磁器		波辺・横井・松井他 の武家屋敷地	
			建物跡	1	瓦			
			井戸	9	人形			
			溝	31	金属製品			
			土坑	321	石製品			

愛知県埋蔵文化財センター第60集

名古屋城三の丸遺跡(V)

1995年3月31日

編集・発行 財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷株式会社